

コロナ禍における人々の意識と
行動—世界29カ国比較調査

橋元 良明・篠田 詩織・大野 志郎・
天野 美穂子・堀川 裕介

東京大学社会科学研究所研究シリーズ No.71

東京大学社会科学研究所

コロナ禍における人々の意識と行動—世界29カ国比較調査

橋元良明	東京女子大学
篠田詩織	NTT 社会情報研究所
大野志郎	東京大学
天野美穂子	東京家政大学
堀川裕介	早稲田大学

目次

はじめに.....	橋元良明	- 1 -
第 1 章 世界の罹患者・ワクチン接種状況.....	大野志郎・篠田詩織	- 2 -
1 調査の概要		
2 各国・地域の罹患者数		
3 各国・地域の新型コロナウイルスワクチン投与者数		
第 2 章 新型コロナウイルス感染症への不安感・感染対策行動.....	天野美穂子	- 10 -
1 感染状況		
2 不安感		
3 感染対策行動		
4 価値観の変化		
5 本章のまとめ		
第 3 章 コロナ禍における感染者データ提供とプライバシー.....	篠田詩織	- 26 -
1 はじめに		
2 自分のデータ公表と、感染者のデータ公表に対する意識		
3 データ公表に関連する意識		
4 各質問結果の概略		
5 まとめ		
第 4 章 コロナ禍の政策評価と世論.....	大野志郎	- 47 -
1 感染拡大抑え込みへの評価		
2 政治への信頼		
3 政府による個々の対策への評価		
4 日本と世界の世論		
5 本章のまとめ		
第 5 章 コロナ禍における各国の雇用/家計の状況.....	堀川裕介	- 73 -
1 雇用および家計の状況		
2 電子会議システムの利用		
3 仕事に関する価値観の変化		
第 6 章 コロナ禍のメディア利用.....	橋元良明	- 83 -
1 各種メディアへの接触時間		
2 SNS、ブログ、ネット記事で新型コロナウイルス関連情報に接する頻度		
3 新型コロナウイルス感染症に関する情報入手でもっとも役立っているメディア		
4 各種メディアの信頼度		
資料 1. 各国サンプルの分布.....		- 98 -
資料 2. 単純集計グラフ.....		- 127 -
資料 3. 調査票（日本語版）.....		- 160 -

はじめに

橋元良明

日本政府は 2023 年 2 月 10 日、「新型コロナ対策としてのマスク着用について 3 月 13 日より屋内・屋外を問わず個人の判断に委ねる」という方針を決定した。「ウィズコロナの生活様式」の実践にむけて大きく舵を切ったことになる。2020 年 1 月 15 日に日本で最初の新型コロナウイルス感染者が確認されてから、3 年あまりの歳月を要した。ただし、この先、速やかに「アフターコロナ」と言える状況に移行するかどうかは本稿執筆時点（2023 年 3 月）では不透明である。

この間、日本は 8 度の「波」を経験している。本稿で分析結果を報告する調査は 2021 年 3 月 12 日から 25 日にかけて実施されたものである。この時期は、日本では 21 年 3 月から 6 月にまたがる「第 4 波」の初期にあたる。2021 年 3 月 12 日時点において世界の感染者累計数は 1 億 1880 万、死者累計は 273 万人を超えていた(Our World in Data¹⁾)。

感染状況は国・地域によって大きな差異があり、また政府の対策もまちまちである。ニュージーランドのように感染者がさほど多くない中で素早くロックダウン体制をとった国もあれば、スウェーデンのように感染者も少なくない状況でマスクも義務化せず、基本的に放任政策をとった国もある。

国や地域ごとに感染状況や政府の対策が異なる中、人々はどのような感染対策行動をとったのか。どの程度の不安を抱いていたのか。政府の政策にどのような評価を下していたのか。コロナ禍に見舞われる以前と比べ、仕事や生活に関する価値観の変化はあったのか。感染症に関して、主にどの情報源から知識を得、またどのメディアを信頼していたのか。こうした人々の意識や行動の実態の国による差異を知るため、我々は 2021 年 3 月に調査を実施した。調査対象国・地域は地理的分布や人口規模、感染状況、政府の対応状況など様々な要素について、できるだけ多様性を確保するよう選択した。

様々な制約から、今回の質問票調査で許容された質問項目数はわずか 24 である。しかし、調査対象国が 29 にも及ぶため、それぞれの質問の単純集計結果を比較するだけで膨大なデータ量になる。本稿は基本的に国別比較の単集結果の紹介にとどまるものであるが、複数の変量間の関係など、より複雑な分析に関しては、また稿をあらためて紹介したい。

[注]

1) Cumulative confirmed COVID-19 cases and deaths, World (ourworldindata.org)、2023 年 3 月 8 日取得。

第 1 章 世界の罹患者・ワクチン接種状況

大野志郎・篠田詩織

1 調査の概要

本書は、東京女子大学と NTT セキュアプラットフォーム研究所（2020 年当時、現・NTT 社会情報研究所）の共同研究¹の一環として 2021 年 3 月に実施された、世界 29 の国・地域のアンケート調査の結果をまとめたもの²である。調査時期は新型コロナウイルス感染症が蔓延し始めてから 1 年を過ぎ、日本では新型コロナウイルス感染症の第三波のただ中であった。質問項目は、人々のメディア利用・情報行動、感染対策政策評価、感染対策行動、価値観・仕事・生活の変化、感染対策とプライバシー等からなり、パンデミック初期の状況下における世界各国の実態を、計 4 万 1140 サンプルという大規模データにより把握することができる。

調査概要は次の通りである。

調査地域：日本、韓国、台湾、香港、フィリピン、インドネシア、シンガポール、マレーシア、インド、トルコ、ロシア、イスラエル、南アフリカ、ナイジェリア、フィンランド、スウェーデン、ドイツ、イタリア、フランス、スペイン、イギリス、ブラジル、アルゼンチン、チリ、メキシコ、アメリカ、カナダ、ニュージーランド、オーストラリアの 42 都市（各国・地域の最大都市。日本は 12 都市、アメリカは 3 都市、イスラエルは全土。）

調査対象：15～69 歳の男女、各都市それぞれ 330 ～1,100 サンプル³（計 41,140 サンプル）。

¹ 調査メンバーは、橋元良明（東京女子大学）、大野志郎（現・東京大学）、天野美穂子（東京家政大学）、堀川裕介（現・早稲田大学）、篠田詩織（NTT）、藤村明子（NTT）、折目吉範（NTT）、間形文彦（現・NTT コミュニケーション）。

² 本書で用いたグラフデータは、NTT R&D Website で公開されており、多くの図表はこの資料による（2021.3 実施の「コロナ禍における情報行動と意識に関する世界 29 カ国調査」データ公開，NTT 社会情報研究所，<https://www.rd.ntt/research/SIL20210901.html>）。なお、本書のグラフデータ編集にあたり今野嘉乃氏（山形大学・加納寛子研究室）にご協力いただいた。

³ それぞれの性別・年代でできるだけ等しくなるように収集し、不足するセルは他セルから補完した。

調査方法：インターネット調査

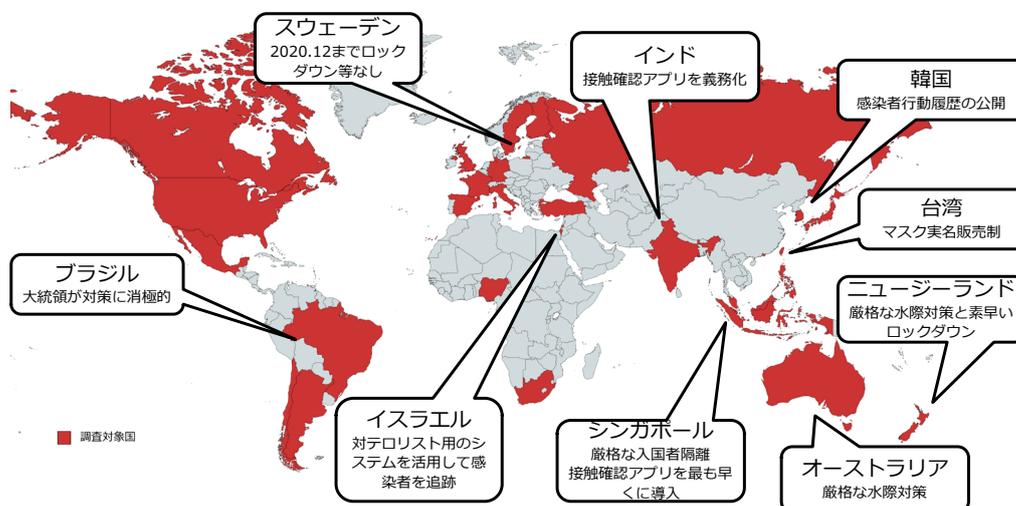
調査期間：2021年3月12日～3月25日

1.1 分析対象

調査は29の国・地域における最大都市を対象とした行われた。対象国の選定に際し、オセアニア、東アジア、南アジア、中東、ヨーロッパ、北欧、アフリカ、北アメリカ、南アメリカの各地域につき2か所以上とし、感染者数、感染施策のユニークさ、調査可否などを勘案した。選定された対象国・地域の分布を図表1-1-1に示す。なお、今回の調査対象は29の国ないし地域であるが、本書のタイトルも含めたいいくつかの箇所では、「29カ国」のように略記する。

本書における分析では、国・地域別の分布を比較する目的があるため、全土で調査を行ったイスラエルを除いて各国・地域の最大都市居住者に限定した（つまり、日本では東京都、アメリカではニューヨーク州のみを分析対象とした）。データクリーニングを行った結果、29都市に居住する計26,285サンプルが分析対象となった（図表1-1-2）。

原則的に、各都市1100サンプルを目標とし、20代から60代まで各世代、男女均等に回収した（10代は15歳～19歳であり、サンプル数は他の各世代の半数）。また、台湾、インドネシア、トルコ、南アフリカ、ナイジェリア、フィンランドは半数のN=550とした。



“MapChart,” <https://mapchart.net/>.

図表 1-1-1 調査対象地域の分布と、特徴ある主な政策

図表 1-1-2 本書で分析対象とした地域・期間・サンプル数

国名	都市名	調査期間	数
日本	東京	2021/3/12-18	1100
韓国	ソウル	2021/3/12-18	1050
台湾	台北	2021/3/12-18	524
香港		2021/3/12-24	996
フィリピン	マニラ	2021/3/12-24	961
インドネシア	ジャカルタ	2021/3/12-19	492
シンガポール		2021/3/12-25	1062
マレーシア	クアラルンプール	2021/3/12-24	878
インド	デリー	2021/3/12-24	928
トルコ	イスタンブール	2021/3/12-20	489
ロシア	モスクワ	2021/3/12-24	1037
イスラエル	全土	2021/3/12-24	884
南アフリカ	ヨハネスブルグ	2021/3/12-24	508
ナイジェリア	ラゴス	2021/3/12-23	353
フィンランド	ヘルシンキ	2021/3/12-20	533
スウェーデン	ストックホルム	2021/3/12-24	1099
ドイツ	ベルリン	2021/3/12-22	1060
イタリア	ローマ	2021/3/12-24	1010
フランス	パリ	2021/3/12-19	1100
スペイン	マドリード	2021/3/12-23	1051
イギリス	ロンドン	2021/3/12-23	1099
ブラジル	サンパウロ	2021/3/12-24	1099
アルゼンチン	ブエノスアイレス	2021/3/12-24	966
チリ	サンチアゴ	2021/3/12-24	881
メキシコ	メキシコシティ	2021/3/12-24	975
アメリカ	ニューヨーク	2021/3/12-24	1097
カナダ	トロント	2021/3/12-24	1071
ニュージーランド	オークランド	2021/3/12-24	982
オーストラリア	シドニー	2021/3/12-24	1000

1.2 質問内容

質問項目の内容は次の通りである。本書に掲載した各グラフに記載している Q 番号は、この調査票の質問番号に対応している。

- Q1 メディア利用時間
- Q2 ネットでの情報収集
- Q3 役に立つメディア
- Q4 コロナに関する考え（政策、メディア等）
- Q5 コロナと自分のプライバシー
- Q6 感染確率の見積
- Q7 仕事に関する価値観の変化
- Q8 生活に関する価値観の変化
- Q9 感染対策行動
- Q10 コロナの不安
- Q11 政府のコロナ対策評価
- Q12 メディア信頼度
- Q13 コロナに関する考え（感染対策等）
- Q14 時間利用の変化
- Q15 不安に感じていること
- Q16 経済状況の変化
- Q17 電子会議システムの利用
- Q18 家族関係の変化
- Q19 コロナと他人のプライバシー
- Q20 接触確認アプリの使用
- Q21 接触確認アプリの使用理由
- Q22 接触確認アプリの不使用理由
- Q23 コロナへの感染
- Q24 ワクチン接種

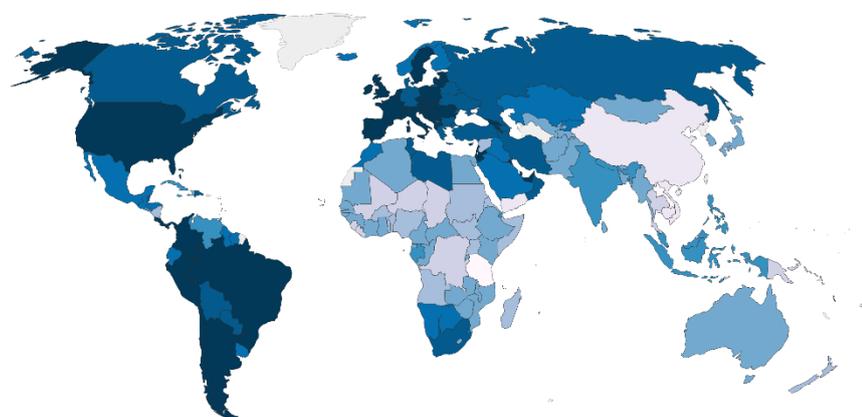
2 各国・地域の罹患者数

調査時期である 2021 年 3 月 12 日時点の、新型コロナウイルス感染症の 100 万人毎の累積罹患者数のマップ（図表 1-2-1）および、調査対象国・地域の 10 万人毎の累積罹患者数（図表 1-2-2）を示す。

調査対象のうち、特に感染拡大状況が進んでいた地域は、イスラエル（9429.8人）、スペイン（9057.9人）、ロシア（7971.0人）、スウェーデン（7109.8人）、アメリカ（6771.6人）、イギリス（6644.3人）、フランス（6110.0人）、チリ（5345.9人）、アルゼンチン（4836.2人）であった。また、イタリア、ドイツ、インド、トルコ、ブラジルも10万人あたり3000人以上の罹患者数となっており、事態が深刻化していた。一方で、台湾（4.1人）、ニュージーランド（50.2人）、オーストラリア（64.5人）、ナイジェリア（77.8人）、香港（149.5人）、韓国（185.6人）は特に感染拡大を抑え込んでいた国・地域であった。日本も10万人あたり819.4人と、世界的に見て低い水準であった。

Cumulative confirmed COVID-19 cases per million people

The number of confirmed cases is lower than the number of actual cases; the main reason for that is limited testing.



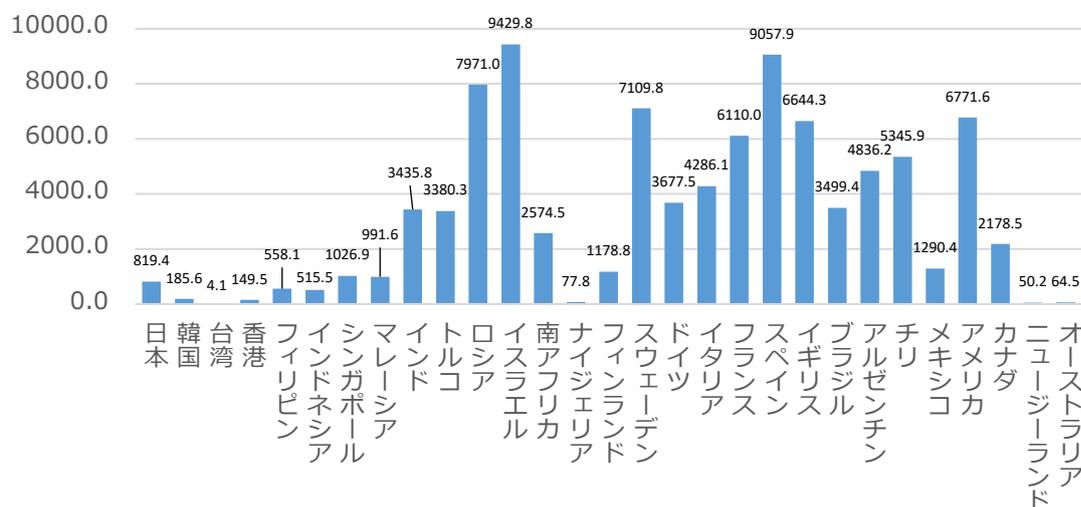
Source: Johns Hopkins University CSSE COVID-19 Data

CC BY

(Our World in Data: Cumulative confirmed COVID 19 cases per million people.,
<https://ourworldindata.org/covid-cases> , 2021年6月9日取得)

図表 1-2-1 世界の2021年3月12日当時の100万人あたり罹患者数（マップ）

10万人あたり罹患患者数（2021/3/12）



図表 1-2-2 調査対象国の最大人工都市・地域の 2021 年 3 月 12 日の
10 万人あたり罹患患者数⁴

3 各国・地域の新型コロナウイルスワクチン投与者数

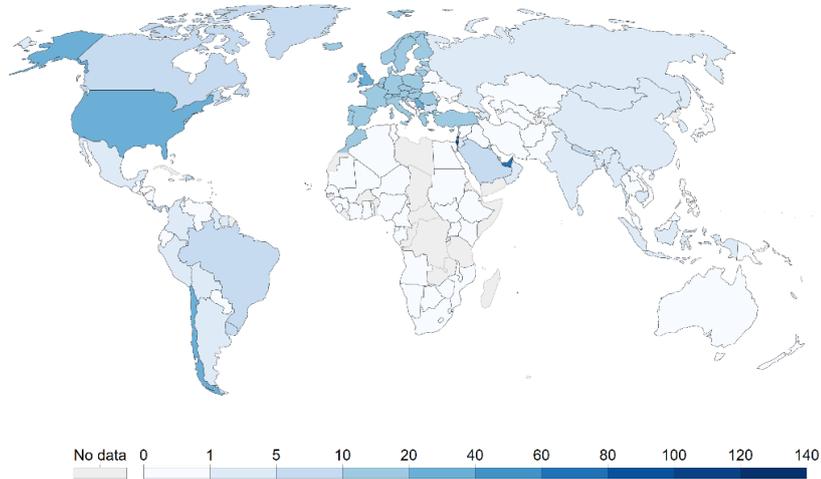
2021 年 3 月 12 日当時の 100 人あたりのワクチン投与数のマップ（図表 1-3-1）および、調査対象国・地域の 100 人あたりのワクチン投与数（図表 1-3-2）を示す。

イスラエル（106 人）が突出しており、イギリス（37 人）、チリ（34 人）、アメリカ（30 人）において接種が進んでいた。日本は 100 人あたり 0.18 人と出遅れており、他にも韓国、台湾、フィリピン、インドネシア、マレーシア、南アフリカ、ナイジェリア、ニュージーランド、オーストラリアは 2%未満の接種率であった。

⁴ 数値はジョンス Hopkins 大学システム科学工学センター（CSSE）による COVID-19 データ リポジトリによる（https://github.com/CSSEGISandData/COVID-19/tree/master/csse_covid_19_data/csse_covid_19_daily_reports, 2021 年 5 月 25 日取得）。原則的に都市単位のデータを記載した。

COVID-19 vaccine doses administered per 100 people

Total number of vaccination doses administered per 100 people in the total population. This is counted as a single dose, and may not equal the total number of people vaccinated, depending on the specific dose regime (e.g. people receive multiple doses).



Source: Official data collated by Our World in Data – Last updated 8 June, 20:00 (London time)

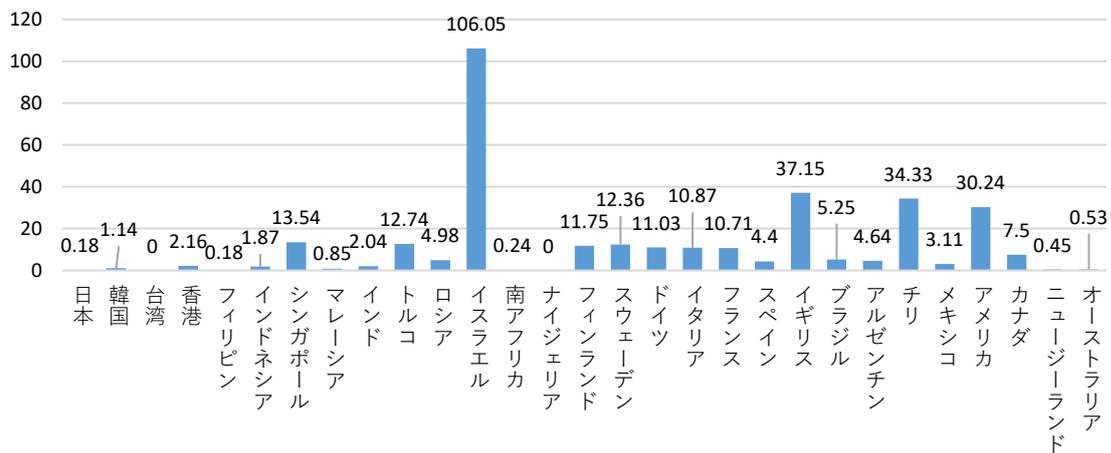
OurWorldInData.org/coronavirus • CC BY

(Our World in Data: COVID-19 vaccine doses administered per 100 people.

<https://ourworldindata.org> , 2021 年 6 月 9 日取得)

図表 1-3-1 世界の 2021 年 3 月 12 日当時の 100 人あたりワクチン投与数 (マップ)

100人あたりワクチン投与数 (2021/3/12)

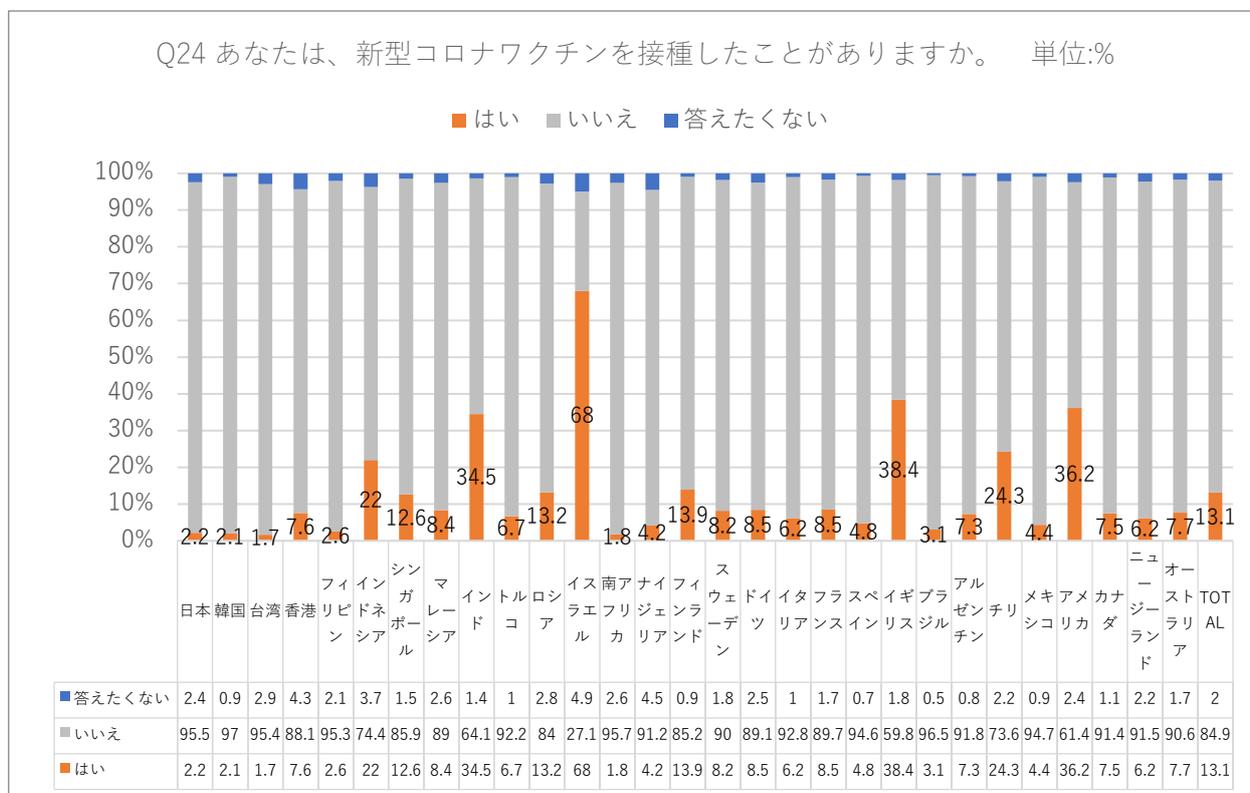


(Our World in Data: COVID-19 vaccine doses administered per 100 people.

<https://ourworldindata.org> , 2021 年 6 月 10 日取得)

図表 1-3-2 調査対象国・地域の 2021 年 3 月 12 日当時の 100 人あたりワクチン投与数

本調査においても新型コロナウイルスの接種経験の質問項目を設けており、その分布を図表 1-3-3 に示す⁵。



図表 1-3-3 調査対象者の新型コロナウイルスワクチン接種経験率

⁵ イスラエル (68%)、イギリス (38.4%)、アメリカ (36.2%)、チリ (24.3%) の接種経験率が高い点は、Our World in Data によるもの (図表 1-3-2) と同様であった。一方で、インド (34.5%)、インドネシア (22.0%) の接種経験率が比較的高い点、全体的に接種率が高めであり、都市圏に住むオンラインアンケートモニターの分布の偏りがその一因であろう。

第 2 章 新型コロナウイルス感染症への不安感・感染対策行動

天野美穂子

1 感染状況

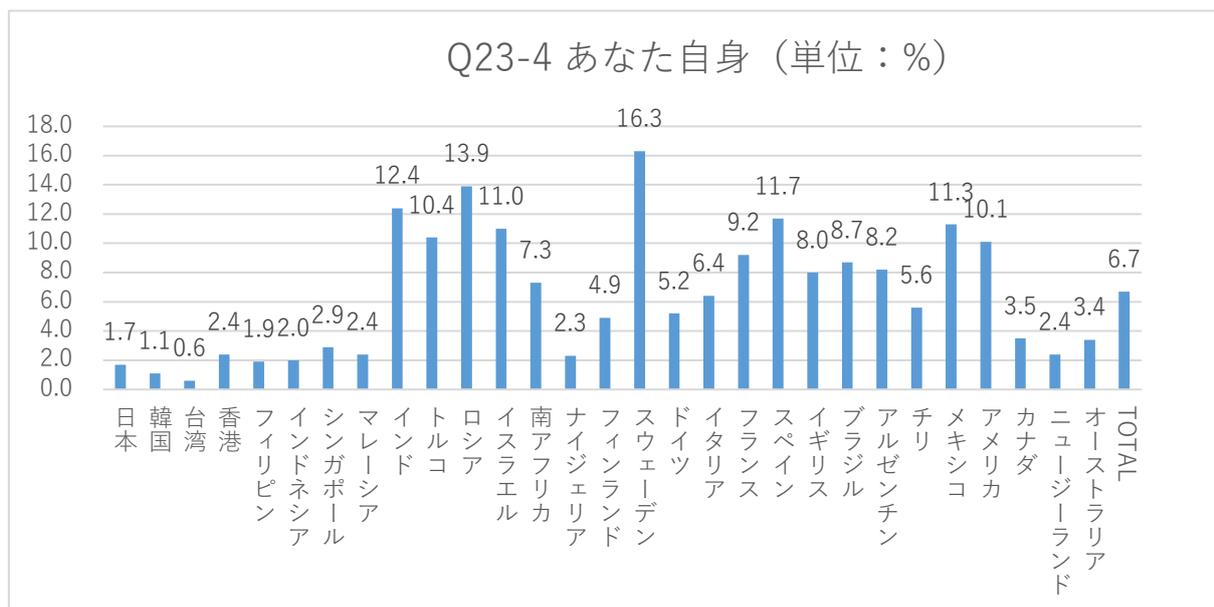
本章では、人々が新型コロナウイルス感染症に対してどの程度不安を抱いていたのか、感染拡大を防ぐために外出自粛やマスクの着用等の対策行動をどの程度行っていたのか、そしてそのような日々の中で価値観に変化はあったのかを中心に概観する。

1.1 回答者自身の感染状況

不安の度合いや感染対策への意識・行動は、自分自身や周囲の人たちの感染状況も少なからず影響すると考えられる。そこで、最初に調査対象者自身および周囲の人々の感染状況を確認しておきたい。我々の調査では、回答者自身や身近な人々が新型コロナウイルスに感染したことがあるかどうかを尋ねている。

図表 2-1-1 は、回答者自身が感染したことがある比率を示したものである。29 ヶ国全体平均は 6.7% で、1 割に満たない状況であった。感染したことがある比率が 1 割を超えていた国は、スウェーデン (16.3%)、ロシア (13.9%)、インド (12.4%)、スペイン (11.7%)、メキシコ (11.3%)、イスラエル (11.0%)、トルコ (10.4%)、アメリカ (10.1%) であった。日本の回答者の感染率は 1.7% と低く、29 ヶ国 27 位であった。

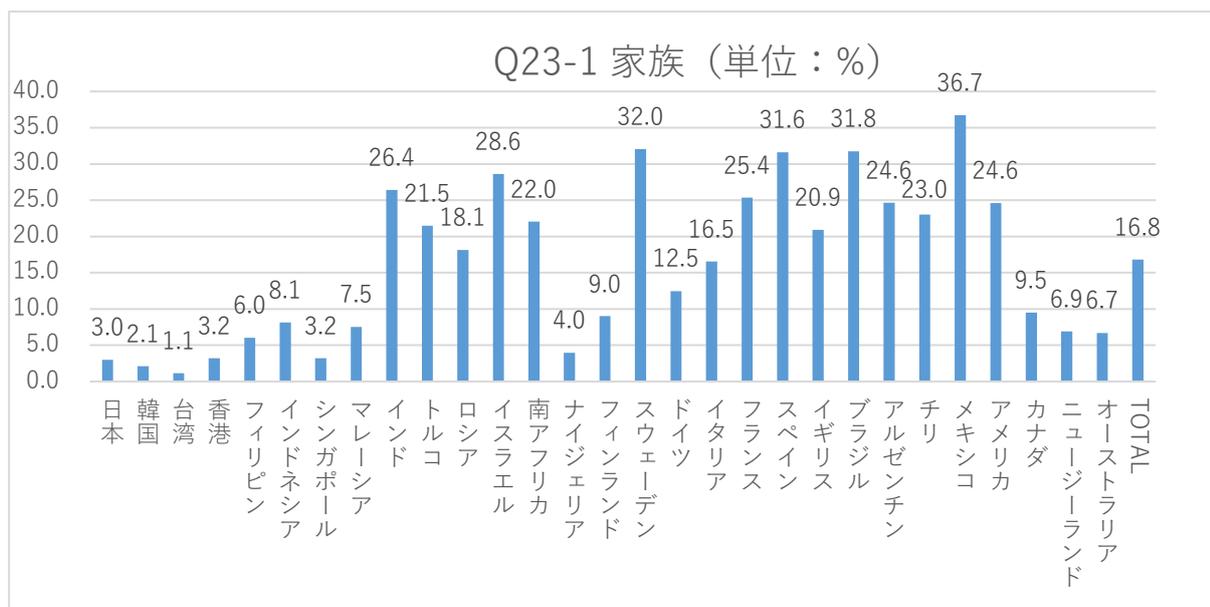
回答者の感染率が高かったスウェーデン、ロシア、スペイン、イスラエル、アメリカについては「調査対象国・地域の 2021 年 3 月 12 日当時の 10 万人あたり罹患者数」(第 1 章)でも上位 (10 万人あたり 6000 人以上) に挙がっていたものの、他の国に関しては当時の 10 万人あたりの罹患者数が上位であったわけではなかった。したがって、本調査の回答者の感染率の分布は世の中の罹患者数の分布と一致していたわけではないことを確認しておく。



図表 2-1-1 回答者自身の新型コロナウイルス感染状況

1.2 家族の感染状況

図表 2-1-2 は、回答者の家族が感染したことがある比率を示したものである。29 ヶ国全体の平均は 16.8%であった。家族が感染したことがある比率が高かったのはメキシコ (36.7%)、スウェーデン (32.0%)、ブラジル (31.8%)、スペイン (31.6%) であり、これらの国では 3 割を超えていた。日本は家族の感染率も低く、3.0%であった。回答者の親族の感染比率や、友人・知人の感染比率に関しては、巻末の資料編を参照されたい。



図表 2-1-2 家族の新型コロナウイルス感染状況

2 不安感

2.1 新型コロナウイルスにまつわる不安

我々が調査を実施した 2021 年 3 月は、日本国内で感染者 1 例目が発表された 2020 年 1 月から約 1 年が経過した時期であった。その間に感染は完全に収束することはなく、変異株の出現によって感染拡大が繰り返され、調査時はアルファ株が主流の感染第 4 波の只中(初期)であった。世界の感染者累計数は 1 億人を超え、また、自身や家族が感染したケースもある中で、新型コロナウイルスに関してどの程度不安を抱いていたのだろうか。

図表 2-2-1 は、「私が今もっとも恐れているのは新型コロナウイルスだ」の結果であるが、29 ヶ国全体の平均をみると、肯定的回答（「そう思う」+「ややそう思う」）は 57.3%、否定的回答（「そう思わない」+「あまりそう思わない」）は 26.4%、どちらともいえないが 16.3%であった。

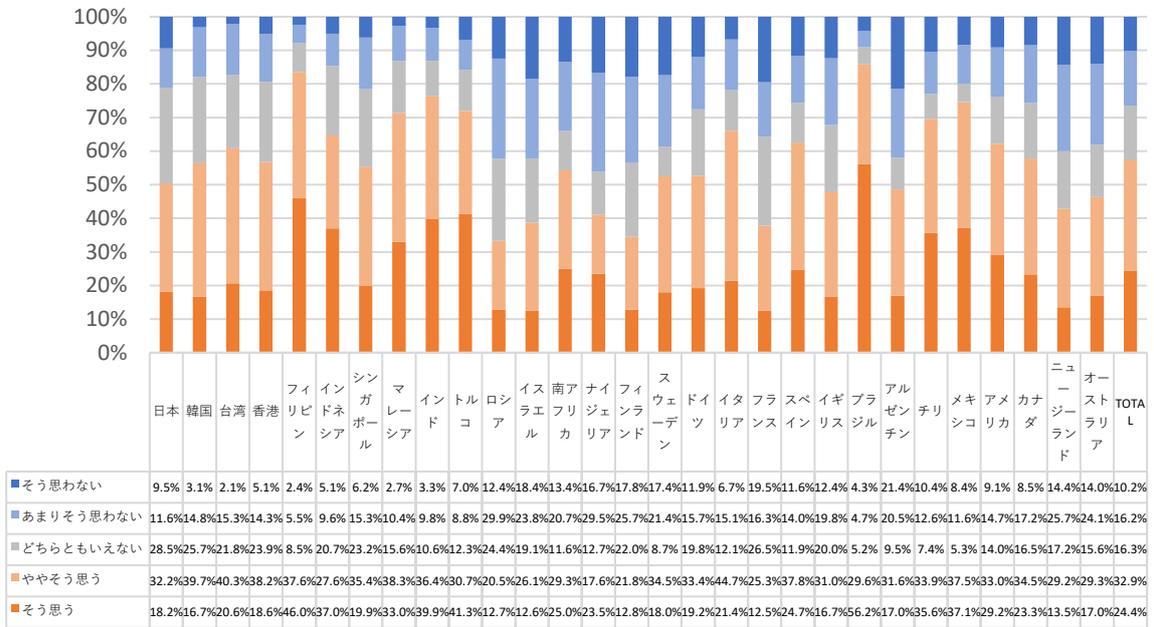
調査当時、29 ヶ国の調査対象者の 6 割弱が新型コロナウイルスに強い恐れを感じていたことになるが、特に肯定的回答（「そう思う」+「ややそう思う」）の比率が高かった国はブラジル（85.8%）、フィリピン（83.6%）、インド（76.3%）、メキシコ（74.7%）、トルコ（72.0%）、マレーシア（71.3%）であった。これらの国は、「調査対象国・地域の 2021 年 3 月 12 日当時の 10 万人あたり罹患者数」（第 1 章）では罹患者数が多くはなかったことから、必ずしも自国の感染状況が新型コロナウイルスへ恐れにつながっているとはいえないようである。インド、メキシコ、トルコは回答者自身が感染した比率が高く（図表 2-1-1）、メキシコ、ブラジルは家族が感染した比率が高い国であったことから（図表 2-1-2）、これらの国に関しては、自身や身近な人の感染体験が新型コロナウイルスへの恐れにつながったと推測できる。

肯定的回答（「そう思う」+「ややそう思う」）よりも否定的回答（「そう思わない」+「あまりそう思わない」）の比率が高かったのは、ロシア、フィンランド、ナイジェリア、イスラエルであった。イスラエルは、調査当時の 10 万人あたり罹患者数が最も多い国であったが、同時に、ワクチン接種が最も進んでいる国でもあった（第 1 章参照）。ワクチン接種の早期の広がりが新型コロナを恐れるに足らないと考える一因になっていたのだろうか。

なお、日本の肯定的回答（「そう思う」+「ややそう思う」）は 50.4%（20/29 位）、否定的回答（「そう思わない」+「あまりそう思わない」）は 21.1%、「どちらともいえない」は 28.5%であった。

Q10-1 私が今もっとも恐れているのは新型コロナウイルスだ

■ そう思う ■ ややそう思う ■ どちらともいえない ■ あまりそう思わない ■ そう思わない



図表 2-2-1 今もっとも恐れているもの

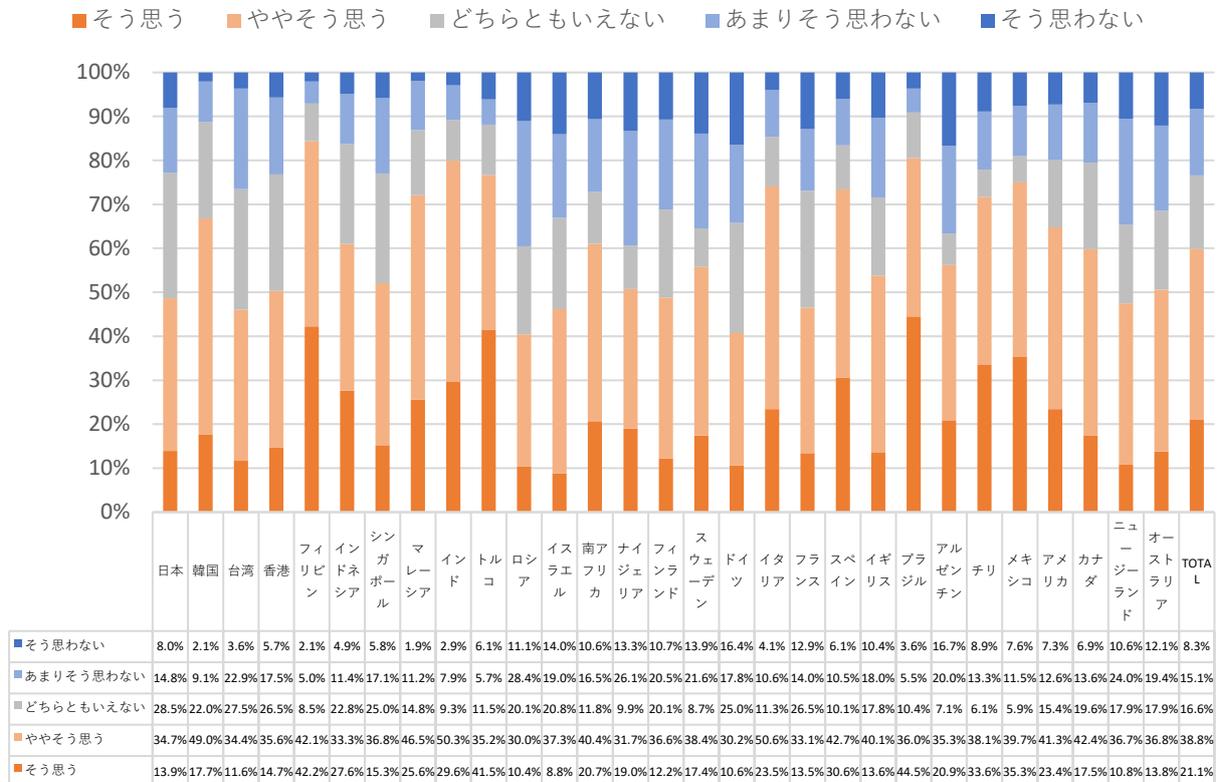
図表 2-2-2 は「新型コロナウイルスのことを考えると不安になる」の各国の該当率を示したものである。29 カ国全体の平均をみると、肯定的回答（「そう思う」＋「ややそう思う」）は 59.9%、否定的回答（「そう思わない」＋「あまりそう思わない」）は 23.4%、どちらともいえないが 16.6%であった。

肯定的回答（「そう思う」＋「ややそう思う」）の該当率が高かったのはフィリピン（84.4%）、ブラジル（80.5%）、インド（80.0%）、トルコ（76.7%）、メキシコ（75.0%）であった。順位は多少異なるものの、前頁（図表 2-2-1）と同じ顔ぶれであり、これらの国は新型コロナウイルスへの不安・恐れが強かったことが分かる。

否定的回答（「そう思わない」＋「あまりそう思わない」）が肯定的回答を上回った国はなかった。すなわち、どの国においても、新型コロナウイルスに漠然と不安を感じている人の方が多かったということになる。

日本の肯定的回答（「そう思う」＋「ややそう思う」）は 48.6%（23/29 位）、否定的回答（「そう思わない」＋「あまりそう思わない」）は 22.8%、「どちらともいえない」は 28.5%であった。肯定的回答のみで判断するとすれば、日本は 29 カ国の中では新型コロナウイルスへの不安・恐れは比較的低かったといえる。

Q10-2 新型コロナウイルスのことを考えると不安になる



図表 2-2-2 新型コロナウイルスへの不安

2.2 ワクチン接種後の副反応に関する不安

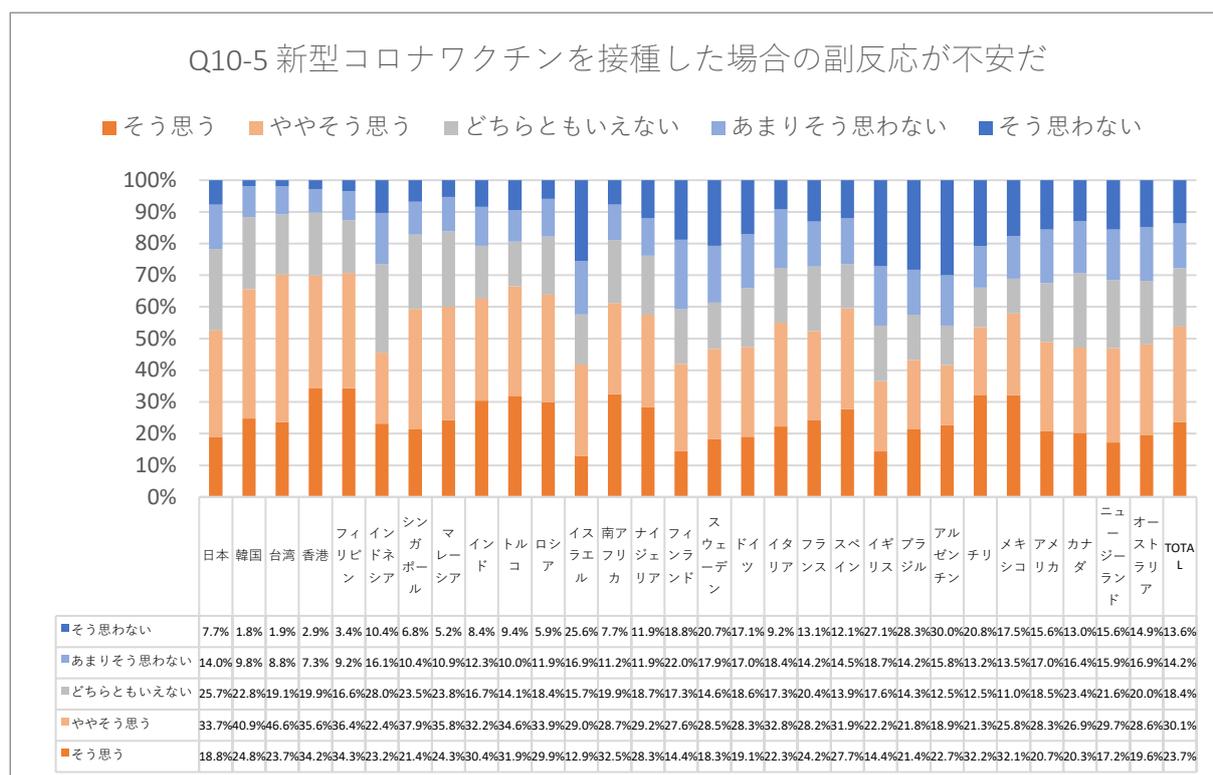
図表 2-2-3 は「新型コロナワクチンを接種した場合の副反応が不安だ」の回答結果を示したものである。29 ヶ国全体では、肯定的回答（「そう思う」＋「ややそう思う」）は 53.8%、否定的回答（「そう思わない」＋「あまりそう思わない」）は 27.8%、どちらともいえないは 18.4%であった。

肯定的回答（「そう思う」＋「ややそう思う」）の該当率が高かったのは、フィリピン（70.8%）、台湾（70.2%）、香港（69.9%）、トルコ（66.5%）、韓国（65.6%）であり、アジア圏の国が多かった。

肯定的回答（「そう思う」＋「ややそう思う」）よりも否定的回答（「そう思わない」＋「あまりそう思わない」）の比率が高かった、つまり、ワクチンの副反応を不安視していなかった人が多い国はイギリス、イスラエル、アルゼンチンであった。第 1 章で示した通り、我々の調査においてワクチンの接種率が最も高かったのがイスラエル（68%）、次に接種率が高かったのがイギリス（38.4%）であったが、これは両国ともワクチンの確保が進んでいたことが一因ではあるものの、ワクチン接種の副反応に関して不安がない人が多かったことも、ワク

チンの接種率を高めた背景にあったかと思われる。

アジアの一国である日本に関しては、肯定的回答（「そう思う」+「ややそう思う」）は52.5%（16/29位）、否定的回答（「そう思わない」+「あまりそう思わない」）は21.7%、「どちらともいえない」は25.7%であった。日本は歴史的にワクチンへの信頼度が低いとされているが、アジア圏の他の国と比べると不安を感じる人は少なかったようである。



図表 2-2-3 ワクチン接種後の副反応への不安

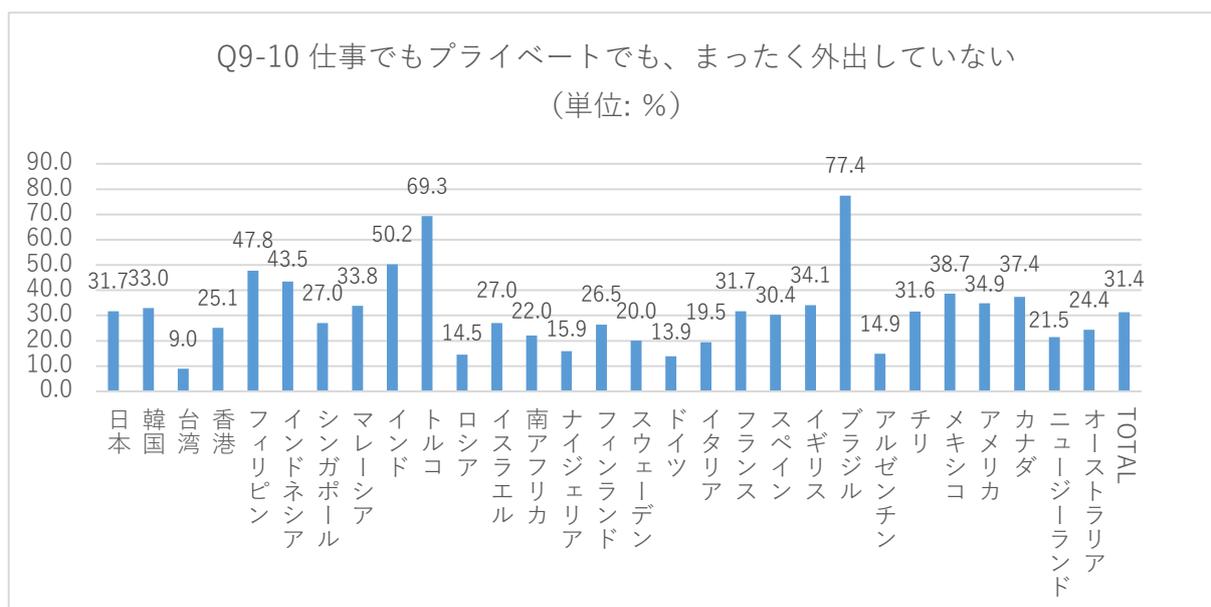
3 感染対策行動

新型コロナウイルスのさらなる感染拡大を防ぐため、各国においては外出制限やマスクの着用などのさまざまな施策が講じられた。日本では、2020年4月に最初の緊急事態宣言が発令され、外出自粛が要請された。また、いわゆる「3密」（密集、密接、密閉）の回避やマスクの着用、手洗いの徹底が呼びかけられ、2020年5月にはこれらを含む「新しい生活様式」が発表された。2021年3月の我々の調査時は、東京においては2回目の緊急事態宣言（2021年1月発令）の只中であり、一般住民への要請としては特に午後8時以降の不要不急の外出の自粛が求められていた。このような状況下で、我々の調査では、外出自粛やマスクの着用等の感染対策行動に関して尋ねた。

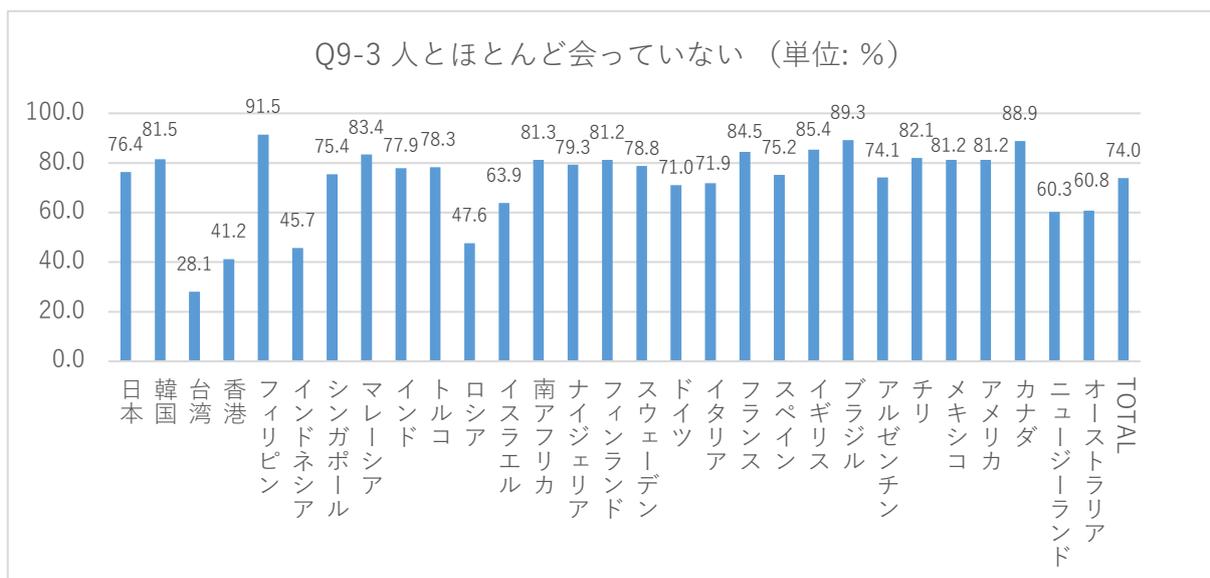
3.1 外出の自粛

図表 2-3-1 は「仕事でもプライベートでも、まったく外出していない」の回答結果を示したものである。29 カ国全体では 31.4%が該当していた。該当率が高かった国はブラジル (77.4%)、トルコ (69.3%)、インド (50.2%)、該当率が低かった国は台湾 (9.0%)、ドイツ (13.9%)、ロシア (14.5%) であった。日本の該当率は 31.7%で、全体平均と同程度であった。

図表 2-3-2 は「人とほとんど会っていない」の回答結果を示したものである。29 カ国全体では 74.0%であった。前問の「まったく外出していない」は全体平均が 3 割強であったが、「人とほとんど会っていない」の全体平均は 7 割強であることから、外出はしても人と会うことは自粛していた人もいたと考えられる。該当率が高かった国はフィリピン (91.5%)、ブラジル (89.3%)、カナダ (88.9%)、イギリス (85.4%)、該当率が低い国は台湾 (28.1%)、香港 (41.2%)、インドネシア (45.7%)、ロシア (47.6%) であった。日本の該当率は 76.4%で、こちらも全体平均と同程度であった。



図表 2-3-1 外出の自粛



図表 2-3-2 人と会うことの自粛

外出の自粛に関しては、各国で設けられている施策との関係も考えられるだろう。図表 2-3-3 は、Oxford Coronavirus Government Response Tracker (OxCGRT)¹⁾ のデータを元に、調査対象 29 カ国の 2021 年 3 月 12 日当時の移動制限の施策状況をまとめたものである。このデータは移動制限を 3 段階²⁾ に分けており、最も厳しい「移動制限あり」の国は調査対象 29 カ国中 15 カ国、「移動しないことを推奨」していた国は日本を含む 4 カ国、移動制限の「施策なし」の国は 10 カ国であった。

施策なし	台湾、シンガポール、インド、ロシア、イスラエル、南アフリカ、ナイジェリア、フィンランド、フランス、ニュージーランド
移動しないことを推奨	日本、韓国、香港、スウェーデン
移動制限あり	フィリピン、インドネシア、マレーシア、トルコ、ドイツ、イタリア、スペイン、イギリス、ブラジル、アルゼンチン、チリ、メキシコ、アメリカ、カナダ、オーストラリア

※Oxford Coronavirus Government Response Tracker (OxCGRT) を元に筆者作成

図表 2-3-3 調査対象国の 2021 年 3 月 12 日当時の移動制限の施策状況

図表 2-3-1 で外出を自粛していた国の施策をみると、ブラジルとトルコは「移動制限あり」の国であった。一方で、インドは移動制限の「施策なし」の国であったことから、インドに関しては施策とは無関係に自粛していたと考えられる。

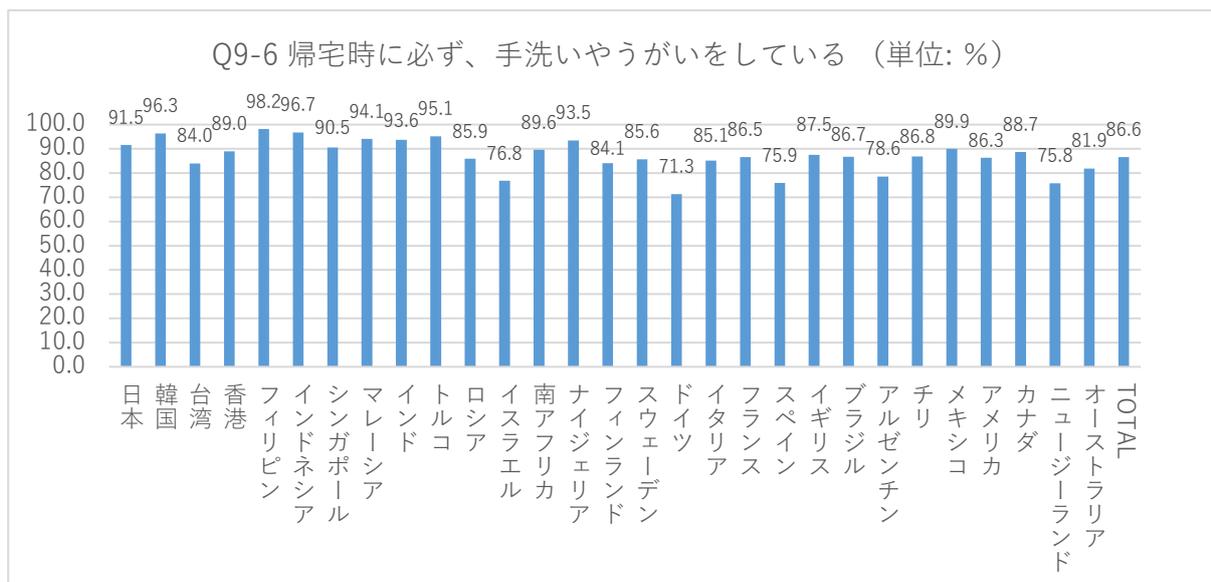
また、自粛をしている比率が低かった国の施策状況を見ると、台湾・ロシアは移動制限の施策が設けられていなかった。したがって、個人的な理由がない限りは、外出をしていたこ

とは頷ける。一方、ドイツは「移動制限あり」であったが、今回の調査での質問が「まったく外出していない」かどうかを尋ねるものだったため、厳しい移動制限があったとしても、仕事などで多少の外出はしていたのだと推測できる。

以上をふまえると、移動制限の施策は、人々の外出自粛行動にある程度関係したと考えられる。しかしながら、移動制限の施策がない場合でも自粛を控える人が多かった国もあることから、外出自粛には施策の有無以外の動機もあるのだろう。たとえば、前節でみてきた新型コロナウイルスに対する不安感も、自粛行動に関係すると考えられる。外出を自粛していた比率が高かったブラジル、トルコ、インドは、それぞれ新型コロナウイルスに対する不安・恐れが比較的強い国であった。

3.2 手洗い・うがいの実施

図表 2-3-4 は「帰宅時に必ず、手洗いやうがいをしている」の回答結果を示したものである。29カ国の全体平均は 86.6%であった。手洗い・うがいの実施率が 9 割を超えた国はフィリピン(98.2%)、インドネシア(96.7%)、韓国(96.3%)、トルコ(95.1%)、マレーシア(94.1%)、インド(93.6%)、ナイジェリア(93.5%)、日本(91.5%)、シンガポール(90.5%)であり、アジア圏の国が多かった。2021年3月12日時点の調査対象国の10万人あたりの累積罹患患者数(第1章)をみると、これらの国、特にアジア圏の国の罹患患者数は比較的少なかった。反対に、調査時点での10万人あたりの罹患患者数が多かったイスラエル(76.8%)、スペイン(75.9%)、ロシア(85.9%)、スウェーデン(85.6%)、アメリカ(86.3%)の手洗い・うがいの実施率は全体平均を下回っていた。手洗い・うがいの実施と罹患患者数の因果関係は今回の調査データからは判断できないため、実施率の記載に留めるが、この点についてはより詳細な分析が必要となるだろう。



図表 2-3-4 手洗い・うがいの実施

3.3 マスクの着用

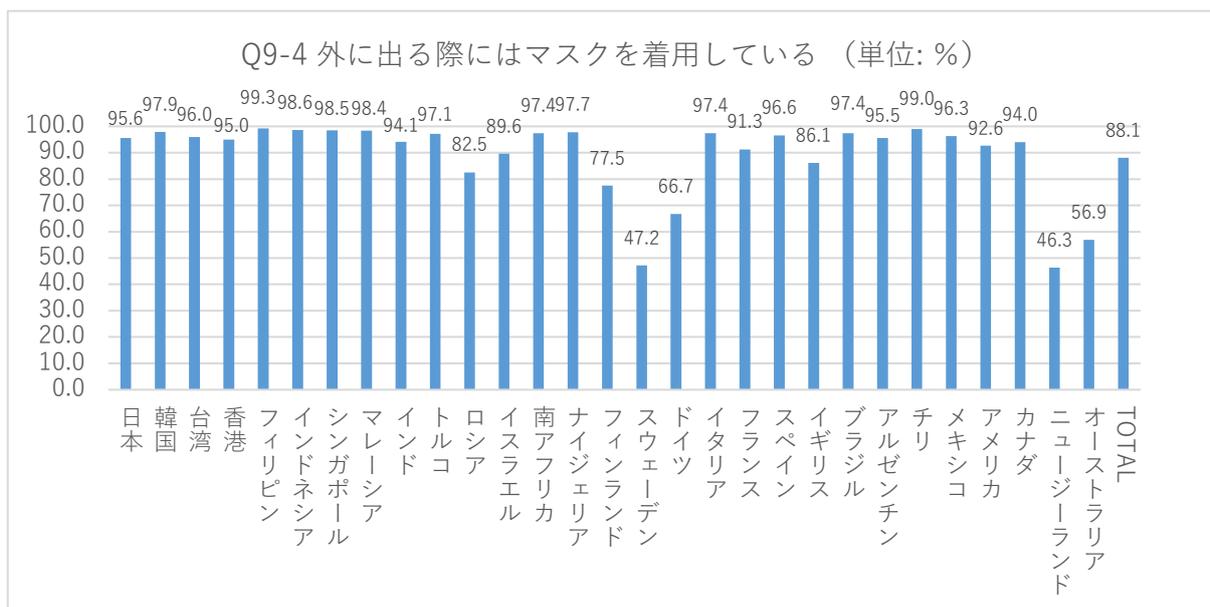
日本においては、2020年3月28日に新型コロナウイルス感染症対策本部によって発表された「新型コロナウイルス感染症対策の基本的対処方針」の中の一つとして、マスクの着用が記されていた。2020年4月15日～17日に我々が実施したアンケート調査で「外に出る際にはマスクを着用している」かどうかを尋ねたところ、該当していたのは調査対象者3170名の65.5%であった³⁾。

「外に出る際にはマスクを着用している」という質問は、今回の調査でも尋ねた。図表2-3-5はその回答結果を示したものである。29カ国の全体平均は88.1%であった。該当率が高かった国はフィリピン(99.3%)、チリ(99.3%)、インドネシア(98.6%)、シンガポール(98.5%)、マレーシア(98.4%)で、これらは100%に近い比率であった。一方で、該当率が低かった国はスウェーデン(47.2%)、ニュージーランド(46.3%)、オーストラリア(56.9%)、ドイツ(66.7%)で、これらの国は7割に達していなかった。日本は95.6%であった。

こうしたマスクの着用状況の差異は、各国の施策と関係があるのだろうか。図表2-3-6は、既出のOxford Coronavirus Government Response Tracker (OxCGRT)¹⁾のデータを元に、2021年3月12日当時の調査対象国のマスク着用に関する施策状況をまとめたものである。このデータでは、施策の状況を5段階⁴⁾に分けており、最も厳しい「自宅外では常に着用」は29カ国10カ国、「すべての共有/公共スペースで着用」は8カ国、「特定の共有/公共スペースで着用」は9カ国、「着用を推奨」は2カ国、「施策なし」の国は無しという状況であった。

図表2-3-5でマスクの着用率が高かった国に関して施策の状況をみると、フィリピン、インドネシア、シンガポールは「自宅外では常に着用」という最も厳しい施策、マレーシアは「すべての共有/公共スペースで着用」という2番目に厳しい施策、チリは「特定の共有/公共スペースで着用」という緩やかな施策がそれぞれ設けられていた。また、マスクの着用率が低かったスウェーデン、ニュージーランド、オーストラリアはすべて「特定の共有/公共スペースで着用」という緩やかな施策であった。したがって、図表2-3-5にみられたマスクの着用状況の差異は、こうした施策状況がある程度反映された結果だと考えられる。

一方で、日本は「推奨」レベルの状況であったが、着用率は95.6%で全体平均より高かった。人々のマスクの着用は、施策の有無に限らない動機があると考えられる。



図表 2-3-5 外出時のマスクの着用

施策なし	—
着用を推奨	日本、フィンランド
特定の共有/公共スペースで着用	台湾、香港、ロシア、スウェーデン、ドイツ、ブラジル、チリ、ニュージーランド、オーストラリア
すべての共有/公共スペースで着用	韓国、マレーシア、イスラエル、南アフリカ、ナイジェリア、イギリス、アルゼンチン、カナダ
自宅外では常に着用	フィリピン、インドネシア、シンガポール、インド、トルコ、イタリア、フランス、スペイン、メキシコ、アメリカ

※Oxford Coronavirus Government Response Tracker (OxCGRT)を元に筆者作成

図表 2-3-6 調査対象国の2021年3月12日当時のマスク着用に関する施策状況

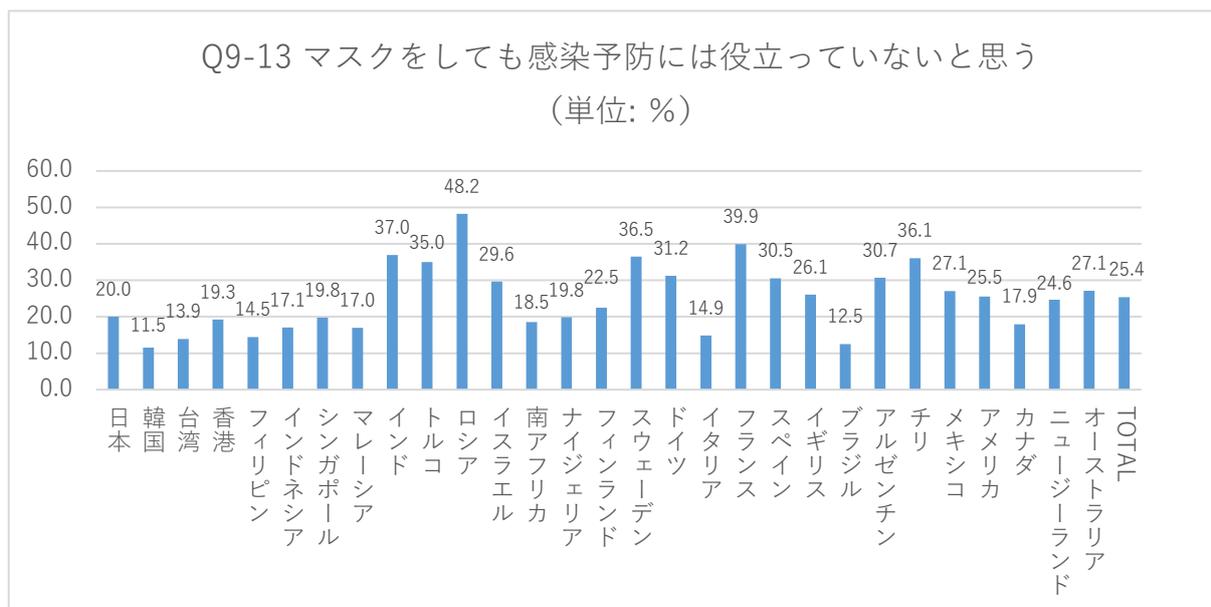
上記のように、2021年の調査時点においては、調査対象国においてマスク着用を義務化する国もあったが、人々はマスクが感染予防に役立つと考えていたのだろうか。

図表 2-3-7 は「マスクをしても感染予防には役立っていないと思う」の回答結果を示したものである。全体の25.4%がマスク着用が感染予防には役立っていないと考えていた。

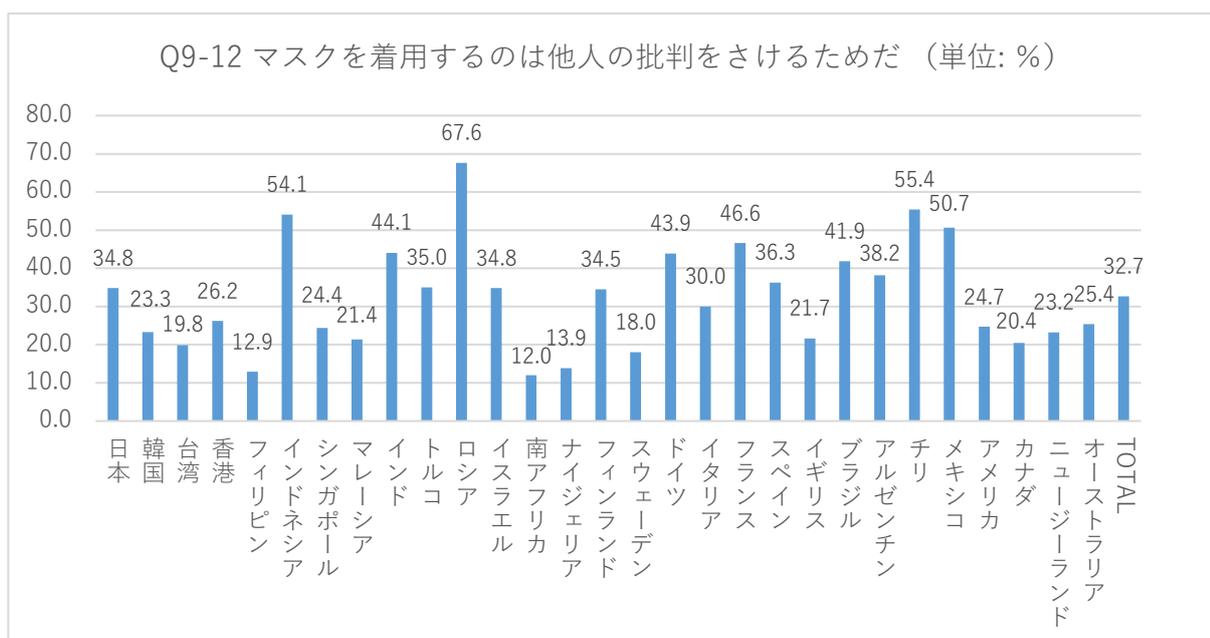
該当率が高かった国は、ロシア (48.2%)、フランス (39.9%)、インド (37.0%)、スウェーデン (36.5%)、チリ (36.1%) であった。最も該当率が高かったロシアは、調査時点での10万人あたりの累積罹患者数が7971.0人 (29カ国中3位) と多い状況であったにもかかわらず、マスクの着用率 (図表 2-3-5 参照) は全体平均よりも低い82.5%であった。これは、当時のマスク着用に関する施策が「特定の場所で着用」という緩やかな施策であったことも一因だと思われるが、それだけではなく、マスクの感染予防効果への人々の懐疑心も一因に

なっていたと考えられ得る。

また、スウェーデンにおいても、調査時点での10万人あたりの罹患者数が7109.8人(29ヵ国中4位)と、比較的罹患者数が多い状況であったが、マスクの着用率(図表 2-3-5 参照)は29ヵ国の中で2番目に低かった。これも、マスク着用の施策が緩やかだったこと以外に、人々のマスク着用効果への疑念が背景にあったと考えられるだろう。



図表 2-3-7 マスクの感染予防効果への疑念



図表 2-3-8 他人の批判を回避するためのマスク着用

日本においては「マスク警察」という言葉もある通り、コロナ対策としてマスクを着用しない人に対して過剰に注意をする人がいるという⁵⁾。我々の調査では、マスク着用の動機の一つとして、このような他人の批判の目を避けるケースを想定した。

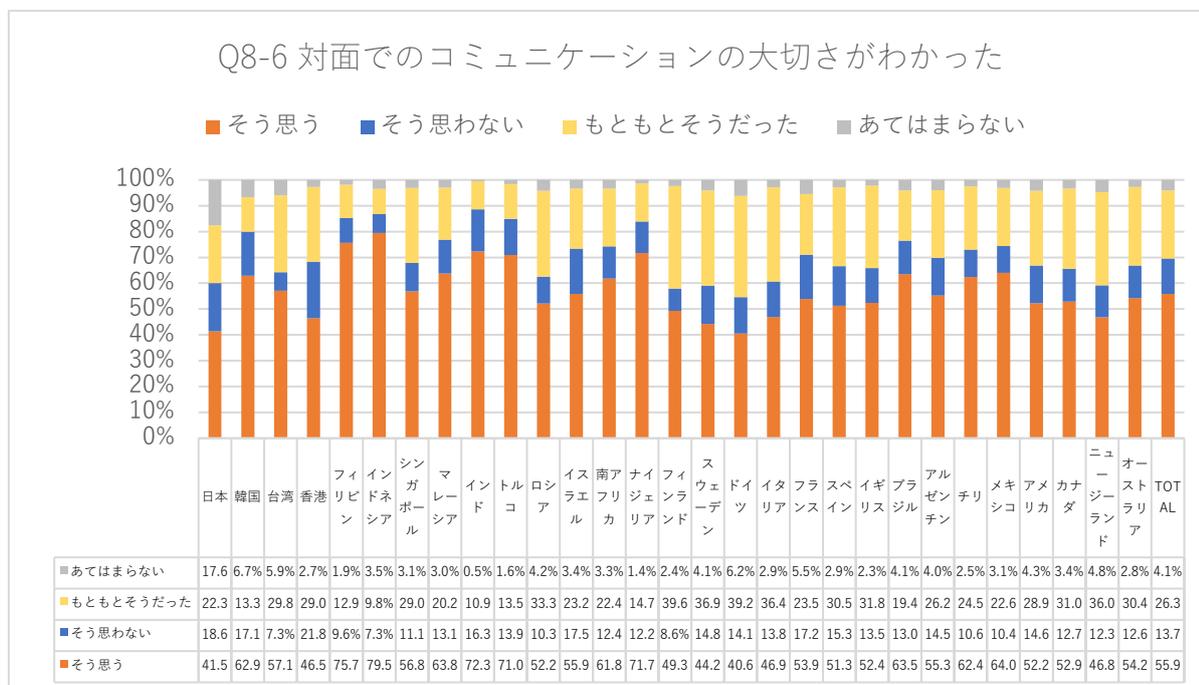
図表 2-3-8 は「マスクを着用するのは他人の批判をさけるためだ」の回答結果を示したものである。結果から、世界 29 カ国全体において他人の目を気にしてマスクを着用している人が 32.7%いることが明らかになった。該当率が高い国はロシア (67.6%)、チリ (55.4%)、インドネシア (54.1%)、メキシコ (50.7%) であった。

日本の該当率は 34.8%で、29 カ国全体平均よりも比率が高かった。先述の通り、日本はマスクの着用は「推奨」レベルであるものの着用率は全体平均よりも高い 95.6%であったが、この結果には他人の目を気にしてマスクを着用している人がいることも関係していると推測できる。

4 価値観の変化

外出をする、人と会って話すというような、新型コロナウイルス感染拡大には当たり前に行っていたことが、コロナ禍では当たり前でできなくなったため、日常生活や仕事の進め方・環境が一変した人も少なくないだろう。調査では、生活や仕事に関する価値観の変化についても質問を設けた。本節ではその結果の中の 2 つを示す。

4.1 コミュニケーションに関する価値観の変化

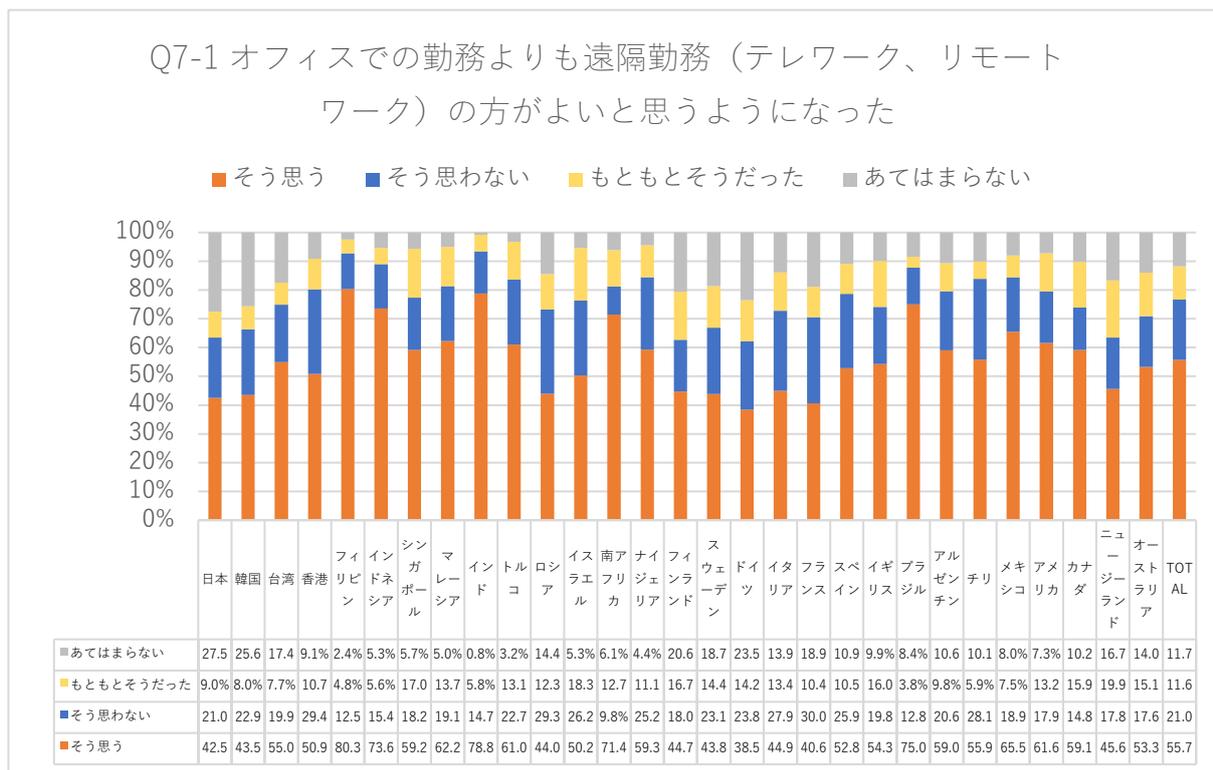


図表 2-4-1 コミュニケーションに関する価値観の変化

図表 2-4-1 は「対面でのコミュニケーションの大切さがわかった」の回答結果を示したものである。29 カ国全体では「そう思う」が 55.9%、「そう思わない」が 13.7%、「もともとそうだった」が 26.3%、「あてはまらない」が 4.1%だった。5 割以上の人々が、コロナ禍で対面でのコミュニケーションが取れない、もしくは取りにくい状況下にあったことにより、その大切さに気付いたことが示された。「そう思う」の該当率が高かったのはインドネシア (79.5%)、フィリピン (75.7%)、インド (72.3%)、ナイジェリア (71.7%)、トルコ (71.0%) であった。フィリピンは、「人とほとんど会っていない」(図表 2-3-2) で最も該当率が高かった国である。

「そう思わない」の該当率が高かったのは、香港 (21.8%)、日本 (18.6%)、イスラエル (17.5%)、フランス (17.2%) であった。また、「もともとそうだった」の該当率が高かったのは「フィンランド」(39.6%)、「ドイツ」(39.2%)、「スウェーデン」(36.9%)、「イタリア」(36.4%) とヨーロッパの国に多かった。

4.2 勤務形態に関する価値観の変化



図表 2-4-2 勤務形態に関する価値観の変化

図表 2-4-2 は「オフィスでの勤務よりも遠隔勤務（テレワーク、リモートワーク）の方がよいと思うようになった」の回答結果を示したものである。全体では「そう思う」が 55.7%、

「そう思わない」が21.0%、「もともとそうだった」が11.6%、「あてはまらない」が11.7%だった。「そう思う」の該当率が高かったのはフィリピン（80.3%）、インド（78.8%）、ブラジル（75.0%）、インドネシア（73.6%）、南アフリカ（71.4%）であった。フィリピン、インド、インドネシアは先述の「対面でのコミュニケーションの大切さがわかった」において「そう思う」比率が高かった国であるが、対面でのコミュニケーションの大切さに気付いて対面勤務に価値を感じたのではなく、対面でのコミュニケーションの大切さに気付いたけれども勤務形態としては対面勤務より遠隔勤務の方に価値を感じた、ということになる。

「そう思わない」の該当率が高かったのは、フランス（30.0%）、香港（29.4%）、ロシア（29.3%）、チリ（28.1%）であった。また、「もともとそうだった」の該当率が高かったのは、ニュージーランド（19.9%）、イスラエル（18.3%）、シンガポール（17.0%）、フィンランド（16.6%）であった。

5 本章のまとめ

本章では、人々の新型コロナウイルス感染症に対する不安感や、感染対策行動、価値観に変化について概観してきた。

新型コロナウイルスに対して、29ヶ国全体で約6割の人が不安を感じており、また、調査当時に「もっとも恐れているのは新型コロナウイルスだ」と捉えていた人が29ヶ国全体で6割弱存在した。こうした不安感・恐れは人々の行動にも反映され、外出や他者と会うことへの自粛行動にも少なからず影響したと考えられる。

また、「外出を控える」、「人と会うことを控える」、「マスクの着用」という感染対策行動には、各国の施策状況がある程度反映されていたことが見て取れた。換言すれば、施策の有効性が示唆されたということになる。

一方で、「マスクの着用」に関しては、感染予防のためではなく、他者からの批判の回避に動機づけられて着用していた人が全体で3割強、マスクの感染予防効果に関する疑念を持つ人が2割強みられた。日本においては、2023年3月13日よりマスク着用は個人の選択に委ねられるが、今回の調査結果で見られたようなマスク着用に関する人々の心理は、マスク着用の選択に少なからず影響すると推測できる。

価値観の変化は、本章で取り上げた「対面でのコミュニケーションの大切さがわかった」、「オフィスでの勤務よりも遠隔勤務の方がよい」に関しては全体で5割強が変化を感じていた。しかしながら、その変化に至った具体的な要因の分析には至っておらず、今後の課題としたい。

[注]

- 1) Oxford Coronavirus Government Response Tracker (OxCGRT) <https://www.bsg.ox.ac.uk/research/research-projects/covid-19-government-response-tracker#data> (2021年6月26日参照)
- 2) このデータでは「no measures」、「recommend not to travel between regions/cities」、「internal movement restrictions in place」の3スケールを使用していた。本章の表内では、それぞれを日本語訳したうえで略記している。
- 3) 結果の詳細は橋元良明・大野志郎・天野美穂子・堀川裕介・篠田詩織(2020)『緊急事態宣言で人々の行動・意識は変わったか?』丸善出版(電子書籍)を参照されたい。
- 4) このデータでは「No policy」、「Recommended」、「Required in some specified shared/public spaces outside the home with other people present, or some situations when social distancing not possible」、「Required in all specified shared/public spaces outside the home with other people present or all situations when social distancing not possible」、「Required outside the home at all times regardless of location or presence of other people」の5スケールを使用していた。本章の表内では、それぞれを日本語訳したうえで略記している。
- 5) 2020年にNHKが実施した世論調査によれば、注意をするかどうかは別として、外出時にマスクを着用していない人を見かけたら「気になる」と回答した人は87%存在した。NHK NEWSWEB「マスクしていない人「気になる」87% NHK世論調査」(2021年1月16日) <https://www3.nhk.or.jp/news/html/20210116/k10012817841000.html> (2023年3月8日参照)

[参考文献]

- 厚生労働省“新型コロナウイルス感染症対策の基本的対処方針”，厚生労働省。<https://www.mhlw.go.jp/content/10900000/000633503.pdf> (参照：2023年3月3日閲覧)
- 厚生労働省“新しい生活様式の実例”，厚生労働省。https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000121431_newlifestyle.html#newlifestyle (参照：2023年3月3日閲覧)
- 橋元良明, 大野志郎, 天野美穂子, 堀川裕介, 篠田詩織, 2020, 『緊急事態宣言で人々の行動・意識は変わったか?』丸善出版。
- 大野志郎, 天野美穂子, 堀川裕介, 篠田詩織, 2021, 「コロナ禍における人々の情報行動と意識—世界29カ国比較調査」, 第44回情報通信学会大会発表資料

第3章 コロナ禍における感染者データ提供とプライバシー

篠田詩織

1 はじめに

感染症対策においては、感染した場合に感染事実を周囲へ伝えたり行動履歴を公表したりと、感染者の個人データを活用することで、蔓延防止を図ることがある。それにより濃厚接触者や感染リスクの高い場所が客観的にわかり、感染拡大を防ぐことができるからである。

しかし、感染対策にあたってのデータの利用に関しては、感染者をどこまで追跡するか、感染者の行動履歴をどこまで公開するか、感染者・入国者をどこまで監視するか、など、感染対策とプライバシーのトレードオフに関する課題が存在する（Goldenfein et al. 2020）。

2019 年末から蔓延し始めた新型コロナウイルスに対し、本調査を実施した2021 年当時、多くの国で接触追跡調査（感染者の行動歴の調査と濃厚接触者調査）が行われていた（Hale et al., 2021）。接触確認アプリや監視カメラの画像等、デジタルデータを活用した施策も多く取り入れられた（Whitelaw 2020）。日本では、感染者の感染前後の行動を聞き取り調査し、濃厚接触者を洗い出す積極的疫学調査が実施されていた（国立感染症研究所, 2021）。韓国では、新型コロナウイルス感染が陽性と診断された人の携帯端末の位置情報履歴を携帯通信会社から得たり、クレジットカード利用履歴を入手したり、防犯カメラのデータも活用したりしながら、陽性診断者の詳細な行動履歴を把握し、かつ国民に対して公表もしていた（Zastrow 2020）。当初は過剰に個人情報公開されプライバシー上の懸念があったが、プログラムは後にプライバシーを重視したものに修正された（Jung et al. 2020）。

このように各国で多様な政策がとられていた中で、感染した場合の感染者のデータ公表や活用（感染したことを周囲に伝えるかどうか、感染前の移動履歴・利用施設を公表するかどうか等）の是非について、だれもが当事者として考える状況であった。これは、市民一人ひとりが「公益目的のパーソナルデータの活用・提供・開示」に対する自身の許容・要望の意識を明確に持っている状態であり、その傾向を調査できる好機会であると言える。

そこで、本調査では感染症対策に対する市民のプライバシー意識の調査のため、図表 3-1 に示すように、自分のデータ開示についての要望と、一般の感染者のデータ開示に対する要望の双方を同時に調査した。これにより、「感染者はデータ開示をすべきか否か」という一般論的な要望度と、「自分がデータ開示をしたいか否か」という自己データ開示への許容度との乖離が明らかになり、両者のバランスの取り方を検討する際の材料になると考えられる。

また、これに加えて、感染の際のいやがらせの想定に関する質問、感染対策とプライバシーの犠牲に対する考え方についての質問も行った。

	自分のデータ公表に関する要望	感染者のデータ公表に関する要望
感染事実	自分が新型コロナウイルスにかかったら、感染の事実は周りの人に知られたくない	新型コロナウイルス感染者は、感染の事実を周りの人に知らせるべきだと思う
移動履歴	自分が新型コロナウイルスに感染しても、移動履歴は公開したくない	新型コロナウイルス感染者の移動履歴は公開されるべきだ
利用施設	自分が新型コロナウイルスに感染しても、利用した店舗や病院等の施設は公開したくない	新型コロナウイルス感染者の利用した店舗や病院等の施設は公開されるべきだ

図表 3-1 データ公表に関する考え方についての調査項目

本調査の類似調査としては、コロナに関する 30 カ国の国際世論比較調査（日本リサーチセンター 2020）での、感染拡大防止対策と人権の犠牲に関する世論調査結果がある。「ウイルスの拡散防止に役立つならば、自己的人権をある程度犠牲にしてもかまわない」という意見について、「そう思う」人の割合は 30 か国の平均では 75%、日本では 32% と、日本は感染対策のために人権を犠牲にすることに対する抵抗感が高いことが示されていた。

国内調査としては、我々の研究チームで行った調査（橋元 et al. 2020, 橋元 et al. 2021）や、株式会社日立製作所による調査（株式会社日立製作所 2020）などがあり、感染した場合の移動履歴の共有等には一定程度のプライバシー懸念があること等が示されていた。

国外で行われた類似の意識調査としては、台湾（Yang et al. 2020）において、「感染症対策のためには自由を犠牲にしてもよい」という考え方および政治的信条との関連を調べたものがある。アメリカにおいても、体温チェック、従来の接触追跡、集中検疫、電子機器による監視の導入、接触確認アプリの導入等のデータを活用した防疫対策に対する賛否を調査したものがある（Zhang et al. 2020）。

また、接触確認アプリにおけるプライバシー意識調査は多く行われており、プライバシーやセキュリティへの不安が接触確認アプリの利用の一つの障害になっていることが指摘されている（Altmann et al. 2020, Akinbi et al. 2021）。

しかし、29 もの多くの国・地域を対象に、感染対策におけるデータの利用について感染対策におけるプライバシーとのトレードオフについての意識を国際比較した調査は存在せず、本調査結果は一つの貴重な資料になると考える。

ただし、本調査は 2021 年 3 月に実施したもので、新型コロナウイルスに感染した経験のある人が一部の国ではまだ稀であったこと、ワクチンがまだ多くの国では普及しておらず（1 章参照）、感染症の収束が十分にされていないこと等に留意する必要がある。

2 自分のデータ公表と、感染者のデータ公表に対する意識

2.1 感染事実の公表について

自分の感染事実の公表について、「自分が新型コロナウイルスにかかったら、感染の事実は周りの人に知られたくない」という項目への質問回答結果を図表 3-2 に示す。

全体では「知られたくない」25.6%、「知られてもよい」55.5%^りと、知られてもよい人の方が 2 倍ほど多かった。

「知られたくない」の割合が高かったのは、1 位がインド (53.0%)、2 位が日本 (41.3%)、3 位が韓国 (34.9%)、4 位がオーストラリア (31.2%)、5 位がシンガポール (30.4%) と、アジア・太平洋地域が多かった。「知られてもよい」の割合が高かったのは 1 位がアルゼンチン (81.0%)、2 位がブラジル (78.9%)、3 位がフィンランド (77.5%)、4 位がイタリア (75.6%)、5 位がチリ (68.3%) であり、南米地域は多い傾向にあった。日本は「知られてもよい」の割合が最も低く 22.1%であった。

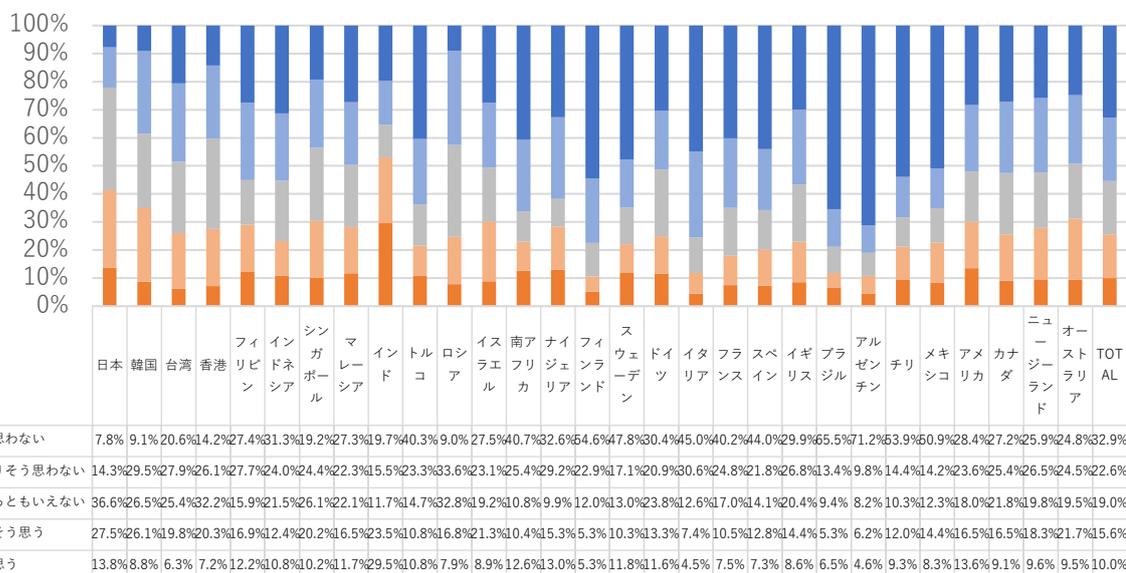
「知られたくない」の割合が「知られてもよい」の割合を上回るのはインドと日本のみで、特にインドでは 唯一半数以上の 53.0% の人が「知られたくない」と答えていた。

インドは、イスラム嫌悪・外国人嫌悪等の差別的感情が元々あり、コロナ感染者に対しても同様に差別があるとの報告がある (Bhanot et al. 2021)。そういった背景が要因の一つにあると推測される。

「知られたくない」の回答比率が高い国は、アジア諸国に多い。これは、調査時点での新型コロナウイルス感染経験者の割合の低さや、ワクチン接種率の低さが 1 つの要因として考えられる。2021 年 3 月 12 日当時、今回調査対象としてとりあげた 29 の国・地域のうち、欧米諸国では 10 万人あたりの感染者数が 2500 人を越えている国が多かったが、アジア諸国では 1000 人を下回る国の方が多かった (1 章参照)。感染経験者が多くない場合には「感染した」ということ自体の情報量が増えるため、プライバシー性も高くなり、感染事実を隠したい動機が増えると推測できる。また、ワクチンも、欧米諸国と南米地域では接種が始まっていたのに対し、アジアではまだほとんどの市民が接種できていなかった (1 章参照)。ワクチン接種が広がっていない中で、感染した際のリスクを不安に思う気持ちも強かったのではないかと (Q10 参照)。ワクチン接種が進んでおらず人びとのコロナに対する不安が大きい場合には、感染した場合のリスク認知が大きくなり、「感染者であると知られると他の人にも敬遠されるのではないかと」考える人も一定数出てくると思われる。実際本章 3.1 節に見る通り、感染した場合の敬遠・いやがらせ想定と感染事実の公表忌避には正の相関があった。

Q5-3 自分が新型コロナウイルスにかかったら、感染の事実は周りの人に知られたくない

■ そう思う ■ ややそう思う ■ どちらともいえない ■ あまりそう思わない ■ そう思わない



図表 3-2 自分の感染事実の公表に関する意識 (Q5-3)

一方、感染者の感染事実の公表について、「新型コロナウイルス感染者は、感染の事実を周りの人に知らせるべきだと思う」という項目への質問回答結果を図表 3-3 に示す。

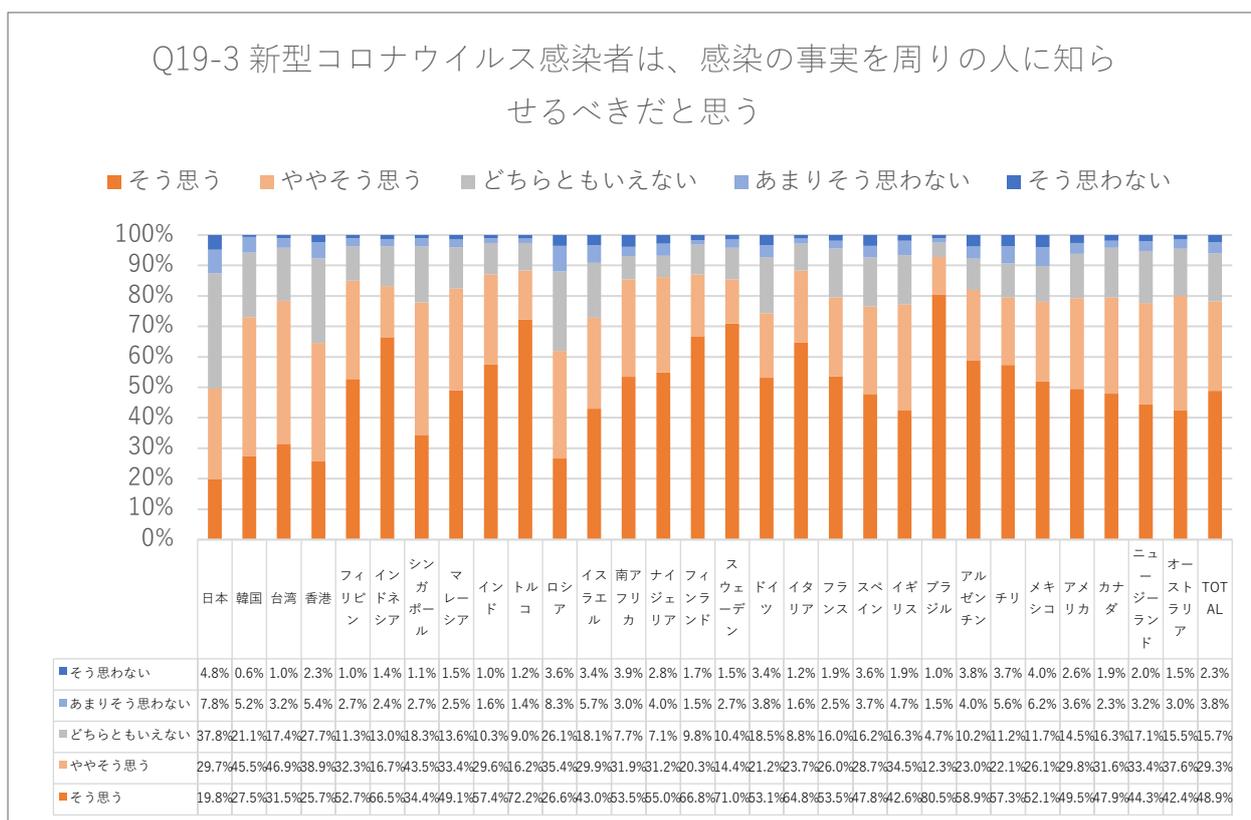
全体では、「知らせるべきだ」78.2%、「知らせるべきだとは思わない」6.10%¹⁾と、「知らせるべきだ」という人のほうが 6 倍ほど多かった。「自分の感染事実を知られてもよい」人が 55.5% だったのに対し、「感染者は感染事実を知らせるべきだ」という人が 78.2% であることから、感染事実の公表については、一般的に感染者に対して要望されているものの、自ら公表することに関して少し心理的なハードルがあるようだ。

「知らせるべきだ」の割合が高かったのは、1 位がブラジル (92.8%)、2 位がイタリア (88.5%)、3 位がトルコ (88.4%)、4 位がフィンランド (87.1%)、5 位がインド (87.0%) であった。「知らせるべきだ」の割合は、アジア諸国とロシアが他地域より低めだった。「知らせるべきだとは思わない」の割合が高かったのは、1 位が日本 (12.6%)、2 位がロシア (11.9%)、3 位がメキシコ (10.2%)、4 位がチリ (9.3%)、5 位がイスラエル (9.1%) であった。

日本は、「知らせるべきだ」が最も少なく 49.5%、「知らせるべきだとは思わない」の割合も最も高く 12.6% だった。日本は、感染者の感染データ公表に頼らないコロナ対策を最も求めている国と言える。

「知らせるべきだ」の割合が最も高かったブラジルは、本章参考資料の図表 3-13 に示す通り、接触追跡は行っていなかった。ブラジルは 2021 年 3 月 12 日当時、世界で 2 番目に感染者数が多く (Hale et al. 2021)、ボルソナロ大統領のコロナ軽視・経済重視の政策意向に対する国民の不満も大きかった (近田 2021)。また、ブラジルは 3.2 節に見るように「感染症対策のために自分のプライバシーを犠牲にしてもよい」と答えた人の割合が 8 割弱もいた。これらが、感染者のデータ公表の要望を大きくした要因なのかもしれない。

また、「自分の感染の事実を知られたくない」と考える人の割合が高かったインドで、感染者は感染の事実を知らせるべきだ」と考える人の割合も多かったのは興味深い。インドは 3.1 節および 3.2 節に見るように、自分のプライバシーも他人のプライバシーも感染対策のためならば犠牲にしていと多くの人が考えている一方で、「感染した場合に敬遠・いやがらせされると考える割合も高いために、このような結果になったのではないかと推測される。



図表 3-3 感染者の感染事実の公表に関する意識 (Q19-3)

2.2 移動履歴の公開について

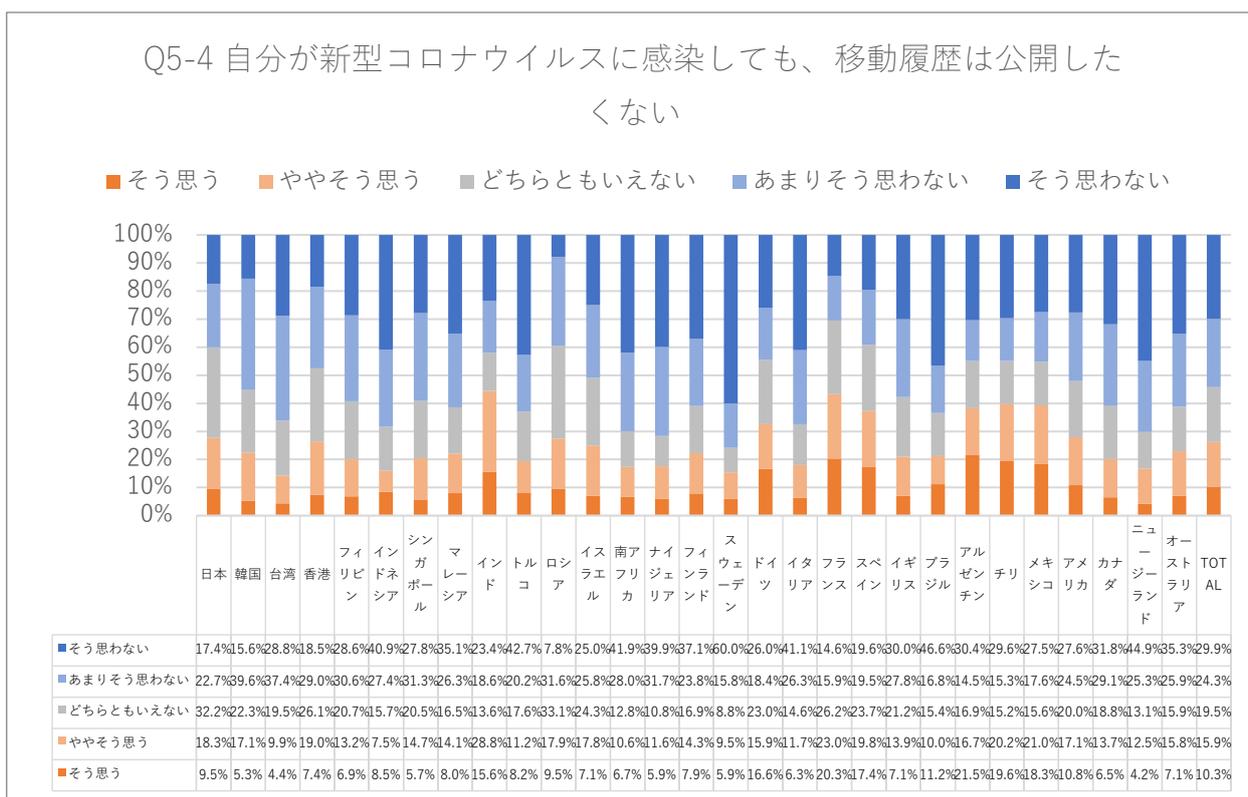
「自分が新型コロナウイルスに感染しても、移動履歴は公開したくない」という項目について聞いた質問の回答結果を図表 3-4 に示す。

全体で見ると、「公開したくない」26.2%、「公開してもよい」54.2%²⁾と、「公開してもよい」と考えているの方が2倍以上多かった。双方の割合は感染事実の公表(2.1節)とほぼ同じであった。

「公開したくない」が「公開されてもよい」を上回っていたのはインド・フランスのみであった。

「公開したくない」の割合が高かったのは、1位インド(44.4%)、2位フランス(43.3%)、3位チリ(39.8%)、4位メキシコ(39.3%)、5位アルゼンチン(38.2%)であった。日本は9位で27.8%であった。インドで「公開したくない」が高かったのは、2.1章で述べた通り、インドでの感染者への差別が大きかった影響が考えられる。また、フランスは、もともと他の国よりも、行動履歴や位置情報を「どんな場合でも提供・公開したくない」と考える割合が大きい傾向にある(総務省2013)ことが一つの要因として考えられる。

「公開されてもよい」の割合が高かったのは、1位スウェーデン(75.8%)、2位ナイジェリア(71.6%)、3位ニュージーランド(70.2%)、4位南アフリカ(69.9%)、5位インドネシア(68.3%)であった。日本は26位で40.1%であった。



図表 3-4 自分が感染した場合の移動履歴の公開に関する意識 (Q5-4)

「公開されてもよい」1位のスウェーデンは、3.2節に見るように、「感染対策のために自分のプライバシーを犠牲にしてもよい」と考える人の割合が多い。そのため、「公開されても

よい」の割合が高かったのではないかと考えられる。スウェーデンは公共への貢献意識が高く（星野 2012）、国民性の影響もあると考えられる。

「公開されてもよい」2位のナイジェリアは、元々感染症が多く感染症対策のために接触追跡調査を行う体制が整っており、早期に接触追跡アプリを使い始めて、感染後の居場所等をデータとして送る仕組みがあった（Akpan et al. 2022）。そのため、接触追跡のために移動履歴を公開することに躊躇がなかったのではないか。

続いて、「新型コロナウイルス感染者の移動履歴は公開されるべきだ」という質問項目への回答結果を図表 3-5 に示す。

全体で見ると、「公開されるべき」58.5%、「公開されるべきだとは思わない」17.7%²⁾と、「公開されるべき」だと考える人の方が3倍以上多かった。図表 3-4 と比べると、自分のデータ公開の許容度と感染者一般へのデータ公開の要求度の差はそれほど大きくない。

全ての国で、「公開されるべき」の方が多数派であった。

「公開されるべき」の割合が高かったのは、1位インドネシア(84.0%)、2位台湾(81.3%)、3位トルコ(80.1%)、4位韓国(77.2%)、5位ブラジル(72.9%)であった。日本は「公開されるべき」が2番目に低く、42.0%であった。その他、欧州も低かった。

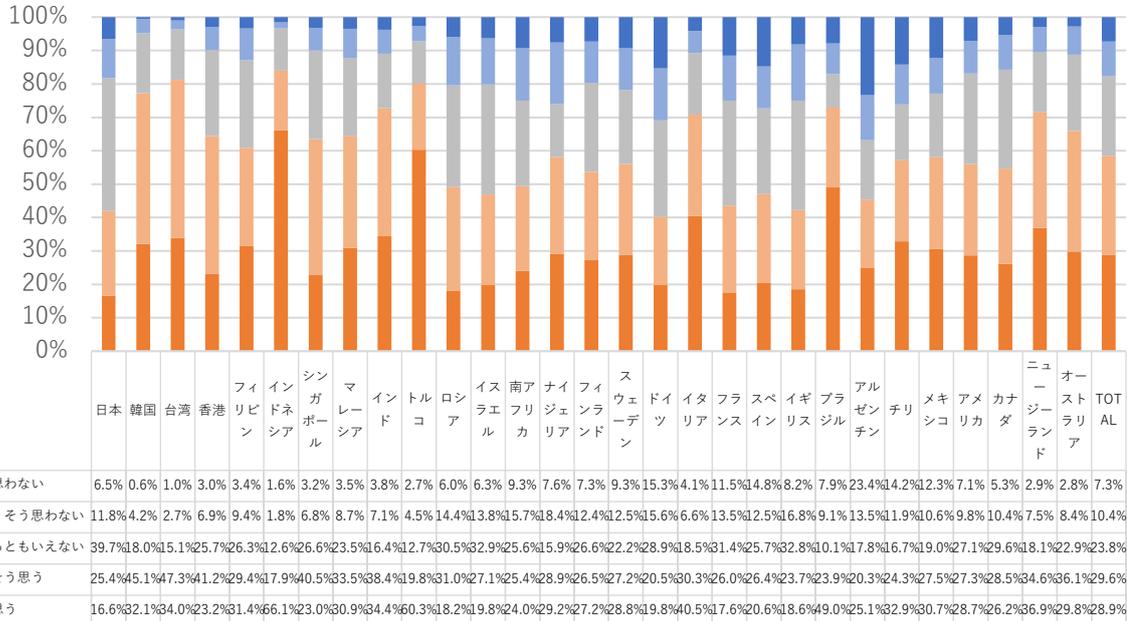
「公開されるべきだとは思わない」の割合が高かったのは、1位アルゼンチン(36.9%)、2位ドイツ(30.9%)、3位スペイン(27.3%)、4位チリ(26.1%)、5位ナイジェリア(26.0%)であった。日本は14位で18.3%であった。

「公開されるべき」の割合が1位のインドネシアは、東南アジア諸国の中では最もコロナ感染者・死亡者が多く、政府による対策が十分とは言えず信用度が低かった（水野 et al., 2022）。また、接触追跡も不十分であるという評価があったようだ（Mahendradhata et al., 2022）。接触追跡の対策を強化すべきとの意識から感染者のデータ公開を求める傾向にあったのかもしれない。

2位の台湾では感染者の位置情報を監視し、隔離指示を守らなかった場合に通知を送る「電子フェンス」と呼ばれる仕組みを導入しており（松田, 2021）、3位のトルコでも同意すれば他人に移動履歴を公開することができる仕組みがあり（Tutucu, 2022, Inal et al., 2021）、4位の韓国では感染者の移動履歴に関わるデータを公開する仕組みがあった（Junget al., 2020）。これら2位から4位の国は、国の感染症対策に関わる法整備や政策に感染者のデータ公開が盛り込まれていたことで、感染者のデータ公開は当たり前だという意識が高かったのかもしれない。

Q19-4 新型コロナウイルス感染者の移動履歴は公開されるべきだ

■ そう思う ■ ややそう思う ■ どちらともいえない ■ あまりそう思わない ■ そう思わない



図表 3-5 感染者の移動履歴の公開に関する意識 (Q19-4)

2.3 利用施設の公開について

「自分が新型コロナウイルスに感染しても、利用した店舗や病院等の施設は公開したくない」という項目への質問回答結果を図表 3-6 に示す。

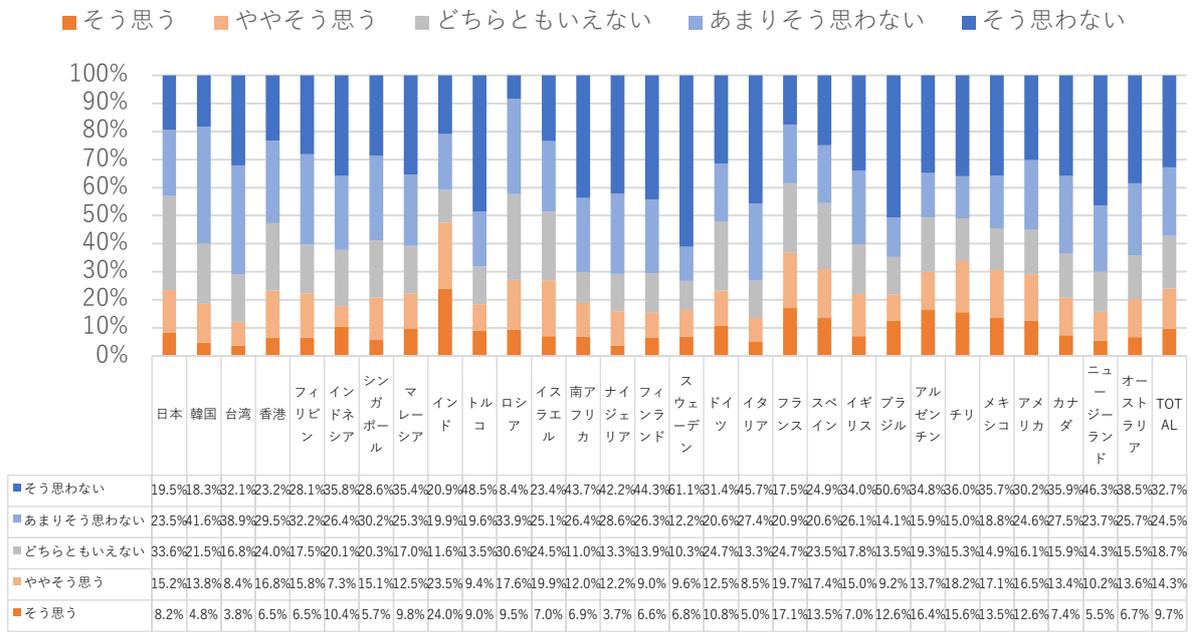
全体で見ると、「公開したくない」24.0%、「公開してもよい」57.2%²⁾で、双方の割合は感染事実の公表(2.1節)とほぼ同じであった。自身が感染した場合の利用施設の公開を許容するの方が、許容できない人より2倍以上多かった。「公開したくない」が「公開してもよい」を上回るのはインドのみであった。

「公開したくない」と答えた人の割合が高かったのは、1位インド(47.5%)、2位フランス(36.8%)、3位チリ(33.8%)、4位スペイン(30.9%)、5位メキシコ(30.6%)で、日本は10位(23.4%)であった。

「公開したくないとは思わない」の割合が高かったのは、1位スウェーデン(73.3%)、2位イタリア(73.1%)、3位台湾(71.0%)、4位ナイジェリア(70.8%)、5位フィンランド(70.6%)で、日本は26位(43.0%)であった。

両方とも、2.2節で見た移動履歴の公開への意識での上位5位、下位5位と似た顔ぶれであった。

Q5-5 自分が新型コロナウイルスに感染しても、
利用した店舗や病院等の施設は公開したくない



図表 3-6 自分が感染した場合の利用施設の公開に関する意識 (Q5-5)

一方、感染者一般の利用施設の公開について「新型コロナウイルス感染者の利用した店舗や病院等の施設は公開されるべきだ」という項目への質問回答結果を図表 3-7 に示す。

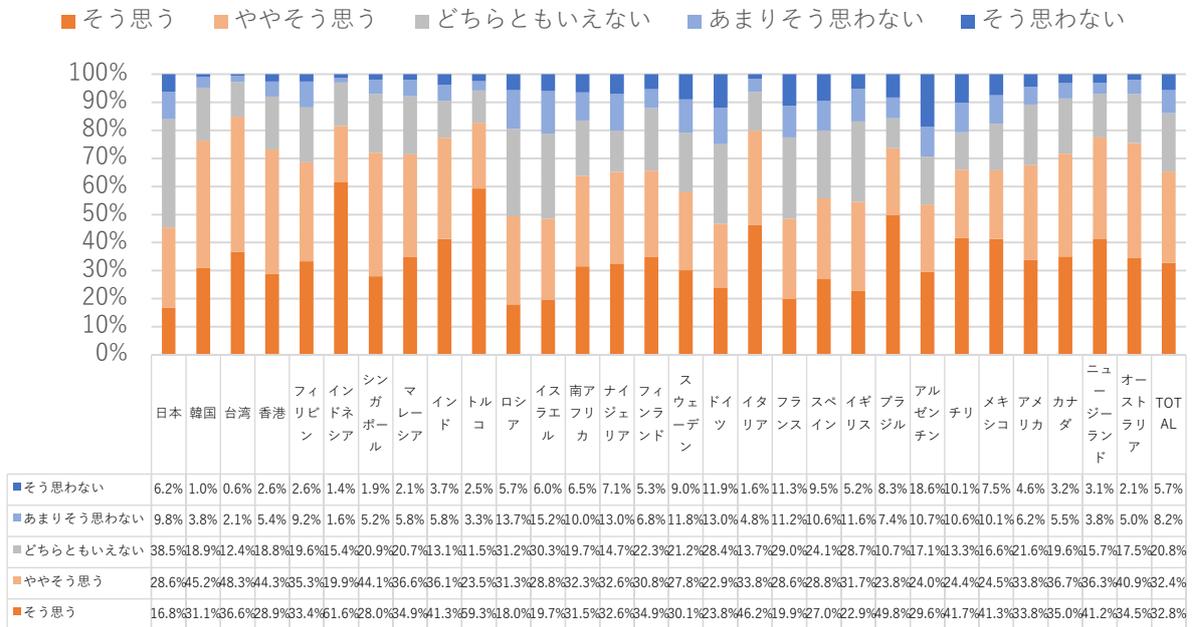
全体で見ると、「公開されるべき」65.2%、「公開されるべきだとは思わない」13.9%²⁾と、要求を否定する人よりも肯定する人の方が 5 倍ほど多かった。また、全ての国で、「公開されるべき」の方が多数派であった。

「公開されるべき」の割合が高かったのは、1 位台湾 (84.9%)、2 位トルコ (82.8%)、3 位インドネシア (81.5%)、4 位イタリア (80.0%)、5 位ニュージーランド (77.5%) であった。日本は「公開されるべき」の割合が最も低く 29 位で、45.4% であった。

「公開されるべきだとは思わない」の割合が高かったのは、1 位アルゼンチン (29.3%)、2 位ドイツ (24.9%)、3 位フランス (22.5%)、4 位イスラエル (21.2%)、5 位スウェーデン (20.8%) で、日本は 13 位 (16.0%) であった。

こちらも、両方とも、2.2 節で見た移動履歴の公開への意識での上位 5 位、下位 5 位と似た顔ぶれであった。

Q19-5 新型コロナウイルス感染者の利用した店舗や病院等の施設は
公開されるべきだ



図表 3-7 感染者の利用施設の公開に関する意識 (Q19-5)

2.4 移動履歴の政府・公的機関への提供について

「自分が新型コロナウイルスに感染しても、移動履歴は政府・公的機関には提供したくない」という項目への質問回答結果を図表 3-8 に示す。

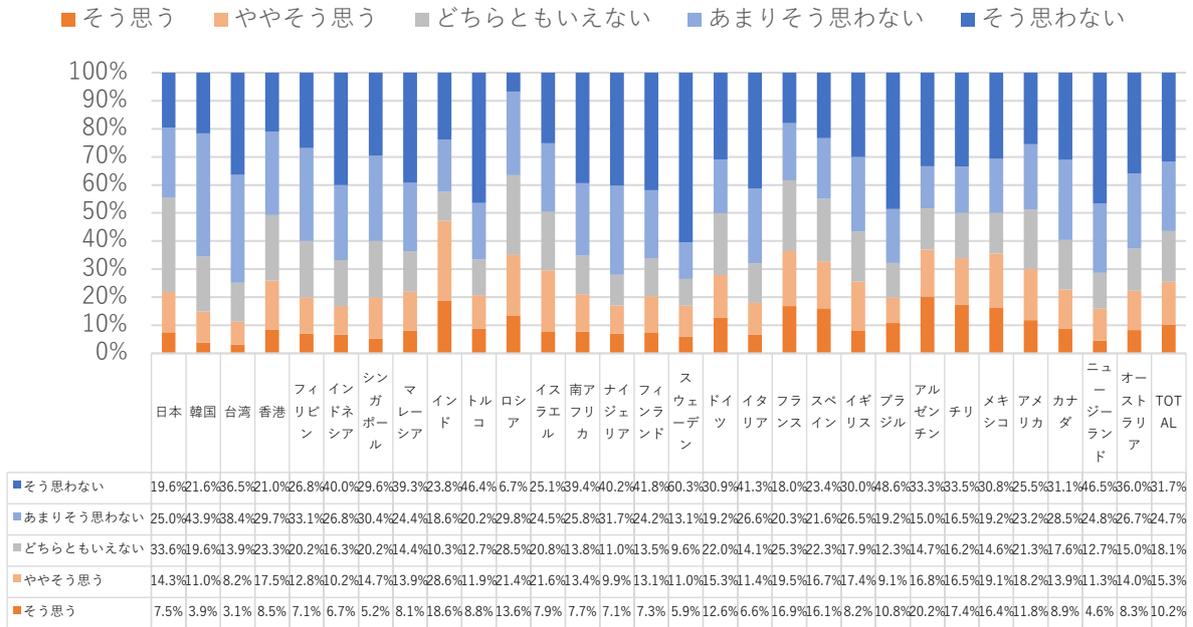
全体で見ると、「提供したくない」25.5%、「提供してもよい」56.4%³⁾で、双方の割合は感染事実の公表(2.1 節)とほぼ同じであった。自身が感染した場合の移動履歴の政府・公的機関への提供については、「提供してもよい」人の方が「提供したくない」人より2倍以上多かった。全体としては政府に協力的な国が多かったものの、インドのみ、「提供したくない」が「提供してもよい」を上回っていた。ロシアとフランスも、提供したくない人と提供してもよい人の数がほぼ均衡していた。

「提供したくない」と答えた人の割合が高かったのは、1 位インド(47.2%)、2 位アルゼンチン(37.0%)、3 位フランス(36.4%)、4 位メキシコ(35.5%)、5 位ロシア(35.0%)で、日本は16 位(21.8%)であった。

「提供してもよい」と答えた人の割合が高かったのは、1 位台湾(74.9%)、2 位スウェーデン(73.4%)、3 位ナイジェリア(71.9%)、4 位ニュージーランド(71.3%)、5 位イタリア(67.9%)であった。日本は26 位で44.6%であった。

どちらも、移動履歴・利用施設の公開への意識と似た顔ぶれだった。

Q5-6 自分が新型コロナウイルスに感染しても、
移動履歴は政府・公的機関には提供したくない



図表 3-8 自分が感染した場合の移動履歴の政府・公的機関への提供に関する意識 (Q5-6)

続いて、「新型コロナウイルス感染者の移動履歴は政府・公的機関に提供されるべきだ」という項目への質問回答結果を図表 3-9 に示す。

全体で見ると、「提供されるべき」66.7%、「提供されるべきだとは思わない」12.8%³⁾と、感染者の移動履歴の政府・公的機関への提供については、要望する人の方が要望しない人より 5 倍以上多かった。

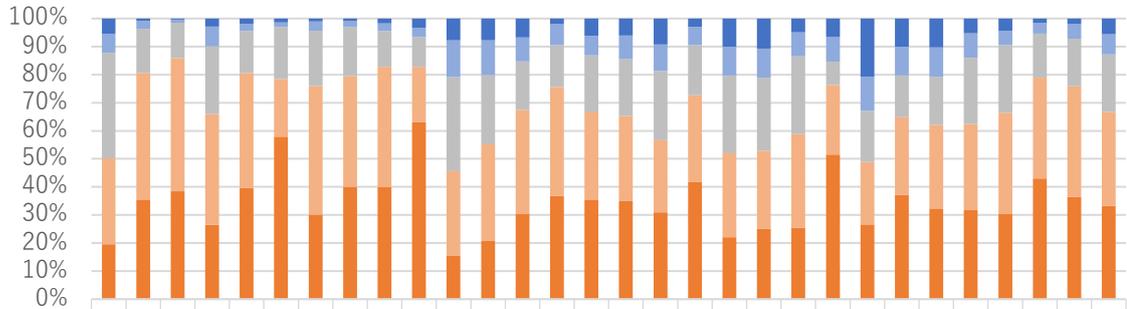
「提供されるべき」と答えた人の割合が高かったのは、1 位台湾 (85.9%)、2 位インド (82.8%)、同率 2 位トルコ (82.8%)、4 位韓国 (80.7%)、5 位フィリピン (80.5%) で、日本は 27 位 (50.1%) と、3 番目に低かった。

「提供されるべきだとは思わない」と答えた人の割合が高かったのは、1 位アルゼンチン (32.9%)、2 位スペイン (21.1%)、3 位ロシア (20.8%)、4 位メキシコ (20.7%)、5 位フランス (20.3%) であった。日本は 15 位で 12.3% であった。

これらも、移動履歴・利用施設の公開への意識と似た顔ぶれだった。

Q19-6 新型コロナウイルス感染者の移動履歴は政府・公的機関に提供されるべきだ

■ そう思う ■ ややそう思う ■ どちらともいえない ■ あまりそう思わない ■ そう思わない



	日本	韓国	台湾	香港	フィリピン	インドネシア	シンガポール	マレーシア	インド	トルコ	ロシア	イスラエル	南アフリカ	ナイジェリア	フィンランド	スウェーデン	ドイツ	イタリア	フランス	スペイン	イギリス	ブラジル	アルゼンチン	チリ	メキシコ	アメリカ	カナダ	ニュージーランド	オーストラリア	TOTAL
■ そう思わない	5.5%	0.8%	0.4%	2.8%	1.9%	1.4%	1.0%	0.9%	1.7%	3.3%	7.7%	7.8%	6.7%	2.0%	6.2%	6.0%	9.2%	3.0%	10.0%	10.7%	4.9%	6.6%	20.7%	0.0%	10.2%	5.2%	4.3%	1.5%	2.0%	5.6%
■ あまりそう思わない	6.8%	2.9%	1.1%	7.1%	2.5%	1.6%	3.3%	2.2%	2.7%	3.3%	13.1%	12.3%	8.5%	7.4%	6.9%	8.5%	9.5%	6.5%	10.3%	10.4%	8.5%	8.7%	12.2%	10.2%	10.5%	8.8%	5.1%	3.9%	5.2%	7.2%
■ どちらともいえない	37.5%	45.6%	42.6%	24.1%	51.1%	48.5%	49.7%	47.4%	42.8%	40.6%	33.6%	24.7%	17.3%	15.0%	20.3%	20.2%	24.7%	17.8%	27.7%	26.1%	27.8%	8.3%	18.2%	14.9%	17.2%	23.6%	24.1%	15.7%	16.9%	20.6%
■ ややそう思う	30.6%	45.2%	47.5%	39.5%	40.9%	20.5%	45.8%	39.4%	42.9%	19.8%	30.0%	34.5%	37.0%	38.8%	31.1%	30.4%	25.7%	30.8%	29.9%	27.7%	33.4%	24.8%	22.3%	27.7%	29.8%	30.6%	35.9%	35.9%	39.5%	33.4%
■ そう思う	19.5%	35.5%	38.4%	26.5%	39.6%	7.9%	30.2%	40.1%	39.9%	30.0%	15.6%	20.7%	30.5%	36.8%	35.5%	34.9%	30.9%	41.9%	22.1%	25.2%	25.5%	15.5%	26.6%	37.2%	32.3%	31.8%	30.5%	43.0%	36.4%	33.3%

図表 3-9 感染者の移動履歴の政府・公的機関への提供に関する意識 (Q19-6)

3 データ公表に関連する意識

3.1 感染した場合のいやがらせを受ける可能性に対する意識

「自分が新型コロナウイルスに感染したら、周りの人に敬遠されたりいやがらせされたりすると思う」という項目への質問回答結果を図表 3-10 に示す。

全体では、「敬遠・いやがらせされると思う」のは 30.8%、「敬遠・いやがらせされるとは思わない」のは 42.5%⁴⁾であった。

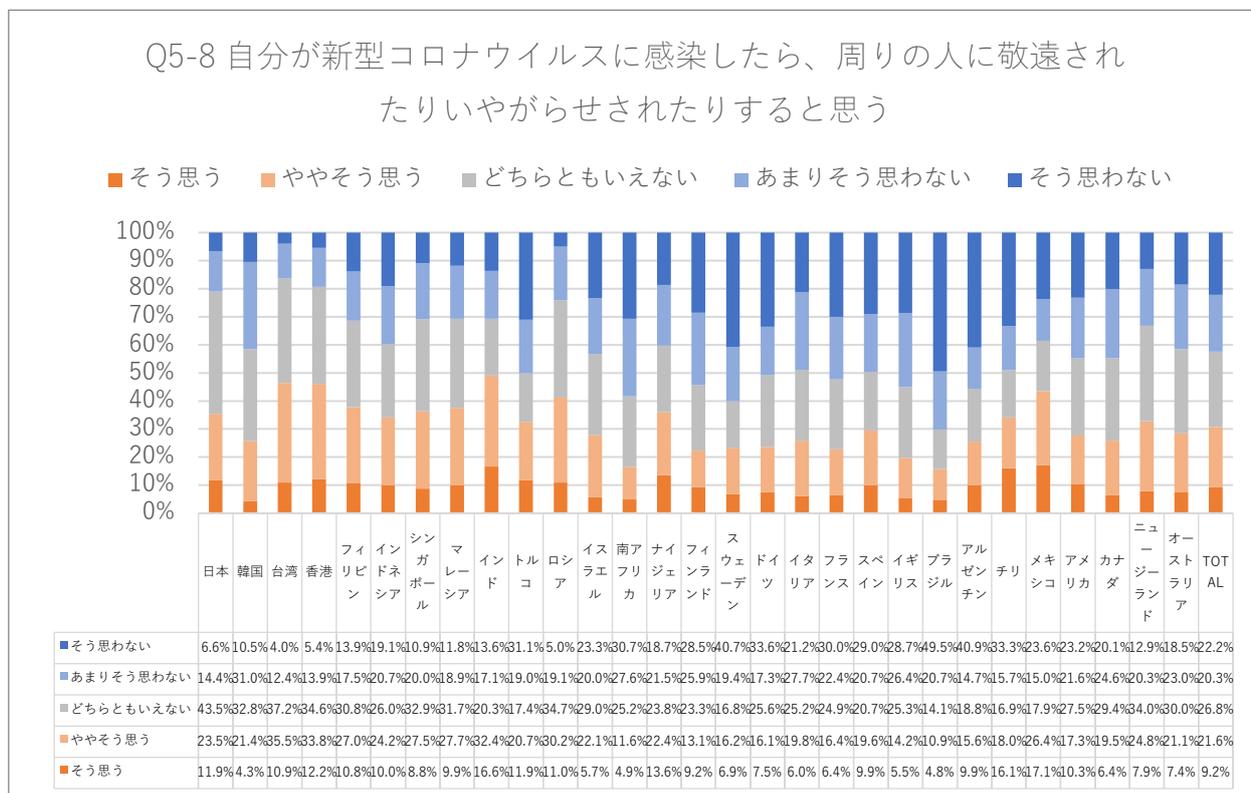
「敬遠・いやがらせされると思う」が「敬遠・いやがらせされるとは思わない」を上回るのは、日本、台湾、香港、フィリピン、シンガポール、マレーシア、インド、ロシア、メキシコと、感染率の低いアジア諸国が多かった。

「敬遠・いやがらせされると思う」と答えた人の割合が多かったのは、1 位インド(49.0%)、2 位台湾(46.4%)、3 位香港(46.0%)、4 位メキシコ(43.5%)、5 位ロシア(41.2%)であった。日本は 10 位で 35.4% だった。

「敬遠・いやがらせされるとは思わない」と答えた人の割合が多かったのは、1 位ブラジル(70.2%)、2 位スウェーデン(60.1%)、3 位南アフリカ(58.3%)、4 位アルゼンチン(55.6%)、

5 位イギリス (55.1%) であった。日本は 27 位で 21.0% だった。

「敬遠・いやがらせされると思う」の選択率と「感染事実を周囲に知られたくない」の選択率との相関は $r=0.537$ ($p=0.001$) と、正の相関にあり、感染事実の公表に与える心理的障壁としては大きいものだったと考えられる。



図表 3-10 感染した場合のいやがらせ想定に関する意識 (Q19-6)

3.2 感染対策とプライバシーの重要性比較に対する意識

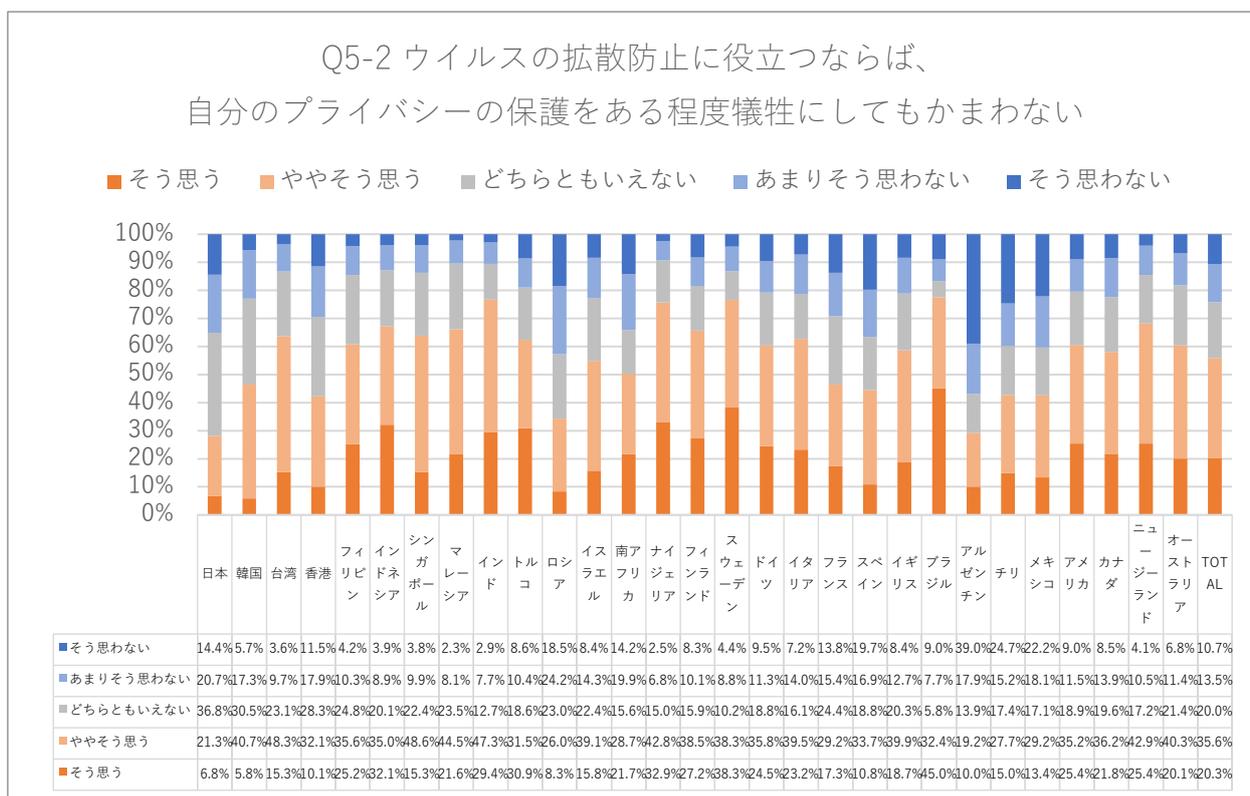
「ウイルスの拡散防止に役立つならば、自分のプライバシーの保護をある程度犠牲にしてもかまわない」ということについて聞いた質問の回答結果を図表 3-11 に示す。

全体では、「自分のプライバシーを犠牲にしてもよい」は 55.9%、「自分のプライバシーは犠牲にしたくない」は 24.2%⁵⁾で、「プライバシーを犠牲にしてもよい」人の方が 2 倍ほど多かった。感染対策よりプライバシーを重視する傾向にあったのは、日本、ロシア、アルゼンチンだった。

「自分のプライバシーを犠牲にしてもよい」と答えた人の割合が高かったのは、1 位ブラジル(77.4%)、2 位インド(76.7%)、3 位スウェーデン(76.6%)、4 位ナイジェリア(75.7%)、5 位ニュージーランド(68.3%) であった。日本は最もその比率が低く、28.1% であった。インドは、2.1 節に述べたように「自分の感染事実は公表したくない」割合が高かった一方で、プライバシーの犠牲については許容度が高く、感染事実の公表に後ろ向きである原因が

「プライバシーを犠牲にしたくない」という理由ではなく別にあるのではないかと考察される。

「自分のプライバシーは犠牲にしたくない」が多かったのは、1位アルゼンチン(39.9%)、2位ロシア(42.7%)、3位メキシコ(40.3%)、4位チリ(39.9%)、5位スペイン(36.6%)であった。日本は6位で35.1%だった。



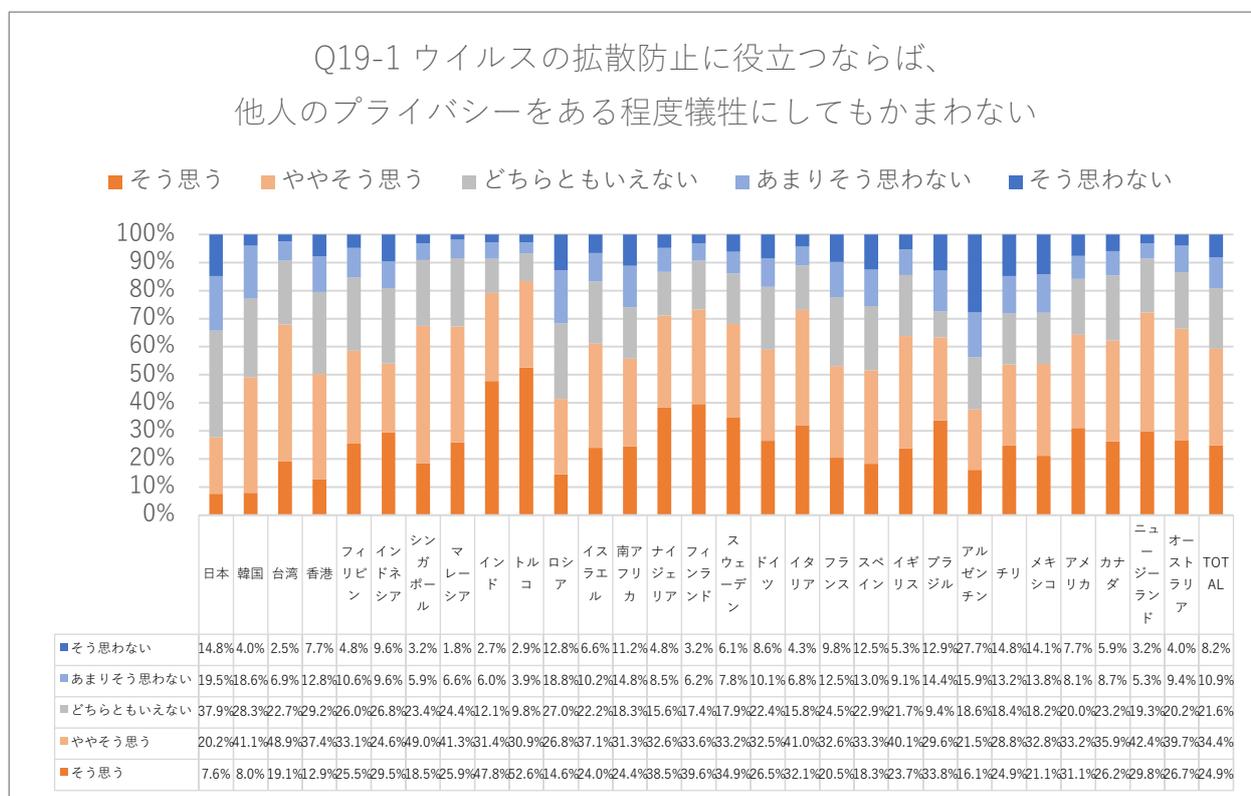
図表 3-11 感染対策と自分のプライバシーのトレードオフに対する意識 (Q5-2)

では、他人のプライバシーについてはどうか。「ウイルスの拡散防止に役立つならば、他人のプライバシーの保護をある程度犠牲にしてもかまわない」ということについて聞いた質問の回答結果を図表 3-12 に示す。

全体で見ると、「他人のプライバシーを犠牲にしてもよい」のは 59.3%、「他人のプライバシーを犠牲にしたくない」のは 19.1%⁶⁾と、「犠牲にしてもよい」派の方が 3 倍ほど多かった。「犠牲にしてもよい」派の方が少数派でプライバシーの方を重要視する傾向にあったのは、日本とアルゼンチンのみであった。

「他人のプライバシーを犠牲にしてもよい」と答えた人の割合が高かったのは、1位トルコ(83.5%)、2位インド(79.2%)、3位フィンランド(73.2%)、4位イタリア(73.1%)、5位ニュージーランド(72.2%)であった。日本は最もその比率が低く 27.8% だった。

「他人のプライバシーを犠牲にしたくない」と答えた人の割合が高かったのは、1位アルゼンチン(43.6%)、2位日本(34.4%)、3位ロシア(31.6%)、4位チリ(28.0%)、5位メキシコ(27.9%)だった。



図表 3-12 感染対策と他人のプライバシーのトレードオフに関する意識 (Q19-1)

4 各質問結果の概略

最後に、2.1 節から 3.2 節で見えてきた結果を表にまとめたのが図表 3-13 である。

A グループには、自分の感染事実や移動履歴等のデータ公開・提供に対する許容度についての質問をまとめ、B グループには、感染者一般の感染事実・移動履歴等のデータ公開・提供に対する要望度についての質問をまとめ、C グループは感染事実を知られたときの敬遠・いやがらせの想定に関する質問、D グループは感染対策とプライバシー保護のトレードオフに関する質問をまとめている。

それぞれ A、B、D 内にて、上位 5 位、下位 5 位が似た顔ぶれになっていることがわかる。また、A と C が似た顔ぶれになっていることがわかる。

		そう思う					そう思わない						
		全体	1位	2位	3位	4位	5位	全体	1位	2位	3位	4位	5位
A	感染事実：自分 知られたくない	25.6%	インド (53.0%)	日本 (41.3%)	韓国 (34.9%)	オーストラリア (31.9%)	シンガポール (30.4%)	55.5%	アルゼンチン (81.0%)	ブラジル (78.9%)	フィンランド (77.5%)	イタリア (75.6%)	チリ (68.3%)
	移動履歴：自分 公開したくない	26.2%	インド (44.4%)	フランス (43.3%)	チリ (39.8%)	メキシコ (39.3%)	アルゼンチン (38.2%)	54.2%	スウェーデン (75.8%)	ナイジェリア (71.6%)	ニュージーランド (70.2%)	南アフリカ (69.9%)	インドネシア (68.3%)
	利用施設：自分 公開したくない	24.0%	インド (47.5%)	フランス (36.8%)	チリ (33.8%)	スペイン (30.9%)	メキシコ (30.6%)	57.2%	スウェーデン (73.3%)	イタリア (73.1%)	台湾 (71.0%)	ナイジェリア (70.8%)	フィンランド (70.6%)
	移動履歴政府：自分 提供したくない	25.5%	インド (47.2%)	アルゼンチン (37.0%)	フランス (36.4%)	メキシコ (35.5%)	ロシア (35.0%)	56.4%	台湾 (74.9%)	スウェーデン (73.4%)	ナイジェリア (71.9%)	ニュージーランド (71.3%)	イタリア (67.9%)
		そう思う					そう思わない						
		全体	1位	2位	3位	4位	5位	全体	1位	2位	3位	4位	5位
B	感染事実：感染者 知らせるべき	78.2%	ブラジル (92.8%)	イタリア (88.5%)	トルコ (88.4%)	フィンランド (87.1%)	インド (87.0%)	6.10%	日本 (12.6%)	ロシア (11.9%)	メキシコ (10.2%)	チリ (9.3%)	イスラエル (9.1%)
	移動履歴：感染者 公開されるべき	58.5%	インドネシア (84.0%)	台湾 (81.3%)	トルコ (80.1%)	韓国 (77.2%)	ブラジル (72.9%)	17.7%	アルゼンチン (36.9%)	ドイツ (30.9%)	スペイン (27.3%)	チリ (26.1%)	ナイジェリア (26.0%)
	利用施設：感染者 公開されるべき	65.2%	台湾 (84.9%)	トルコ (82.8%)	インドネシア (80.8%)	イタリア (80.0%)	ニュージーランド (77.5%)	13.9%	アルゼンチン (29.3%)	ドイツ (24.9%)	フランス (22.9%)	イスラエル (21.9%)	スウェーデン (20.8%)
	移動履歴政府：感染者 提供されるべき	66.7%	台湾 (85.9%)	インド (82.8%)	トルコ (82.8%)	韓国 (80.7%)	フィリピン (80.5%)	12.8%	アルゼンチン (32.9%)	スペイン (21.1%)	ロシア (20.8%)	メキシコ (20.7%)	フランス (20.3%)
		そう思う					そう思わない						
		全体	1位	2位	3位	4位	5位	全体	1位	2位	3位	4位	5位
C	歌謡・いやがらせされる	30.8%	インド (49.0%)	台湾 (46.4%)	香港 (46.0%)	メキシコ (43.5%)	ロシア (41.2%)	42.5%	ブラジル (70.2%)	スウェーデン (60.1%)	南アフリカ (58.3%)	アルゼンチン (55.6%)	イギリス (55.1%)
	感染対策で自分のプライバシーを犠牲にしてもよい	55.9%	ブラジル (77.4%)	インド (76.7%)	スウェーデン (76.6%)	ナイジェリア (75.7%)	ニュージーランド (68.3%)	24.2%	アルゼンチン (39.9%)	ロシア (42.7%)	メキシコ (40.3%)	チリ (39.9%)	スペイン (36.6%)
D	感染対策で他人のプライバシーを犠牲にしてもよい	59.3%	トルコ (83.5%)	インド (79.2%)	フィンランド (73.2%)	イタリア (73.1%)	ニュージーランド (72.2%)	19.1%	アルゼンチン (43.6%)	日本 (34.4%)	ロシア (31.6%)	チリ (28.0%)	メキシコ (27.9%)

図表 3-13 各質問での上位5カ国、下位5カ国

図表 3-13 に載せた質問の上位 5 位、下位 5 位のいずれにも入っていなかったのは、アメリカ、カナダ、マレーシアであった。これら 3 カ国は、感染対策におけるデータ利用とプライバシーについて中庸的な考えの人が多くと考えられる。

図表 3-13 にて、2021 年 3 月当時の各国の各グループ内での上位・下位の位置付けを見ると、例えばそれぞれ以下のように各国の比較特徴を見てとれる。

- 日本・スペイン・メキシコ：プライバシーを犠牲にすることにとても慎重。自分の感染に関連するデータはあまり知られたくなく、他国と比べると感染者にもデータ公開をあまり求めない
- アルゼンチン・チリ：プライバシーを犠牲にすることにとても慎重。自分の移動履歴・利用施設は他国と比べるとあまり知られたがらないが、感染事実については公開に抵抗はない。他国と比べると感染者にもデータ公開をあまり求めない
- インド：自分や他人のプライバシーは犠牲にしてよいと考える傾向が強く、感染者のデータは公開すべきだと考えているが、感染を知られるといやがらせされるとの想定が高く、自分のデータ公開には慎重
- トルコ：他人のプライバシーを犠牲にしても感染者のデータは公開すべきだと考えている
- 韓国：自分の感染事実はあまり知られたくないが、データを多く公開する政府の感染対策のやり方には慣れており受け入れている
- フランス：移動履歴・利用施設の履歴が知られるのをとても忌避する
- ロシア：プライバシーを犠牲にすることには慎重で、また政府へのデータ提供に慎重。感染した場合のいやがらせの想定も大きい。

- ブラジル：プライバシーを犠牲にすることに抵抗がなく、いやがらせの心配も少ない。感染事実を知られることにも抵抗がなく、感染者は感染事実を知らせるべきだと強く考えている。
- ドイツ・イスラエル：他人のデータ公開をそこまで求めない
- インドネシア・イタリア：自分がデータを公開することにそこまで抵抗がなく、感染者にもデータ公開を求める傾向
- スウェーデン・ニュージーランド・ナイジェリア：感染対策のためなら自分・他人のプライバシーを犠牲にしてもよいという考えが強く、自分のデータ公開を忌避しない。

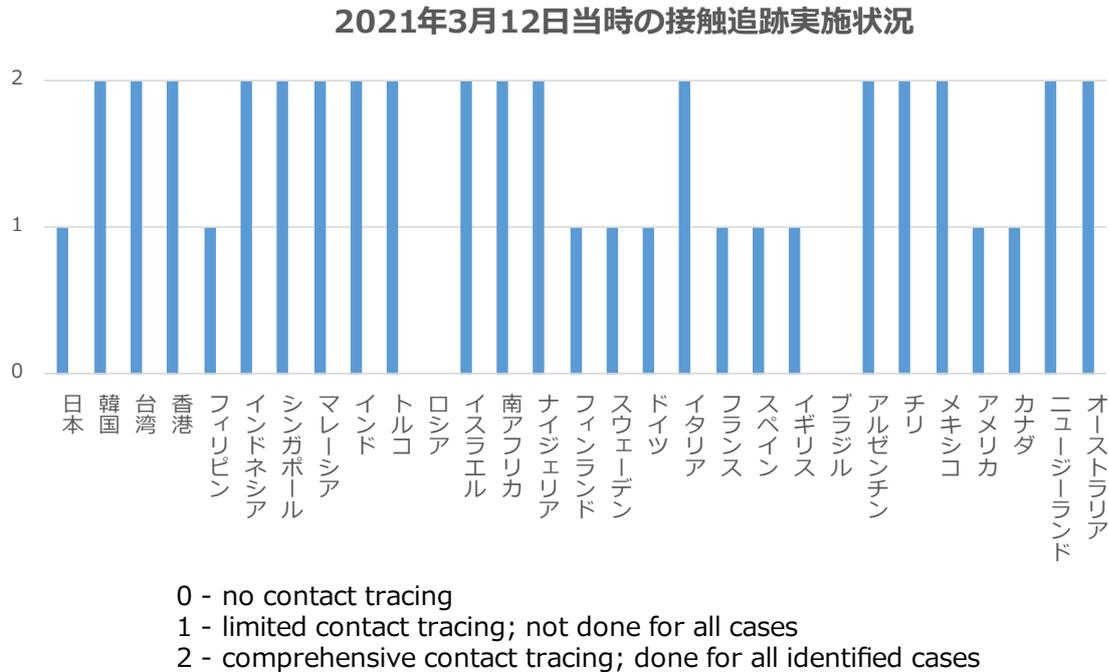
5 まとめ

本章では、感染対策におけるデータ公開とプライバシーについての調査結果を報告した。各国ごとに意識が様々に異なり、その背景には各国で元々とられていた感染対策政策の違いの影響や、国民性の違いなどが考察された。本章での主要な結果を以下に示す。

- 感染事実の開示についてほとんどの国は「知られてもよい」と考える人が多数派であるのに対し、インド、日本では「知られたくない」と考える人の方が多数派であった。
- 自己データ公開の許容度と他者データ公開に対する要求度との乖離は、感染事実の開示で特に大きかった。
- 感染率が低い国ほど「感染したらいやがらせされる」想定度が高く、感染事実の開示意向も低くなる傾向があることがわかった。
- 日本は、感染対策よりもプライバシーを重要視する傾向があり、その割合が 29 の国・地域の中で最も高い。

[参考]

本調査にて調査対象とした 29 の国・地域の 2021 年 3 月 12 日当時の接触追跡実施を図表 3-14 に示す。



図表 3-14 2021年3月12日当時の接触追跡実施状況 (Hale et al., 2021)

[注]

- 1) 2.1 節では、Q5-3 について「そう思う」と「ややそう思う」を足した割合を「知られたいくない」、「あまりそう思わない」と「そう思わない」を足した割合を「知られてもよい」として集計している。Q19-3 については、「そう思う」と「ややそう思う」を足した割合を「知らせるべき」、「あまりそう思わない」と「そう思わない」を足した割合を「知らせるべきとは思わない」として集計している。
- 2) 2.2 節および 2.3 節では、Q5-4・Q5-5 について「そう思う」と「ややそう思う」を足した割合を「公開したくない」、「あまりそう思わない」と「そう思わない」を足した割合を「公開してもよい」として集計している。Q19-4・Q19-5 については、「そう思う」と「ややそう思う」を足した割合を「知らせるべき」、「あまりそう思わない」と「そう思わない」を足した割合を「知らせるべきだとは思わない」として集計している。
- 3) 2.4 節では、Q5-6 について「そう思う」と「ややそう思う」を足した割合を「提供したく

ない」、「あまりそう思わない」と「そう思わない」を足した割合を「提供してもよい」として集計している。Q19-6については、「そう思う」と「ややそう思う」を足した割合を「提供されるべき」、「あまりそう思わない」と「そう思わない」を足した割合を「提供されるべきだとは思わない」として集計している。

- 4) 3.1 節では、Q5-8 について「そう思う」と「ややそう思う」を足した割合を「敬遠・いやがらせされると思う」、「あまりそう思わない」と「そう思わない」を足した割合を「敬遠・いやがらせされるとは思わない」として集計している。
- 5) 3.2 節の前半では、Q5-2 について、「そう思う」と「ややそう思う」を足した割合を「自分のプライバシーを犠牲にしてもよい」、「あまりそう思わない」と「そう思わない」を足した割合を「自分のプライバシーを犠牲にしたくない」として集計している。
- 6) 3.2 節の後半では、Q19-1 について、「そう思う」と「ややそう思う」を足した割合を「他人のプライバシーを犠牲にしてもよい」、「あまりそう思わない」と「そう思わない」を足した割合を「他人のプライバシーを犠牲にしたくない」として集計している。

[参考文献]

Thomas Hale, Noam Angrist, Rafael Goldszmidt, Beatriz Kira, Anna Petherick, Toby Phillips, Samuel Webster, Emily Cameron-Blake, Laura Hallas, Saptarshi Majumdar, Helen Tatlow. 2021, A global panel database of pandemic policies (Oxford COVID-19 Government Response Tracker), Nature Human Behaviour. <https://doi.org/10.1038/s41562-021-01079-8>

国立感染症研究所, 2020, 『新型コロナウイルス感染症患者に対する積極的疫学調査実施要領 (2021 年 1 月 8 日版)』 <https://www.niid.go.jp/niid/ja/diseases/ka/corona-virus/2019-ncov/2484-idsc/9357-2019-ncov-02.html> (2023 年 2 月 24 日閲覧確認)。

Sera Whitelaw, Mamas A Mamas, Eric Topol, Harriette G C Van Spall, 2020, Applications of digital technology in COVID-19 pandemic planning and response. The Lancet Digital Health, 2(8), e435-e440.

Mark Zastrow, 2020, “How South Korea prevented a coronavirus disaster—and why the battle isn’t over”, National Geographic, <https://www.nationalgeographic.com/science/2020/05/how-south-korea-prevented-coronavirus-disaster-why-battle-is-not-over/> (2023 年 3 月 2 日閲覧確認)。

Gyuwon Jung, Hyunsoo Lee, Auk Kim, Uichin Lee, 2020, Too Much Information: Assessing Privacy Risks of Contact Trace Data Disclosure on People With COVID-19 in South Korea. Frontiers in Public Health, 8.

- Jake Goldenfein, Ben Green, Salomé Viljoen, 2020, “Privacy Versus Health Is a False Trade-Off,” *Jacobin*, <https://jacobin.com/2020/04/privacy-health-surveillance-coronavirus-pandemic-technology> (2023年2月24日閲覧確認)。
- Wan-Ying Yang, Chia-Hung Tsai. (2020). Democratic Values, Collective Security, and Privacy: Taiwan People’s Response to COVID-19. 8(3):222-245. doi: 10.15206/AJPOR.2020.8.3.222.
- Baobao Zhang, Sarah Kreps, Nina McMurry and R. Miles McCain. (2020). Americans’ perceptions of privacy and surveillance in the COVID-19 pandemic. *PloS one* 15 12 e0242652.
- Athina Ioannou, Iis Tussyadiah, 2021, Privacy and surveillance attitudes during health crises: Acceptance of surveillance and privacy protection behaviours, *Technology in Society*, Volume 67.
- Divya Bhanot, Tushar Singh, Sunil K. Verma, Shivantika Sharad, 2021, “Stigma and Discrimination During COVID-19 Pandemic,” *Frontiers in Public Health*, Vol. 8.
- 日本リサーチセンター, 2020, 「ギャラップ・インターナショナル・アソシエーション『コロナウイルスに関する国際世論調査』30か国グローバル調査」, https://www.nrc.co.jp/report/img/GIA_コロナウイルスに関する国際世論調査レポート_0408.pdf (2023年2月24日閲覧確認)。
- 橋元良明, 大野志郎, 天野美穂子, 堀川裕介, 篠田詩織, 2020, 『緊急事態宣言で人々の行動・意識は変わったか?』丸善出版。
- 橋元良明, 大野志郎, 天野美穂子, 堀川裕介, 篠田詩織, 2021, 『コロナ禍の行動とメディアの影響 2021年1月』丸善出版。
- 株式会社日立製作所, 2020, 「『第五回 ビッグデータで取り扱う生活者情報に関する意識調査』を実施」 <https://www.hitachi.co.jp/New/cnews/month/2020/12/1222a.html> (2023年3月2日閲覧確認)。
- Samuel Altmann, Raffaele Blasone, Frederic Gerdon, Ruben Bach, Frauke Kreuter, Daniele Nosenzo, Séverine Toussaert, Johannes Abeler, 2020. Acceptability of app-based contact tracing for COVID-19: Cross-country survey study. *JMIR mHealth and uHealth*, 8(8), e19857.
- Alex Akinbi, Mark Forshaw, Victoria Blinkhorn, 2021, Contact tracing apps for the COVID-19 pandemic: a systematic literature review of challenges and future directions for neo-liberal societies. *Health Inf Sci Syst* 9, 18. <https://doi.org/10.1007/s13755-021-00147-7>
- Divya Bhanot, Tushar Singh, Sunil K. Verma, Shivantika Sharad, Stigma and Discrimination During COVID-19 Pandemic, *Frontiers in Public Health*, Vol. 8, 2021.
- 近田亮平, 2021, ブラジルでの COVID-19 がもたらしたダメージとその状況から回復する方

- 策, SRID ジャーナル, Vol. 21.
- 総務省, 2013, 平成 25 年版 情報通信白書, pp.272-281.
- 星野晴彦, 大塚明子, 秋山美栄子, 森恭子, 2012, 日本とスウェーデンの援助規範意識比較に関する研究 — 福祉政策に影響する両国の援助規範意識の特性に着目して —, 生活科学研究, Vol. 34, pp. 27-36.
- Godwin Ubong Akpan, Isah Mohammed Bello, Kebba Touray, Reuben Ngofa, Daniel Rasheed Oyaole, Sylvester Maleghemi,, Marie Babona, Chanda Chikwanda, Alain Poy, Franck Mboussou, Opeayo Ogundiran, Benido Impouma, Richard Mihigo, Nda Konan Michel Yao, Johnson Muluh Ticha, Jude Tuma, Hani Farouk A Mohamed, Kehinde Kanmodi, Nonso Ephraim Ejiofor, John Kapoi Kipterer, Casimir Manengu, Francis Kasolo, Vincent Seaman, Pascal Mkanda, 2022, Leveraging Polio Geographic Information System Platforms in the African Region for Mitigating COVID-19 Contact Tracing and Surveillance Challenges: Viewpoint, JMIR Mhealth Uhealth 2022;10(3):e22544
- 水野祐地, 濱田美紀, 2022, 2021 年のインドネシア 権威主義化の傾向を強める政権と政府主導の経済, アジア動向年報, 2022 巻, p. 365-392, https://doi.org/10.24765/asiadoukou.2022.0_365
- Yodi Mahendradhata, Trisasi Lestari, Riyanti Djalante, 2022, Strengthening government's response to COVID-19 in Indonesia: A modified Delphi study of medical and health academics. Plos one, 17(9), e0275153.
- 松田春香, 2021, 韓国・台湾の COVID-19 への対応, https://www.spf.org/asia-islam/covid19/20210402_5.html (2023 年 3 月 3 日閲覧確認)
- Munise Tutucu, 2022, Comparison of COVID-19 contact-tracing apps in the context of public policy: the cases of Turkey and South Korea. Studia z Polityki Publicznej, 9(2), 31-46.
- Ekin Inal, Ffion Flockhart, Chris Cwalina, Anna Gamvros, Marcus Evans, 2021, Contact tracing apps in Turkey, <https://www.nortonrosefulbright.com/-/media/files/nrf/nrfweb/contact-tracing/turkey-contact-tracing.pdf?revision=8ab8149f-9e69-4a7f-a3ab-4b814fa96848> (2023 年 3 月 3 日閲覧確認).

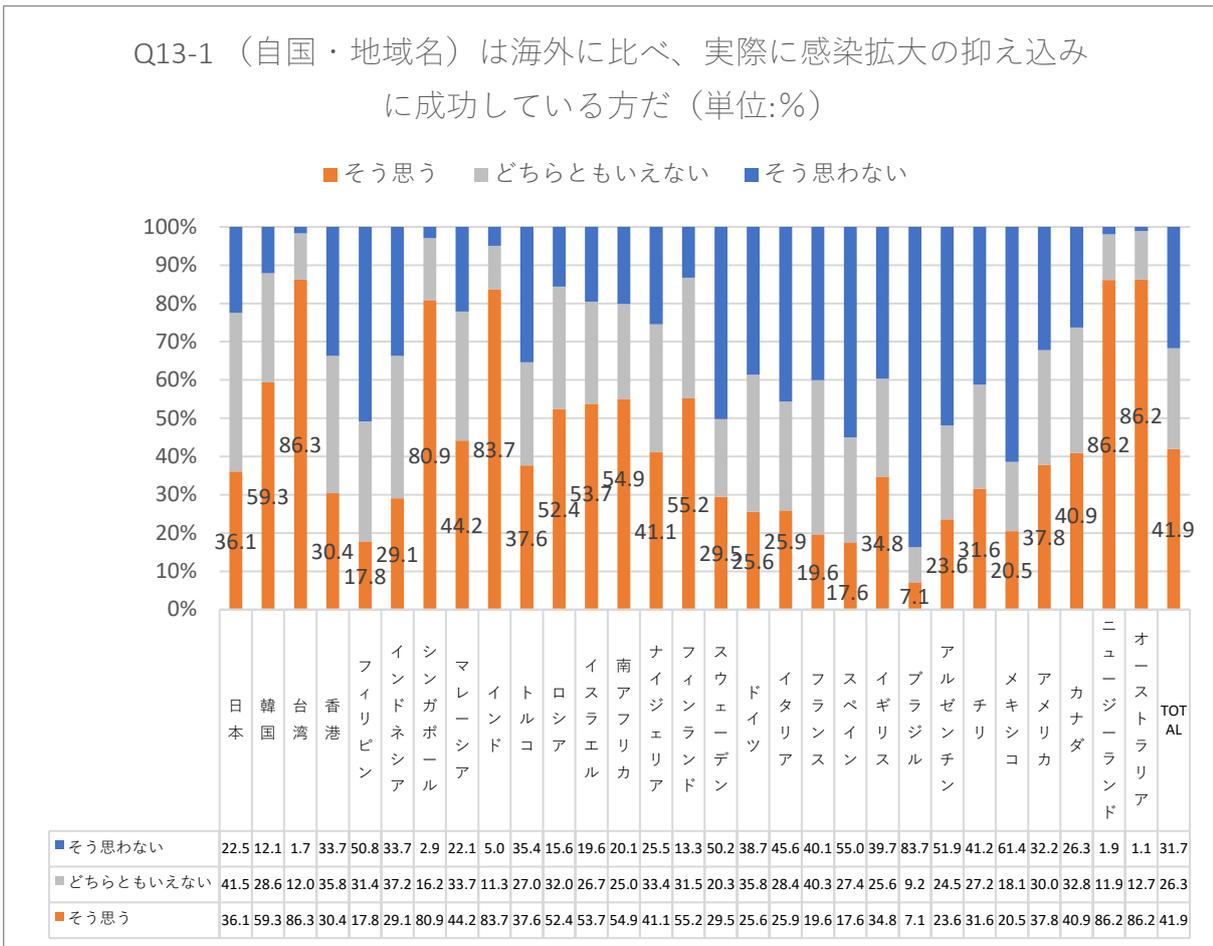
第4章 コロナ禍の政策評価と世論

大野志郎

1 感染拡大抑え込みへの評価

第1章で示したように、2021年3月12日当時の10万人あたり罹患患者数をみると、特に抑え込みに成功していた地域は、罹患患者数の少ない順に台湾、ニュージーランド、オーストラリア、ナイジェリア、香港、韓国であった。日本はそれらの国や地域と比較すると罹患患者数が多いものの、アメリカ、スペイン、イギリス、フランス、スウェーデン、ロシア、イスラエルなど欧米の諸国と比較するとかなり抑えられている状況であった。

そんな中、自国の感染拡大の抑え込みに関する評価は図表4-1-1の通りである。



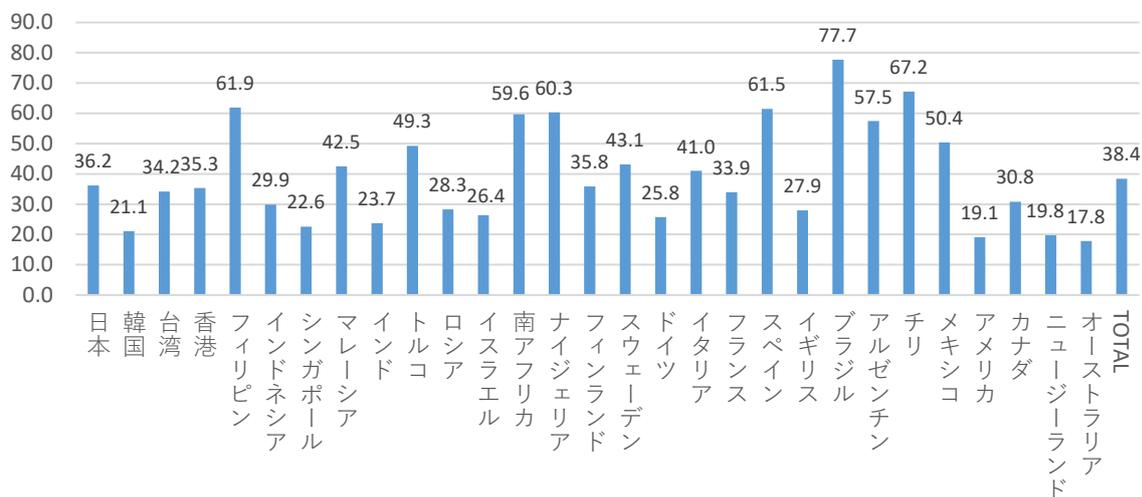
図表 4-1-1 海外に比べ、実際に感染拡大の抑え込みに成功していると思う割合

抑え込みに成功していると思う割合が高い国・地域は、台湾（86.3%）、ニュージーランド（86.2%）、オーストラリア（86.2%）、インド（83.7%）、シンガポール（80.9%）であった。インドおよびシンガポールは世界各国と比較してそれほど罹患率が低いというわけではなかったが、抑え込みへの評価は高かった。日本は36.1%と、全体から見ると中程度の評価であった。

抑え込みに成功していると思わないへの該当率を見ると、ブラジル（83.7%）、メキシコ（61.4%）、スペイン（55.0%）、アルゼンチン（51.9%）、フィリピン（50.8%）、スウェーデン（50.2%）が低評価であった。メキシコ、フィリピンは比較的罹患率が低かったにも関わらず、評価が低かった国といえる。また、イスラエル、アメリカ、ロシア、イギリスは感染者率が高かったにもかかわらず、相対的に低評価ではなかった。日本は22.5%であり、比較的的低評価は少ない部類であった。

医療崩壊の不安が高まっていた地域を参照すると（図表4-1-2）、ブラジルが77.7%、チリが67.2%、フィリピンが61.9%、スペインが61.5%、ナイジェリアが60.3%、南アフリカが59.6%、アルゼンチンが57.5%、メキシコが50.4%となっており、この医療崩壊の不安が感染拡大抑え込みに関する低評価とある程度結び付いていることが伺われる。日本は36.2%と比較的不安の高い部類であった。

Q15-12 医療体制の崩壊（単位: %）



図表 4-1-2 医療崩壊の不安が高まっていた地域

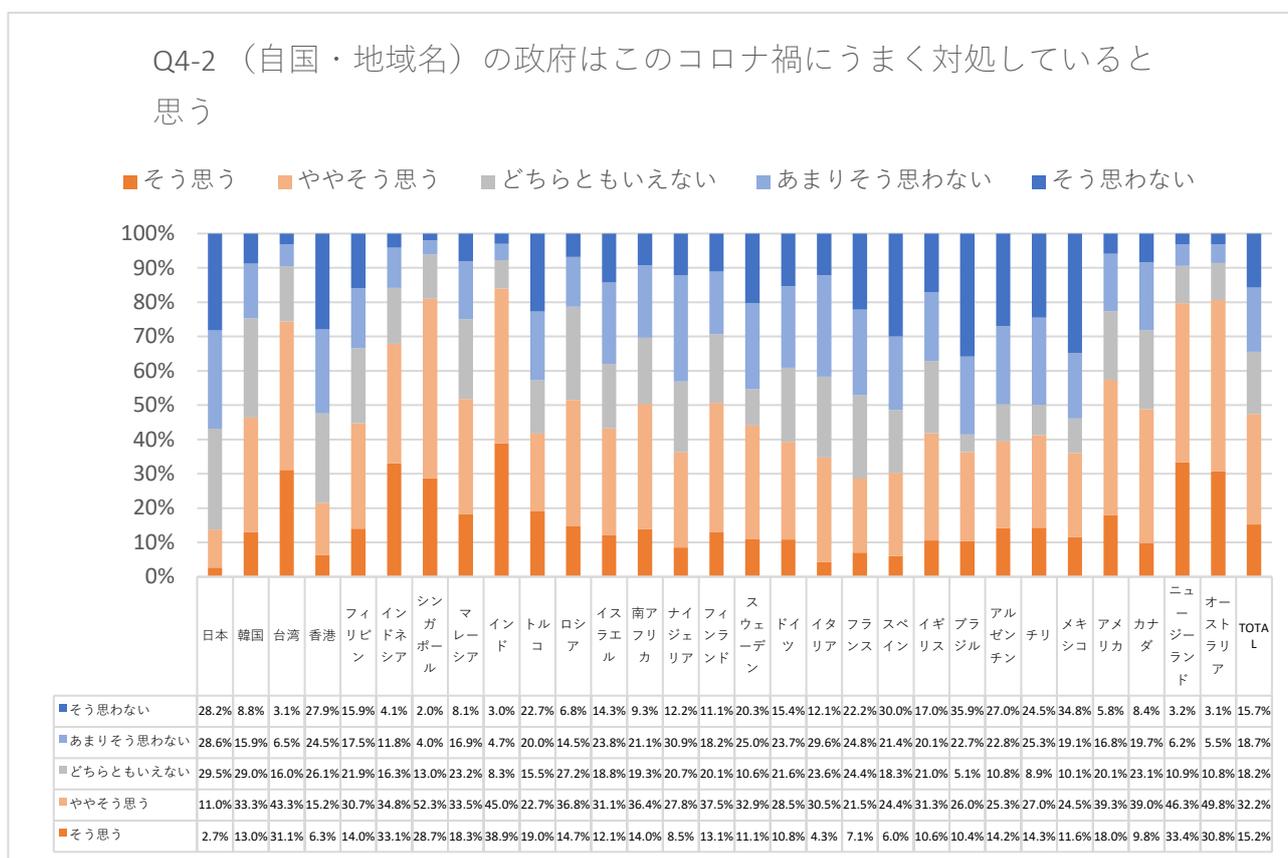
2 政治への信頼

感染拡大の抑え込みについては、政治や宗教、教育、国民の意識や文化、行動様式、マスメディアやネットメディアの影響など、様々な要因が考えられる。本節では、コロナ禍と政

治への信頼感に着目する。

2.1 政策の評価

政府がコロナ禍にうまく対処しているという評価率（そう思う、ややそう思うの計）が高かった国・地域は、インド(83.9%)、シンガポール (81.0%)、オーストラリア (80.6%)、ニュージーランド (79.7%)、台湾 (74.4%) であった。一方、政府がうまく対処していると思わないという評価率（あまりそう思わない、そう思わないの計）が高かったのは、ブラジル (58.6%)、日本 (56.8%)、メキシコ (53.9%)、香港 (52.4%)、スペイン (51.4%) であった。日本は「うまく対処していると思わない」ではブラジルに次いで2位であると共に、「うまく対処していると思う」では13.7%と最下位であり、世界的に見ても政府の対処への不満が高かった国であるといえる（図表4-2-1）。



図表 4-2-1 医療崩壊の不安が高まっていた地域

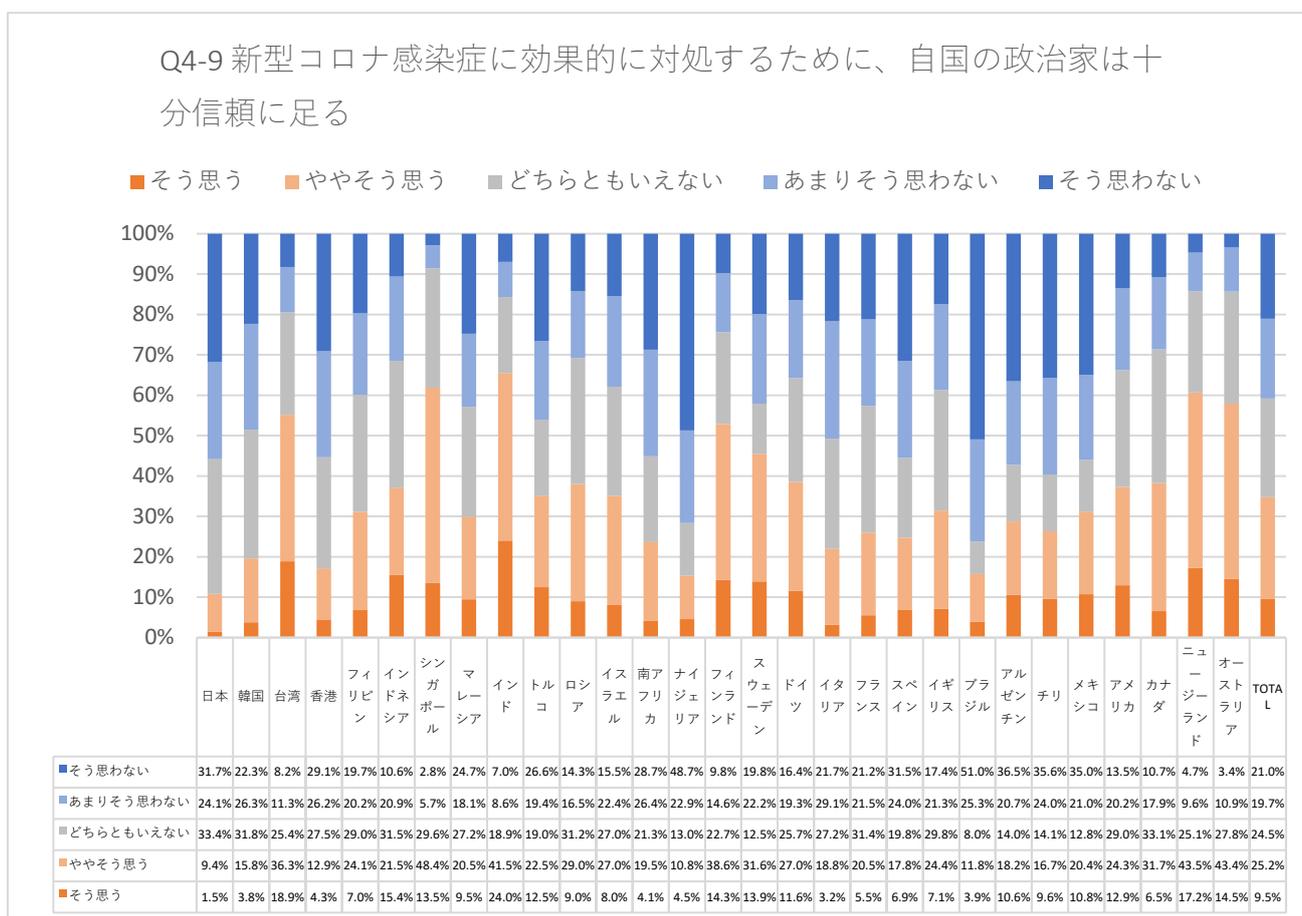
唯一、日本よりも「うまく対処していない」という評価率の高かったブラジルでは、2021年4月第2週には、世界の新型コロナ感染者数のうち11%、死者数が26.2%にのぼり、4月8日には1日で4249人の死亡、8万6652人の新規感染者が確認される状況であった。国境

なき医師団は「大惨事を招いた」として、科学的根拠に基づいた対策を求めてプレスリリースを行っている（国境なき医師団, 2021）。

2.2 政治家への信頼感

コロナ禍への対処について、自国の政治家が信頼に足ると思う割合を図表 4-2-2 に示す。信頼に足ると思う率（そう思う、ややそう思うの計）が高かった国・地域は、インド（65.5%）、シンガポール（63.9%）、ニュージーランド（60.7%）、オーストラリア（57.9%）、台湾（55.2%）であった。日本は 10.9% であり、政治家を信頼する率は最下位であった。

信頼に足らないと思う割合（そう思わない、あまりそう思わないの計）が高かった国は、ブラジル（76.3%）、ナイジェリア（71.6%）、チリ（59.6%）、アルゼンチン（57.2%）、メキシコ（56.0%）、日本（55.8%）、スペイン（55.5%）であった。



図表 4-2-2 コロナ禍への対処に関し、政治家が信頼に足ると思う割合

コロナ禍への対処に関して政治家への信頼感が最も高かったインドは、もともと政府への信頼が高い国であり、コロナ禍前の 2019 年時点のエデルマン・トラストバロメーターにお

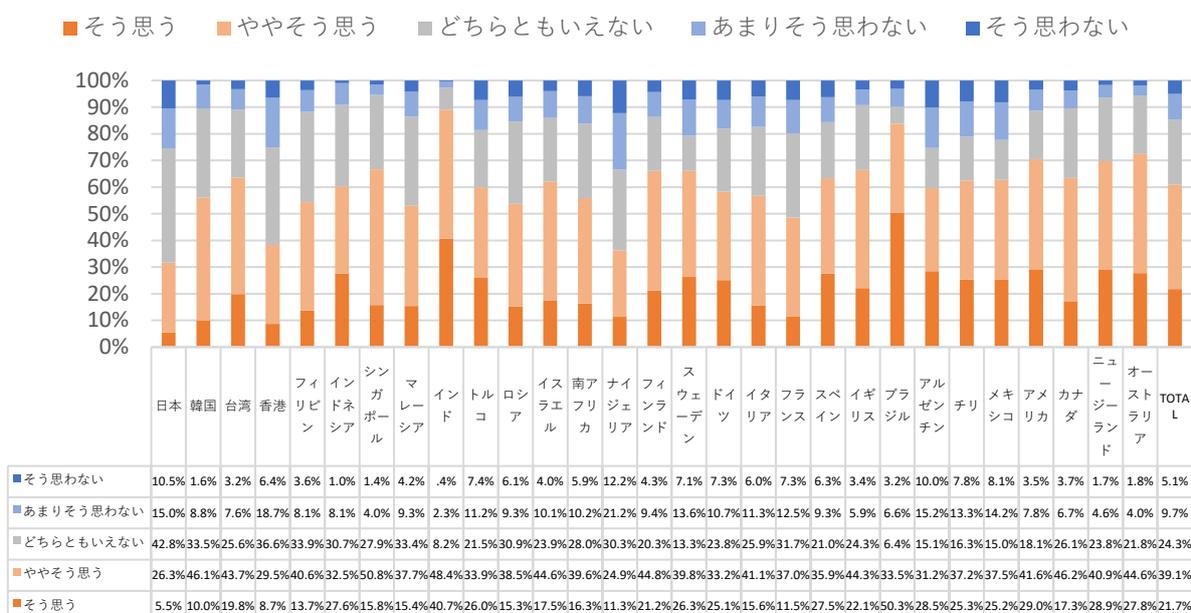
いても、中国に次いで2位である（エデルマン・ジャパン,2020）。インドの1日あたりの新規感染者は2020年9月に9万3000人を超えていたが、2021年2月中旬には1万1000人近くにまで減少した。しかしその後、インドの5州が感染防止対策を取らずに主要選挙を実施したこと、3月中旬にクリケットの試合観戦のため13万人超のファンが、ほとんどマスクをしない状態で詰めかけるなどの状況が生じ、感染者は再び急増した（BBC NEWS JAPAN, 2021）。本調査は、この急増の前のタイミングとなっていることに注意が必要である。

2.3 科学者への信頼

感染症対策においては、科学者への信頼感も、抑え込みの効果に対して一定の影響を与えるものと思われる。新型コロナウイルス感染症への対処として、自国の科学者が信頼に足ると思う割合を図表 4-2-3 に示す。信頼に足ると思う率（そう思う、ややそう思うの計）が高かった国は、インド(89.1%)、ブラジル(83.5%)、オーストラリア(72.4%)、アメリカ(70.6%)、ニュージーランド(69.8%)であった。日本は31.8%であり、ナイジェリアの36.2%と共に群を抜いて低い。

信頼に足らないと思う率（そう思わない、あまりそう思わないの計）が高かった国・地域は、ナイジェリア(33.4%)、日本(25.5%)、アルゼンチン(25.2%)、香港(25.1%)、メキシコ(22.3%)、チリ(21.2%)であった。

Q4-10 新型コロナ感染症に効果的に対処するために、自国の科学者は十分信頼に足る



図表 4-2-3 新型コロナウイルス感染症への対処に関し、科学者が信頼に足ると思う割合

外務省(2020)によれば、ナイジェリアの医療水準は教育、臨床、設備レベルともに低く、都市部でも邦人の利用に耐えうる医療機関を探すのは困難である。薬局で入手可能な薬のほとんどは輸入薬であり、医薬品は処方箋なしで買えることが多いが、偽薬などに十分注意を払う必要がある。実際に、2021年1月15日には、新型コロナウイルスワクチンの偽物が流通していると、ナイジェリア食品医薬品管理局から警告が発せられた(AFP BB NEWS, 2021)。本調査実施時期のナイジェリアは、第二波が収束しつつある状況であり、例外を除き在宅要請、教育機関は閉鎖、職場は休業・時短要請が敷かれていた(REUTERS COVID-19 TRACKER, 2021a)。

2.4 政府・自治体への不満

政府や自治体の対策への不満について、十分な対策をとらなかったと思う割合を図表 4-2-4 に示す。不満がある(十分な対策をとらなかったと思う)割合が高かった国は、ブラジル(74.6%)、スペイン(65.6%)、チリ(65.0%)、メキシコ(62.3%)、スウェーデン(59.0%)であり、日本は47.4%で12位であった。

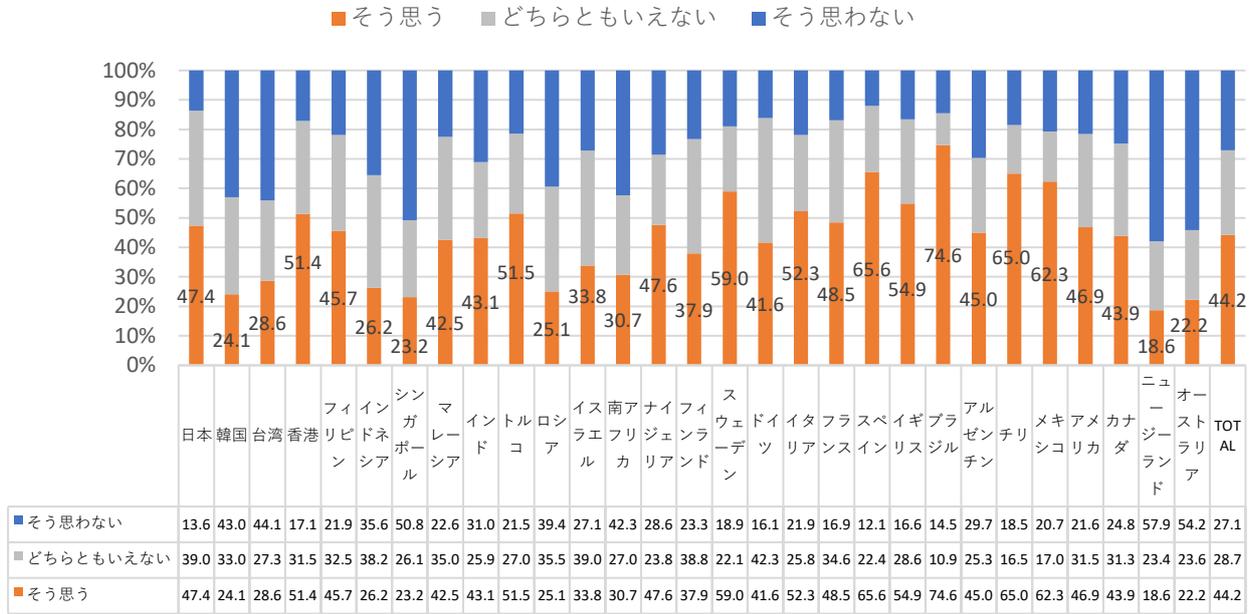
不満がない(十分な対策をとらなかったと思わない)割合が高かった国・地域は、ニュージーランド(57.9%)、オーストラリア(54.2%)、シンガポール(50.8%)、台湾(44.1%)、韓国(43.0%)、南アフリカ(42.3%)であり、日本は13.6%(28位)であった。

日本は政府や政治家、科学者への低い不信・評価の割には、政府や自治体への不満率が他国と比較して著しく高いわけではない。自治体への評価が緩和している可能性や、実際の感染被害が大きくなかったことを反映している可能性がある。

不満がないで1位・2位であったニュージーランドとオーストラリアでは、特に厳しい入国管理と迅速なロックダウンが行われてきた。ニュージーランドでは経路不明の感染者が1人確認されたことを受け、ロックダウンが導入されていたが、一週間後の2021年3月7日に、最大都市オークランドのロックダウン解除を発表した。新型コロナウイルスによる死者は26人(人口約500万人中)にとどまっており、一連の対策が称賛されている(AFP BB NEWS, 2021b)。

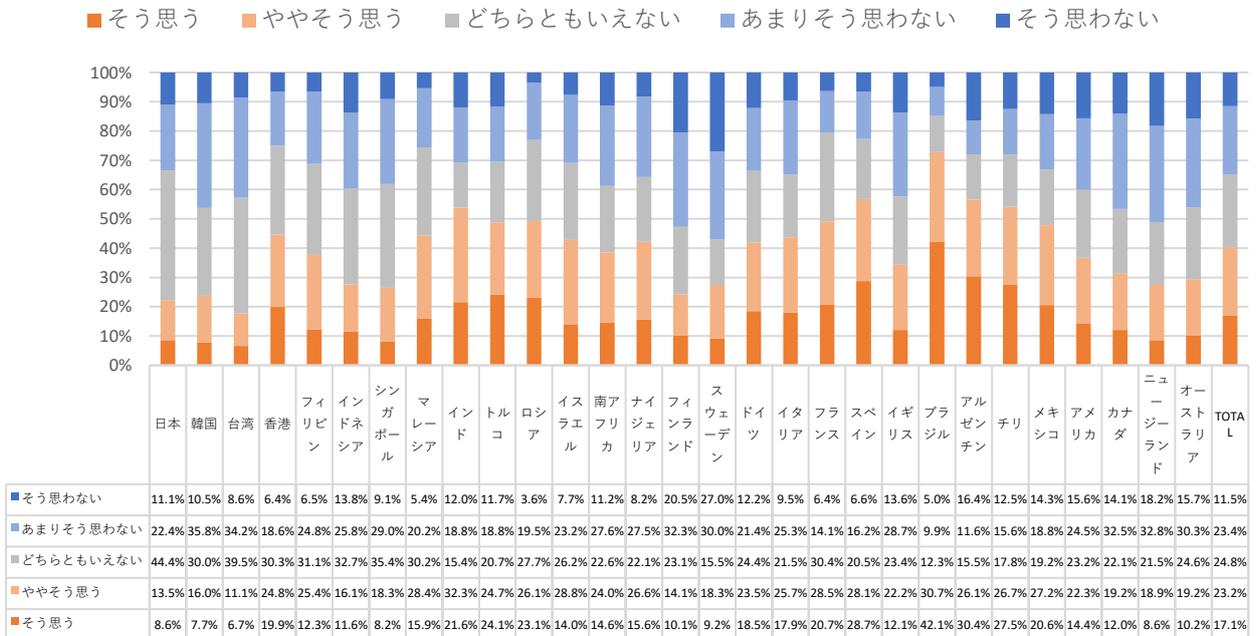
政府の日常生活への干渉について、「あまりにも多くの干渉をしている」と思う割合を、図表 4-2-5 に示す。「干渉をしている」と思う(そう思う、ややそう思うの計)割合が高かった国は、ブラジル(72.8%)、スペイン(56.8%)、アルゼンチン(56.5%)、チリ(54.2%)、インド(53.9%)であった。ブラジル、スペイン、チリは政府や自治体の対策への不満の割合が上位の3国でもある。日本は22.1%と、台湾に次いで低い割合であった。

Q13-2 自国の政府や自治体は、新型コロナウイルスへの十分な対策をと
 らなかった (単位:%)



図表 4-2-4 自国の政府や自治体が十分な対策をとらなかったと思う割合

Q4-8 政府は私たちの日常生活にも多くの干渉をしている



図表 4-2-5 政府があまりにも多くの干渉をしていると思う割合

3 政府による個々の対策への評価

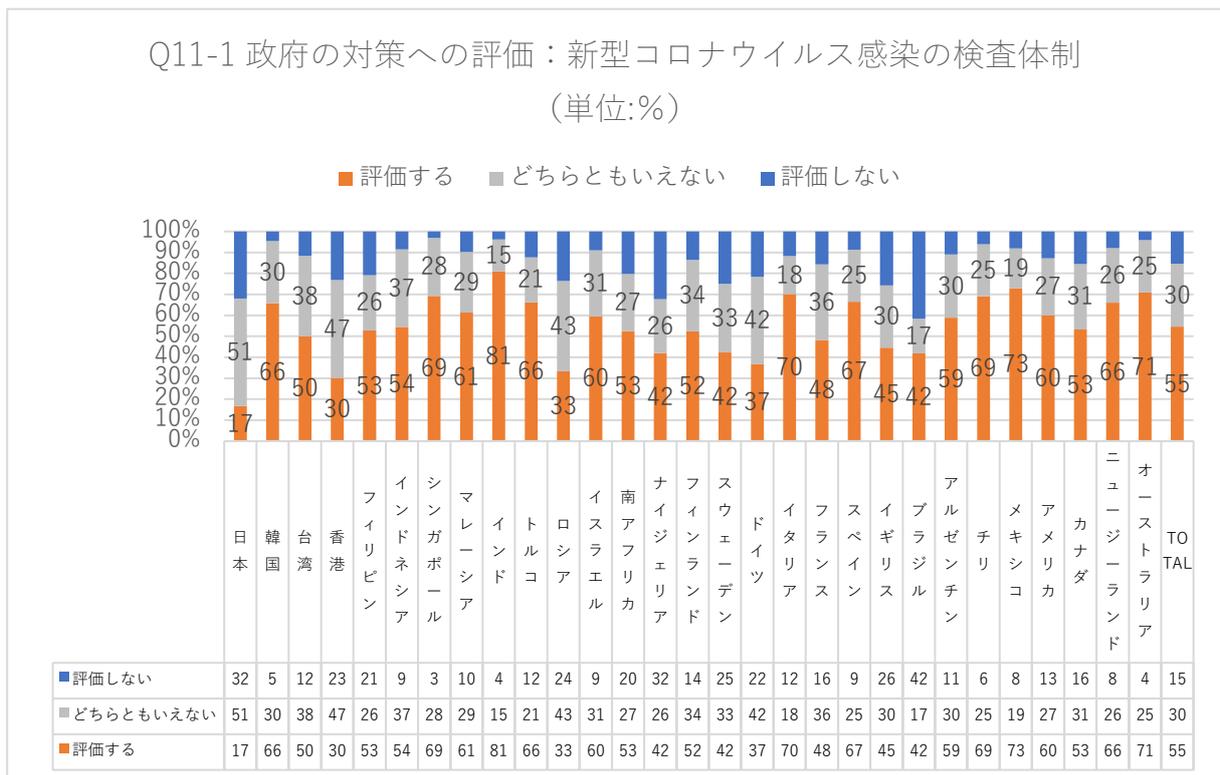
本節では、自国政府の新型コロナウイルス感染症に関する、検査体制、経済活動の規制、活動制限、経済的補償、医療体制の整備、ワクチン導入に対する個々の政策への評価について概観する。

3.1 感染の検査体制

政府の新型コロナウイルス感染症検査体制への評価の割合を、図表 4-3-1 に示す。評価する割合が高かった国は、インド (81%)、メキシコ (73%)、オーストラリア (71%)、イタリア (70%)、シンガポール (69%) であった。日本は 17% であり、最下位であった。

評価しない割合が高かった国は、ブラジル (42%)、日本 (32%)、ナイジェリア (32%)、イギリス (26%)、スウェーデン (25%)、ロシア (24%) であった。

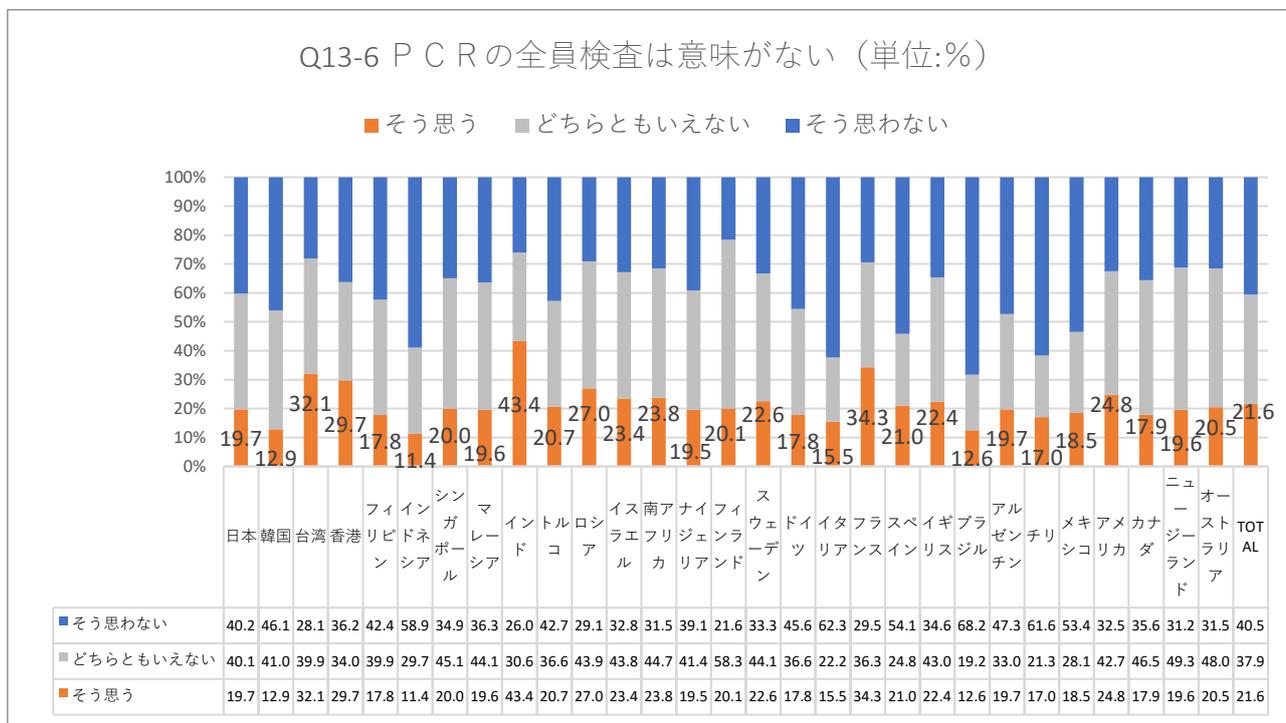
早期から大規模な PCR 検査を実施していた韓国は、検査体制の評価が 9 位 (66%)、評価しない割合が 26 位 (5%) と高評価であった。



図表 4-3-1 検査体制の評価

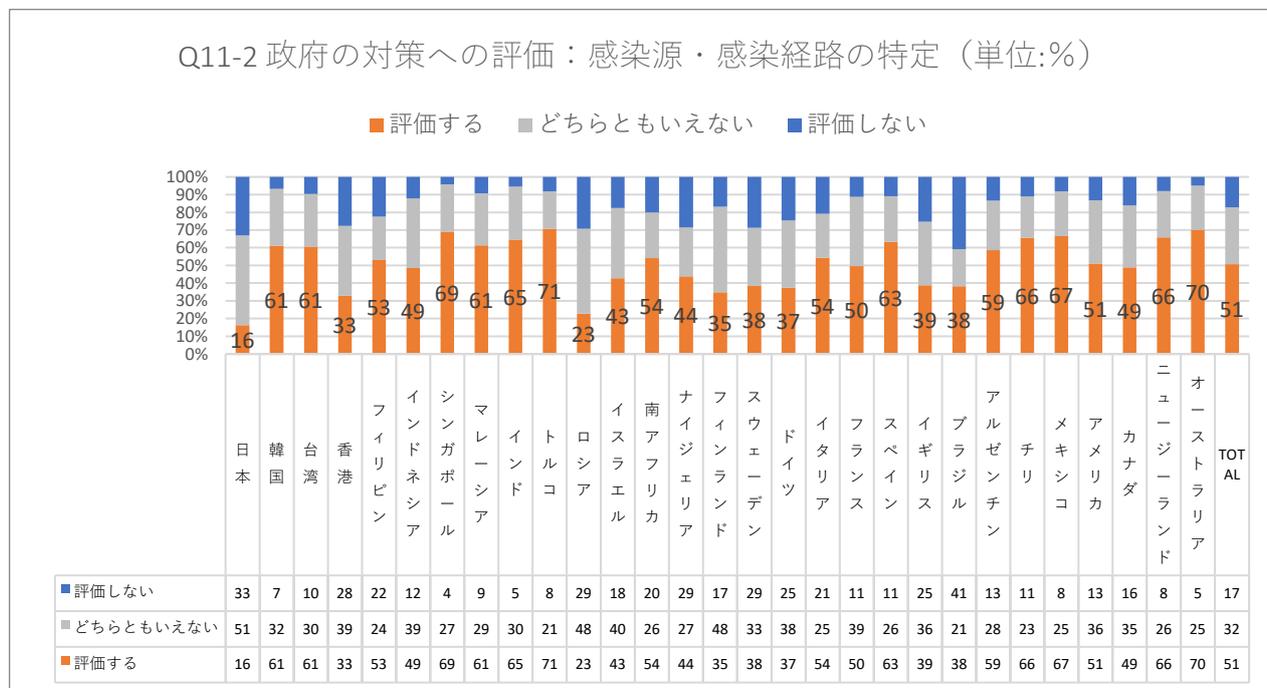
PCR の全員検査は意味がないと思う割合を、図表 4-3-2 に示す。「そう思う」の割合が高かった国・地域は、インド (43.4%)、フランス (34.3%)、台湾 (32.1%)、香港

(29.7%) であった。日本は 19.7%と、世界的には標準的な割合であった。



図表 4-3-2 PCR の全員検査の評価

感染源・感染経路の特定体制を評価する割合を、図表 4-3-3 に示す。



図表 4-3-3 感染源・感染経路の特定体制の評価

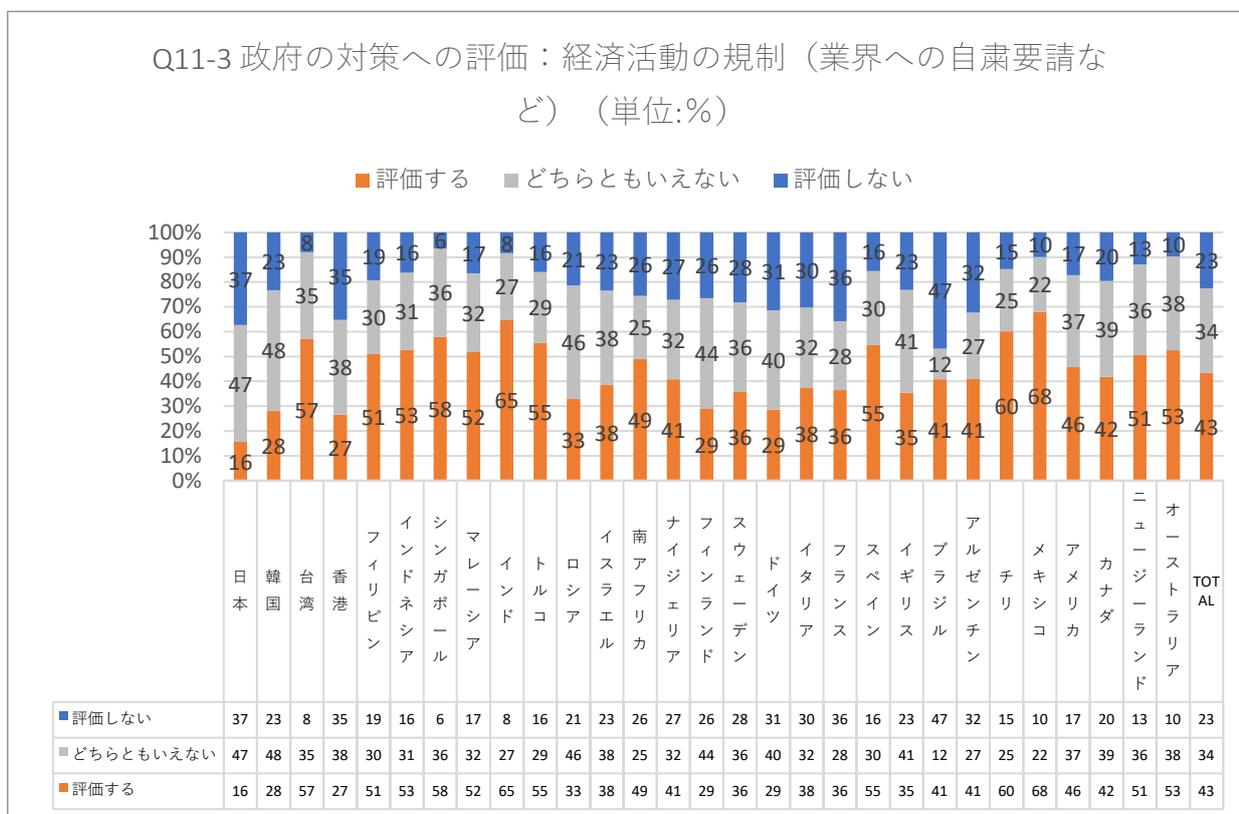
評価する割合が高かった国は、トルコ(71%)、オーストラリア(70%)、シンガポール(69%)、メキシコ(67%)、ニュージーランド(66%)、チリ(66%)であった。日本は16%と最下位であった。

3.2 経済活動の規制

政府の新型コロナウイルス感染症に関する経済活動の規制への評価の割合を、図表 4-3-4 に示す。評価する割合が高かった国・地域は、メキシコ(68%)、インド(65%)、チリ(60%)、シンガポール(58%)、台湾(57%)であった。日本は16%であり、最下位であった。

評価しない割合が高かった国・地域は、ブラジル(47%)、日本(37%)、フランス(36%)、香港(35%)、アルゼンチン(32%)であった。

最も評価の高かったメキシコのアンドレス・マヌエル・ロペス・オブラドール大統領は、免税措置は「一部の特権階級のみを利する悪しき慣習」とし、企業支援を目的とした経済政策を行わず、社会的弱者を救済する政策を積極的に実施した。大きな経済出動を行わなかったことに加え、米国政府による史上最大規模の救済措置もあった(JETRO, 2021a)。また調査時期のメキシコは大きな感染流行の波が過ぎた後であり、それまで地域ごとにエッセンシャルワーカーを除き全面的に閉鎖であった職場状況が、一部業種での閉鎖にまで緩和されたばかりの時期であった(REUTERS COVID-19 TRACKER, 2021b)。



図表 4-3-4 経済活動の規制への評価

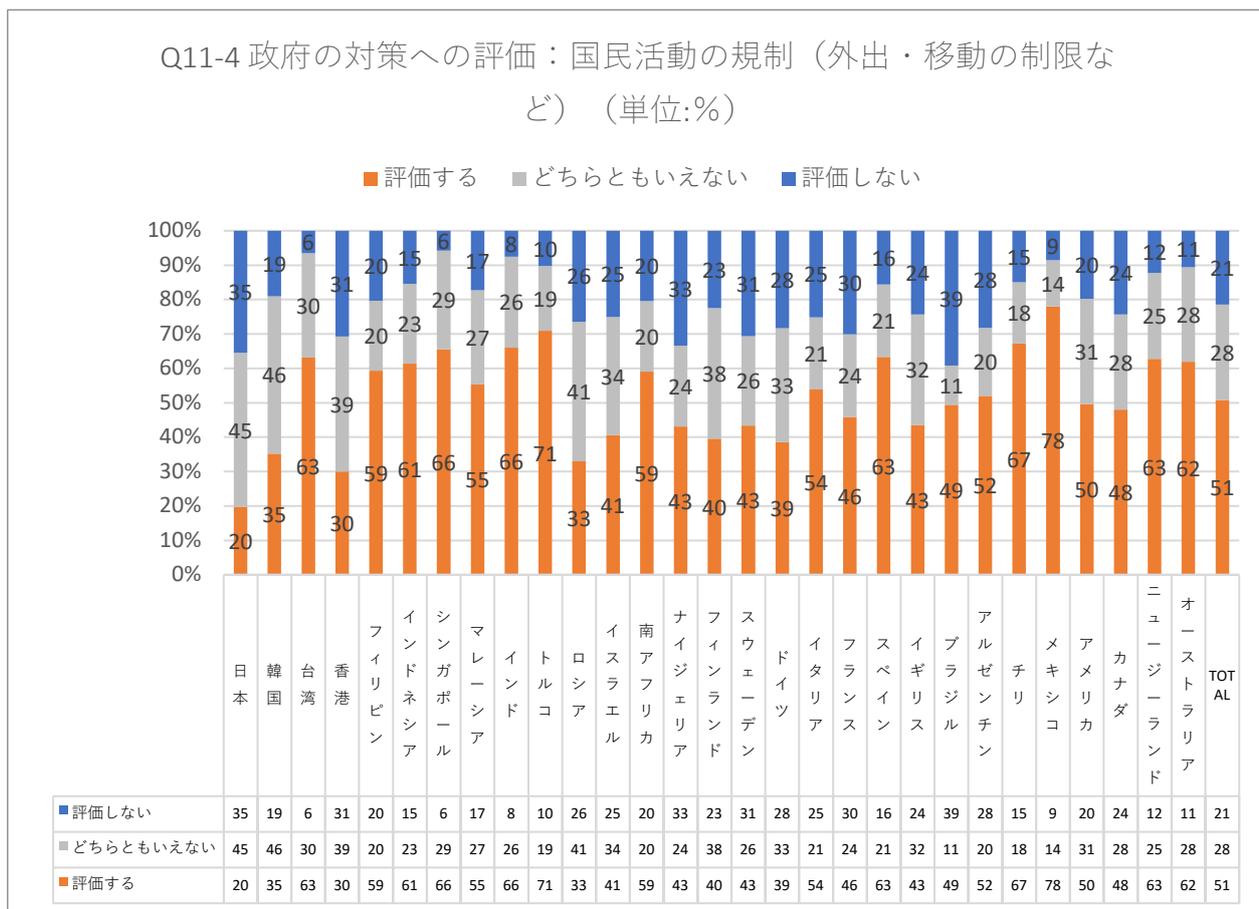
3.3 活動制限

政府の新型コロナウイルス感染症に関する国民活動の規制への評価の割合を、図表 4-3-5 に示す。評価する割合が高かった国・地域は、メキシコ (78%)、トルコ (71%)、チリ (67%)、インド (66%)、台湾 (63%)、ニュージーランド (63%)、スペイン (63%) であった。日本は 20% と最下位であった。

評価しない割合が高かった国・地域は、ブラジル(39%)、日本(35%)、ナイジェリア(33%)、香港 (31%)、スウェーデン (31%)、フランス (30%) であった。

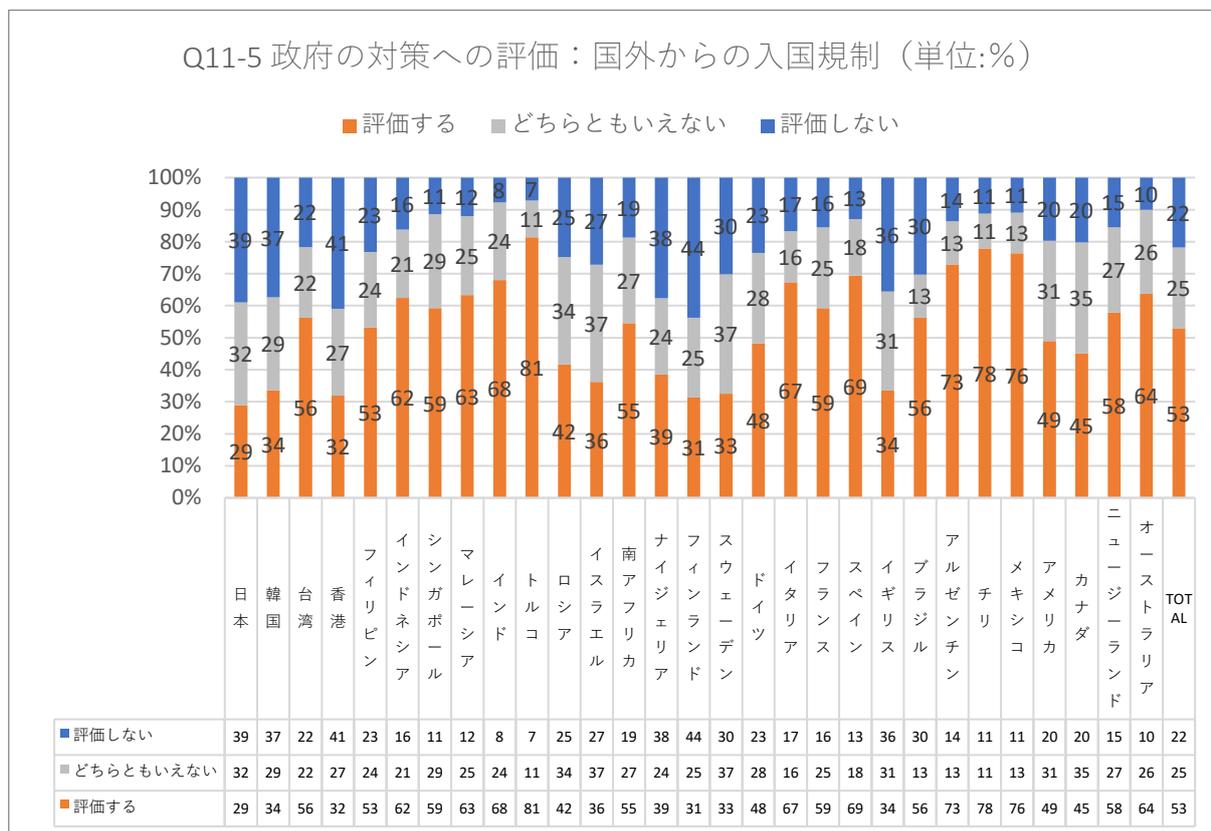
評価しない割合がシンガポールと並んでもっとも低かった台湾では、5 月まではほぼ完全に感染が抑えられていたため、調査時期の 3 月前後にロックダウンのような行動制限は行われていなかった。

評価割合が 2 位であったトルコでは、感染流行の第二波を全国的なロックダウンで収束させた直後であり、また第三波の予兆が見えてきた時期にあたる。例外を除き在宅要請という行動制限を行っている状況であった (REUTERS COVID-19 TRACKER, 2021c.)。



図表 4-3-5 外出規制など国民活動規制への評価

自由の規制という観点では、国外からの入国の規制への評価も重要である。国外からの入国規制に関する対策を評価する割合を、図表 4-3-6 に示す。評価する割合が高かった国は、トルコ (81%)、チリ (78%)、メキシコ (76%)、アルゼンチン (73%)、スペイン (69%)、インド (68%)、イタリア (67%) であった。日本は 29% と最下位であった。



図表 4-3-6 国外からの入国規制への評価

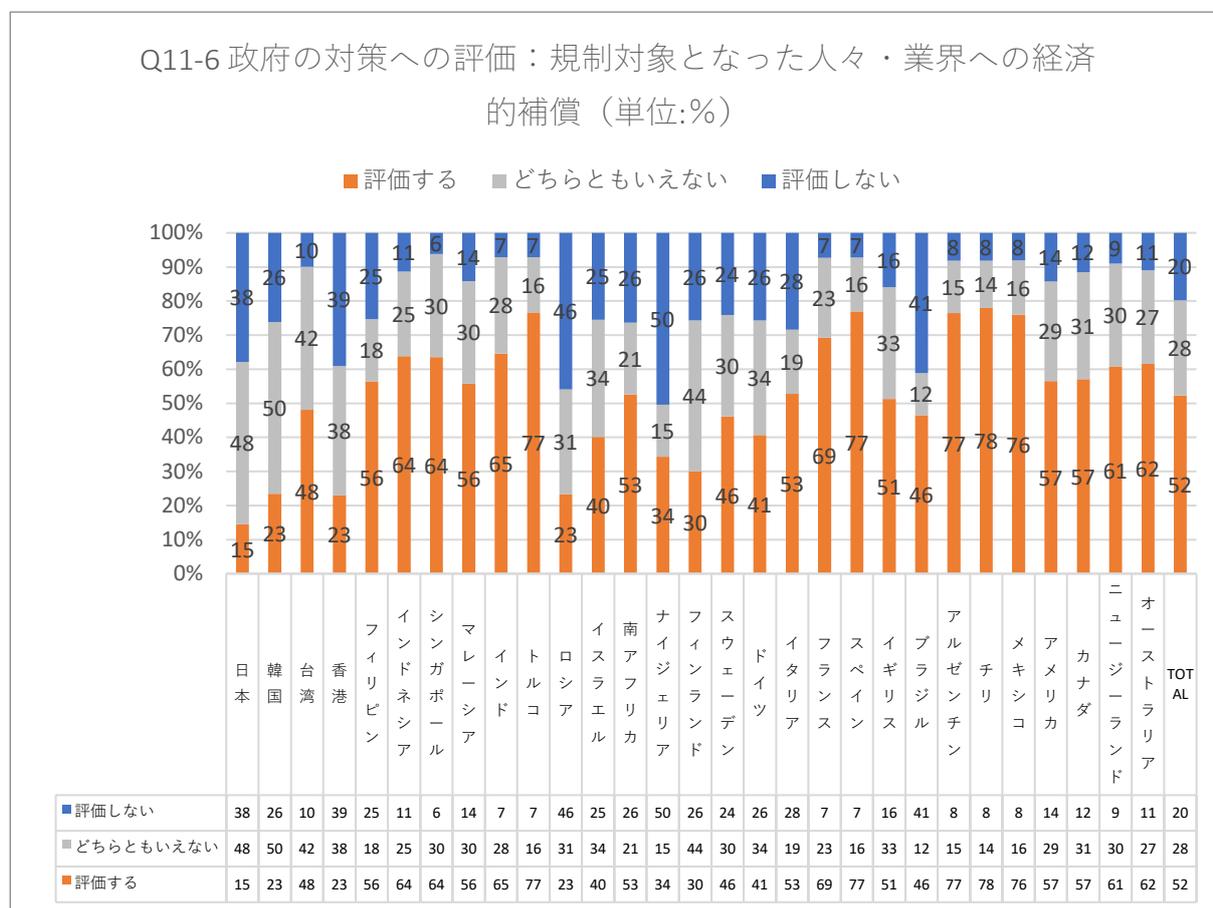
3.4 経済的補償

政府の新型コロナウイルス感染症対策で規制対象となった人々・業界への経済的補償に関する評価の割合を、図表 4-3-7 に示す。評価する割合が高かった国は、チリ (78%)、トルコ (77%)、スペイン (77%)、アルゼンチン (77%)、メキシコ (76%) であった。日本は 15% と最下位であった。

評価しない割合が高かった国・地域は、ナイジェリア (50%)、ロシア (46%)、ブラジル (41%)、香港 (39%)、日本 (38%) であった。

最も評価の高かったチリでは、ローン返済の最大 6 カ月間の猶予などの経済対策 (日本経済新聞, 2020)、中高所得者への経済支援を求める声から積立年金の早期引き出しが法的に認められていた (北野, 2021)。トルコ、スペインと並んで 2 番目に評価が高かったアルゼンチ

ンでは、富裕層（12000人）を対象に、一時的な追加課税をすることを定めた法律が施行された（AFP BB NEWS, 2021c）。トルコでは、コロナ対策の効果が良好であるとしてIMFが経済成長見通しを引き上げていた（九門, 2021）。



図表 4-3-7 経済的補償への評価

3.5 医療体制の整備

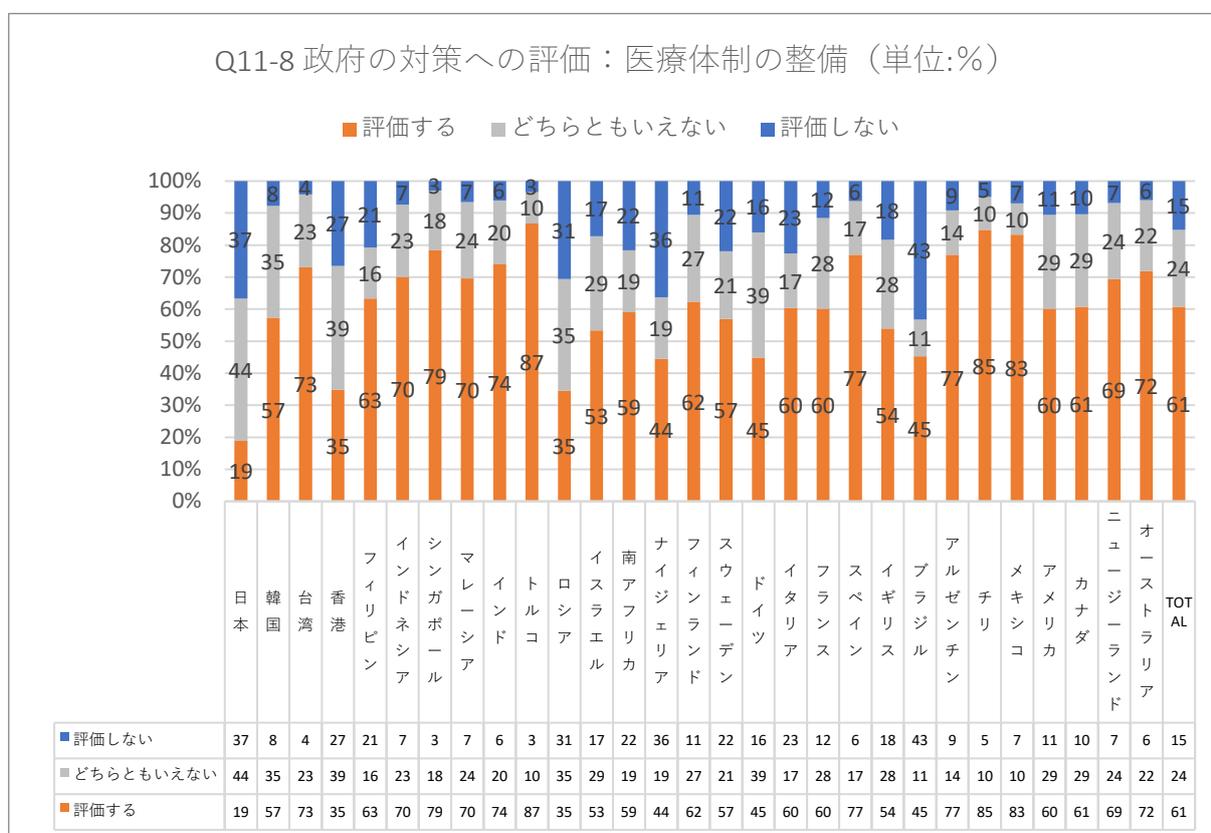
新型コロナウイルス感染症に対する医療体制の整備への評価の割合を、図表 4-3-8 に示す。評価する割合が高かった国は、トルコ（87%）、チリ（85%）、メキシコ（83%）、シンガポール（79%）、スペイン（77%）、アルゼンチン（77%）であった。日本は19%と最下位であった。

評価しない割合が高かった国・地域は、ブラジル（43%）、日本（37%）、ナイジェリア（36%）、ロシア（31%）、香港（27%）であった。

最も評価の高かったトルコでは、2020年3月時点で世界的にも感染者が多い状況であった。医療体制への意識は高く、初期から新型コロナウイルス感染症の診療は無料、病院は1万6000床がICUに転用できる体制であり、マスクは高値販売の問題から販売禁止になると、

政府から週に5枚が無料で配給された。世界に誇る繊維産業ということもあり、企業や高校生がボランティアでマスクや防護服などを製造し、約40カ国にマスクや防護服、人工呼吸器などの医療品を届けていた。外出禁止措置には罰金も科し、リーダーシップが評価されエルドアン大統領の支持率も伸びていた。(近内, 2020)

メキシコは2021年1月下旬に1日の死者数が1600人を超え、1日2万人の感染者数といった感染拡大のピークを迎えたが、本調査時期の3月上旬は、感染者数1日6千人へと収束していく時期であった(Reuters COVID-19 TRACKER, 2021b)。メキシコ市の一般病床利用率も、3月6日には2020年11月8日以来となる50%未満と落ち着きを見せていた(中畑, 2021)。



図表 4-3-8 医療体制の整備への評価

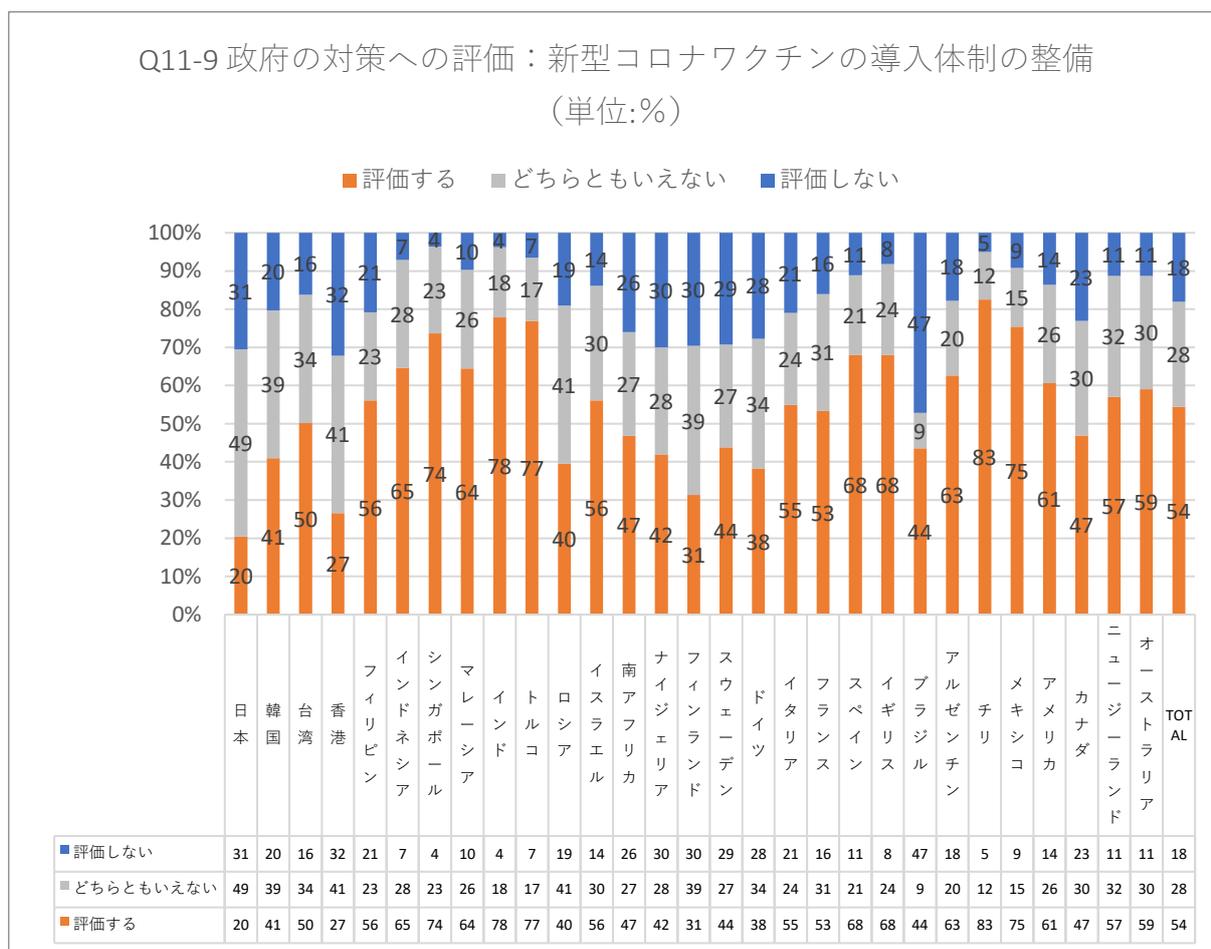
3.6 ワクチン導入

新型コロナウイルスワクチンの導入体制の整備への評価の割合を、図表 4-3-9 に示す。評価する割合が高かった国は、チリ (83%)、インド (78%)、トルコ (77%)、メキシコ (75%)、シンガポール (74%) であった。日本は20%と最下位であった。

評価しない割合が高かった国・地域は、ブラジル (47%)、香港 (32%)、日本 (31%)、フ

インランド (30%)、ナイジェリア (30%) であった。

日本では2021年2月14日にワクチンが承認され、17日に接種が始まっていたが、接種率はまだ世界最低レベルであった(日本経済新聞, 2021)。第1章で参照した3月12日時点のワクチン投与者数上位の国は、イスラエル、イギリス、チリ、アメリカ、シンガポール、トルコ、スウェーデン、フィンランド、ドイツ、イタリアであり、日本の2.2%を下回った国・地域は韓国の2.1%と、政治的事情でワクチンの調達が遅れたとされる台湾(3月22日に接種開始)の1.7%のみであった。日本の評価はこれらを下回った。



図表 4-3-9 ワクチン導入体制の整備への評価

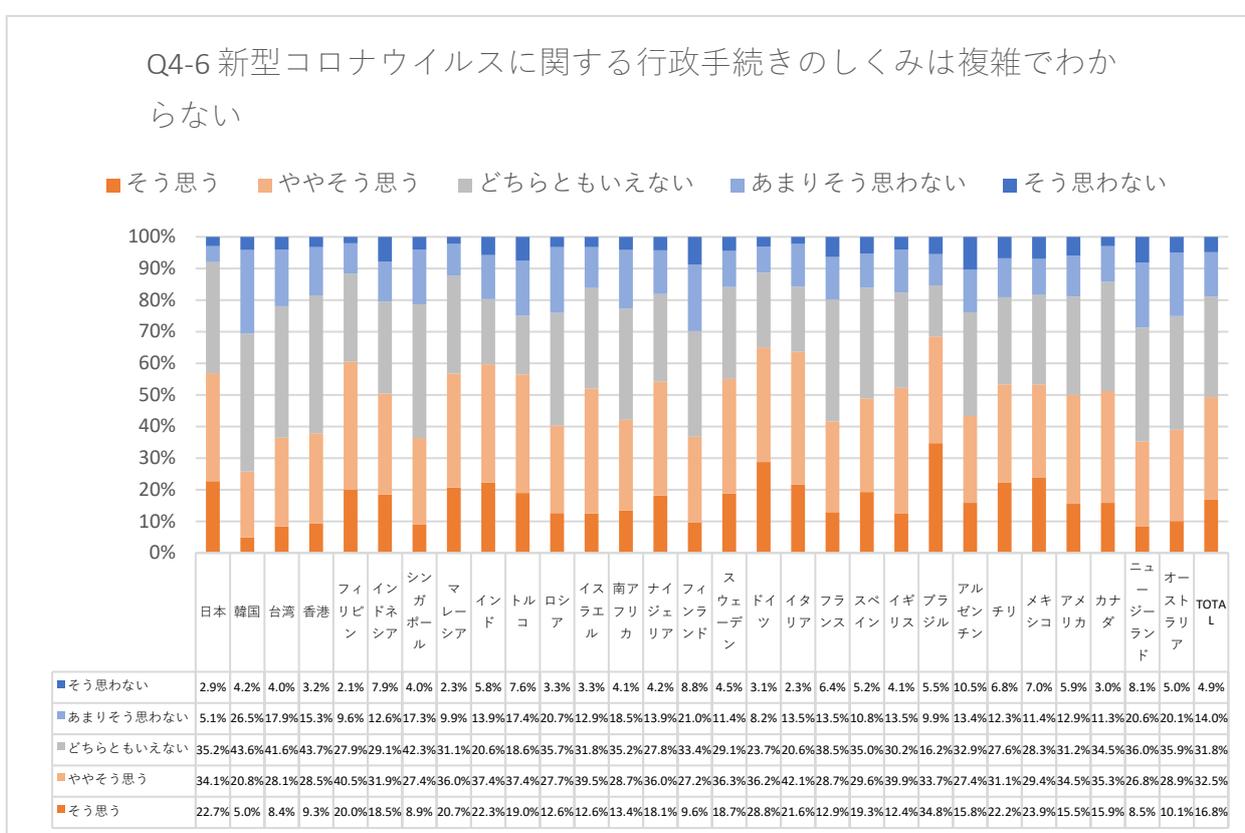
3.7 行政手続きの仕組みと情報化

新型コロナウイルスに関する行政手続きのしくみは複雑でわからないと思う割合を、図表4-3-10に示す。不満の割合(そう思う、ややそう思うの計)が高かった国は、ブラジル(68.5%)、ドイツ(65.0%)、イタリア(63.7%)、フィリピン(60.5%)、日本(56.8%)であった。

新型コロナウイルスに関する行政手続きについては、迅速・喫緊の措置が必要ということ

もあり、情報格差の問題と密接に関連している。手続きをネットを使わないでもできるようにしてほしいと思う割合を、図表 4-3-11 に示す。不満の割合(そう思う、ややそう思うの計)が高かった国・地域は、ドイツ (71.5%)、インドネシア (63.2%)、インド (61.5%)、ロシア (58.9%)、韓国 (58.5%)、台湾 (58.0%)、メキシコ (57.7%) であった。日本は 37.4% であり、比較的低い部類であった。

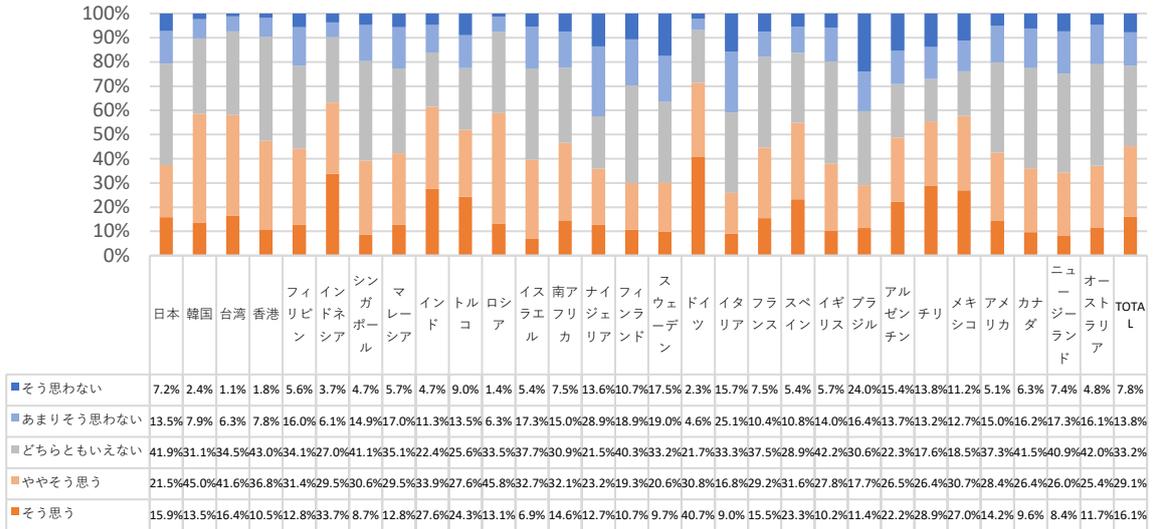
新型コロナウイルス接触確認アプリの導入推進への評価を、図表 4-3-12 に示す。評価する割合が高かった国は、トルコ (76%)、インド (71%)、マレーシア (69%)、ニュージーランド (69%)、シンガポール (67%)、チリ (66%) であった。日本は 11% と最下位であった。



図表 4-3-10 行政手続きのしくみへの不満

Q4-7 新型コロナウイルスに関する行政手続きは、
ネットを使わないでもできるようにしてほしい

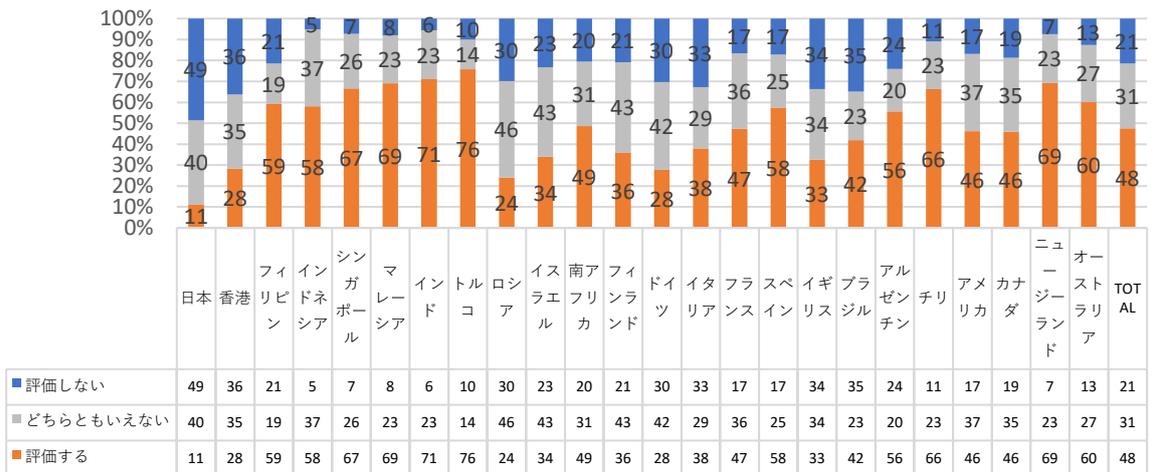
■ そう思う ■ ややそう思う ■ どちらともいえない ■ あまりそう思わない ■ そう思わない



図表 4-3-11 行政手続きの情報化への不満

Q11-7 政府の対策への評価：新型コロナウイルス接触確認アプリの
導入推進（単位：%）

■ 評価する ■ どちらともいえない ■ 評価しない



図表 4-3-12 新型コロナウイルス接触確認アプリの導入推進の評価

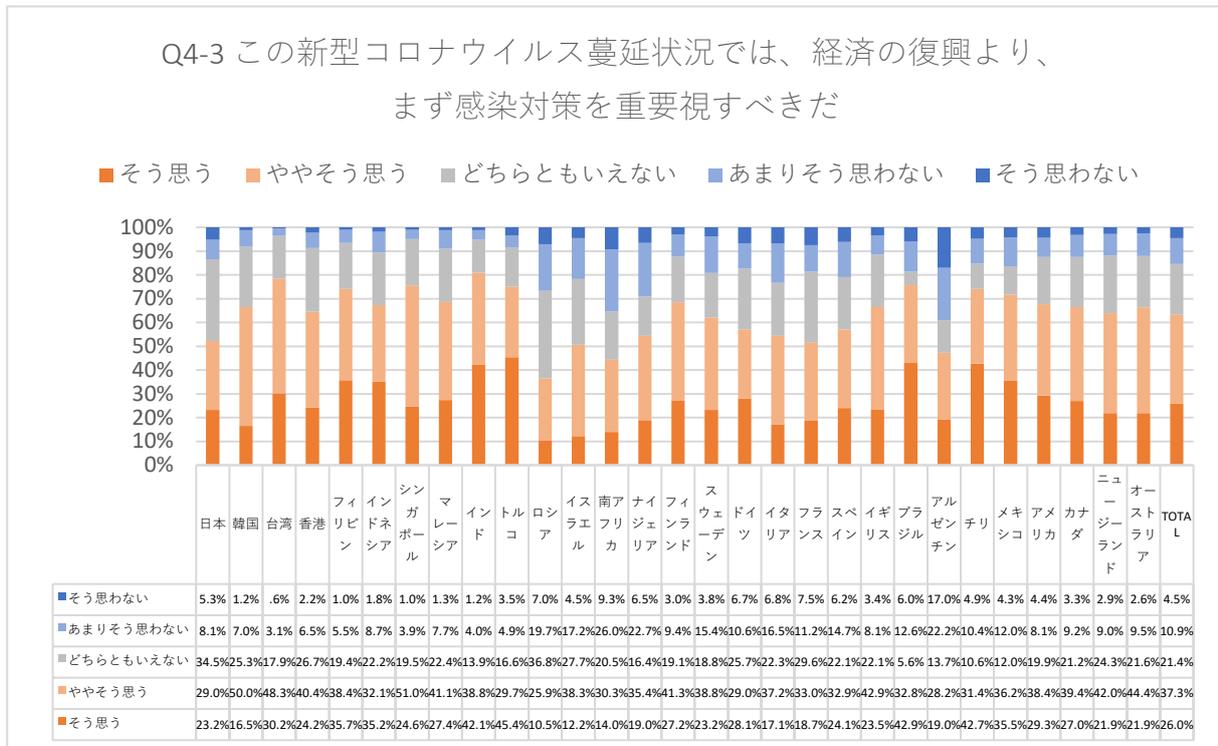
4 日本と世界の世論

本節では、新型コロナウイルス感染症に関する、日本社会で関心の高かった言説や出来事として、①経済対策か感染対策か、②オリンピック開催の是非、③ワクチン忌避意識、④メディア報道の是非、⑤行動制限への意識、それぞれについて、世界各国・地域における意見分布を概観する。

4.1 経済対策よりも感染対策

経済対策か、感染対策か、といった関心は世界共通のものであるが、2021年3月の調査時点での日本では、比較的人命尊重に世論が傾いている時期であったといえる。経済の復興よりもまず感染対策を重要視すべきだとする意見の割合を、図表4-4-1に示す。

日本は感染対策を重視すべき（そう思う、ややそう思うの計）が52.2%であり、経済対策を重視すべき（そう思わない、あまりそう思わないの計）は13.4%であった。調査時の日本は第3波と第4波の谷間の時期で、感染の危機感は一息遠のき、飲食店への経済的な打撃への危惧が大きな関心となっていた。そのこともあってか（あるいは国民性か）、ロシアに次いで「どちらともいえない」の割合が大きく、感染対策重視の意見は24位、経済対策の意見は14位と、世界的に見て感染対策重視とも、経済対策重視とも言えない割合である。「どちらとも完璧に」という国民全体の要求が、政策への低評価の一因となっている可能性がある。

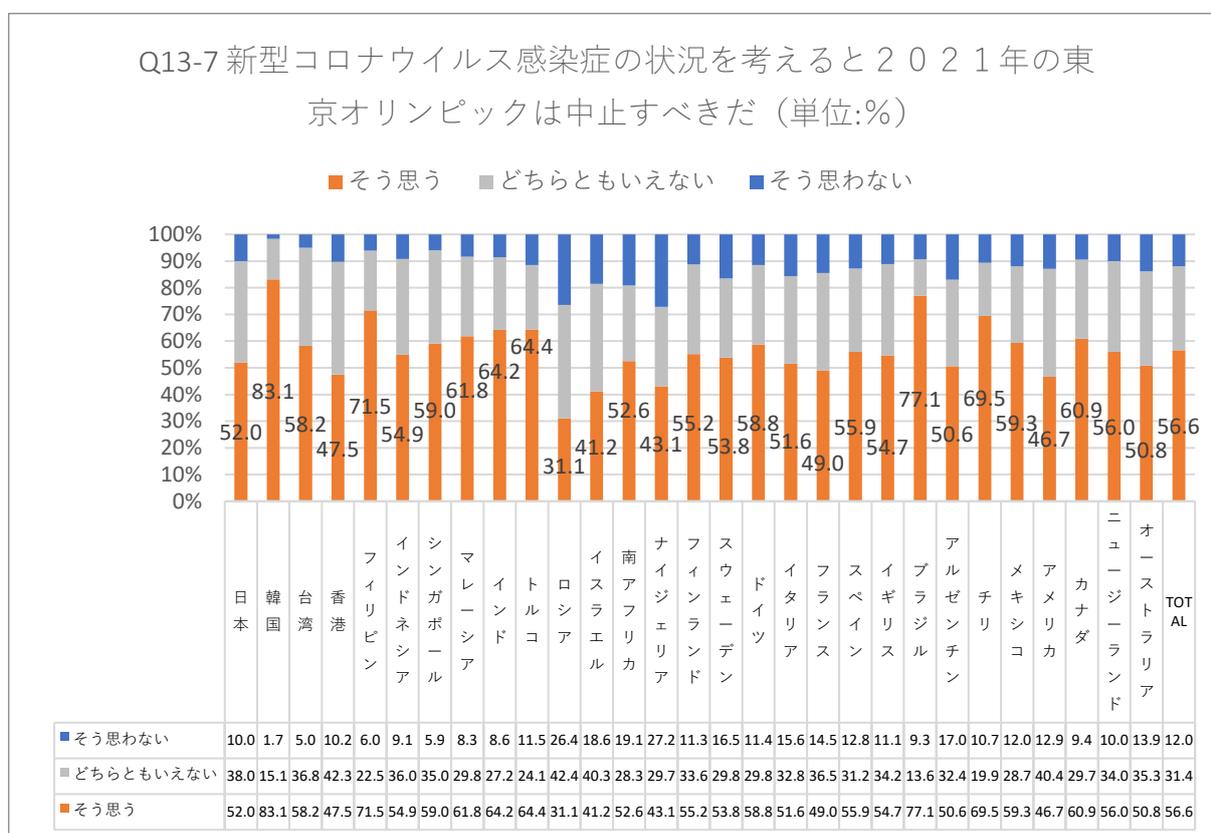


図表 4-4-1 経済より感染対策を重視すべきと思う割合

感染対策重視の割合が高かった国・地域は、インド（80.9%）、台湾（78.5%）、ブラジル（75.7%）、シンガポール（75.6%）、トルコ（75.1%）であり、経済対策重視の割合が高かった国は、アルゼンチン（39.2%）、南アフリカ（35.3%）、ナイジェリア（29.2%）、ロシア（26.7%）、イタリア（23.3%）、イスラエル（21.7%）、スペイン（20.9%）であった。ただし、経済対策重視の率が感染対策重視の率を上回った国・地域はなく、世界的に感染対策重視が基本的な世論であったようである。

4.2 オリンピックは中止すべき

COVID-19 パンデミックの影響で1年延期され、2021年7月23日から8月8日まで開催された東京オリンピックだが、調査時期の3月はまだ開催を中止すべきという論調が強い時期であった。中止すべきという意見の分布を、図表4-4-2に示す。



図表 4-4-2 東京オリンピックは中止すべきと思う割合

日本は「中止すべき」が52.0%、「中止すべきと思わない」が10%であり、中止すべきという意見が多数派であった。しかし世界各国・各地域では中止すべきという意見がさらに多く、日本は20位であった。中止すべきという意見の割合が高かった国は、韓国（83%）、ブラジル（77.1%）、フィリピン（71.5%）、チリ（69.5%）、トルコ（64.4%）、インド（64.2%）

であった。また中止すべきでないという意見の割合が比較的高かった国は、ナイジェリア (27.2%)、ロシア (26.4%)、南アフリカ (19.1%)、イスラエル (18.6%)、アルゼンチン (17.0) %であった。ただし、世界的に「中止すべきと思わない」が上回った国・地域はなく、意見が比較的拮抗したロシア、ナイジェリアを除いては中止の意見が圧倒的に多数であった。ロシアは東京五輪・パラリンピックにおける除外が確定していたため、あまり関心の対象ではなかったものと想像できる。中止意見で2位から4位のブラジル、フィリピン、チリは、医療崩壊の不安でそれぞれ1位から3位となっており、自らが感染危機が高まっている状況では、オリンピック開催に肯定的になれないという心理状態が如実に表れている。

4.3 ワクチン摂取への忌避感

新型コロナウイルスワクチンの接種については、本調査でも日本における接種経験者は2.2%に過ぎず、世界的にもそれほど接種が進んでいる状況ではなかった。新型コロナウイルスワクチンをできれば接種したくないとする割合を図表 4-4-3 に示す。感染への危機感が強い一方で、新技術で制作され特例的に承認されたワクチンの安全性や有効性の証拠も足りないと判断するのも無理はないという葛藤状況がある中で、世界的にも「できれば接種したくない」という率は一定の割合を占めており、圧倒的な少数派ではなかった。

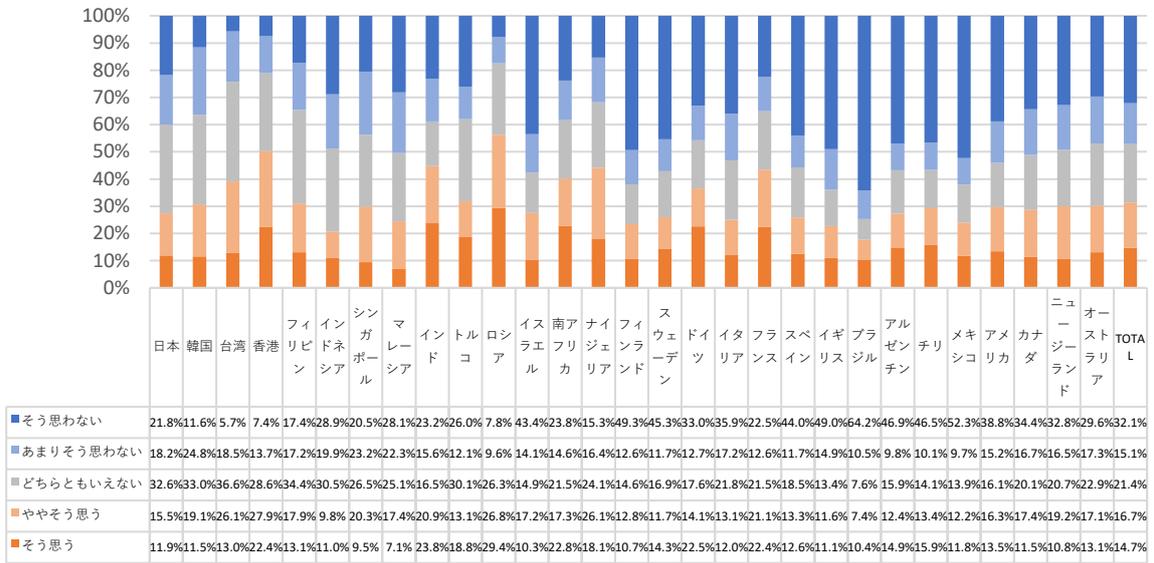
摂取したくない割合が高かった国・地域は、ロシア (56.2%)、香港 (50.3%)、インド (44.7%)、ナイジェリア (44.2%)、フランス (43.5%)、南アフリカ (40.1%)、台湾 (39.1%) であった。

摂取したい割合が高かった国は、ブラジル (74.8%)、イギリス (63.9%)、メキシコ (62.0%)、フィンランド (61.9%)、イスラエル (57.5%) であった。

日本は、摂取したくない (そう思う、ややそう思うの計) が 27.4%で 19 位、摂取したい (そう思わない、あまりそう思わないの計) が 40.0%で 19 位であった。2015 年から 2019 年の間に世界 149 か国で行われたワクチンへの信頼度に関する調査 (de Figueiredo et.al., 2020) によれば、ワクチンの安全性、有効性への意識は、日本はいずれも 149 か国中下位 3 位に入っており、世界的にもワクチンへの信頼感が低い国と言える (デ・フィゲイレドらによれば、これは、子宮頸がんなどの HPV 感染症を予防するワクチンについて、2013 年に厚生労働省が安全性に懸念を示し、積極的な推奨を停止したことが影響している)。その低いワクチン信頼感を考慮すれば、日本における新型コロナワクチン接種意識は、意外なほどに高かったとも言える。

Q4-11 新型コロナワクチンの接種はできれば行いたくない

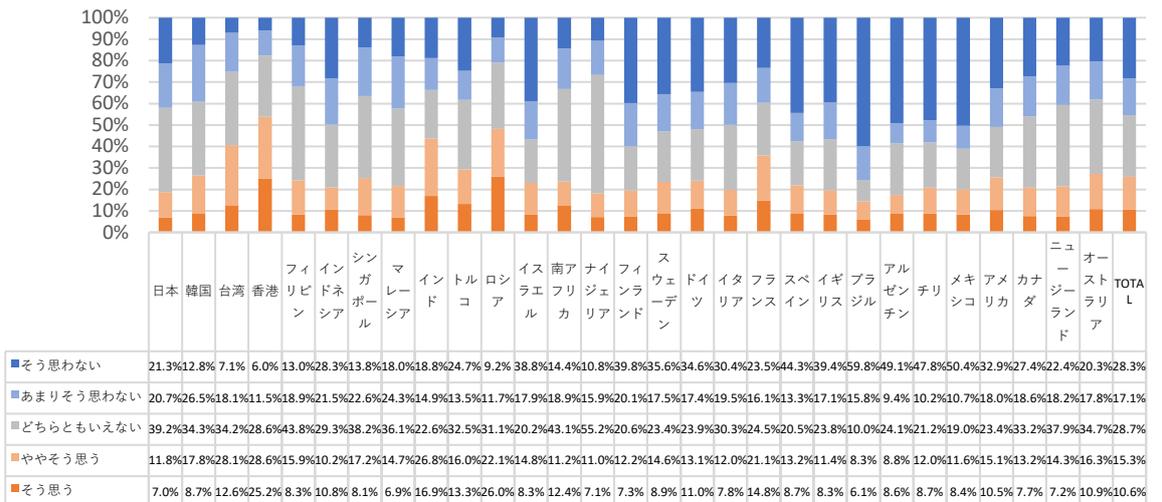
■ そう思う ■ ややそう思う ■ どちらともいえない ■ あまりそう思わない ■ そう思わない



図表 4-4-3 ワクチン接種はできれば行いたくないと思う割合

Q4-12 新型コロナワクチンには副反応があるため、接種しない方がよい

■ そう思う ■ ややそう思う ■ どちらともいえない ■ あまりそう思わない ■ そう思わない



図表 4-4-4 ワクチン接種は副反応があるため接種しない方がよいと思う割合

新型コロナウイルスワクチンの副反応を恐れる割合を図表 4-4-4 に示す。副反応があるため摂取しないほうが良いと思う割合（そう思う、ややそう思うの計）が高かった国・地域は、香港（53.8%）、ロシア（48.1%）、インド（43.7%）、台湾（40.7%）、フランス（35.9%）であり、おおむね「できれば行いたくないと思う」割合と同様の国・地域であった。

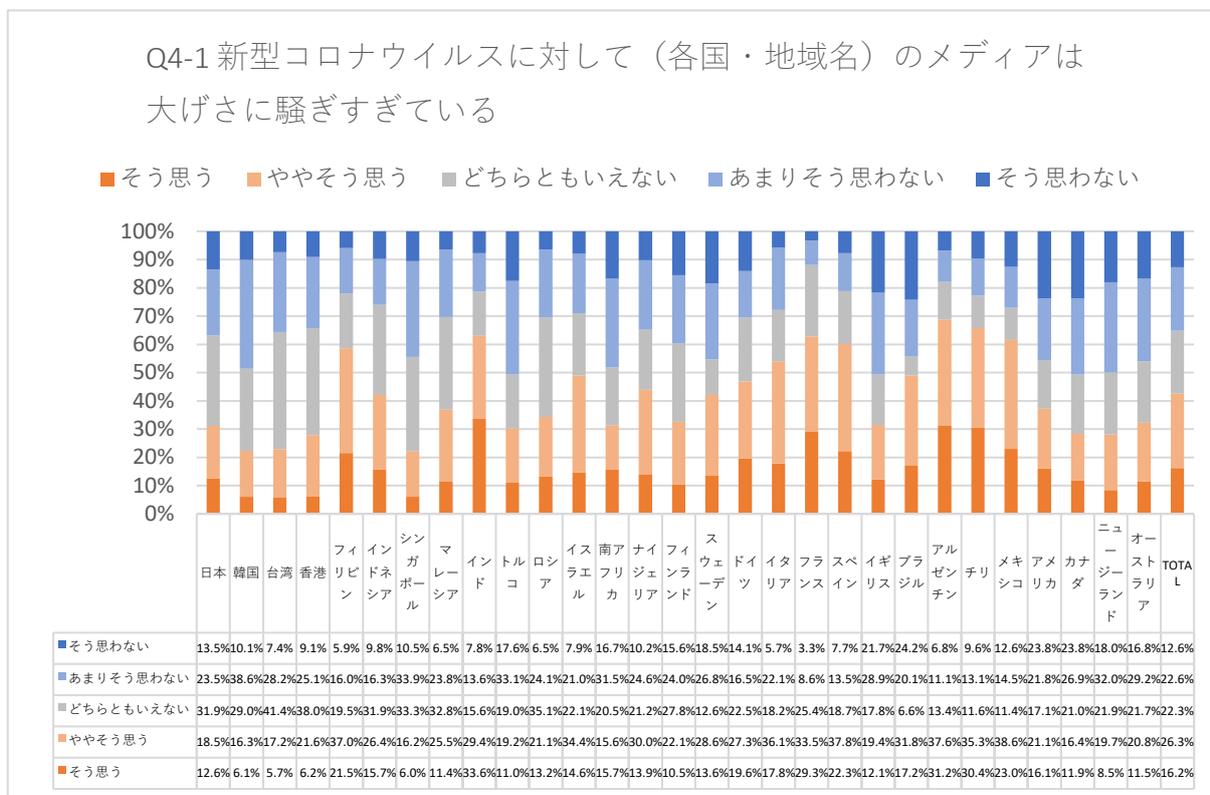
4.4 メディアは大げさに騒ぎすぎ

世界的パンデミックの中、日本だけでなく世界中の報道が新型コロナウイルスの危機を伝えるニュースに占められていたものと思われる。日本において、それを「大げさである」とする論調も一定を占めていた。「メディアは大げさに騒ぎすぎている」という意見の分布を図表 4-4-5 に示す。

日本は、大げさだと思う（そう思う、ややそう思うの計）が 31.1% で 22 位、大げさだと思わない（そう思わない、あまりそう思わないの計）は 37.0% で 13 位であり、意見が拮抗していることが分かる。

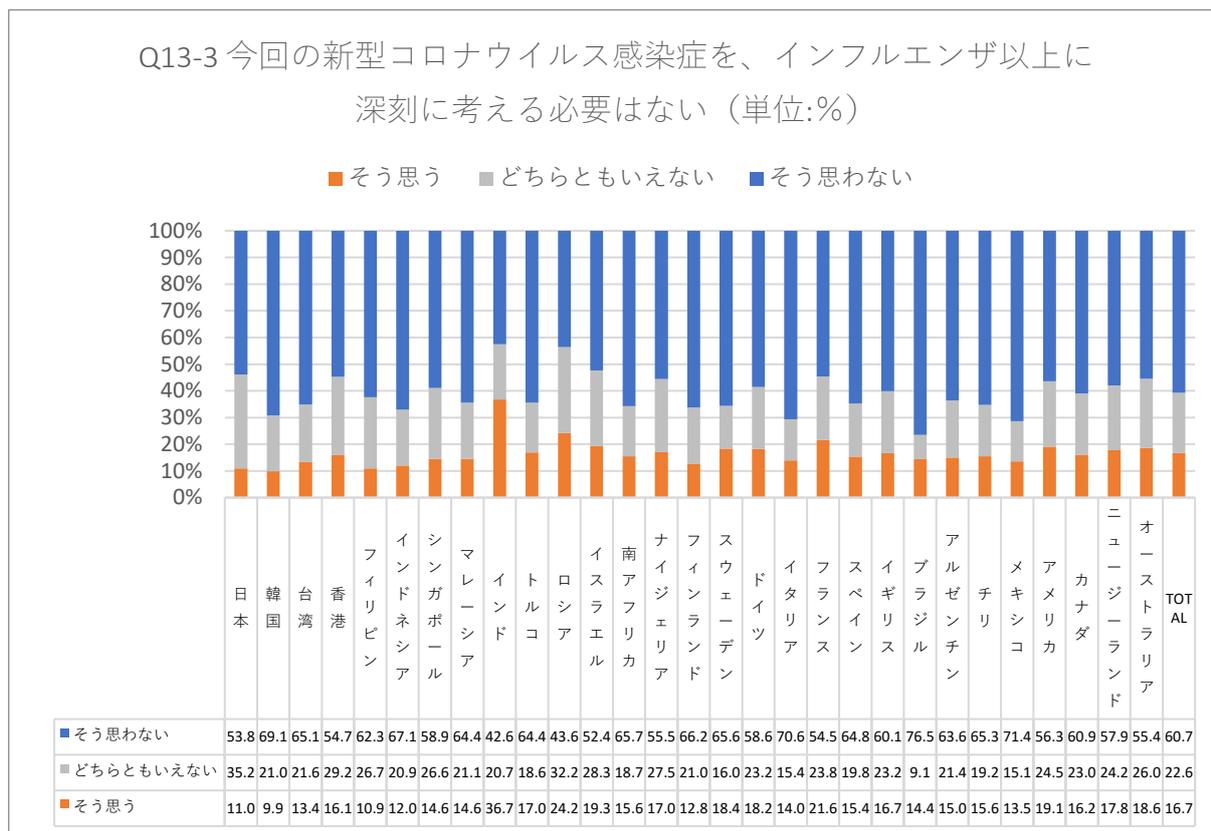
大げさだと思う割合が高かった国は、アルゼンチン（68.8%）、チリ（65.7%）、インド（63.0%）、フランス（62.8%）、メキシコ（61.6%）、スペイン（60.1%）であった。

大げさだと思わない割合が高かった国は、カナダ（50.7%）、トルコ（50.7%）、イギリス（50.6%）、ニュージーランド（50.0%）、韓国（48.7%）、南アフリカ（48.2%）であった。



図表 4-4-5 メディアは大げさだと思う割合

新型コロナウイルス感染症を、インフルエンザ以上に深刻に考える必要はないといった考えも世界中で一定数を占めていた。該当する意見の分布を図表 4-4-6 に示す。世界的に大きな差はなく、「そう思う」の割合はおおむね 10~20%程度であった。割合が高かった国は、インド (36.7%) が圧倒的に高く、次いでフランス (21.6%) イスラエル (19.3%)、アメリカ (19.1%)、オーストラリア (18.6%) スウェーデン (18.4%)、ドイツ (18.2%) であった。日本は 11.0%であり、韓国 (9.9%)、フィリピン (10.9%) に次いで低い割合であった。

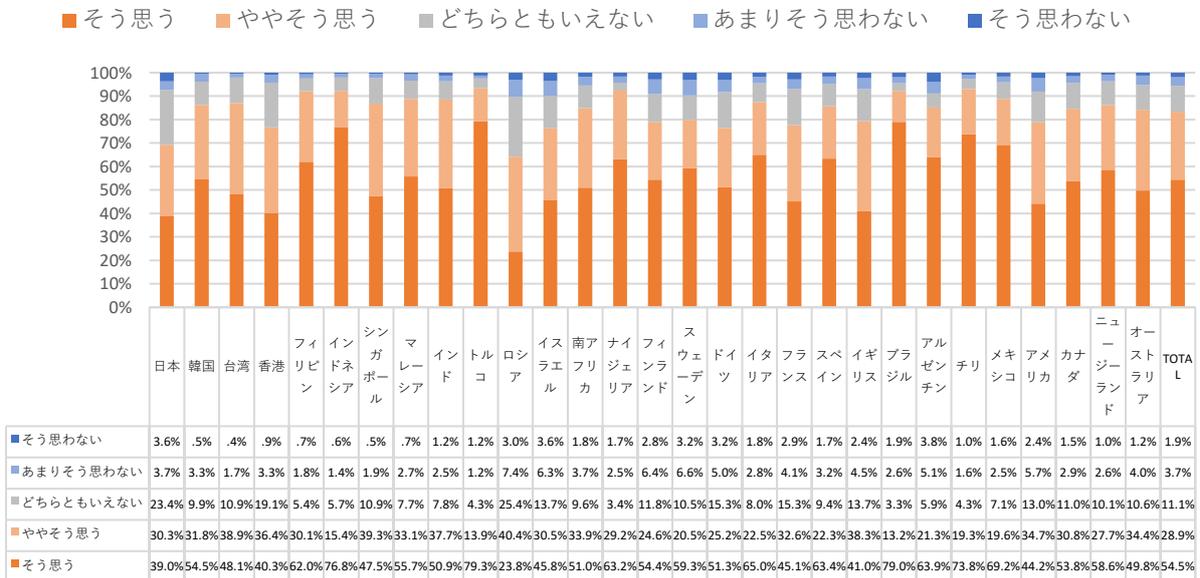


図表 4-4-6 新型コロナウイルス感染症はインフルエンザ以上に深刻ではないと思う割合

4.5 行動制限の意識

行動制限は世界各国・各地域において、感染拡大抑止のための主要な対策の一つであった。感染が疑われる人の行動制限についての意識として、陽性者は陰性化するまで外に出ないようにすべきと思う割合 (そう思う、ややそう思うの計) を、図表 4-4-7 に示す。おおむねどの国・地域も 80%以上が高い割合であったが、日本 (69.3%) とロシア (64.2%) のみが 70%を下回った。

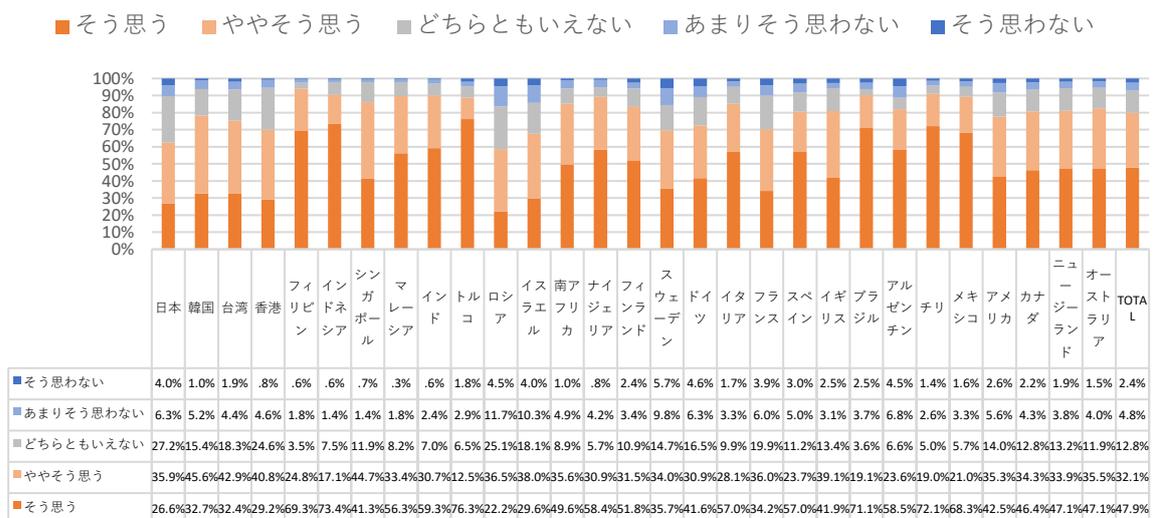
Q4-4 新型コロナウイルス陽性者は陰性化するまで、
病院や自宅から外に出ないようにすべきだ



図表 4-4-7 陽性者は外に出ないようにすべきだと思う割合

感染者の多い地域の人は住んでいる都市の外への移動は避けるべきだと思う割合（そう思う、ややそう思うの計）を、図表 4-4-8 に示す。

Q4-5 新型コロナウイルス感染者の多い地域の人は、
自分の住んでいる都市の外への移動は避けるべきだ



図表 4-4-8 感染者の多い地域の人は、居住地域外への移動は避けるべきだと思う割合

割合が高かった国は、フィリピン (94.2%)、チリ (91.1%)、インドネシア (90.5%)、ブラジル (90.2%)、インド (90.0%)、マレーシア (89.7%)、ナイジェリア (89.2%)、トルコ (88.8%)、メキシコ (89.3%) であった。日本は 62.5% であり、ロシア (58.7%) に次いで低い割合であった。

日本とロシアは「どちらともいえない」の割合が高いことによる結果ではあるが、感染が疑われる人が活動することについては世界的に見て寛容だといえる。

5 本章のまとめ

本章における意見分布を通して、政府への信頼は、もともと政府への信頼が高い国・地域を除けば、感染を抑え込んでいた国・地域ほど高い傾向が見られた。政府の個々の対策では、トルコ、チリ、インド、メキシコが高評価であった。日本は感染対策を重視する割合では最低水準であり、世界的に見て感染不安が高いわけではなく、また感染拡大状況も世界的に見れば抑え込んでいた部類であるにも関わらず、政府・政策への評価はおおむね最低水準であった。エデルマン・トラスト・バロメーターによれば、日本はコロナ以前の十年間を見ても、政府への信頼は調査対象国のうち最低水準であり、また政府だけでなく、企業、メディア、NGO/NPO に対する信頼度も一貫して低水準である (Edelman, 2012; エデルマン・ジャパン, 2021)。今回の調査結果もその水準が反映されたものであろう。その意味では、行動や意思決定の主要因が必ずしも“信頼”ではないという文化的・心理的な土壌があり、それは公衆衛生上の問題への対処として斉一的な行動が求められる状況には好都合であったとも考えられる。

[参考文献]

- エデルマン・ジャパン, 2020, 2020 エデルマン・トラストバロメーター, <https://www.edelman.jp/research/edelman-trust-barometer-2020> (参照日: 2022 年 3 月 5 日)
- エデルマン・ジャパン, 2021, 2021 エデルマン・トラストバロメーター, <https://www.edelman.jp/research/edelman-trust-barometer-2021> (参照日: 2022 年 3 月 5 日)
- 外務省, 2020, 世界の医療事情 ナイジェリア, <https://www.mofa.go.jp/mofaj/toko/medi/africa/nigeria.html> (参照日: 2022 年 3 月 5 日)
- 北野浩一, 2021, チリにおける Covid-19 の経済的影響と年金早期引出し政策, ラテンアメリカ・レポート 37(2), pp36-49
- 国境なき医師団, 2021, 新型コロナウイルス: 大惨事を招いたブラジルは科学的根拠に基づいた対策を, <https://www.msf.or.jp/news/press/detail/bra20210416mt.html> (参照日: 20

22年3月5日)

九門康之, 2021, トルコ経済の近況と外交・政治環境, 国際通貨研究所 国際金融トピックス,

<https://www.iima.or.jp/docs/international/2021/if2021.06.pdf> (参照日: 2022年3月5日)

中畑貴雄, 2021, 3月15日以降の新型コロナ警戒信号の色を発表、緑の州が3州に, JETRO,

<https://www.jetro.go.jp/biznews/2021/03/3049bcb3d1141c04.html> (参照日: 2022年3月5日)

日本経済新聞, 2020, チリ、コロナ関連で追加経済対策 1600億円, <https://www.nikkei.com/article/DGXMZO61184230W0A700C2EAF000/> (参照日: 2022年3月5日)

日本経済新聞, 2021, ワクチン接種ようやく始動 17日から、欧米に2カ月遅れ, <https://www.nikkei.com/article/DGXZQODF142CT0U1A210C2000000/> (参照日: 2022年3月5日)

近内みゆき, 2020, 驚きの気前の良さ トルコの「新型コロナ対策」謎に迫る, GLOBE+, <https://globe.asahi.com/article/13335389> (参照日: 2022年3月5日)

AFP BB NEWS, 2021a, ナイジェリアで「偽ワクチン」流通、当局が警告, <https://www.afpbb.com/articles/-/3326680> (参照日: 2022年3月5日)

AFP BB NEWS, 2021b, ニュージーランド、オークランドのロックダウン解除へ, <https://www.afpbb.com/articles/-/3335116> (参照日: 2022年3月5日)

AFP BB NEWS, 2021c, コロナ対策で富裕層1万2000人に追加課税、アルゼンチン, <https://www.afpbb.com/articles/-/3329219> (参照日: 2022年3月5日)

BBC NEWS JAPAN, 2021, インド、第2波で感染者・死者が過去最多に 一時は「勝利」間近と言われたが, <https://www.bbc.com/japanese/56799581> (参照日: 2022年3月5日)

de Figueiredo A, Simas C, Karafillakis E, Paterson P, Larson HJ., 2020, Mapping global trends in vaccine confidence and investigating barriers to vaccine uptake: a large-scale retrospective temporal modelling study. *Lancet*. 396:898–908.

Edelman, 2012, 2012 Edelman Trust Barometer, <https://www.edelman.com/trust/2012-trust-barometer> (参照日: 2022年3月5日)

JETRO, 2021a, 新型コロナ危機が2020年メキシコ経済に与えた影響, <https://www.jetro.go.jp/biz/areareports/2021/8fb3eefc74a1d231.html> (参照日: 2022年3月5日)

REUTERS COVID-19 TRACKER, 2021a, ナイジェリア, <https://graphics.reuters.com/world-coronavirus-tracker-and-maps/ja/countries-and-territories/nigeria/> (参照日: 2021年6月20日)

REUTERS COVID-19 TRACKER, 2021b, メキシコ, <https://graphics.reuters.com/world-coronavirus-tracker-and-maps/ja/countries-and-territories/mexico> (参照日: 2021年6月20日)

REUTERS COVID-19 TRACKER, 2021c, トルコ, <https://graphics.reuters.com/world-coronavirus-tracker-and-maps/ja/countries-and-territories/turkey/> (参照日: 2021年6月20日)

第 5 章 コロナ禍における各国の雇用/家計の状況

堀川裕介

1 雇用および家計の状況

1.1 コロナ禍と失業

	2019	2020	2021	2022
日本	2.4	2.8	2.8	2.6
韓国	3.8	3.9	3.7	3.0
台湾	3.7	3.9	4.0	3.6
香港	2.9	5.8	5.2	4.5
フィリピン	5.1	10.4	7.8	5.7
インドネシア	5.2	7.1	6.5	5.5
シンガポール	2.3	3.0	2.7	2.1
マレーシア	3.3	4.5	4.7	4.5
トルコ	13.7	13.1	12.0	10.8
ロシア	4.6	5.8	4.8	4.0
イスラエル	3.8	4.3	5.0	3.9
南アフリカ	28.7	29.2	34.3	34.6
フィンランド	6.7	7.8	7.6	7.0
スウェーデン	7.0	8.5	8.8	7.6
ドイツ	3.0	3.6	3.6	2.9
イタリア	9.9	9.3	9.5	8.8
フランス	8.4	8.0	7.9	7.5
スペイン	14.1	15.5	14.8	12.7
イギリス	3.8	4.6	4.5	3.8
ブラジル	12.0	13.8	13.2	9.8
アルゼンチン	11.6	8.7	6.9	6.9
チリ	7.2	10.8	8.9	7.9
メキシコ	3.5	4.4	4.1	3.4
アメリカ	3.7	8.1	5.4	3.7
カナダ	5.8	9.6	7.4	5.3
ニュージーランド	4.1	4.6	3.8	3.4
オーストラリア	5.2	6.5	5.1	3.6

凡例

	5%未満
	5%以上～10%未満
	10%以上

出典

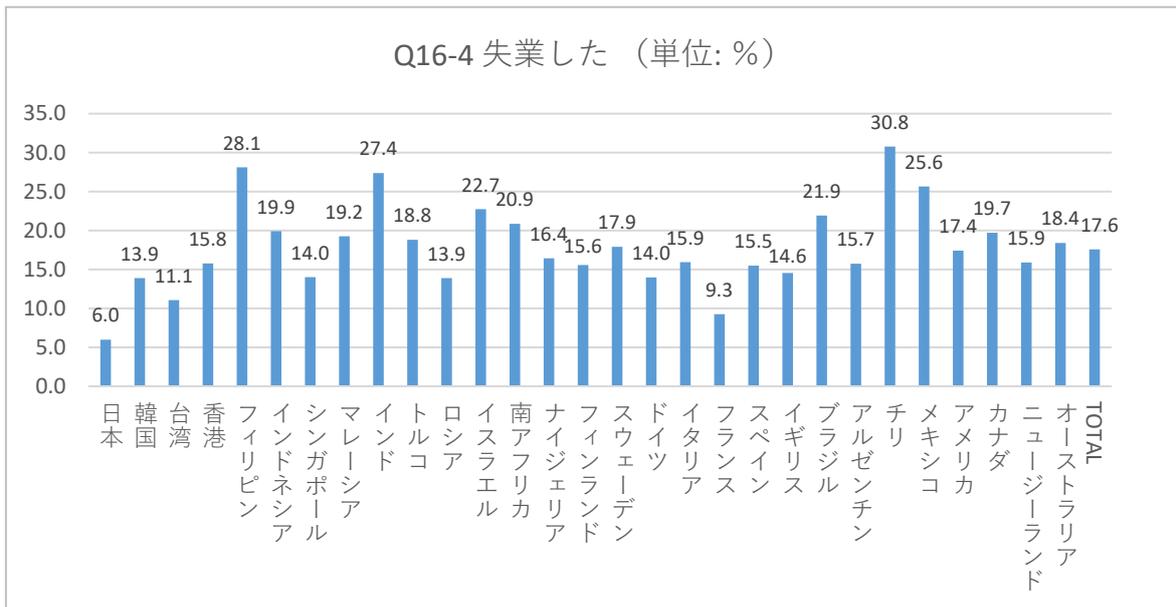
IMF: <https://www.imf.org/external/datamapper/>

図表 5-1-1 各国失業率の推移（年平均，出典は IMF）

29 国比較調査ではコロナ禍によって人々の雇用状況、経済状況、働き方や労働意識の変化についても質問を設けた。以降では各設問の結果を紹介していくが、その前に、一つの参考として各国の失業率の推移を紹介しておきたい。図表 5-1-1 は本調査が対象とした 29 国を可能な限り網羅的に、また統一的な集計方法によって比較できるデータとして、IMF (国際通貨基金) が公表している失業率の年平均値を表にしたものである。なお、時系列はコロナ禍以前の 2019 年から調査翌年の 2022 年までを含み、調査時点だけでなく前後の推移を追えるようにした。また 29 国のうちインドとナイジェリアは IMF データ上でも欠損値となっていたため表から除いている。

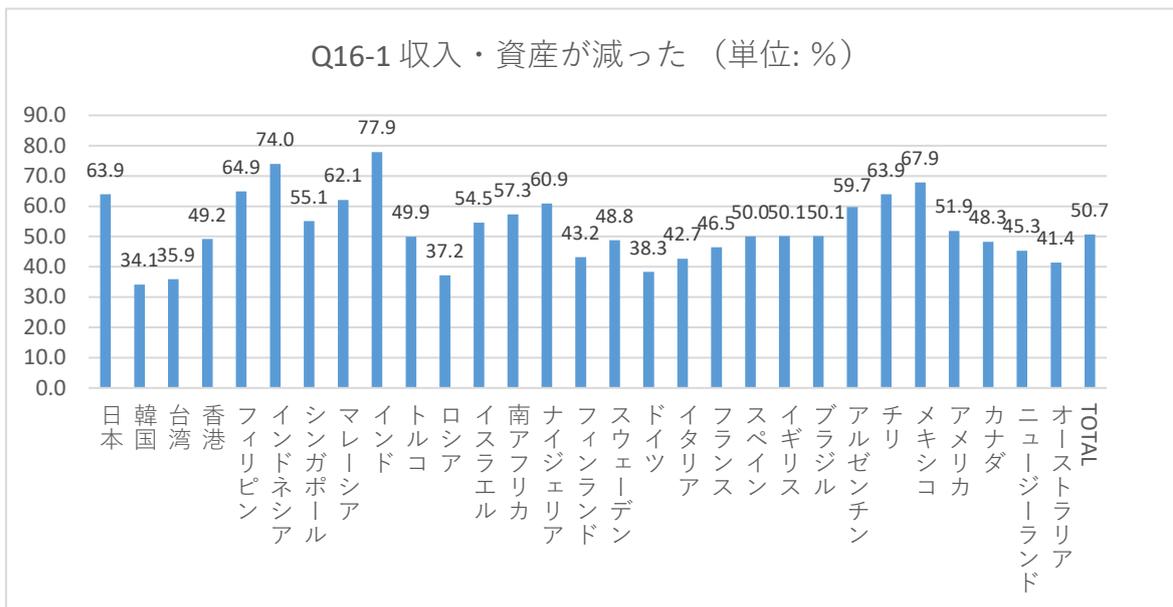
表を一覧すると、後述する一部の国を除いて 2019 年から 20 年もしくは 21 年にかけて失業率が増加し、それ以降は減少している。ここからは、コロナ禍に伴って一時的に雇用状況が圧迫したものの、3 年目以降は改善に転じたことが見て取れる。ただしトルコやアルゼンチンでは 2019 年から 22 年にかけて失業率が一貫して下がり続け、南アフリカでは逆に一貫して増加傾向である。これらの 3 国ではコロナ禍以外の各国固有の事情も働いていたと考えられるが、本書ではこれ以上の検討は控えたい。もちろん経済状況や雇用状況を表すものとしてある機関の集計方法による失業率データだけをもって代表させることはできないが、以降の 29 国調査結果を見る上での一つの参考として念頭に置かれない。

さて、上記のデータを踏まえて本調査結果を見てみよう。図表 5-1-2 はコロナ禍以前から調査時点にかけて一度でも失業を経験した人の、各国調査対象者全体に占める割合を示している。図表の数値を見ると、日本やフランスが 10%未満である以外は該当率が軒並み 10%を超えており、特にフィリピン、マレーシア、チリ、メキシコなどが 25%を超える高い割合を示した。どの国も公的統計と比べて高い値となっているが、それはコロナ禍の始まりから調査時点までに一度でも失業を経験した場合には「該当」となる質問形式であることによるものと考えられる。ただし、トルコ、南アフリカ、スペイン、ブラジルといった図表 5-1-1 で失業率の高かった国々については、調査サンプルがそれぞれの国を代表すると仮定すれば本来他国よりも高い値になることが推測されるが、結果としてそうならないことを見ると、サンプリング次元での大小の偏りもあると考えられる。

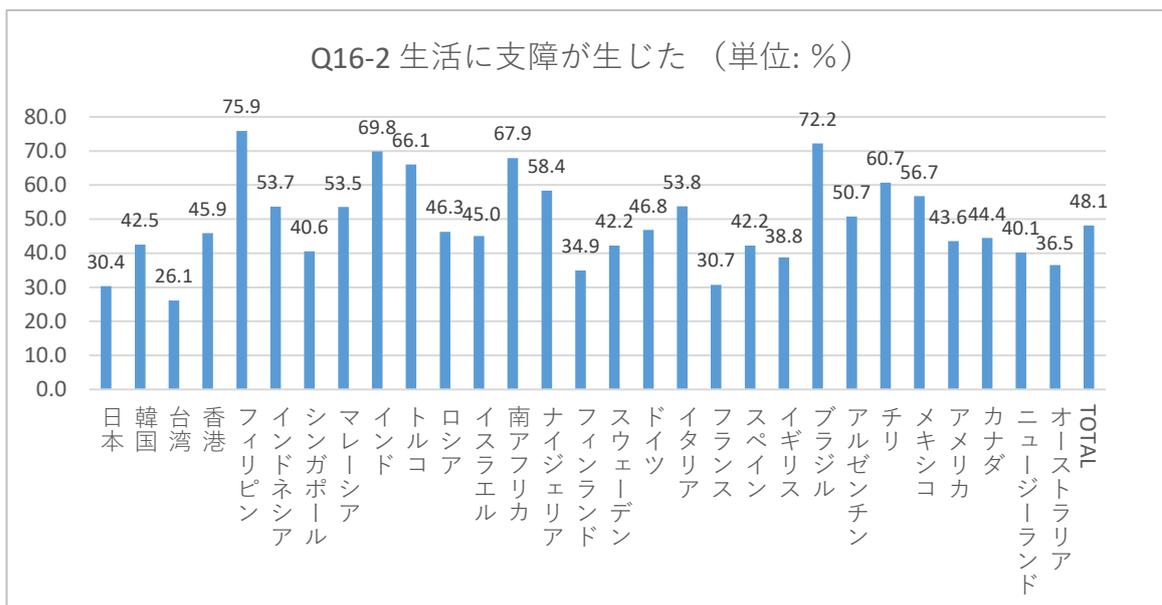


図表 5-1-2 コロナ禍以降、失業した人の割合

1.2 コロナ禍と家計



図表 5-1-3 コロナ禍以降、収入・資産が減った人の割合



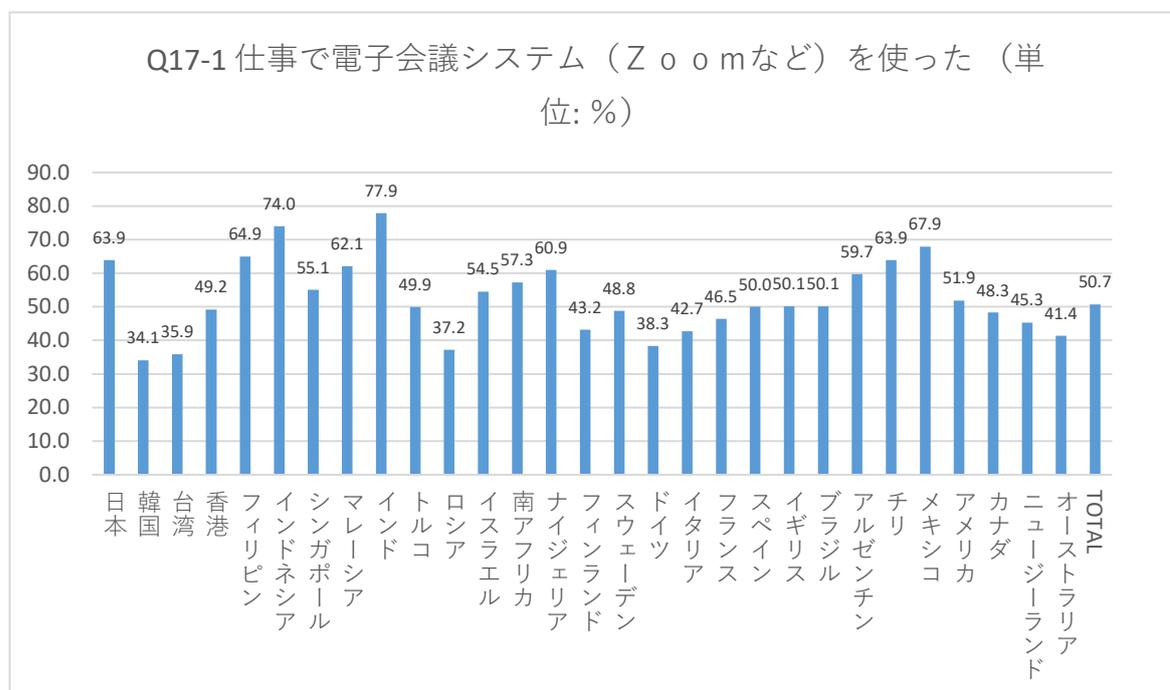
図表 5-1-4 コロナ禍以降、生活に支障が生じた人の割合

本調査サンプルでは、コロナ禍に伴う失業経験者は少ない国で10%未満、多い国で30%前後であり、29か国平均ではサンプル全体の17.6%であった。これに対し、図表5-1-3、図表5-1-4からは家計への悪影響が雇用よりも広い範囲の人々に及んでいたことが分かる。特に日本は失業の割合が10%未満であるのに、収入・資産の減少は60%超、生活への支障も30.4%に上るなど、雇用は守られた反面で家計への影響は小さくなかったことが見て取れる。

国ごとの傾向を見ると、総じて該当率が高いのはフィリピン、インド、南アフリカ、ナイジェリア、ブラジル、チリ、メキシコなどであり、これは失業の結果とも概ね共通していた。日米欧などの先進国ではコロナ禍での経済的被害に対する政府の財政出動が比較的潤沢であったのに対し、新興国・途上国ではそうした余裕が乏しいために雇用や家計への影響が大きかったことが、各国の違いの背景にあるのではないかと考えられる。ただし、一口に財政出動と言っても、業界や地域ごとの損失補償の形をとるものから、失業保険や一律現金給付など被害者の包括的救済を図るものまでさまざまであり、各国の政策オプションによって効果の現れ方も多様であると考えられるため、特に先進国同士の比較においては各国の国情、経済構造、政策などの違いを踏まえながら評価する必要があるだろう。

※Q16では上記以外に「休業」の経験についても尋ねた。同結果については別途の表一覧を参照されたい。

2 電子会議システムの利用



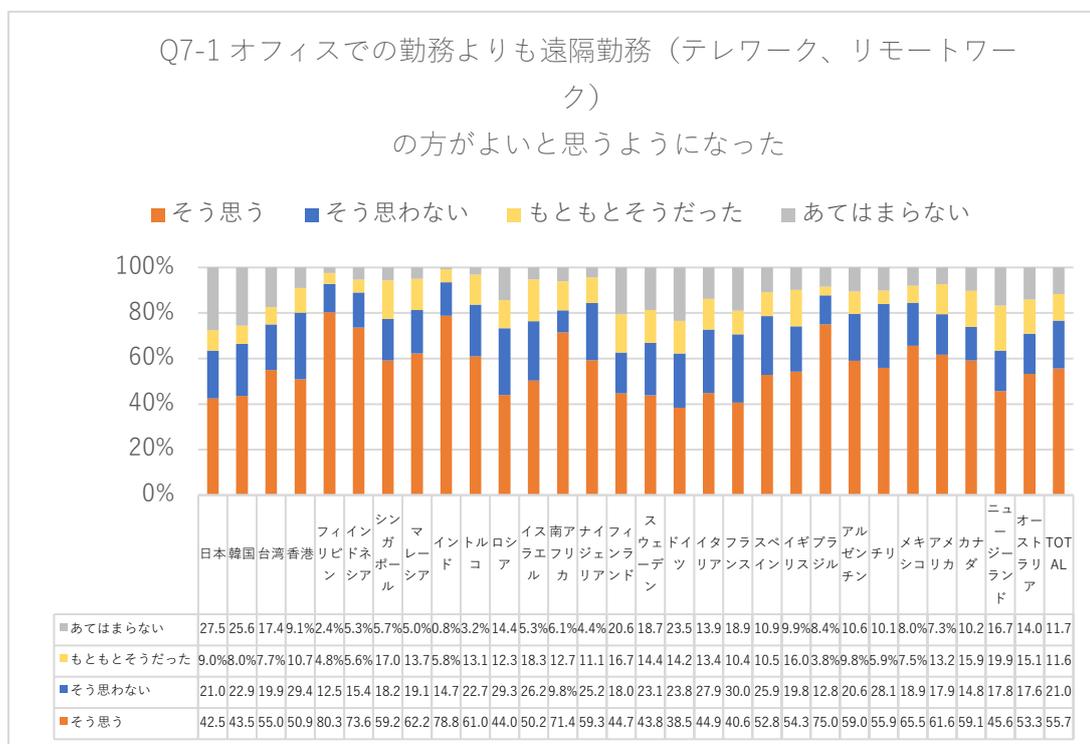
図表 5-2-1 仕事での電子会議システム利用

コロナ禍では、感染防止のための移動制限が各国で行われたこともあり、ICT ツールを用いて職場以外で職務を行う遠隔勤務が注目された。本調査では電子会議システムの利用に焦点を当て、コロナ禍意向調査時点までの利用経験を尋ねたが、その結果（図表 5-2-1）を見ると、日本、フィリピン、インドネシア、インド、ナイジェリア、チリ、メキシコで該当率が 60% を超えていた。日本を除けば 1.1 で紹介した失業経験者の割合が高い国と重複している点が興味深いところである。想像になってしまうが、こうした国々ではコロナ禍による経済活動の冷え込みに耐えうる産業が先進国と比べると未だ乏しく、また政府の財政出動も潤沢ではないと考えられるため、人々においては自力救済的に失業に対応するほかなく、一つの活路としてインターネットを介した何らかの経済活動（個人規模のネット通販や SNS 等でのアフィリエイト収入獲得など）に転じた人々が多かったのではないかと考えられる。もちろん、雇用を維持しながら遠隔勤務に移行した人々が多かった国もあると考えられるため、結果の評価には各国の産業構造や ICT 政策を踏まえる必要があることは言うまでもない。

※Q17 では上記以外に「学習」「プライベートで」の電子会議システム利用経験についても尋ねた。同結果については別途の表一覧を参照されたい。

3 仕事に関する価値観の変化

3.1 遠隔勤務と対面勤務への意識

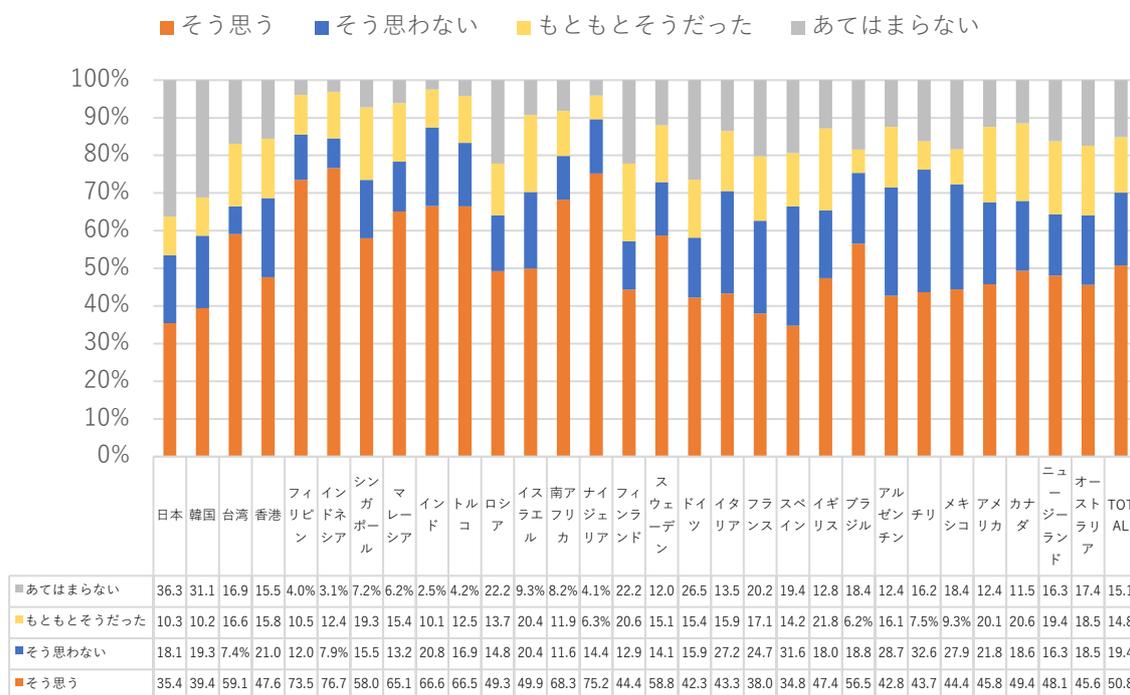


図表 5-3-1 対面勤務より遠隔勤務の方が良いと思うか

図表 5-2-1 で見た通り、韓国、台湾、ドイツなど一部の国を除けば、電子会議システムの利用率は 40～50%に達し、60%を超える国も見られた。この傾向は対面勤務から遠隔勤務への移行にも結びついていると思われ、それによる意識の変化がどのようなものであったか尋ねた。結果は図表 5-3-1～5-3-3 に表した通りである。

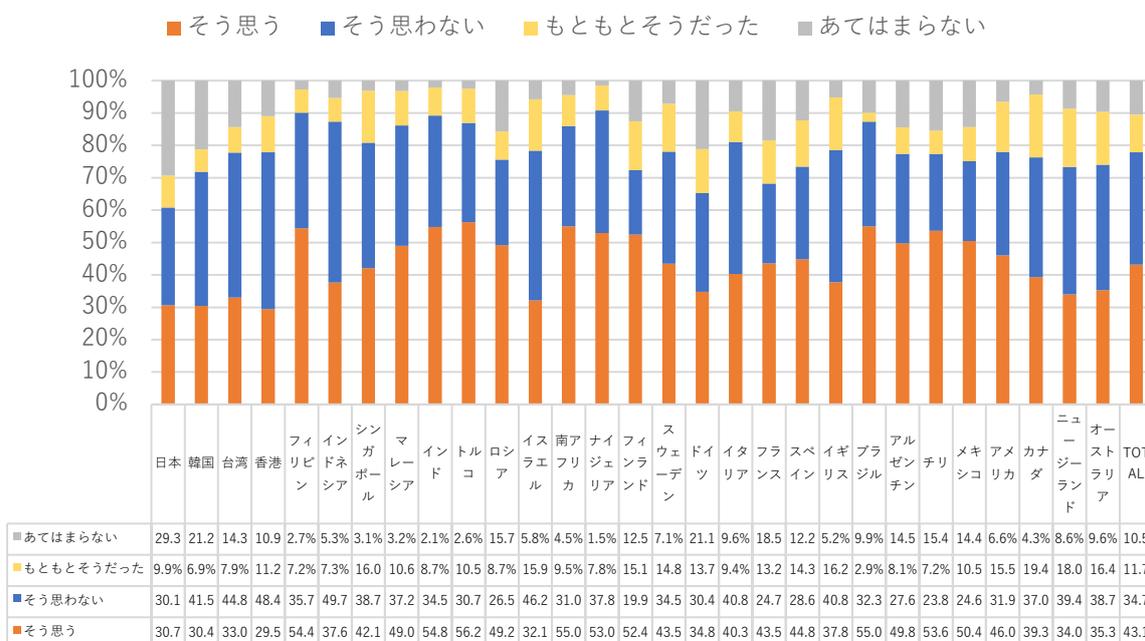
対面よりも遠隔勤務の方が良いとする人の多い国は、フィリピン、インドネシア、インド、南アフリカ、ナイジェリア、ブラジル、メキシコなどで、前節でみた電子会議システムの利用割合が多い国と概ね一致している。素直に解釈すれば、電子会議システムの利便性を評価したことと相まって働き方への意識も変わったものと考えられるが、各国のコロナ禍前後の働き方の変化や ICT の利用実態を踏まえなければ正確なところは分からない。

Q7-4 WEB会議システムを使用した働き方に抵抗がなくなった



図表 5-3-2 電子会議システムの利用に対する抵抗感

Q7-5 対面での会議は必要ないと思うようになった



図表 5-3-3 対面会議の必要性について

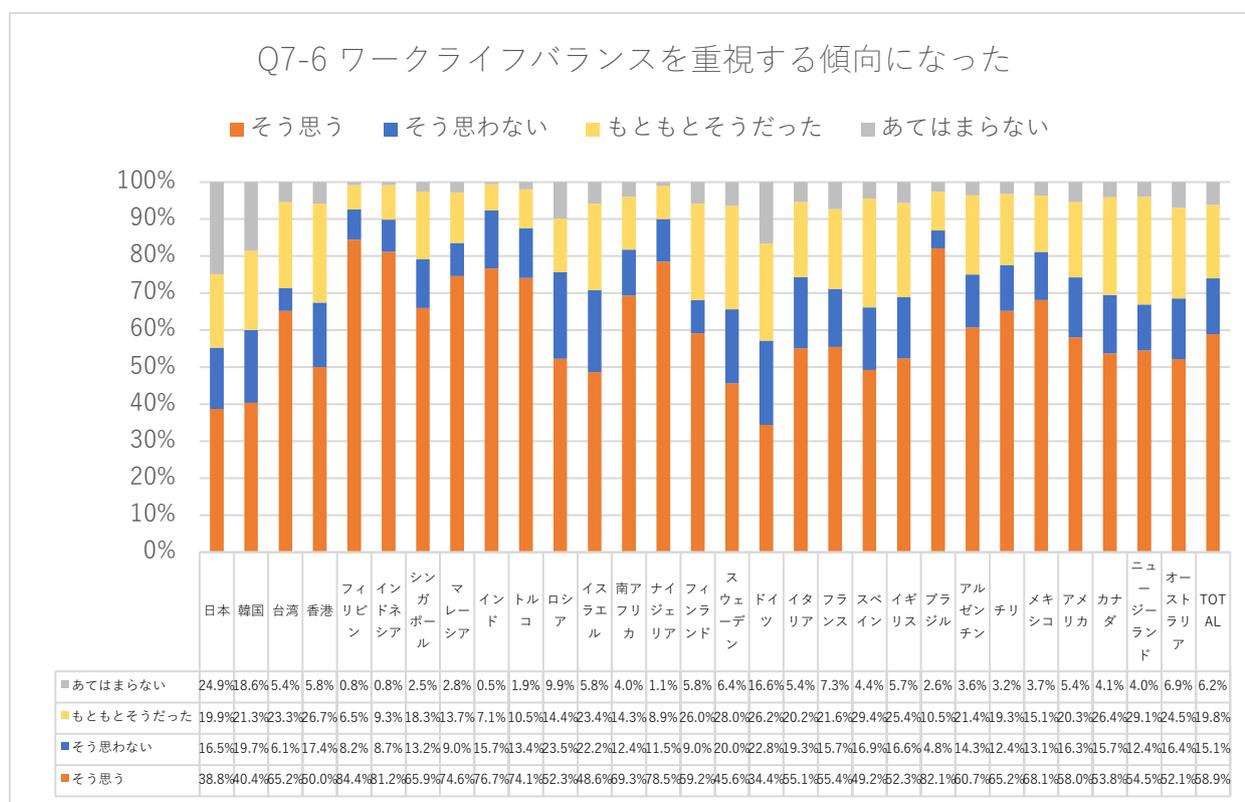
なお、電子会議システムの利用に対する抵抗感が「なくなった」の割合や、対面での会議が「必要ないと思うようになった」の割合も、東南アジア、アフリカ、中南米諸国で同じように高い傾向が見られた。

一方、電子会議システムの利用率が高かった国の中で、日本は例外的に遠隔勤務などへの肯定的意識がさほど高くはない。ただ、ドイツ、イタリア、フランス、スペインといった欧州諸国と肯定の割合はほとんど変わらないため、これは先進国ではある程度共通の傾向と言えるかもしれない。ICTが発達し、遠隔勤務を取り入れ可能な産業も多い先進国において、なぜ新興国や途上国よりも遠隔勤務や電子会議システムの肯定的意識が高まらないのか。これは今後探求するに値する興味深いテーマと言えよう。

3.2 仕事への意欲と満足

コロナ禍に伴い、私たちの労働習慣や働き方への意識はどれほど変わっただろうか。遠隔勤務の取入れによって職場以外で過ごす時間が増えたことは、仕事とプライベートのバランスをプライベート重視の方向に引き寄せたと考えられるが実際はどうか。

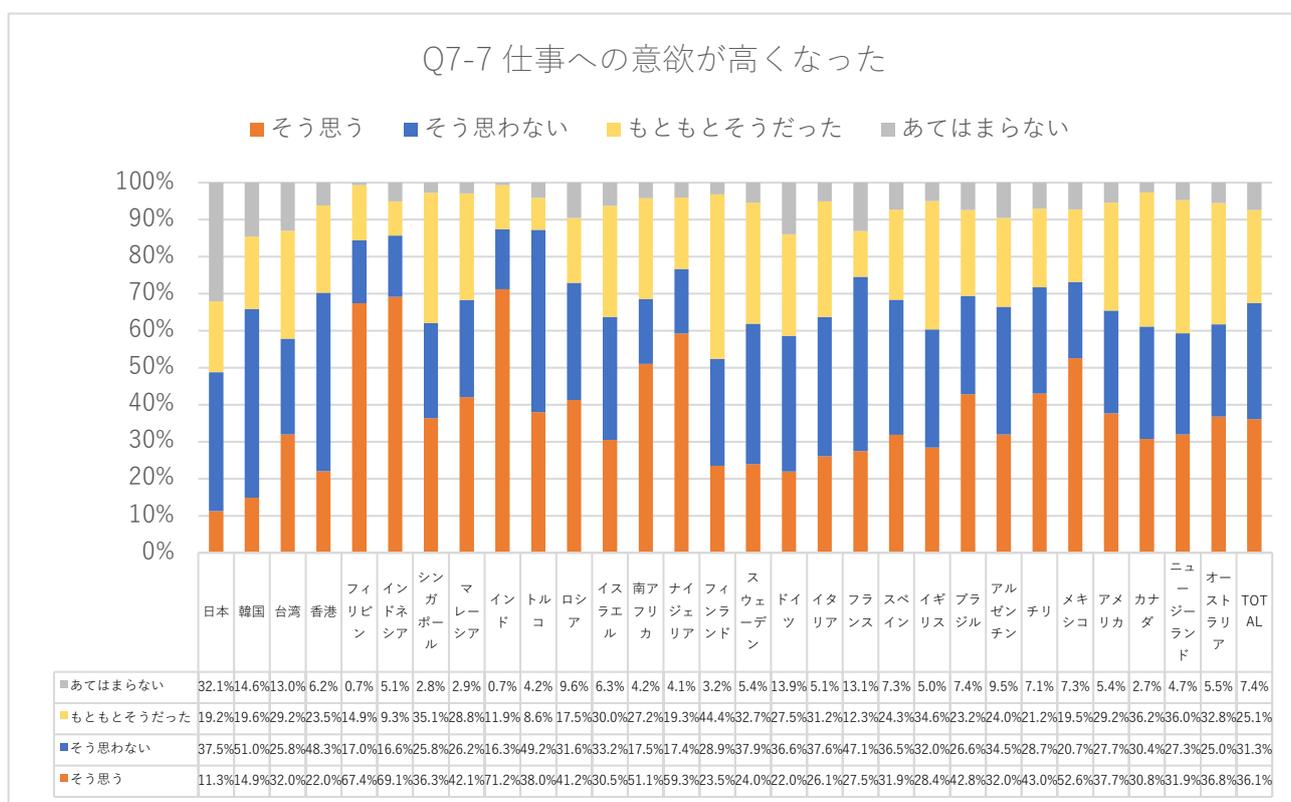
本調査では（図表 5-3-4）、プライベート重視への変化は東南アジア、インド、トルコ、アフリカ、中南米諸国において多く見られた。一方の先進諸国では、アメリカ、カナダ、台湾などが比較的高かったが、日本やドイツでは回答者全体の40%前後にとどまった。



図表 5-3-4 ワークライフバランスを重視するようになったか

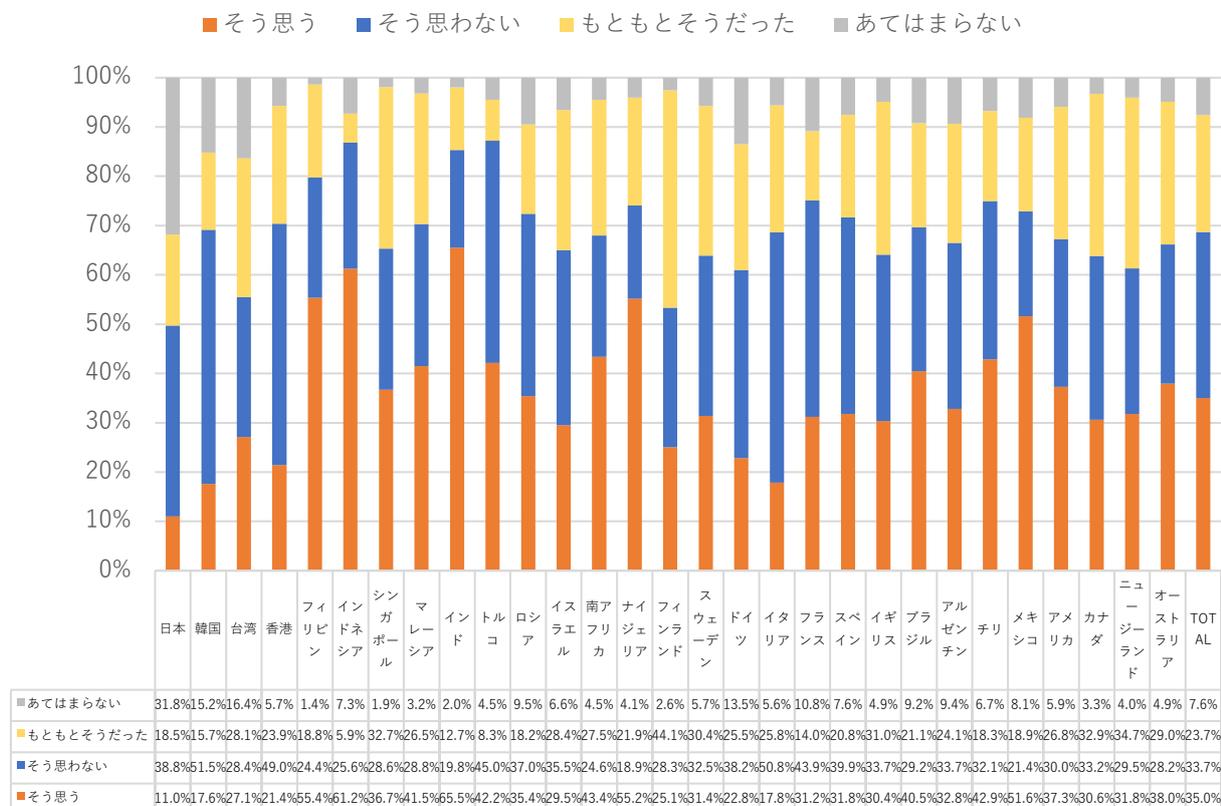
私たちが別途行った日本国内の調査（橋元ほか[2021], 橋元ほか[2022]）では、遠隔勤務に伴って自宅で過ごす時間や家族との交流が増えたことを遠隔勤務実施者の半数以上が肯定的に評価していたことから、上記の数字はやや低く出ている可能性も考えられる。しかし反面で、同じ調査において「仕事の効率が低下した」との意見も多数に上ったことに鑑みると、遠隔勤務が一方向的にプライベート重視につながると考えるのは早計なのかもしれない。

コロナ禍と仕事への意欲や満足の関係を示唆する結果が図表 5-3-5 と 5-3-6 である。こちらでも総じて東南アジア、アフリカ、中南米諸国の肯定的回答が多い傾向が見られるが、日本を筆頭に東アジアや欧米の先進諸国では否定的回答が肯定的回答を大きく上回っている。これらの国々ではコロナ禍による失業は低水準に抑えられながらも、遠隔勤務によってプライベートの一定の充実もあったと考えられるのだが、人々の回答を見る限りでは労働意欲の減退や不満の意識がどちらかと言えば高まっている結果である。これも様々な要因との関係を解きほぐさなければ実相は分からないが、例えば遠隔勤務などによる働き方や労働環境の変化に十分適応できなかつたり、同僚とのコミュニケーションが取りにくくなったことなどによる効率の低下が起きたりといった事情によって、仕事に十分打ち込めない、仕事からの達成感が得られないなどの負の効果が表れている可能性があるだろう。こうした点も、なぜ先進国で顕著で新興国や途上国では逆の回答傾向なのかといった比較も含めて、今後研究を深める必要があると考えられる。



図表 5-3-5 仕事への意欲が高くなったか

Q7-8 仕事の満足度が高くなった



図表 5-3-6 仕事への満足度が高くなったか

※Q7 では上記以外に「時差通勤」「給与のよい仕事に就きたいか」「人の役に立つ仕事がしたいか」などについても尋ねた。同結果については巻末の資料を参照されたい。

[参考文献]

橋元良明, 大野志郎, 天野美穂子, 堀川裕介, 篠田詩織, 2020, 『緊急事態宣言で人々の行動・意識はどう変わったか』丸善出版.

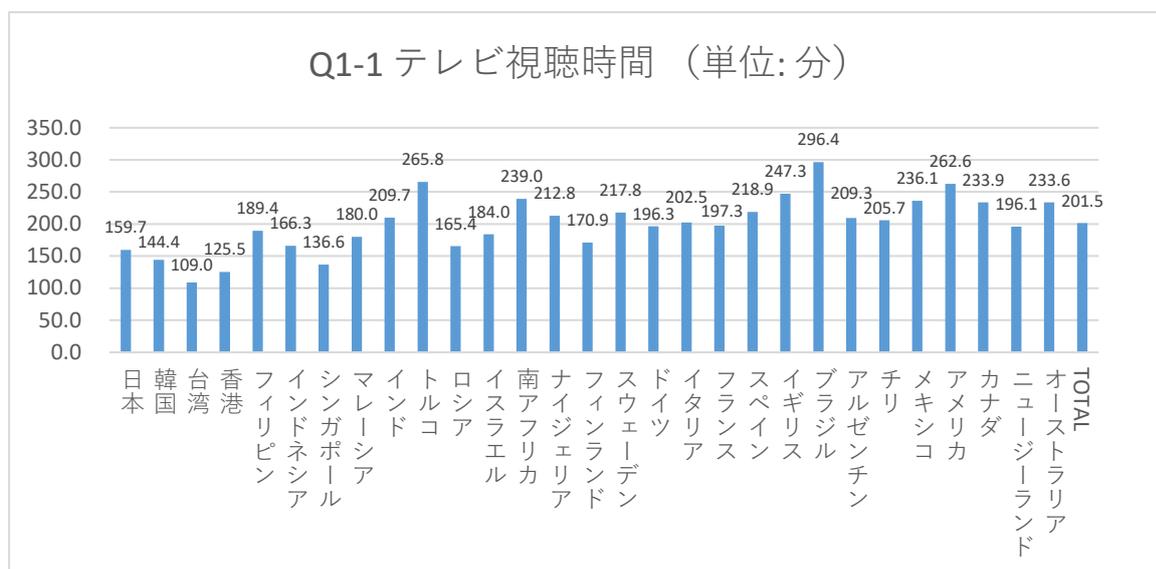
橋元良明, 大野志郎, 天野美穂子, 堀川裕介, 篠田詩織, 2021, 『コロナ禍の行動とメディアの影響 2021年1月』丸善出版.

第 6 章 コロナ禍のメディア利用

橋元良明

1 各種メディアへの接触時間

1.1 テレビ視聴時間



図表 6-1-1 テレビ視聴時間

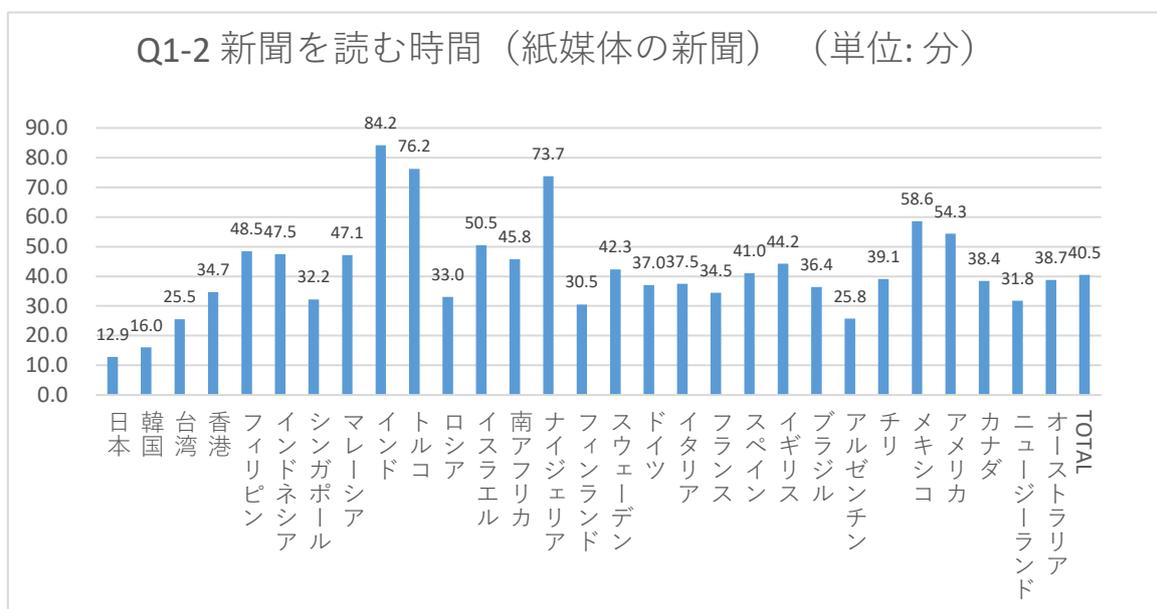
我々の調査では日頃のメディア接触時間についても質問している。質問文では各メディアとも「平日」かつ「プライベートな利用」に限定した時間量を自己報告で聞いた。なお、利用していない場合、利用時間を 0 として平均値の計算処理をした。

図表 6-1-1 はテレビ視聴時間を示したものである。テレビ視聴時間の上位 5 カ国は①ブラジル(296.4 分)、②トルコ(265.8 分)、③アメリカ(262.6 分)、④イギリス(247.3 分)、⑤南アフリカ(239.0 分)であり、日本は 159.7 分で第 25 位と 29 カ国中かなりの低位であった。最下位は台湾の 109.0 分である。ちなみに総務省情報通信政策研究所と橋元らが毎年実施している共同研究調査（「令和 3 年度情報通信メディアの利用時間と情報行動に関する調査」。全国対象訪問留置法によるもので N=1500）によれば日本人（13 歳から 69 歳、平日）の 2021 年度のテレビ視聴時間平均は 146.0 分で、今回の日本の調査結果がとりわけ少ない値であったわけではない。橋元編著(2021)によれば、日本人のテレビ視聴時間はこの 25 年でリニアに減少傾向にあり、一方でインターネットの利用時間が増加しているが、今回の日本の結果の場合、インターネットの利用時間が長いせいとその分、他国と比べてテレビ視聴時間が少な

いというわけでもない。なぜなら後述するようにインターネットの利用時間も 29 カ国中最下位だからである。

1.2 新聞閲読時間

図表 6-1-2 は新聞の閲読時間を示したものである。新聞閲読時間の上位 5 カ国は①インド (84.2 分)、②トルコ (76.2 分)、③ナイジェリア (73.7 分)、④メキシコ (58.6 分)、⑤アメリカ (54.3 分) であり、日本は 12.9 分で 29 カ国中最下位であった。前述の総務省と橋元らの共同研究調査によれば日本人の新聞閲読時間平均は 7.2 分であり、別の調査からも日本人の新聞閲読時間は極めて少ないようである。

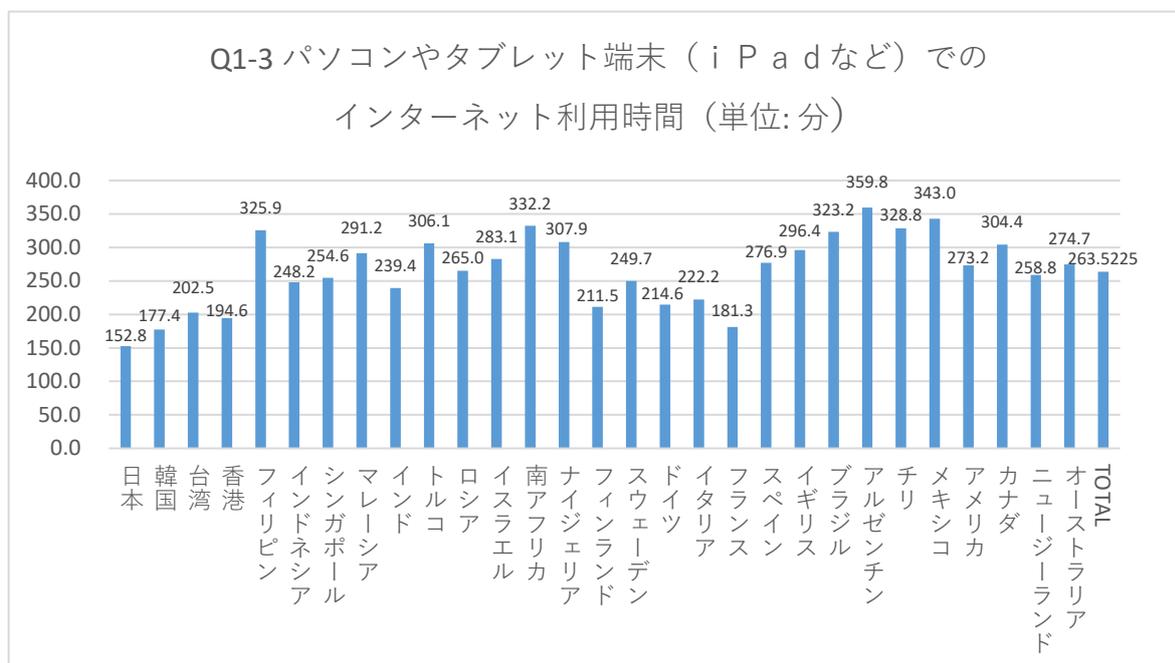


図表 6-1-2 新聞を読む時間

1.3 パソコンやタブレット端末でのインターネット利用時間

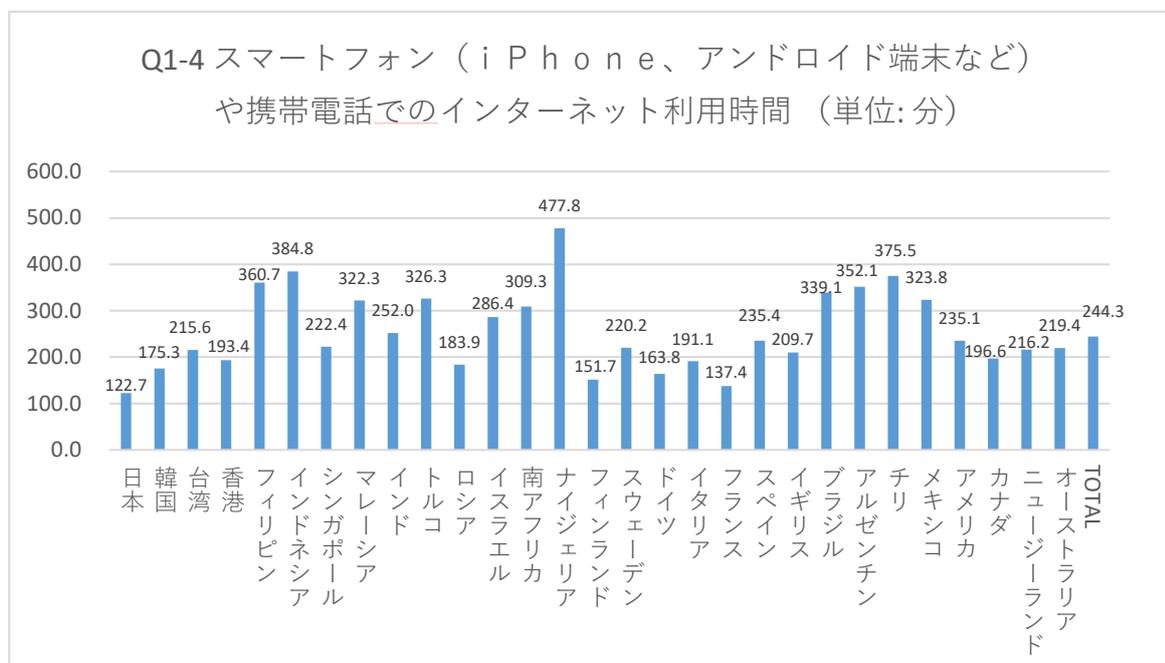
図表 6-1-3 はパソコンやタブレット端末でのインターネット利用時間を示したものである。この時間の上位 5 カ国は①アルゼンチン (359.8 分)、②メキシコ (343.0 分)、③南アフリカ (332.2 分)、④チリ (328.8 分)、⑤フィリピン (325.9 分) であり、その他、ブラジル (323.2 分、6 位) などの中南米諸国において時間が長い傾向にある。日本は 152.8 分で 29 カ国中最下位であった。前述の総務省と橋元らの共同研究調査によれば日本人の PC/タブレットによるインターネット利用時間の平均は 70.0 分であり、今回の調査の数値よりさらに低い。ちなみにアメリカは 273.2 分で第 15 位である。次に述べるように日本はスマートフォンによるインターネット利用時間も最下位であり、「インターネット利用がもっぱらスマートフォンによって行われているから PC/タブレットによるインターネット利用時間が少ない」と

いうわけでもない。



図表 6-1-3 パソコンやタブレット端末でのインターネット利用時間

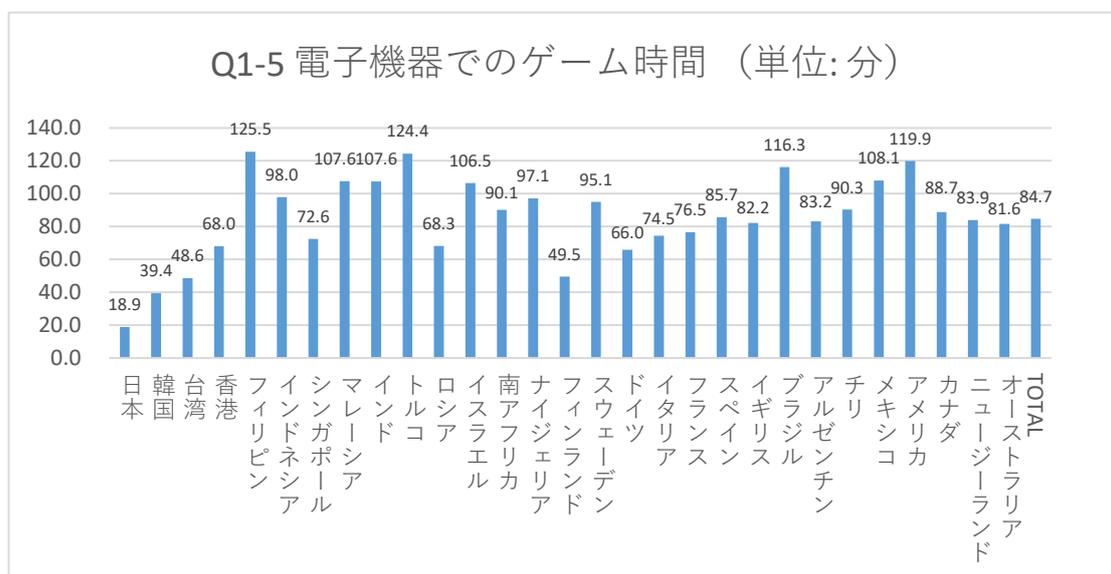
1.4 スマートフォンや携帯電話でのインターネット利用時間



図表 6-1-4 スマートフォンや携帯電話でのインターネット利用時間

図表 6-1-4 はスマートフォンや携帯電話でのインターネット利用時間を示したものである。この時間の上位 5 カ国は①ナイジェリア(477.8 分)、②インドネシア(384.8 分)、③チリ(375.5 分)、④フィリピン(360.7 分)、⑤アルゼンチン(352.1 分)で、島嶼国家、中南米諸国においてモバイルインターネットの利用時間が長く、固定電話の電話通信網の整備状況とは反比例する関係にある。また、概してひとりあたり GDP の低い国においてモバイルインターネットの利用時間が長い傾向にある。日本は 122.7 分で、PC/タブレットによるインターネット利用時間同様、モバイル機器によるインターネット利用時間も 29 カ国中最下位の第 29 位であった。ちなみにアメリカは 235.1 分で第 14 位である。総務省と橋元らの共同研究調査によれば日本人のスマートフォンによるインターネット利用時間の平均は 109.6 分であり、今回の調査の数値とほぼ同様である。デバイスを問わず、今回の調査で日本人のインターネット利用時間が極めて低い値を示した理由は不明であるが、(1)「プライベートの利用」という質問文を意識しすぎた、(2)動画やゲーム、ショッピングなどのためのアプリの利用を「インターネット利用」と認識しない人がいた、などのことがあるのかもしれない。実際、大学生に調査をすると、「スマホの動画視聴やゲームはインターネット利用ですか?」という質問をしにくる学生が存在する。

1.5 電子機器でのゲーム時間



図表 6-1-5 電子機器でのゲーム時間

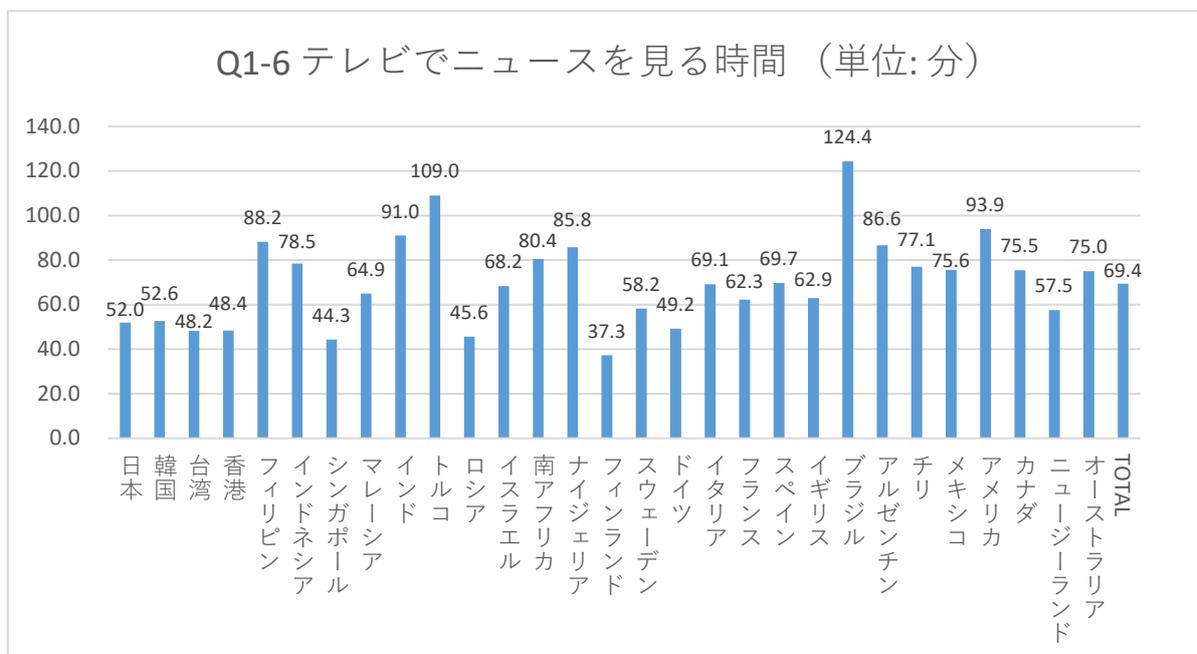
図表 6-1-5 は電子機器でのゲームの利用時間を示したものである。この質問は、将棋やトランプ、バックギャモンなどの遊具によるゲームを排したゲーム時間を問うものであり、英

語での調査では“Time spent playing games on electronic devices”としている。この時間の上位5カ国は①フィリピン(125.5分)、②トルコ(124.4分)、③アメリカ(119.9分)、④ブラジル(116.3分)、⑤メキシコ(108.1分)である。日本は18.9分で29カ国中最下位であった。総務省と橋元らの共同研究調査によれば、質問の文言は同一ではないが「オンラインゲームの利用時間」は20.3分であり、今回の調査の数値とほぼ同様である。この質問文はやや曖昧な点があり、「電子機器」としてPCやスマートフォンは含まれないと解した回答者がいた可能性は排除できない。電子機器によるゲーム時間は若年層で長く、中高年以上では短い傾向にあり、日本ではとくにその傾向が強いが、これは必ずしも日本に限った現象ではない。

1.6 テレビでニュースを見る時間

図表 6-1-6 はテレビでニュースを見る時間を示したものである。今回の調査であえて「ニュース視聴時間」を尋ねた理由の一つは、新型コロナウイルスに対する危機感や政府に対する批判意識がテレビニュースの視聴の多寡と関連をもつかどうかを分析するためである。

この時間の上位5カ国は①ブラジル(124.4分)、②トルコ(109.0分)、③アメリカ(93.9分)、④インド(91.0分)、⑤フィリピン(88.2分)である。上位3カ国は、図表 6-1-1 で示された「テレビ視聴時間」とまったく同じであるが、「テレビニュース視聴時間」が「テレビ視聴時間」の部分集合である以上、この結果は自然である。日本は52.0分で23位であり、テレビの視聴時間の25位とほぼ同様の位置にある。



図表 6-1-6 テレビでニュースを見る時間

テレビニュース視聴時間と「不安」「政府批判」との関連であるが、日本(東京)の1100サンプルを対象に、視聴時間と不安・政府批判関連の質問との順位相関分析を行った結果、図表6-1-7に示されるように、日本では仮説通り、テレビニュースの視聴時間が長いほど、新型コロナウイルスに対する不安が大きく、政府の対策に関するいくつかの項目の評価がマイナス(批判的)であった。ニュースの内容分析データを欠くため、確定的なことは言えないが、概してニュースでは新型コロナウイルスへの感染に注意を促し、検査対策の不備や医療体制の逼迫を扱った内容が多いことがこの結果につながったのではないかと推察される。

<危機感/不安> (「そう思う」なら係数が正)	ρ	p値	方向性
私が今もっとも恐れているのは新型コロナウイルスだ	0.192	<.0001	見るほど不安大
新型コロナウイルスのことを考えると不安になる	0.134	<.0001	見るほど不安大
<政府の対策評価> (「評価する」なら係数が正)			
新型コロナウイルス感染の検査体制	-0.063	0.038	見るほど批判的
医療体制の整備	-0.079	0.009	見るほど批判的
<政府の対策の全体的評価> (「そう思う」が係数が正)			
国の政府や自治体は、新型コロナウイルスへの十分な対策をとらなかった	0.097	0.001	見るほど批判的

図表 6-1-7 「テレビでニュースを見る時間」と「不安」「政府の対策評価」
との順位相関(ρ は順位相関係数。日本[東京]、N=1100)

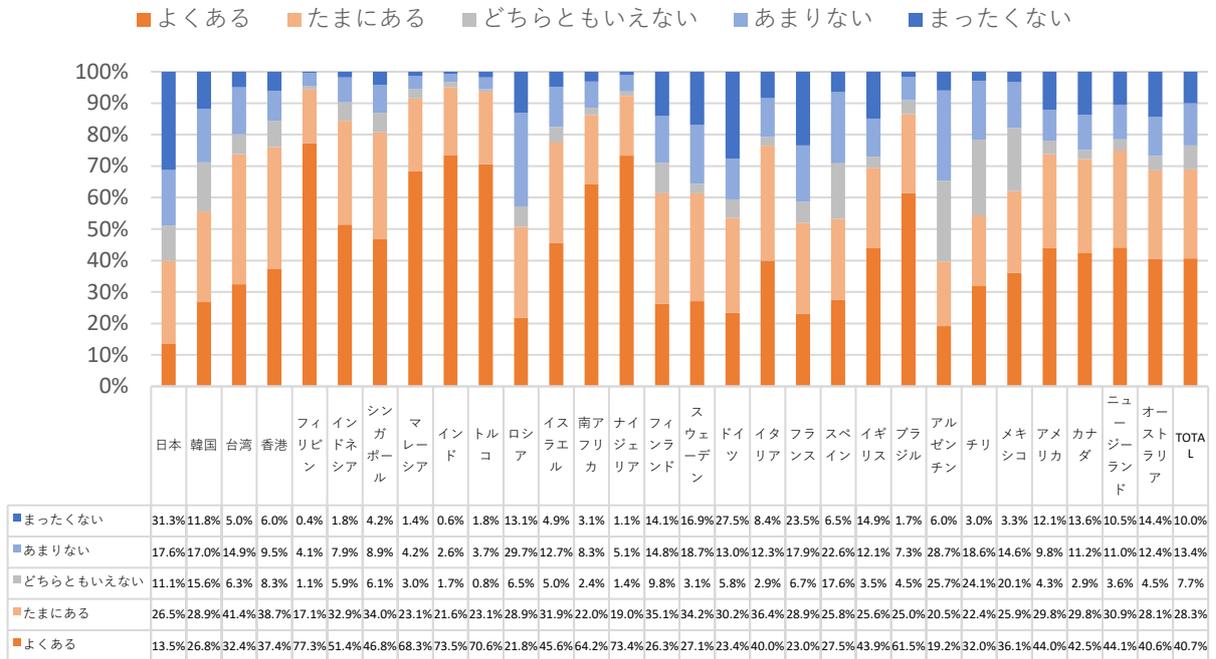
2 SNS、ブログ、ネット記事で新型コロナウイルス関連情報に接する頻度

2.1 SNSで新型コロナウイルス関連の投稿を読む頻度

図表6-2-1はSNSで新型コロナ関連投稿を読む頻度を示したものである。日本調査では、SNSについて「Twitter、LINE、Facebook、Instagramなど」という例示をつけているが、他の国の調査では各国の実情に合わせ「SNS」の名称および実例をローカライズしている(たとえば英国調査ではSNSではなくSocial mediaとし、LINEの代わりにWhatsAppを例示している)。

この質問は各国版とも選択肢は5択(日本調査では「よくある」「たまにある」「どちらともいえない」「あまりない」「まったくない」)であるが、このように中間項(どちらともいえない)を選択肢に入れた場合、日本人の回答はその中間項に偏り、両極選択肢の回答比率が低くなる傾向が往々にしてみられる。そのため、本章では(1)肯定的回答(「よくある」と「たまにある」の合計。「ある」と略記)、(2)中間(「どちらともいえない」)、(3)否定的回答(「あまりない」と「まったくない」の合計。「ない」と略記)の3値に分けたデータで記述する。なお、Q2の回答対象者は、SNSやブログの非利用者も含め、調査対象者全体である。

Q2-1 「SNS (Twitter、LINE、Facebook、Instagram など) で新型コロナウイルス関連の投稿を読む」頻度



図表 6-2-1 SNS で新型コロナ関連投稿をよむ頻度

「ある」の回答比率の上位 5 カ国は①インド(95.0%)、②フィリピン(94.4%)、③トルコ(93.7%)、④ナイジェリア(92.4%)、⑤マレーシア(91.5%)であった。日本は 40.0%で 29 カ国中第 27 位であった。反対の「ない」の比率では日本は 48.9%で第 2 位である。元の 5 値の「よくある」だけの順位を見れば日本は 13.5%で最下位の第 29 位、第 1 位はフィリピンの 77.3%である。ちなみに、アメリカの「ある」(3 値)の回答比率は 73.8%で第 15 位である。

Q1 によれば、日本は今回の対象国中、PC/タブレットであれ、スマートフォンであれ、インターネット利用時間が調査対象国の他国より極めて少ない。それに連動して SNS の利用時間自体が他国より少なく、それが結果に反映された可能性がある。また、SNS のメッセージの内容分析データを欠いているために推測になるが、日本の SNS では政治的意見の交換が少なく、新型コロナのような社会的争点に関するメッセージ自体も全体的に少ない傾向にあり、そのことが影響しているとも考えられる。

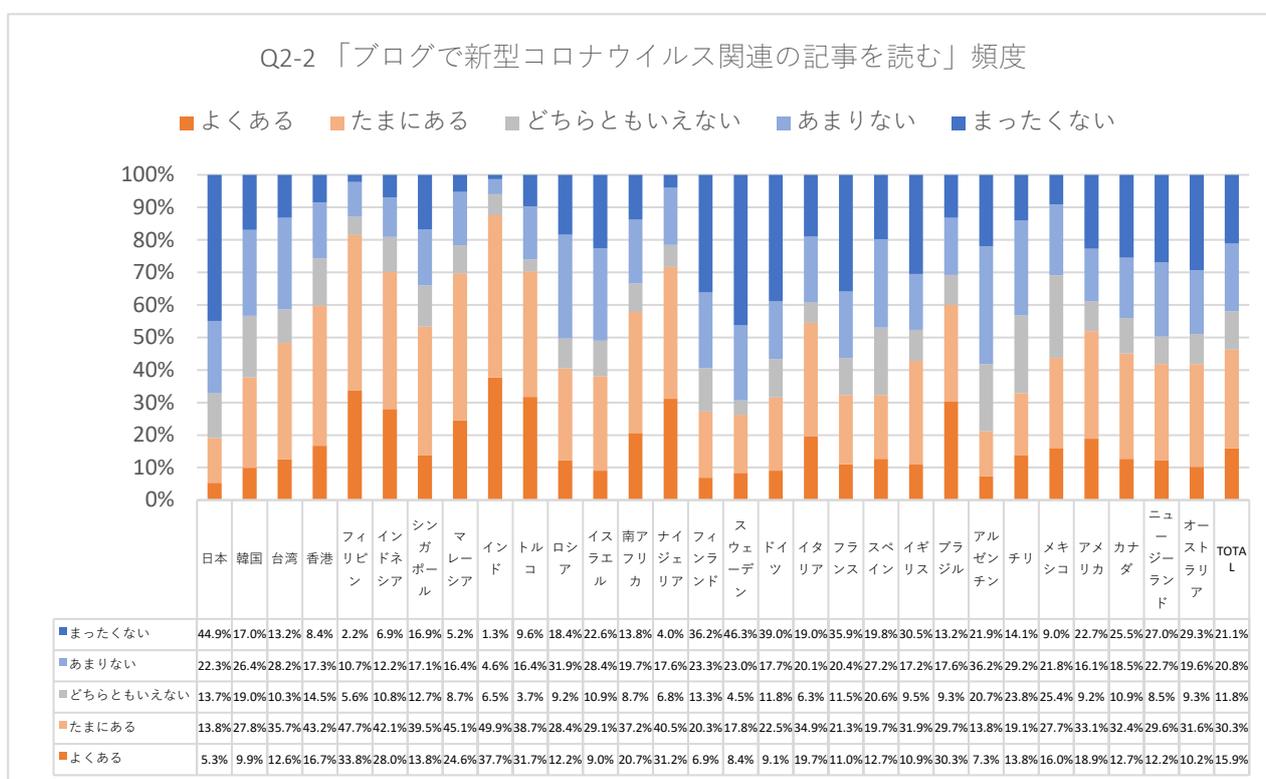
2.2 ブログで新型コロナウイルス関連の記事を読む頻度

本項でも、(1)肯定的回答(「よくある」と「たまにある」の合計。「ある」と略記)、(2)中間(「どちらともいえない」)、(3)否定的回答(「あまりない」と「まったくない」の合計。「な

い」と略記)の3値に分けたデータで記述する。

「ある」の回答比率の上位5カ国は①インド(87.6%)、②フィリピン(81.5%)、③ナイジェリア(71.7%)、④トルコ(70.3%)、⑤インドネシア(70.1%)であり、上位5位中4カ国が「SNSで新型コロナウイルス関連の投稿を読む頻度」と同じ顔ぶれである。日本は19.1%で29カ国中最下位の第29位であった。反対の「ない」の比率では日本は67.2%で第2位である。元の5値の「よくある」だけの順位を見れば日本は5.3%で最下位の第29位、第1位はインドの37.7%である。ちなみに、アメリカの「ある」(3値)の回答比率は52.0%で第12位である。

本項に関しても、前項同様、日本のインターネット利用時間が調査対象国の他国より極めて少ないことが影響していると考えられ、また、日本のブログでは新型コロナのような社会的争点に関する記述自体が、ブログ全体からみれば他国と比較して少ない可能性もある。



図表 6-2-2 ブログで新型コロナ関連の記事を読む頻度

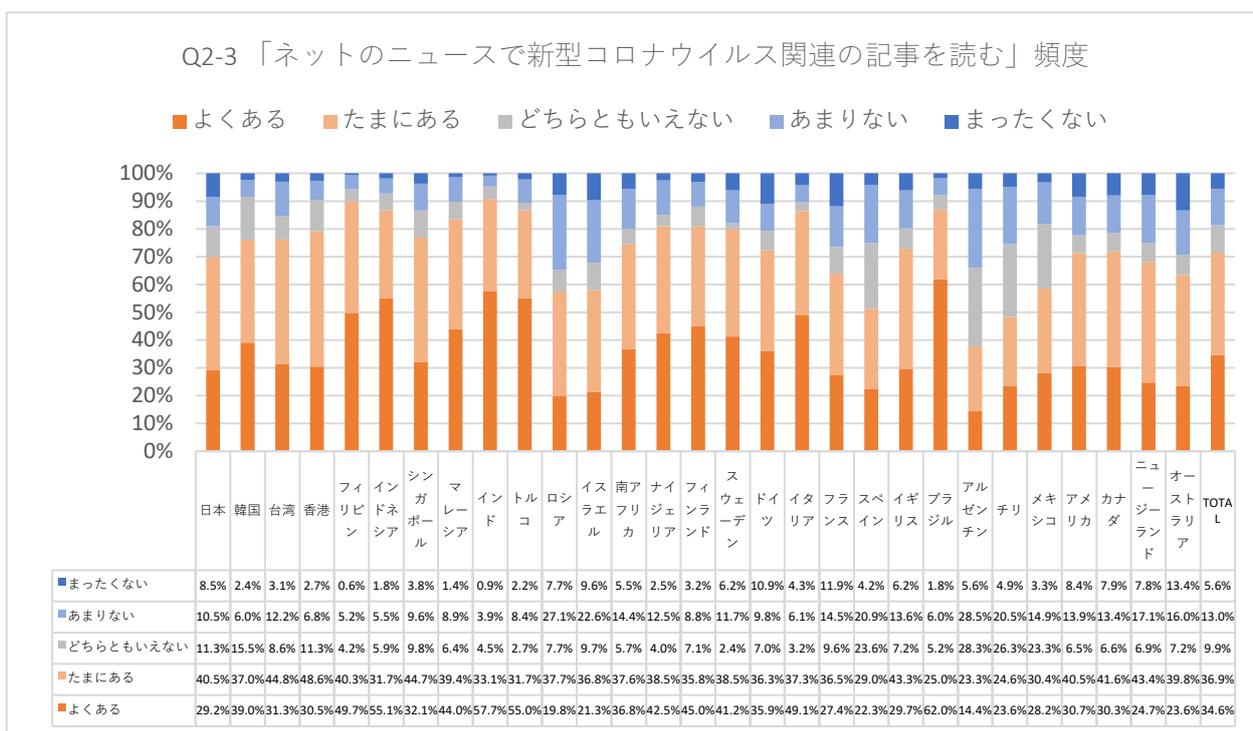
2.3 ネットのニュースで新型コロナウイルス関連の記事を読む頻度

本項でも、(1)肯定的回答(「よくある」と「たまにある」の合計。「ある」と略記)、(2)中間(「どちらともいえない」)、(3)否定的回答(「あまりない」と「まったくない」の合計。「ない」と略記)の3値に分けたデータで記述する。

「ある」の回答比率の上位5カ国は①インド(90.7%)、②フィリピン(90.0%)、③ブラジル

(87.0%)、④インドネシア(86.8%)、⑤トルコ(86.7%)であり、上位5位中4カ国が「ブログで新型コロナに関連する記事を読む頻度」と同じ顔ぶれである。日本は69.7%で29カ国中第20位であった。反対の「ない」の比率では日本は19.0%で第14位である。元の5値の「よくある」だけの順位を見れば日本は29.2%で第20位、第1位はブラジルの62.0%である。ちなみに、アメリカの「ある」(3値)の回答比率は71.2%で第19位である。

本項に関しても、前項同様、日本のインターネット利用時間が調査対象国の他国より極めて少ないことが関係していると考えられる。

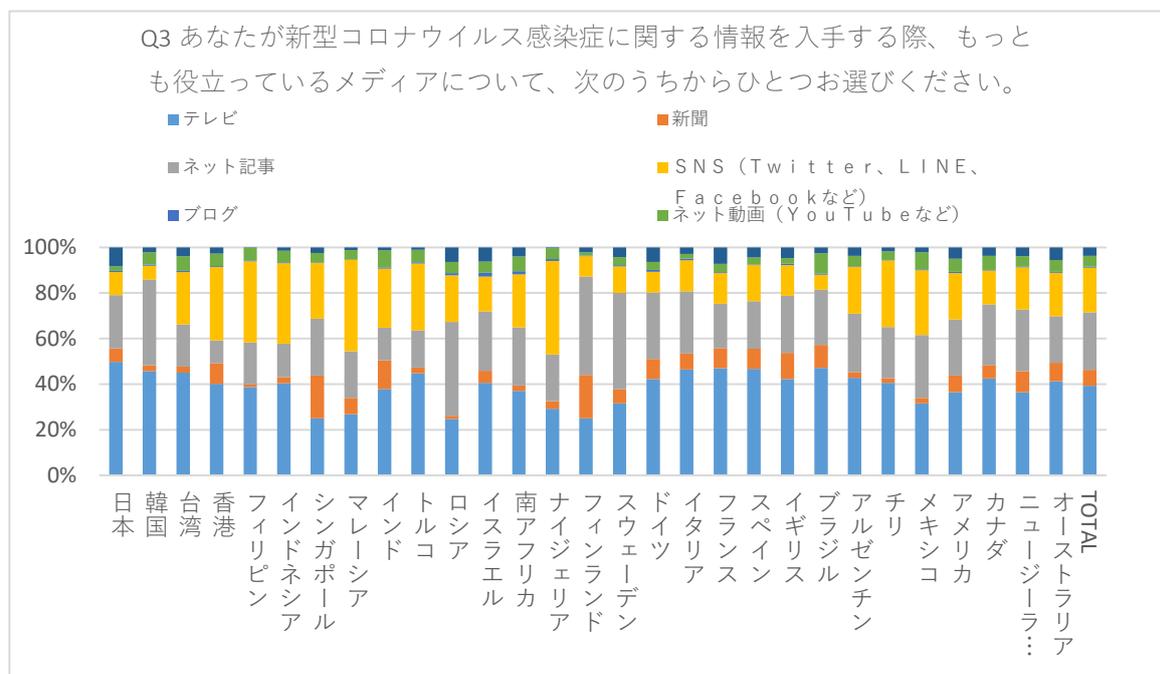


図表 6-2-3 ネットのニュースで新型コロナ関連の記事を読む頻度

3 新型コロナウイルス感染症に関する情報入手でもっとも役立っているメディア

新型コロナウイルス感染症に関する情報を入手する際、もっとも役立っているメディアを「テレビ」「新聞」「ネット記事」「SNS (Twitter、LINE、facebook など)」「ブログ」「ネット動画(YouTube など)」から一つ選択する質問の回答比率の分布を示したのが図 6-3-1 である。SNS については、各国の実情に合わせ「SNS」の名称および実例をローカライズしている (たとえば英国調査では SNS ではなく Social media とし、LINE の代わりに WhatsApp を例示した)。

全体(total)では、1位にあげられたメディアの平均比率は、多い順に(1)「テレビ」が39.2%、(2)「ネット記事」が25.2%、(3)「SNS」が19.6%、(4)「新聞」が7.0%、(5)「ネット動画」が4.7%、(6)「ブログ」が0.5%であり、マスメディアの「テレビ」が依然、役立ち度が高いつも高いという結果が見られる。



	日本	韓国	台湾	香港	フィリピン	インドネシア	シンガポール	マレーシア	インド	トルコ	ロシア	イスラエル	南アフリカ	ナイジェリア	フィンランド	スウェーデン	ドイツ	イタリア	フランス	スペイン	イギリス	ブラジル	アルゼンチン	チリ	メキシコ	アメリカ	カナダ	ニュージーランド	オーストラリア	TOTAL
テレビ	49.8	45.8	45.0	40.1	38.7	40.4	25.0	26.9	37.8	44.8	24.8	40.5	37.0	29.2	25.0	31.6	42.3	46.5	47.0	46.7	42.3	47.1	42.9	40.6	31.6	36.5	42.5	36.5	41.2	39.2
新聞	5.9	2.5	2.7	9.1	1.1	2.6	18.8	7.1	12.7	2.5	1.4	5.4	2.4	3.4	19.1	6.1	8.8	6.9	8.9	8.8	11.4	10.2	2.5	2.0	2.4	7.2	5.9	9.3	8.2	7.0
ネット記事	23.4	37.7	18.5	10.0	18.5	14.8	24.8	20.4	14.2	16.4	41.1	26.1	25.6	20.4	43.2	42.3	29.2	27.4	19.5	20.9	25.1	24.2	25.6	22.5	27.7	24.7	26.6	27.0	20.4	25.2
SNS (Twitter、LINE、Facebookなど)	10.2	5.9	22.9	32.1	35.5	35.2	24.6	40.1	25.9	29.2	20.4	15.2	23.2	41.1	9.0	11.6	9.2	13.6	13.5	15.8	13.4	6.6	20.6	29.1	28.4	20.3	14.8	18.6	19.1	19.6
ブログ	0.5	0.6	0.6	0.5	0.5	0.4	0.2	0.2	0.6	0.6	1.1	1.7	1.4	0.8	0.2	0.5	0.8	0.7	0.4	0.2	0.7	0.5	0.3	0.2	0.4	0.5	0.3	0.4	0.4	0.5
ネット動画 (YouTubeなど)	2.0	5.3	6.5	5.4	5.4	5.1	4.1	4.2	7.4	5.5	4.8	4.9	6.5	4.8	1.5	3.5	3.5	2.1	3.6	3.1	2.5	8.9	4.5	3.9	7.4	5.8	6.2	4.4	5.2	4.7
この中には役に立っていないものはない	8.3	2.2	3.8	2.7	0.2	1.4	2.4	1.1	1.3	1.0	6.4	6.2	3.9	0.3	2.1	4.3	6.4	2.8	7.2	4.4	4.6	2.5	3.7	1.7	2.2	4.9	3.7	3.9	5.5	3.7

図表 6-3-1 新型コロナウイルス感染症に関する情報を入手する際、もっとも役立っているメディア (SA)

「テレビ」を1位とした上位5カ国は①日本(49.8%)、②ブラジル(47.1%)、③フランス(47.0%)、④スペイン(46.7%)、⑤イタリア(46.5%)である。アメリカは36.5%で第21位で

ある。日本のテレビ視聴時間は、本調査では第 25 位にすぎないが、新型コロナウイルスに関し、役立つメディアとしての評価は第 1 位であることは興味深い。

「ネット記事」を 1 位とした上位 5 カ国は①フィンランド(43.2%)、②スウェーデン(42.3%)、③ロシア(41.1%)、④韓国(37.7%)、⑤ドイツ(29.2%)であり、日本は 23.4%で第 17 位、アメリカは 24.7%で第 15 位であった。

「SNS」を 1 位とした上位 5 カ国は①ナイジェリア (41.1%)、②マレーシア (40.1%)、③フィリピン (35.5%)、④インドネシア (35.2%)、⑤香港(32.1%)であり、日本は 10.2%で第 25 位、アメリカは 20.3%で第 15 位であった。

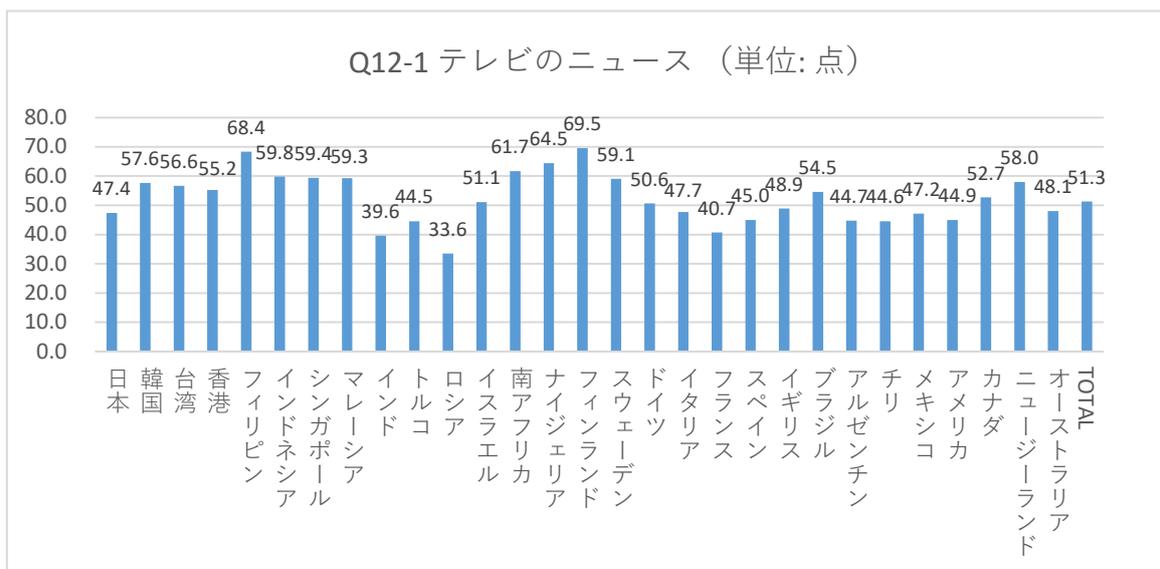
「新聞」を 1 位とした上位 5 カ国は①フィンランド(19.1%)、②シンガポール(18.8%)、③インド(12.7%)、④イギリス(11.4%)、⑤ブラジル(10.2%)であり、日本は 5.9%で第 16 位、アメリカは 7.2%で第 12 位であった。

「ネット動画」を 1 位とした上位 5 カ国は①ブラジル (8.9%)、②インド(7.4%)、同率②メキシコ(7.4%)、④台湾(6.5%)、同率④南アフリカ (6.5%)であり、日本は 2.0%で第 28 位、アメリカが 5.8%で第 7 位であった。

「ブログ」を 1 位とした上位 5 カ国は①イスラエル(1.7%)、②南アフリカ(1.4%)、③ロシア (1.1%)、④ドイツ(0.8%)、同率で④ナイジェリア(0.8%)であり、日本は 0.5%で第 12 位、アメリカも 0.5%で同率 12 位であった。

4 各種メディアの信頼度

4.1 テレビニュース



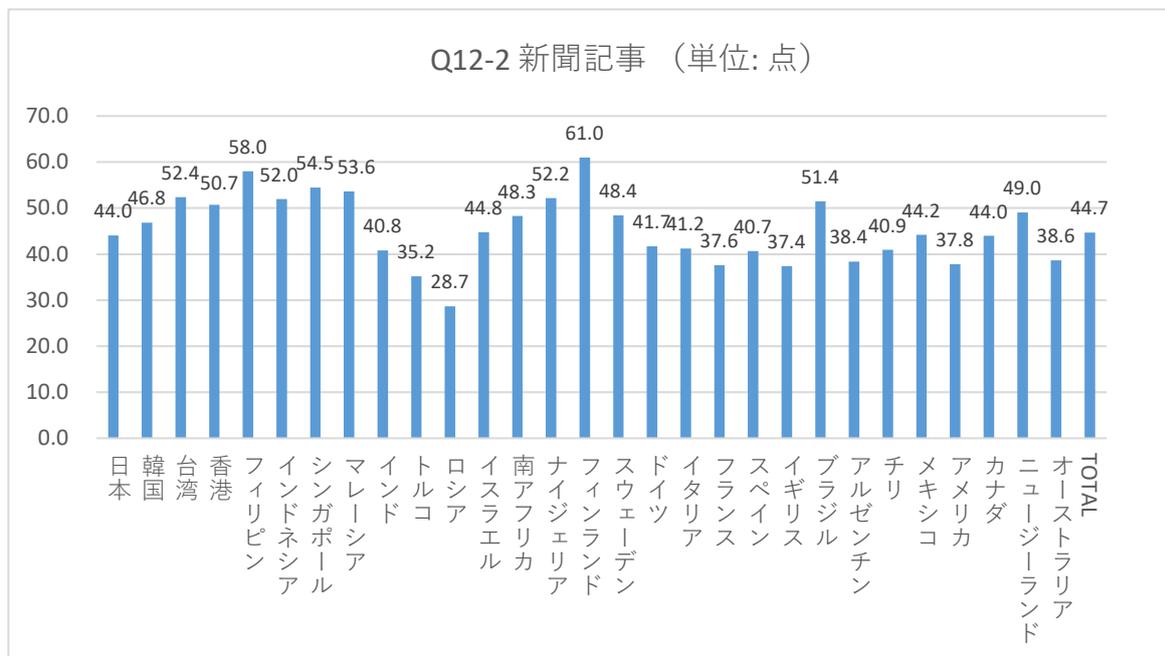
図表 6-4-1 テレビニュースの信頼度

今回の調査では、いくつかのメディア情報および「政府の発表情報」について「次の記事、情報について、全面的に信頼している場合は100点、まったく信頼していない場合は0点、普通の場合は50点として、0点から100点までの点数をご記入ください」という質問文で信頼の度合いを評価してもらった。

まず「テレビのニュース」に関する点数の平均値は図表6-4-1の通りである。点数の高いものから上位5カ国は①フィンランド(69.5%)、②フィリピン(68.4%)、③ナイジェリア(64.5%)、④南アフリカ(61.7%)、⑤インドネシア(59.8%)であった。日本は47.4%で第20位、アメリカは44.9%で第23位であり、日米両国ともテレビニュースに対する信頼度はあまり高くない。ちなみに最下位の29位は33.6%のロシアである。

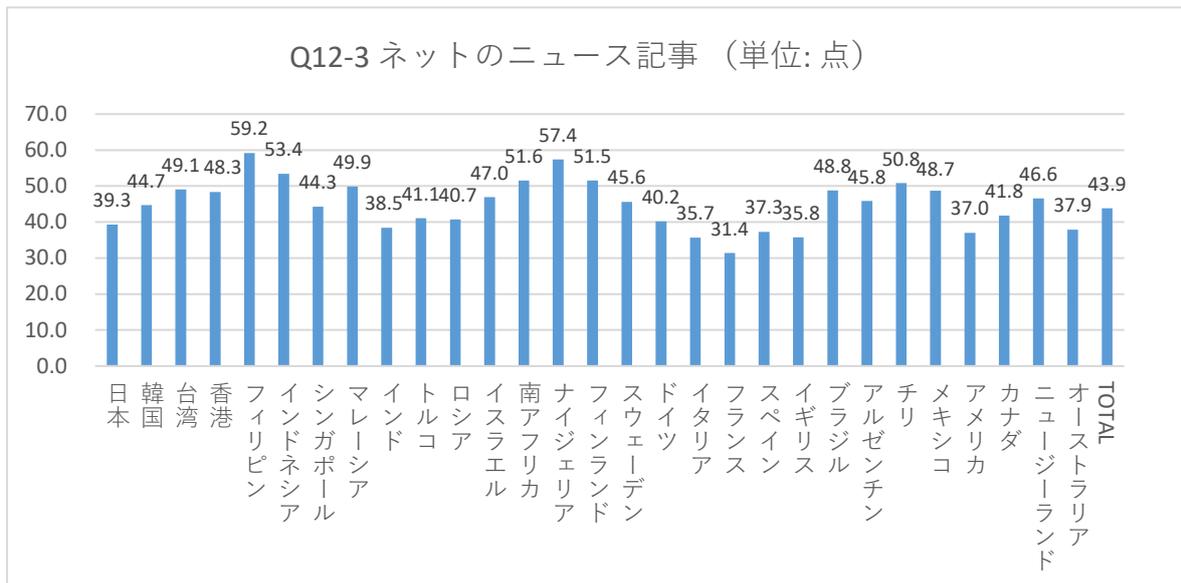
4.2 新聞記事

「新聞記事」に関する点数の平均値は図表6-4-2の通りである。点数の高いものから上位5カ国は①フィンランド(61.0%)、②フィリピン(58.0%)、③シンガポール(54.5%)、④マレーシア(53.6%)、⑤台湾(52.4%)であり、第1位と第2位はテレビニュースと同じフィンランドとフィリピンであった。日本は44.0%で第16位と29カ国中ほぼ中位、アメリカは37.8%で第25位と下位に属する。最下位はテレビと同様28.7%でロシアであり、ロシアでのマスメディアの信頼性評価は極めて低い。



図表 6-4-2 新聞記事の信頼度

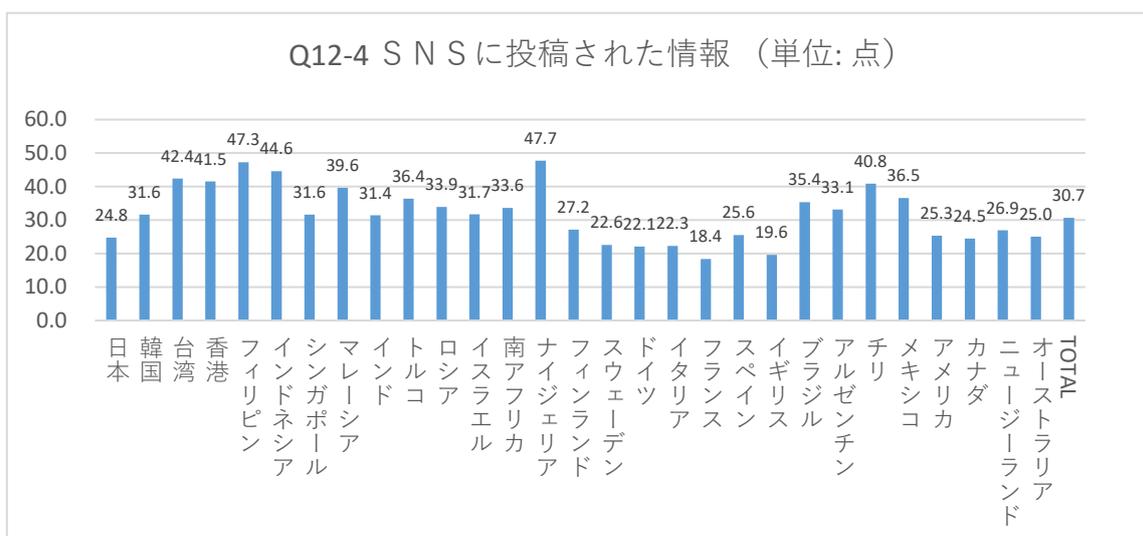
4.3 ネットのニュース記事



図表 6-4-3 ネットのニュース記事の信頼度

「ネットのニュース記事」に関する点数の平均値は図表 6-4-3 の通りである。点数の高いものから上位 5 カ国は①フィリピン(59.2%)、②ナイジェリア(57.4%)、③インドネシア(53.4%)、④南アフリカ(51.6%)、⑤フィンランド(51.5%)である。日本は 39.3%で第 22 位、アメリカは 37.0%で第 26 位と両国とも下位に属する。最下位の位第 29 位はフランスの 31.4%であった。

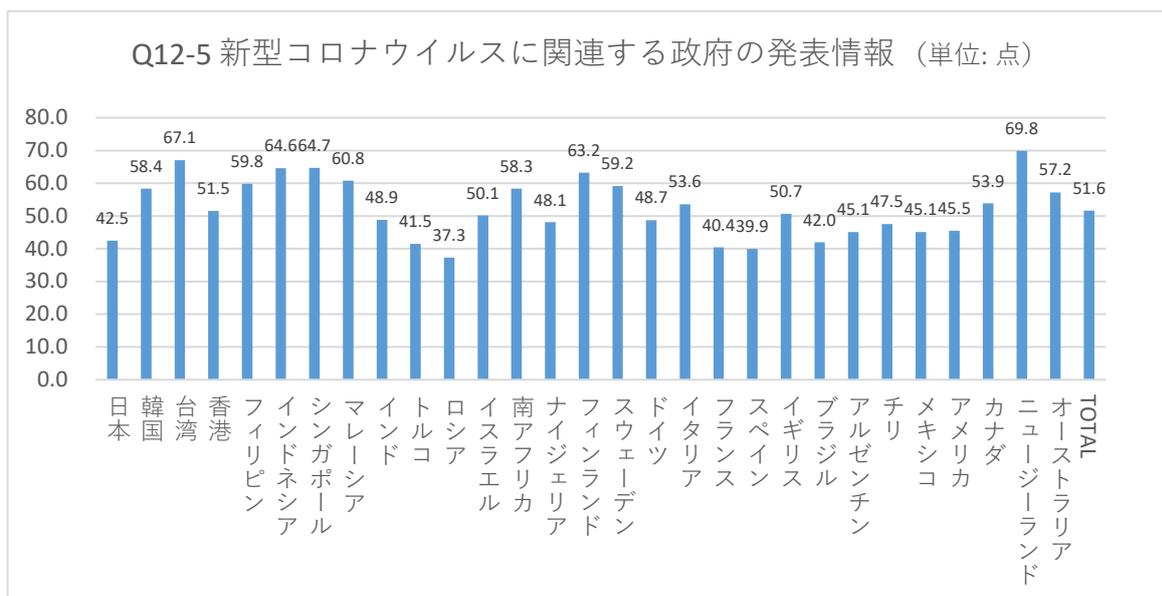
4.4 SNSに投稿された情報



図表 6-4-4 SNS に投稿された情報の信頼度

「SNS に投稿された情報」に関する点数の平均値は図表 6-4-4 の通りである。点数の高いものから上位 5 カ国は①ナイジェリア(47.7%)、②フィリピン(47.3%)、③インドネシア(44.6%)、④台湾(42.4%)⑤香港(41.5%)であり、日本は 24.8%で第 23 位、アメリカは 25.3%で第 21 位と、両国とも 29 カ国中下位に属する。

4.5 新型コロナウイルスに関連する政府の発表情報



図表 6-4-5 新型コロナウイルスに関連する政府の発表情報の信頼度

「新型コロナウイルスに関連する政府の発表情報」に関する点数の平均値は図表 6-4-5 の通りである。点数の高いものから上位 5 カ国は①ニュージーランド(69.8%)、②台湾(67.1%)、③シンガポール(64.7%)、④インドネシア(64.6%)、⑤フィンランド(63.2%)であった。新型コロナウイルス感染症対策が比較的良好な国において、政府情報の信頼度が高い傾向にある。日本は 42.5%で第 24 位、アメリカは 45.5%で第 21 位と、両国とも下位に属する。最下位の第 29 位は 37.3%のロシアであった。

[参考文献]

橋元良明編著, 2021, 『日本人の情報行動 2020』東京大学出版会。

資料

各国サンプルの分布

単純集計グラフ

調査票（日本語版）

資料1. 各国サンプルの分布

日本

	男性	女性	その他・ 答えたくない	合計
10代	50	50		100
20代	100	100		200
30代	100	100		200
40代	100	100		200
50代	100	100		200
60代	100	100		200
合計	550	550		1100

世帯年収	人数
200万円未満	100
200万円以上～400万円未満	182
400万円以上～600万円未満	182
600万円以上～800万円未満	144
800万円以上	237
わからない、答えたくない	255
合計	1100

職業	人数
フルタイムで働いている	602
パートタイム、アルバイト	118
専業主婦（夫）	138
学生・生徒	138
無職（退職後の生活を含む）	104
合計	1100

最終学歴	人数
小学校・中学校	34
高校	221
短大・高専、専門学校	193
大学・大学院	631
あてはまるものはない	21
合計	1100

韓国

	男性	女性	その他・ 答えたくない	合計
10代	26	29		55
20代	100	100		200
30代	100	100		200
40代	100	100		200
50代	100	100		200
60代	100	95		195
合計	526	524		1050

世帯年収	人数
30,000,000 KRW未満	186
30,000,000 - 44,999,999 KRW	204
45,000,000 - 59,999,999 KRW	197
60,000,000 - 89,999,999 KRW	250
90,000,000 KRW以上	148
わからない、答えたくない	65
合計	1050

職業	人数
フルタイムで働いている	599
パートタイム、アルバイト	127
専業主婦（夫）	108
学生・生徒	127
無職（退職後の生活を含む）	89
合計	1050

最終学歴	人数
小学校・中学校	10
高校	189
短大・高専、専門学校	115
大学・大学院	732
あてはまるものはない	4
合計	1050

台湾

	男性	女性	その他・ 答えたくない	合計
10代	18	19		37
20代	50	50		100
30代	50	50		100
40代	50	50		100
50代	50	50		100
60代	50	37		87
合計	268	256		524

世帯年収	人数
500,000 TWD未満	94
500,000 - 899,999 TWD	117
900,000 - 1,299,999 TWD	125
1,300,000 - 1,649,999 TWD	84
1,650,000 TWD以上	84
わからない、答えたくない	20
合計	524

職業	人数
フルタイムで働いている	350
パートタイム、アルバイト	41
専業主婦（夫）	16
学生・生徒	55
無職（退職後の生活を含む）	62
合計	524

最終学歴	人数
小学校・中学校	4
高校	23
短大・高専、専門学校	104
大学・大学院	393
あてはまるものはない	0
合計	524

香港

	男性	女性	その他・ 答えたくない	合計
10代	49	50	2	101
20代	99	99	2	200
30代	100	100	0	200
40代	100	100	0	200
50代	100	100	0	200
60代	52	43	0	95
合計	500	492	4	996

世帯年収	人数
HKD 60,000未満	59
HKD 60,000 - HKD 199,999	94
HKD 200,000 - HKD 499,999	353
HKD 500,000 - HKD 699,999	272
HKD 700,000以上	187
わからない、答えたくない	31
合計	996

職業	人数
フルタイムで働いている	718
パートタイム、アルバイト	86
専業主婦（夫）	28
学生・生徒	115
無職（退職後の生活を含む）	49
合計	996

最終学歴	人数
小学校・中学校	15
高校	239
短大・高専、専門学校	181
大学・大学院	555
あてはまるものはない	6
合計	996

フィリピン

	男性	女性	その他・ 答えたくない	合計
10代	50	50		100
20代	100	100		200
30代	100	100		200
40代	100	100		200
50代	100	100		200
60代	23	38		61
合計	473	488		961

世帯年収	人数
PHP 20,000未満	132
PHP 20,000 - 39,999	167
PHP 40,000 - 59,999	177
PHP 60,000 - 250,000	186
PHP 250,001以上	264
わからない、答えたくない	35
合計	961

職業	人数
フルタイムで働いている	499
パートタイム、アルバイト	207
専業主婦（夫）	58
学生・生徒	116
無職（退職後の生活を含む）	81
合計	961

最終学歴	人数
小学校・中学校	6
高校	114
短大・高専、専門学校	167
大学・大学院	674
あてはまるものはない	0
合計	961

インドネシア

	男性	女性	その他・ 答えたくない	合計
10代	25	25		50
20代	50	50		100
30代	50	50		100
40代	50	50		100
50代	50	50		100
60代	14	28		42
合計	239	253		492

世帯年収	人数
15,000,000 IDR未満	76
15,000,000 - 30,000,000 IDR	40
30,000,001 - 60,000,000 IDR	71
60,000,001 - 180,000,000 IDR	136
180,000,001以上	140
わからない、答えたくない	29
合計	492

世帯年収	人数
15,000,000 IDR未満	76
15,000,000 - 30,000,000 IDR	40
30,000,001 - 60,000,000 IDR	71
60,000,001 - 180,000,000 IDR	136
180,000,001以上	140
わからない、答えたくない	29
合計	492

最終学歴	人数
小学校・中学校	13
高校	113
短大・高専、専門学校	62
大学・大学院	301
あてはまるものはない	3
合計	492

シンガポール

	男性	女性	その他・ 答えたくない	合計
10代	49	49	2	100
20代	99	99	2	200
30代	100	100	0	200
40代	100	100	0	200
50代	100	100	0	200
60代	92	70	0	162
合計	540	518	4	1062

世帯年収	人数
SGD 12,000未満	112
SGD 12,001 - 35,000	129
SGD 35,001 - 60,000	200
SGD 60,001 - 95,000	258
SGD 95,001以上	314
わからない、答えたくない	49
合計	1062

世帯年収	人数
SGD 12,000未満	112
SGD 12,001 - 35,000	129
SGD 35,001 - 60,000	200
SGD 60,001 - 95,000	258
SGD 95,001以上	314
わからない、答えたくない	49
合計	1062

世帯年収	人数
SGD 12,000未満	112
SGD 12,001 - 35,000	129
SGD 35,001 - 60,000	200
SGD 60,001 - 95,000	258
SGD 95,001以上	314
わからない、答えたくない	49
合計	1062

マレーシア

	男性	女性	その他・ 答えたくない	合計
10代	31	50	2	83
20代	100	100	0	200
30代	100	100	0	200
40代	100	100	0	200
50代	78	55	0	133
60代	42	20	0	62
合計	451	425	2	878

世帯年収	人数
12,000 MYR未満	107
12,001 - 34,999 MYR	115
35,000 - 59,999 MYR	179
60,000 - 100,000 MYR	248
100,001 MYR以上	187
わからない、答えたくない	42
合計	878

職業	人数
フルタイムで働いている	572
パートタイム、アルバイト	108
専業主婦（夫）	30
学生・生徒	110
無職（退職後の生活を含む）	58
合計	878

最終学歴	人数
小学校・中学校	9
高校	139
短大・高専、専門学校	161
大学・大学院	562
あてはまるものはない	7
合計	878

インド

	男性	女性	その他・ 答えたくない	合計
10代	49	49	2	100
20代	100	100	0	200
30代	100	100	0	200
40代	100	100	0	200
50代	87	59	0	146
60代	48	34	0	82
合計	484	442	2	928

世帯年収	人数
300,000 INR未満	102
300,001 to 1,000,000 INR	268
1,000,001 to 1,500,000 INR	198
1,500,001 to 4,999,999 INR	215
5,000,000 INR以上	112
わからない、答えたくない	33
合計	928

職業	人数
フルタイムで働いている	683
パートタイム、アルバイト	80
専業主婦（夫）	36
学生・生徒	107
無職（退職後の生活を含む）	22
合計	928

最終学歴	人数
小学校・中学校	19
高校	99
短大・高専、専門学校	18
大学・大学院	792
あてはまるものはない	0
合計	928

トルコ

	男性	女性	その他・ 答えたくない	合計
10代	25	25		50
20代	50	49		99
30代	50	49		99
40代	50	50		100
50代	50	50		100
60代	23	18		41
合計	248	241		489

世帯年収	人数
4,000 TRY 未満	95
4,000 TRY - 8,000 TRY	166
8,001 TRY - 12,500 TRY	114
12,501 TRY - 15,000 TRY	46
15,001 TRY 以上	47
わからない、答えたくない	21
合計	489

職業	人数
フルタイムで働いている	284
パートタイム、アルバイト	29
専業主婦（夫）	39
学生・生徒	73
無職（退職後の生活を含む）	64
合計	489

最終学歴	人数
小学校・中学校	31
高校	135
短大・高専、専門学校	60
大学・大学院	262
あてはまるものはない	1
合計	489

ロシア

最終学歴	人数
小学校・中学校	31
高校	135
短大・高専、専門学校	60
大学・大学院	262
あてはまるものはない	1
合計	489

世帯年収	人数
3 6 0 0 0 RUB未満	137
3 6 0 0 1 - 7 2 0 0 0 RUB	286
7 2 0 0 1 - 1 2 0 0 0 0 RUB	293
1 2 0 0 0 1 - 7 2 0 0 0 0 RUB	194
7 2 0 0 0 1 RUB以上	84
わからない、答えたくない	43
合計	1037

職業	人数
フルタイムで働いている	618
パートタイム、アルバイト	153
専業主婦（夫）	46
学生・生徒	92
無職（退職後の生活を含む）	128
合計	1037

最終学歴	人数
小学校・中学校	17
高校	60
短大・高専、専門学校	210
大学・大学院	740
あてはまるものはない	10
合計	1037

イスラエル

	男性	女性	その他・ 答えたくない	合計
10代	50	49	2	101
20代	100	100	2	202
30代	100	100	0	200
40代	100	100	2	202
50代	47	66	0	113
60代	37	29	0	66
合計	434	444	6	884

世帯年収	人数
6 0 0 0 0 I L S 未満	157
6 0 0 0 0 - 1 2 0 0 0 0 I L S	246
1 2 0 0 0 1 - 1 8 0 0 0 0 I L S	166
1 8 0 0 0 1 - 2 4 0 0 0 0 I L S	111
2 4 0 0 0 1 I L S 以上	76
わからない、答えたくない	128
合計	884

世帯年収	人数
6 0 0 0 0 I L S 未満	157
6 0 0 0 0 - 1 2 0 0 0 0 I L S	246
1 2 0 0 0 1 - 1 8 0 0 0 0 I L S	166
1 8 0 0 0 1 - 2 4 0 0 0 0 I L S	111
2 4 0 0 0 1 I L S 以上	76
わからない、答えたくない	128
合計	884

最終学歴	人数
小学校・中学校	25
高校	217
短大・高専、専門学校	154
大学・大学院	484
あてはまるものはない	4
合計	884

南アフリカ

	男性	女性	その他・ 答えたくない	合計
10代	25	25		50
20代	50	50		100
30代	50	50		100
40代	50	50		100
50代	47	50		97
60代	37	24		61
合計	259	249		508

世帯年収	人数
ZAR 2 499未満	27
ZAR 2 500 - ZAR 10 999	110
ZAR 11 000 - ZAR 19 999	120
ZAR 20 000 - ZAR 49 999	147
ZAR 50 000以上	76
わからない、答えたくない	28
合計	508

職業	人数
フルタイムで働いている	280
パートタイム、アルバイト	98
専業主婦（夫）	10
学生・生徒	59
無職（退職後の生活を含む）	61
合計	508

最終学歴	人数
小学校・中学校	3
高校	143
短大・高専、専門学校	165
大学・大学院	193
あてはまるものはない	4
合計	508

ナイジェリア

	男性	女性	その他・ 答えたくない	合計
10代	25	25		50
20代	50	49		99
30代	50	50		100
40代	50	22		72
50代	18	7		25
60代	6	1		7
合計	199	154		353

世帯年収	人数
¥ 20,000 未満	25
¥ 20,000 - ¥ 50,000	50
¥ 50,001 - ¥ 100,000	64
¥ 100,001 - ¥ 200,000	76
¥ 200,001以上	123
わからない、答えたくない	15
合計	353

職業	人数
フルタイムで働いている	181
パートタイム、アルバイト	89
専業主婦（夫）	7
学生・生徒	69
無職（退職後の生活を含む）	7
合計	353

最終学歴	人数
小学校・中学校	0
高校	51
短大・高専、専門学校	14
大学・大学院	287
あてはまるものはない	1
合計	353

フィンランド

	男性	女性	その他・ 答えたくない	合計
10代	14	25	0	39
20代	50	50	1	101
30代	50	49	0	99
40代	48	50	0	98
50代	50	46	0	96
60代	50	50	0	100
合計	262	270	1	533

世帯年収	人数
€12 000未満	66
€12 000 - €20 000	84
€20 000 - €45 000	146
€45 000 - €70 000	107
€70 001以上	75
わからない、答えたくない	55
合計	533

職業	人数
フルタイムで働いている	241
パートタイム、アルバイト	70
専業主婦（夫）	4
学生・生徒	82
無職（退職後の生活を含む）	136
合計	533

最終学歴	人数
小学校・中学校	41
高校	71
短大・高専、専門学校	136
Ammattikorkeakoulu / 職業大学	110
大学・大学院	168
あてはまるものはない	7
合計	533

スウェーデン

	男性	女性	その他・ 答えたくない	合計
10代	50	50	0	100
20代	99	99	2	200
30代	100	99	0	199
40代	100	100	0	200
50代	100	100	0	200
60代	100	100	0	200
合計	549	548	2	1099

世帯年収	人数
1 0 0 0 0 0 SEK未満	65
1 0 0 0 0 0 - 3 0 0 0 0 0 SEK	220
3 0 0 0 0 1 - 5 0 0 0 0 0 SEK	268
5 0 0 0 0 1 - 7 0 0 0 0 0 SEK	170
7 0 0 0 0 1 SEK以上	235
わからない、答えたくない	141
合計	1099

職業	人数
フルタイムで働いている	537
パートタイム、アルバイト	164
専業主婦（夫）	27
学生・生徒	165
無職（退職後の生活を含む）	206
合計	1099

最終学歴	人数
小学校・中学校	73
高校	402
短大・高専、専門学校	155
大学・大学院	442
あてはまるものはない	27
合計	1099

ドイツ

	男性	女性	その他・ 答えたくない	合計
10代	28	33	2	63
20代	100	100	2	202
30代	99	96	2	197
40代	100	98	0	198
50代	100	100	0	200
60代	100	100	0	200
合計	527	527	6	1060

世帯年収	人数
€13 000未満	147
€13 000 - €19 499	138
€19 500 - €38 999	286
€39 000 - €64 999	241
€65 000以上	174
わからない、答えたくない	74
合計	1060

職業	人数
フルタイムで働いている	567
パートタイム、アルバイト	143
専業主婦（夫）	37
学生・生徒	97
無職（退職後の生活を含む）	216
合計	1060

最終学歴	人数
Grundschule / 基礎学校（小学校）	1
Hauptschule / 基幹学校	41
Realschule / Gymnasium bis zur 10. Klasse / 実科学校・ギムナジウムのグレード10まで	172
Gymnasium (bis zum Abitur) / ギムナジウムのアビトゥーアまで	133
Lehre / Facharbeiter / 見習修業・職業学校	218
Fachschule / Technikerschule / Handelsakademie / 専門学校	87
Fachhochschule / Spezialhochschule / 単科大学・専門大学	96
Universität / Technische Hochschule / Pädagogische Hochschule / 大学・工科大学	300

あてはまるものはない	12
合計	1060

イタリア

	男性	女性	その他・ 答えたくない	合計
10代	50	38	0	88
20代	99	100	2	201
30代	100	100	0	200
40代	100	100	0	200
50代	100	100	0	200
60代	54	67	0	121
合計	503	505	2	1010

世帯年収	人数
1 0 0 0 0 €未満	124
1 0 0 0 0 - 2 2 0 0 0 €	230
2 2 0 0 1 - 4 4 0 0 0 €	304
4 4 0 0 1 - 7 0 0 0 0 €	153
7 0 0 0 1 €以上	61
わからない、答えたくない	138
合計	1010

職業	人数
フルタイムで働いている	444
パートタイム、アルバイト	184
専業主婦（夫）	74
学生・生徒	160
無職（退職後の生活を含む）	148
合計	1010

最終学歴	人数
小学校・中学校	64
高校	537
短大・高専、専門学校	0
大学・大学院	408
あてはまるものはない	1
合計	1010

フランス

	男性	女性	その他・ 答えたくない	合計
10代	50	50	0	100
20代	99	99	2	200
30代	100	100	0	200
40代	100	100	0	200
50代	100	100	0	200
60代	100	100	0	200
合計	549	549	2	1100

世帯年収	人数
€12 000未満	104
€12 000 - €20 000	121
€20 000 - €45 000	272
€45 000 - €70 000	302
€70 000以上	209
わからない、答えたくない	92
合計	1100

職業	人数
フルタイムで働いている	668
パートタイム、アルバイト	88
専業主婦（夫）	32
学生・生徒	126
無職（退職後の生活を含む）	186
合計	1100

職業	人数
フルタイムで働いている	668
パートタイム、アルバイト	88
専業主婦（夫）	32
学生・生徒	126
無職（退職後の生活を含む）	186
合計	1100

スペイン

	男性	女性	その他・ 答えたくない	合計
10代	32	50	0	82
20代	100	98	2	200
30代	100	100	0	200
40代	100	100	0	200
50代	100	100	0	200
60代	86	83	0	169
合計	518	531	2	1051

世帯年収	人数
€12 000未満	117
€12 000 - €20 000	209
€20 000 - €45 000	428
€45 000 - €70 000	162
€70 001以上	56
わからない、答えたくない	79
合計	1051

職業	人数
フルタイムで働いている	594
パートタイム、アルバイト	133
専業主婦（夫）	42
学生・生徒	131
無職（退職後の生活を含む）	151
合計	1051

最終学歴	人数
小学校・中学校	67
高校	194
短大・高専、専門学校	195
大学・大学院	592
あてはまるものはない	3
合計	1051

イギリス

	男性	女性	その他・ 答えたくない	合計
10代	49	49	2	100
20代	99	98	2	199
30代	99	99	2	200
40代	100	100	0	200
50代	100	100	0	200
60代	100	100	0	200
合計	547	546	6	1099

世帯年収	人数
£ 17,000未満	172
£ 17,000 - £ 34,999	235
£ 35,000 - £ 54,999	221
£ 55,000 - £ 99,999	237
£ 100,000以上	106
わからない、答えたくない	128
合計	1099

職業	人数
フルタイムで働いている	571
パートタイム、アルバイト	186
専業主婦（夫）	41
学生・生徒	109
無職（退職後の生活を含む）	192
合計	1099

最終学歴	人数
Primary school (SATs or 11+ exam) / secondary school (GCSEs or equivalent) / 小学校・中学校	150
A levels, IB, or equivalent / 大学進学準備コース・国際バカロレア	187
Community college, technical college, or vocational school / コミュニティカレッジ・専門学校	152
Undergraduate / postgraduate / 大学・大学院	595
あてはまるものはない	15
合計	1099

ブラジル

	男性	女性	その他・ 答えたくない	合計
10代	50	50		100
20代	100	100		200
30代	99	100		199
40代	100	100		200
50代	100	100		200
60代	100	100		200
合計	549	550		1099

世帯年収	人数
1 5 0 0 BRL未満	152
1 5 0 0 - 4 5 0 0 BRL	415
4 5 0 1 - 8 0 0 0 BRL	239
8 0 0 1 - 1 5 0 0 0 BRL	155
1 5 0 0 1 BRL以上	84
わからない、答えたくない	54
合計	1099

職業	人数
フルタイムで働いている	553
パートタイム、アルバイト	218
専業主婦（夫）	88
学生・生徒	89
無職（退職後の生活を含む）	151
合計	1099

最終学歴	人数
小学校・中学校	34
高校	325
短大・高専、専門学校	82
大学・大学院	650
あてはまるものはない	8
合計	1099

アルゼンチン

	男性	女性	その他・ 答えたくない	合計
10代	48	35	2	85
20代	100	100	0	200
30代	100	99	0	199
40代	100	99	0	199
50代	100	100	0	200
60代	38	45	0	83
合計	486	478	2	966

世帯年収	人数
10 000 ARS未満	45
10 000 ARS - 50 000 ARS	259
50 001 ARS - 100 000 ARS	320
100 001 ARS - 200 000 ARS	180
200 001 ARS 以上	80
わからない、答えたくない	82
合計	966

職業	人数
フルタイムで働いている	516
パートタイム、アルバイト	209
専業主婦（夫）	37
学生・生徒	130
無職（退職後の生活を含む）	74
合計	966

最終学歴	人数
就学前教育	1
初等教育	13
中等教育	297
高等教育	653
あてはまるものはない	2
合計	966

チリ

	男性	女性	その他・ 答えたくない	合計
10代	27	37	0	64
20代	100	100	2	202
30代	100	100	2	202
40代	100	100	0	200
50代	55	91	0	146
60代	27	40	0	67
合計	409	468	4	881

世帯年収	人数
CLP\$ 150,000未満	39
CLP\$ 150,000 - CLP\$ 300,000	94
CLP\$ 300,001 - CLP\$ 500,000	169
CLP\$ 500,001 - CLP\$ 1,000,000	250
CLP\$ 1,000,001以上	289
わからない、答えたくない	40
合計	881

職業	人数
フルタイムで働いている	435
パートタイム、アルバイト	188
専業主婦（夫）	63
学生・生徒	110
無職（退職後の生活を含む）	85
合計	881

最終学歴	人数
小学校・中学校	8
高校	206
短大・高専、専門学校	208
大学・大学院	458
あてはまるものはない	1
合計	881

メキシコ

	男性	女性	その他・ 答えたくない	合計
10代	49	49	2	100
20代	99	99	2	200
30代	100	100	0	200
40代	100	100	0	200
50代	100	100	0	200
60代	44	31	0	75
合計	492	479	4	975

世帯年収	人数
MXN 3,750 未満	74
MXN 3,750 - MXN 7,500	139
MXN 7,501 - MXN 11,250	179
MXN 11,251 - MXN 30,000	333
MXN 30,001以上	204
わからない、答えたくない	46
合計	975

職業	人数
フルタイムで働いている	473
パートタイム、アルバイト	229
専業主婦（夫）	72
学生・生徒	121
無職（退職後の生活を含む）	80
合計	975

最終学歴	人数
基礎教育	29
後期中等教育	269
高等教育	673
あてはまるものはない	4
合計	975

アメリカ

	男性	女性	その他・ 答えたくない	合計
10代	49	49	2	100
20代	99	100	0	199
30代	98	100	0	198
40代	100	100	0	200
50代	100	100	0	200
60代	100	100	0	200
合計	546	549	2	1097

世帯年収	人数
\$ 25,000未満	107
\$ 25,000 - \$ 49,999	157
\$ 50,000 - \$ 79,999	216
\$ 80,000 - \$ 149,999	337
\$ 150,000以上	204
わからない、答えたくない	76
合計	1097

職業	人数
フルタイムで働いている	611
パートタイム、アルバイト	132
専業主婦（夫）	56
学生・生徒	95
無職（退職後の生活を含む）	203
合計	1097

最終学歴	人数
小学校・中学校	15
高校	208
短大・高専、専門学校	157
大学・大学院	701
あてはまるものはない	16
合計	1097

カナダ

	男性	女性	その他・ 答えたくない	合計
10代	24	50	0	74
20代	96	99	2	197
30代	100	100	0	200
40代	100	100	0	200
50代	100	100	0	200
60代	100	100	0	200
合計	520	549	2	1071

世帯年収	人数
\$ 24, 999未満	123
\$ 25, 000 - \$ 49, 999	203
\$ 50, 000 - \$ 79, 999	229
\$ 80, 000 - \$ 149, 999	312
\$ 150, 000以上	116
わからない、答えたくない	88
合計	1071

職業	人数
フルタイムで働いている	530
パートタイム、アルバイト	175
専業主婦（夫）	40
学生・生徒	101
無職（退職後の生活を含む）	225
合計	1071

最終学歴	人数
小学校・中学校	16
高校	221
短大・高専、専門学校	248
大学・大学院	583
あてはまるものはない	3
合計	1071

ニュージーランド

	男性	女性	その他・ 答えたくない	合計
10代	34	27	4	65
20代	100	100	1	201
30代	100	100	0	200
40代	100	100	2	202
50代	80	86	0	166
60代	70	78	0	148
合計	484	491	7	982

世帯年収	人数
50,000 NZD未満	210
50,000 - 74,999 NZD	161
75,000 - 99,999 NZD	155
100,000 - 149,999 NZD	202
150,000 NZD以上	123
わからない、答えたくない	131
合計	982

職業	人数
フルタイムで働いている	514
パートタイム、アルバイト	181
専業主婦（夫）	54
学生・生徒	72
無職（退職後の生活を含む）	161
合計	982

最終学歴	人数
小学校・中学校	6
高校	215
短大・高専、専門学校	209
大学・大学院	541
あてはまるものはない	11
合計	982

オーストラリア

	男性	女性	その他・ 答えたくない	合計
10代	18	49	2	69
20代	84	100	0	184
30代	100	100	0	200
40代	100	100	0	200
50代	66	81	0	147
60代	100	100	0	200
合計	468	530	2	1000

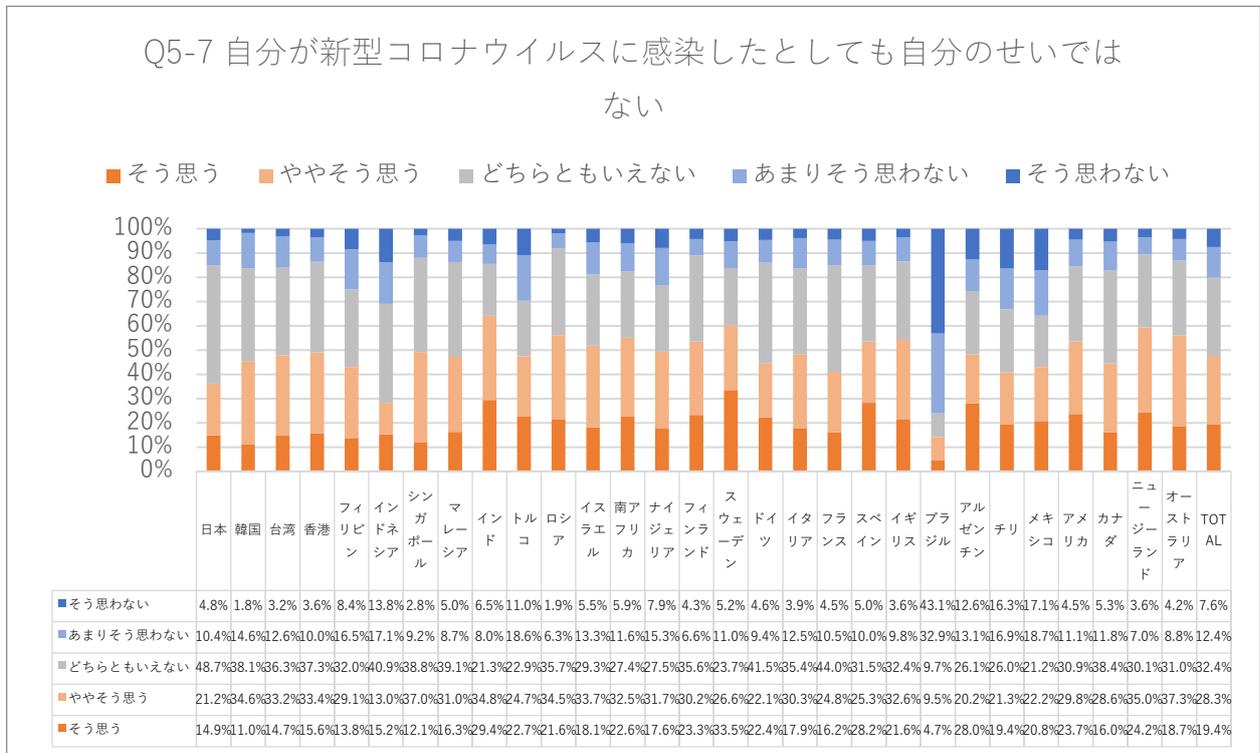
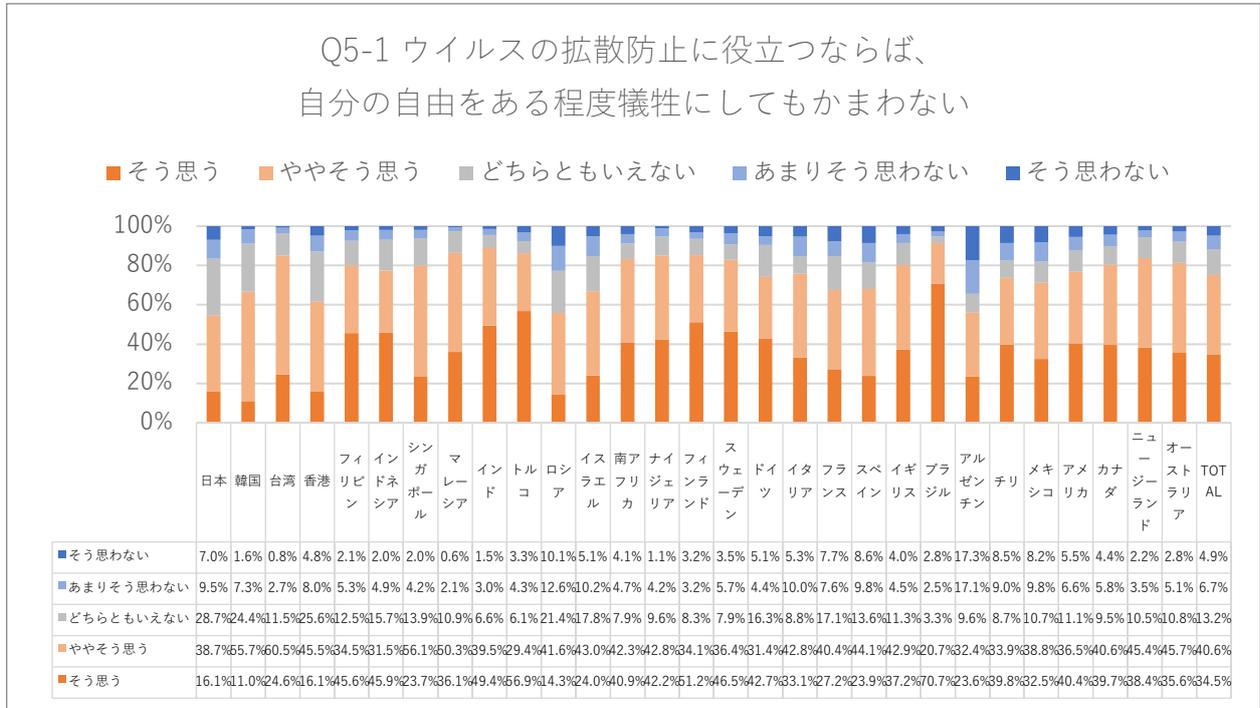
世帯年収	人数
AUD 30,000未満	126
AUD 30,001 - 59,999	173
AUD 60,000 - 119,999	324
AUD 120,000 - 179,999	181
AUD 180,000以上	98
わからない、答えたくない	98
合計	1000

職業	人数
フルタイムで働いている	455
パートタイム、アルバイト	222
専業主婦（夫）	65
学生・生徒	70
無職（退職後の生活を含む）	188
合計	1000

最終学歴	人数
小学校・中学校	26
高校	247
短大・高専、専門学校	245
大学・大学院	480
あてはまるものはない	2
合計	1000

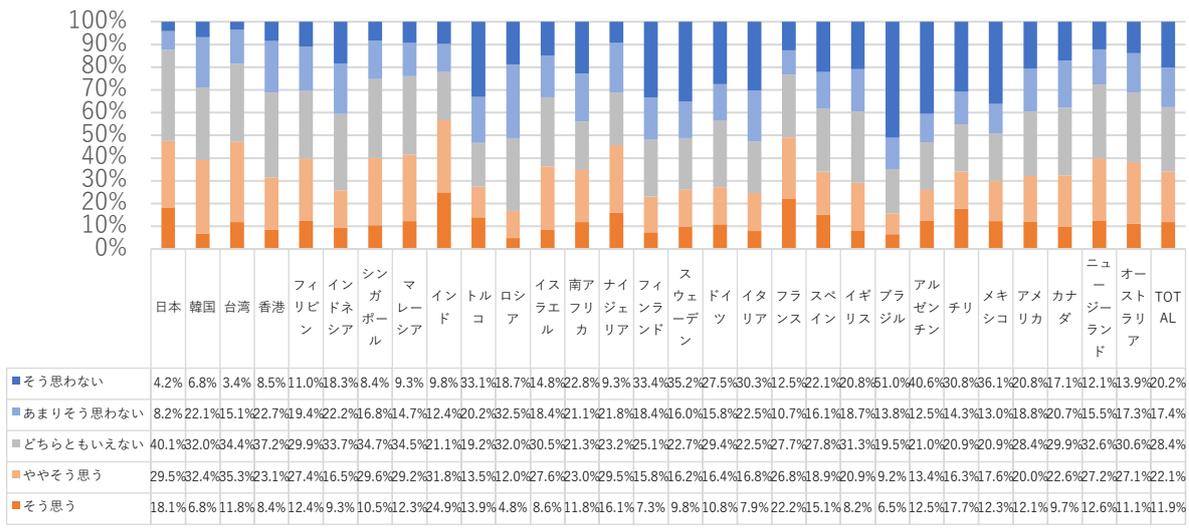
資料2. 単純集計グラフ

本文で参照していない項目について、各国の集計結果を列挙する。



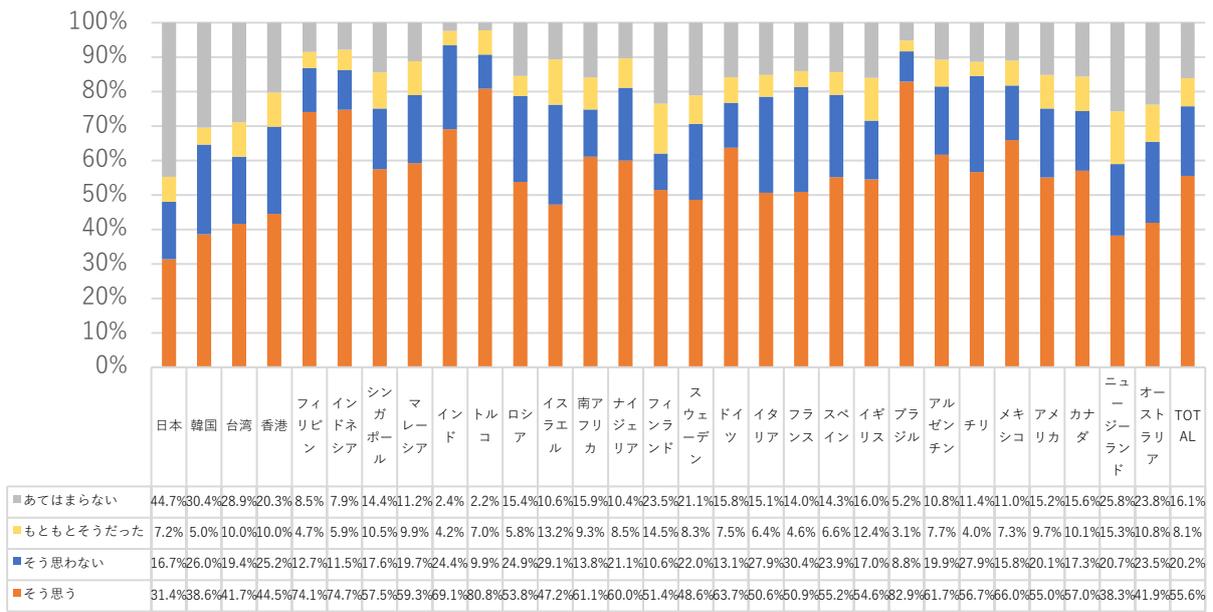
Q5-9 自分が新型コロナウイルスに感染した場合、他人から批判され
たら、
がまんならない

■ そう思う ■ ややそう思う ■ どちらともいえない ■ あまりそう思わない ■ そう思わない



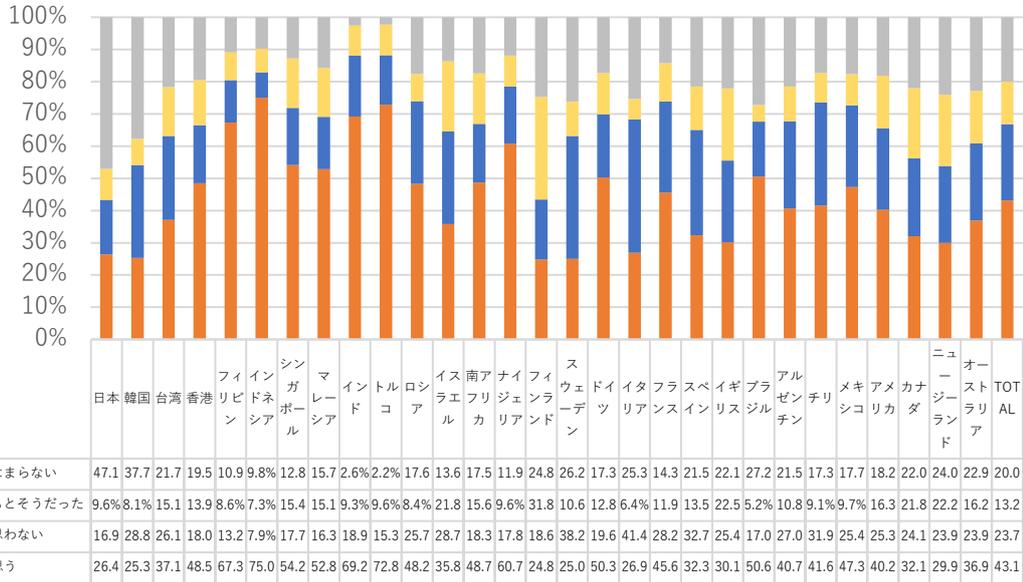
Q7-2 以前より遠隔勤務が増えた

■ そう思う ■ そう思わない ■ もともとそうだった ■ あてはまらない



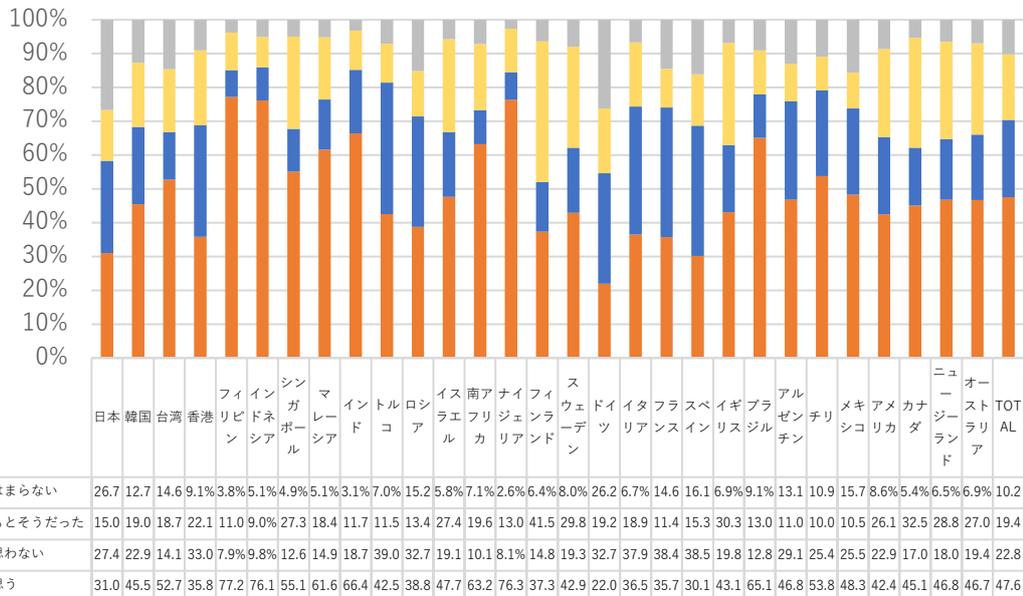
Q7-3 時差通勤を積極的に取り入れるようになった

■ そう思う ■ そう思わない ■ もともとそうだった ■ あてはまらない



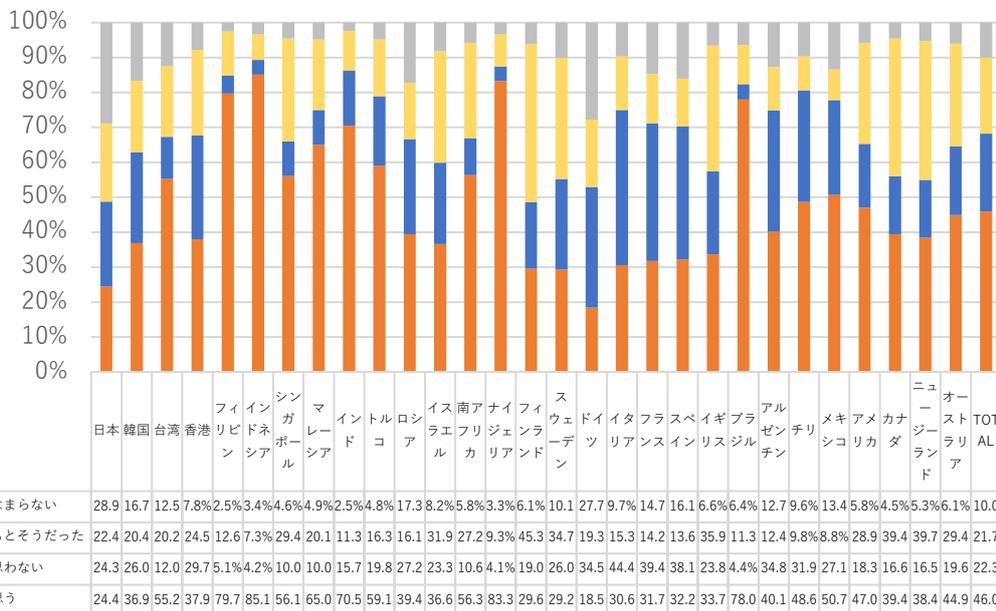
Q7-9 より給料のよい仕事に就きたいと思うようになった

■ そう思う ■ そう思わない ■ もともとそうだった ■ あてはまらない



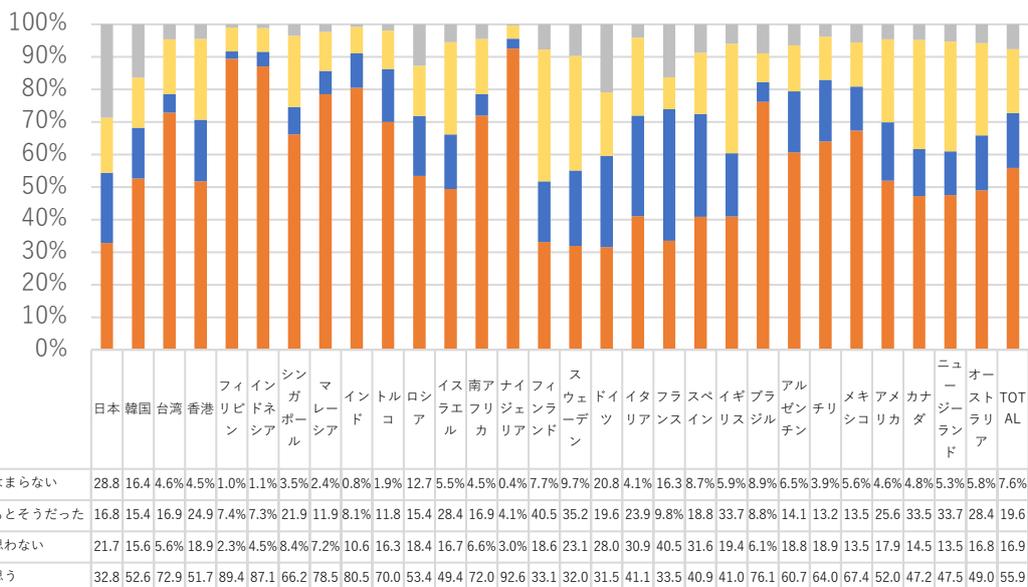
Q7-10 より人の役に立つ仕事がしたいと考えるようになった

■ そう思う ■ そう思わない ■ もともとそうだった ■ あてはまらない



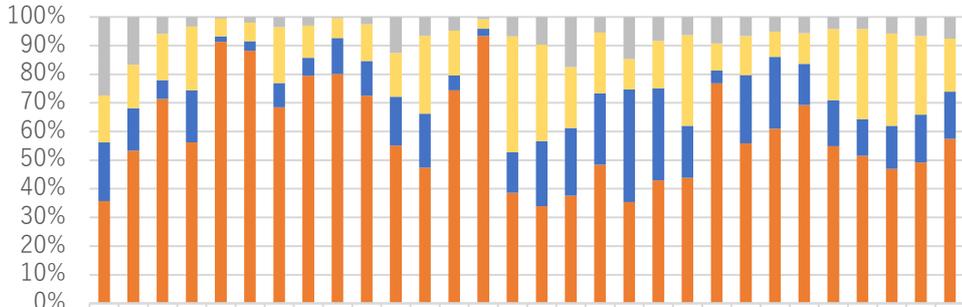
Q7-11 情報処理スキルを高めたいと思うようになった

■ そう思う ■ そう思わない ■ もともとそうだった ■ あてはまらない



Q7-12 情報セキュリティ対策能力を高めたいと思うようになった

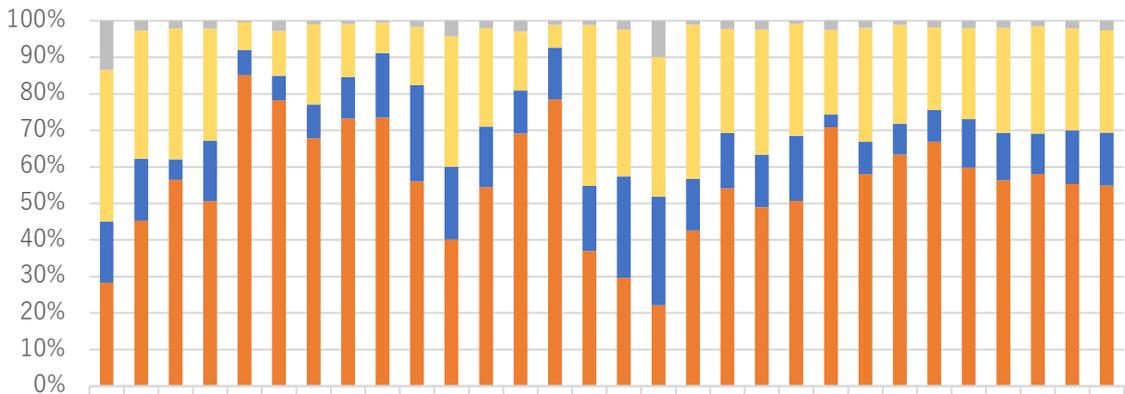
■ そう思う ■ そう思わない ■ もともとそうだった ■ あてはまらない



	日本	韓国	台湾	香港	フィリピン	インドネシア	シンガポール	マレーシア	インド	トルコ	ロシア	イスラエル	南アフリカ	ナイジェリア	フィンランド	スウェーデン	ドイツ	イタリア	フランス	スペイン	イギリス	ブラジル	アルゼンチン	チリ	メキシコ	アメリカ	カナダ	ニュージーランド	オーストラリア	TOTAL	
あてはまらない	27.4	16.7	5.9	3.4	0.6	2.0	3.5	2.9	0.4	2.6	12.6	6.6	4.8	0.7	6.8	9.7	17.5	5.4	14.7	8.4	6.3	9.2	6.6	5.1	5.7	4.2	4.3	31.3	32.2	27.5	18.5
もともとそうだった	16.4	15.2	16.1	22.3	6.2	6.5	19.6	11.3	6.9	12.8	15.3	27.1	15.6	3.3	40.5	33.7	21.3	21.2	10.6	16.5	31.7	9.5	13.7	8.8	10.7	24.9	31.3	32.2	27.5	18.5	
そう思わない	20.6	14.9	6.6	18.2	1.8	3.4	8.4	6.2	12.6	12.1	17.0	18.9	5.3	2.6	14.1	22.7	23.7	25.0	39.4	32.2	18.1	4.5	23.9	25.0	14.4	16.0	12.9	15.1	16.7	16.5	
そう思う	35.7	53.3	71.4	56.2	91.4	88.2	68.5	79.6	80.1	72.5	55.1	47.4	74.3	93.3	38.6	34.0	37.6	48.4	35.3	42.9	43.9	76.8	55.9	61.0	69.2	54.9	51.5	46.9	49.2	57.5	

Q8-2 家で過ごす時間の楽しさがわかった

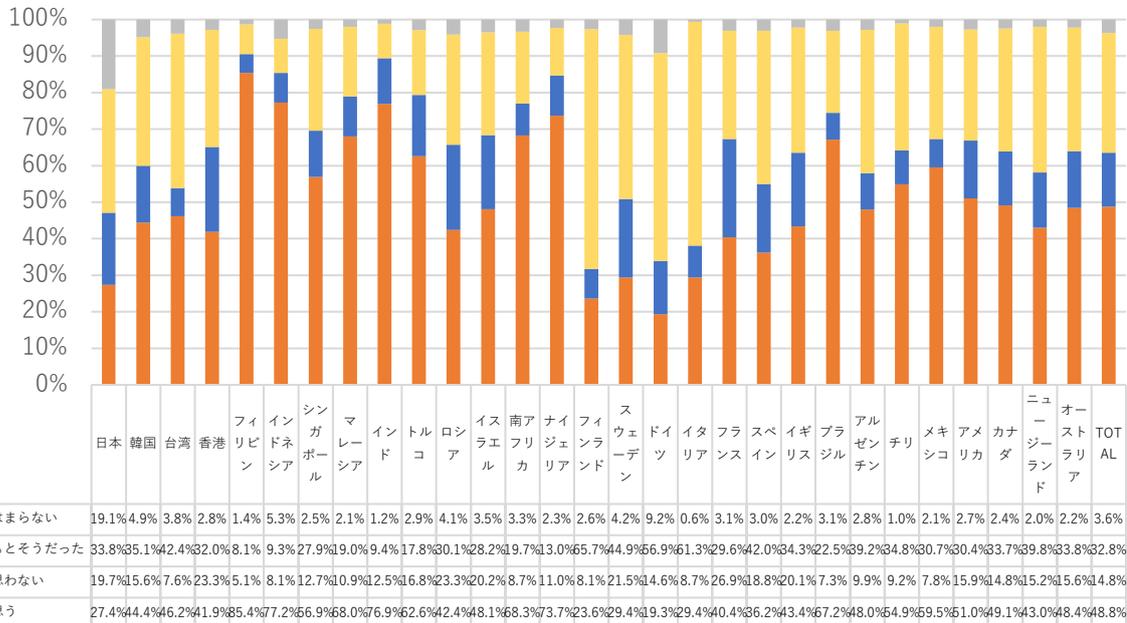
■ そう思う ■ そう思わない ■ もともとそうだった ■ あてはまらない



	日本	韓国	台湾	香港	フィリピン	インドネシア	シンガポール	マレーシア	インド	トルコ	ロシア	イスラエル	南アフリカ	ナイジェリア	フィンランド	スウェーデン	ドイツ	イタリア	フランス	スペイン	イギリス	ブラジル	アルゼンチン	チリ	メキシコ	アメリカ	カナダ	ニュージーランド	オーストラリア	TOTAL
あてはまらない	13.5%	2.8%	2.1%	2.2%	0.4%	2.8%	0.9%	0.9%	0.5%	1.6%	4.2%	2.0%	3.0%	1.1%	1.1%	2.5%	10.0%	1.1%	2.3%	2.4%	0.8%	2.5%	2.0%	1.1%	1.8%	2.0%	2.0%	1.5%	2.1%	2.7%
もともとそうだった	41.5%	35.0%	35.9%	30.6%	7.6%	12.2%	21.9%	14.5%	8.3%	16.0%	35.7%	26.9%	16.1%	6.2%	44.1%	40.1%	38.1%	42.2%	28.5%	34.3%	30.7%	23.1%	31.1%	27.0%	22.6%	24.9%	28.8%	29.3%	27.9%	28.0%
そう思わない	16.7%	17.0%	5.5%	16.6%	6.9%	6.7%	9.3%	11.4%	7.7%	26.4%	20.0%	16.6%	1.8%	14.2%	17.8%	27.8%	29.8%	14.2%	15.2%	14.5%	17.8%	3.5%	8.9%	8.5%	8.7%	13.3%	12.9%	11.1%	14.7%	14.5%
そう思う	28.4%	45.2%	56.5%	50.6%	85.1%	78.3%	67.8%	73.2%	73.5%	56.0%	40.1%	54.4%	69.1%	78.5%	37.0%	29.7%	22.1%	42.6%	54.1%	48.9%	50.7%	70.9%	68.1%	63.3%	66.9%	59.8%	56.4%	58.0%	65.3%	54.9%

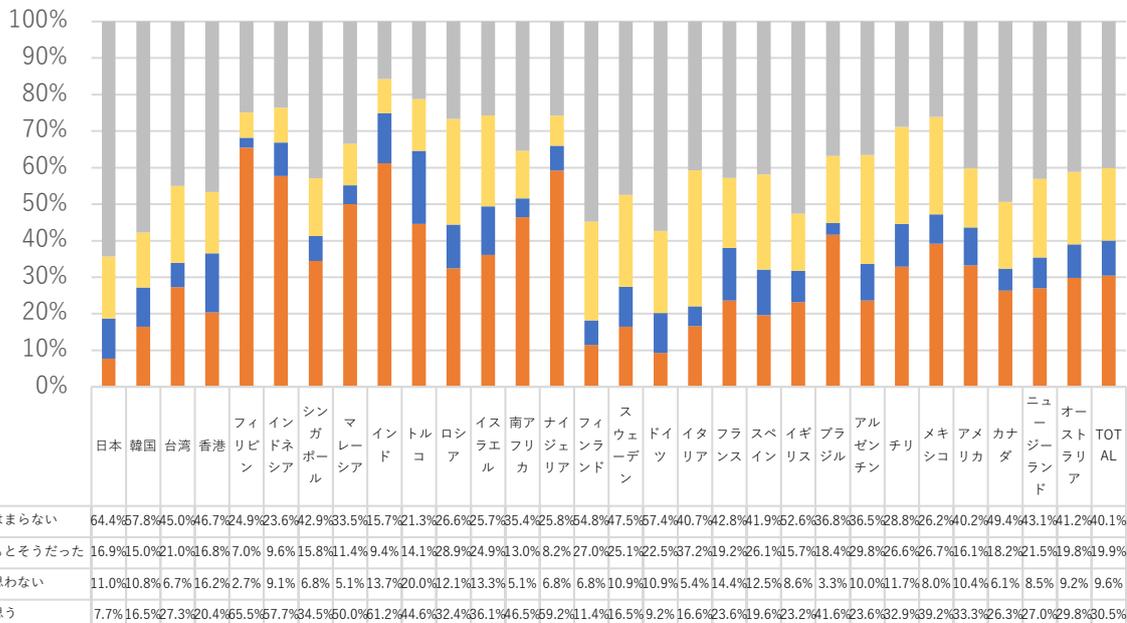
Q8-3 家事に積極的に取り組むようになった

■ そう思う ■ そう思わない ■ もともとそうだった ■ あてはまらない



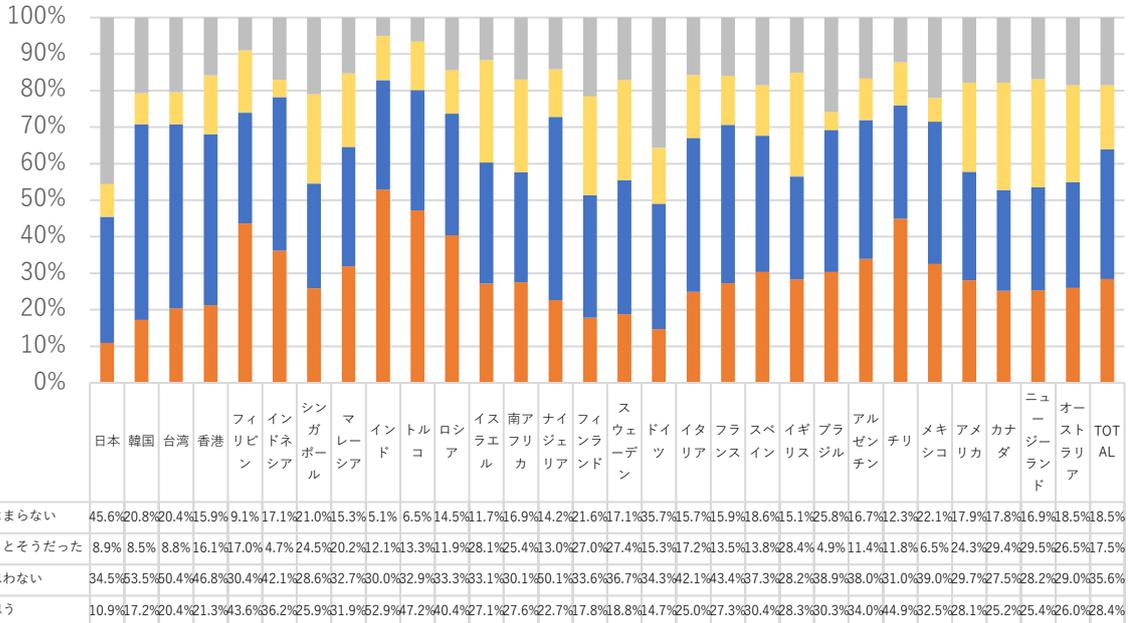
Q8-4 育児に積極的に取り組むようになった

■ そう思う ■ そう思わない ■ もともとそうだった ■ あてはまらない



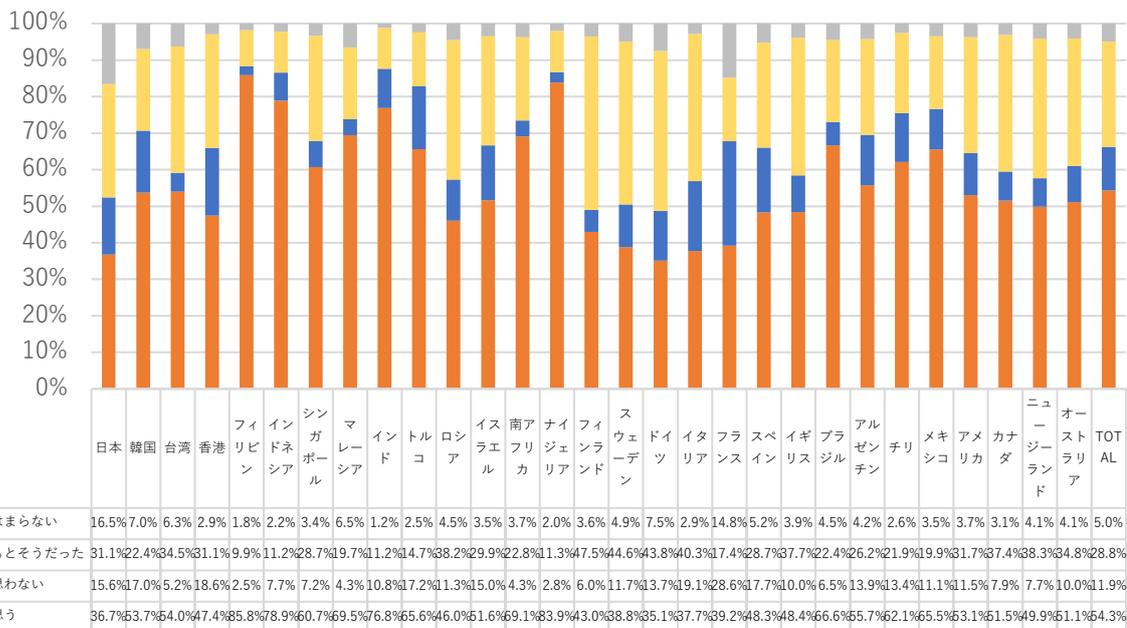
Q8-5 会社から遠くなっても、郊外や地方に転居したくなった

■ そう思う ■ そう思わない ■ もともとそうだった ■ あてはまらない

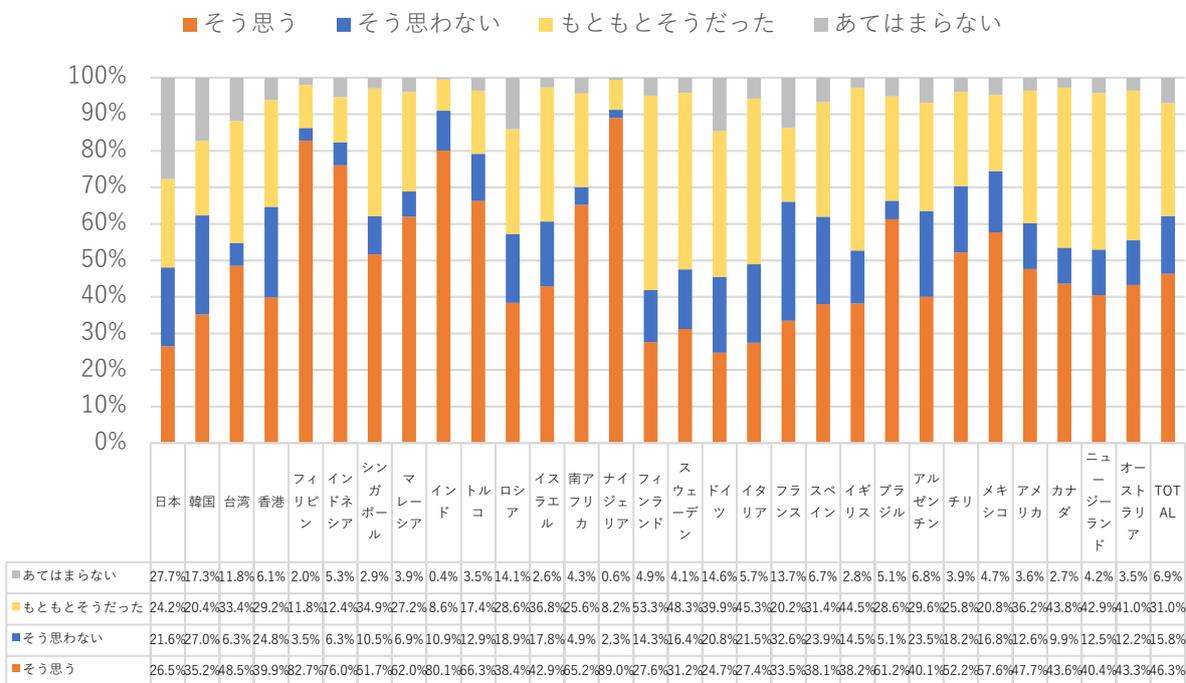


Q8-7 人間関係を良好にしたいと思うようになった

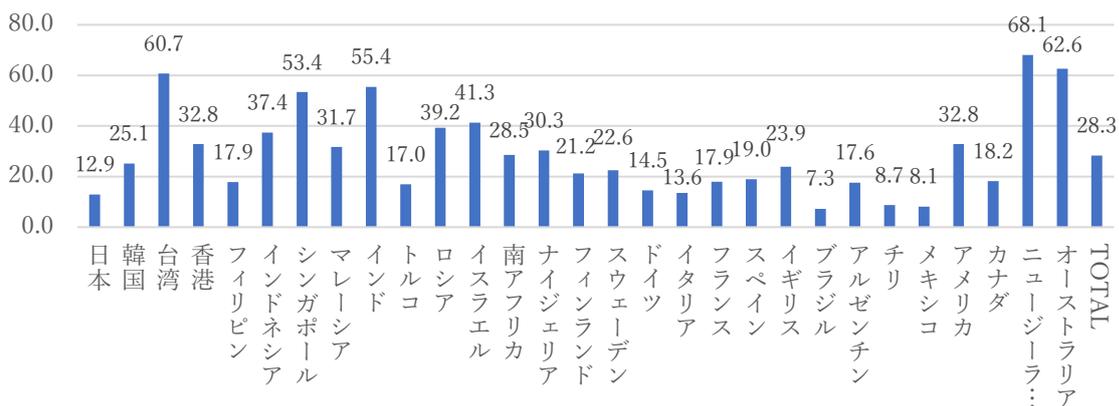
■ そう思う ■ そう思わない ■ もともとそうだった ■ あてはまらない



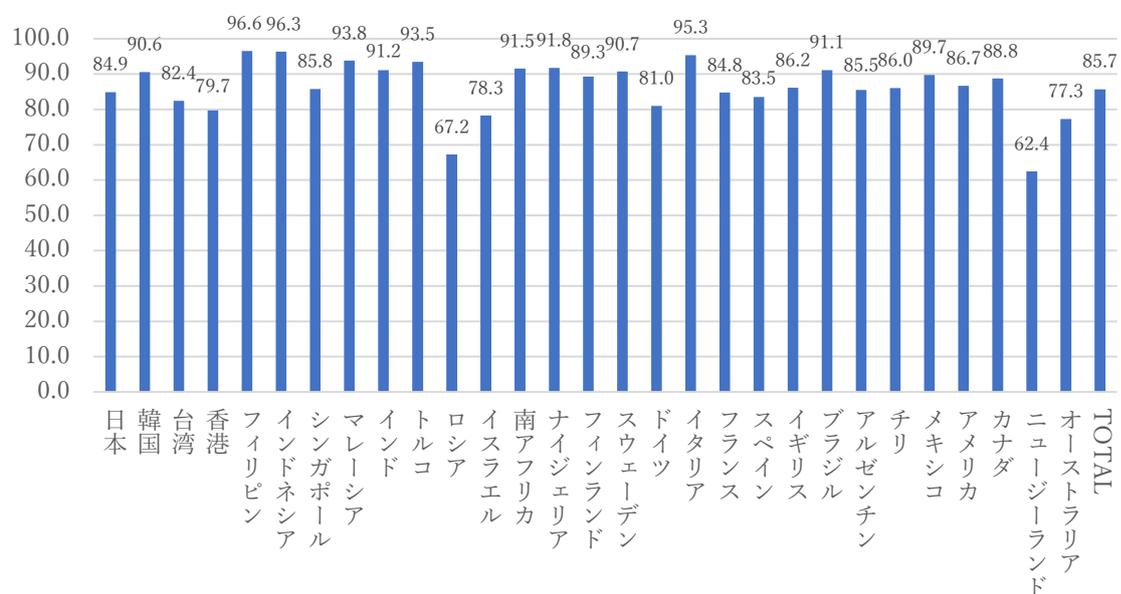
Q8-8 社会貢献したいと思うようになった



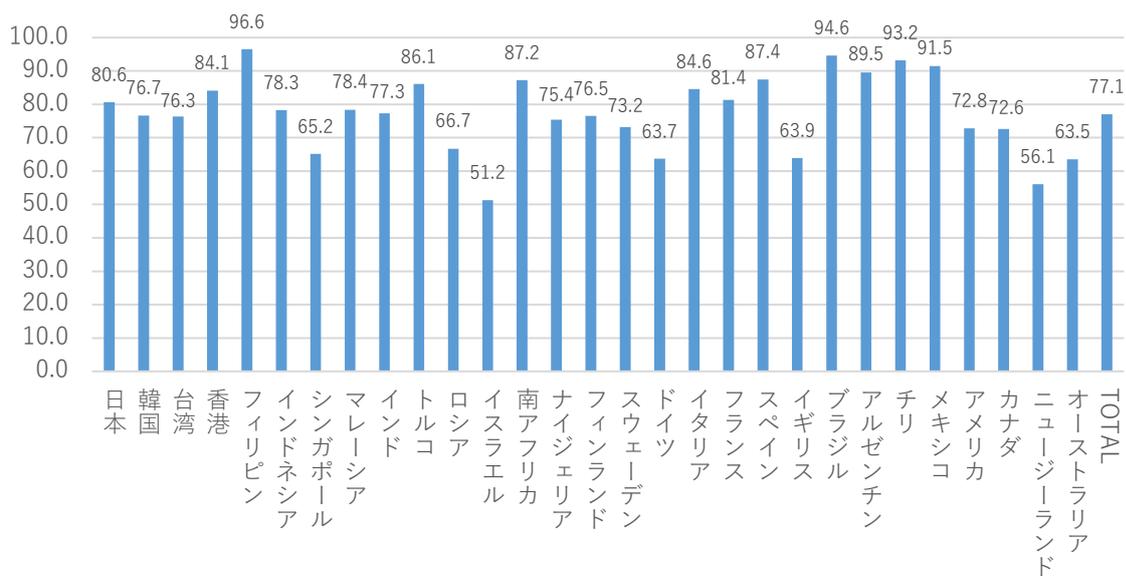
Q9-1 新型コロナウイルス感染拡大前と変わらず、友人・知人と顔を合わせて 飲食している (単位: %)



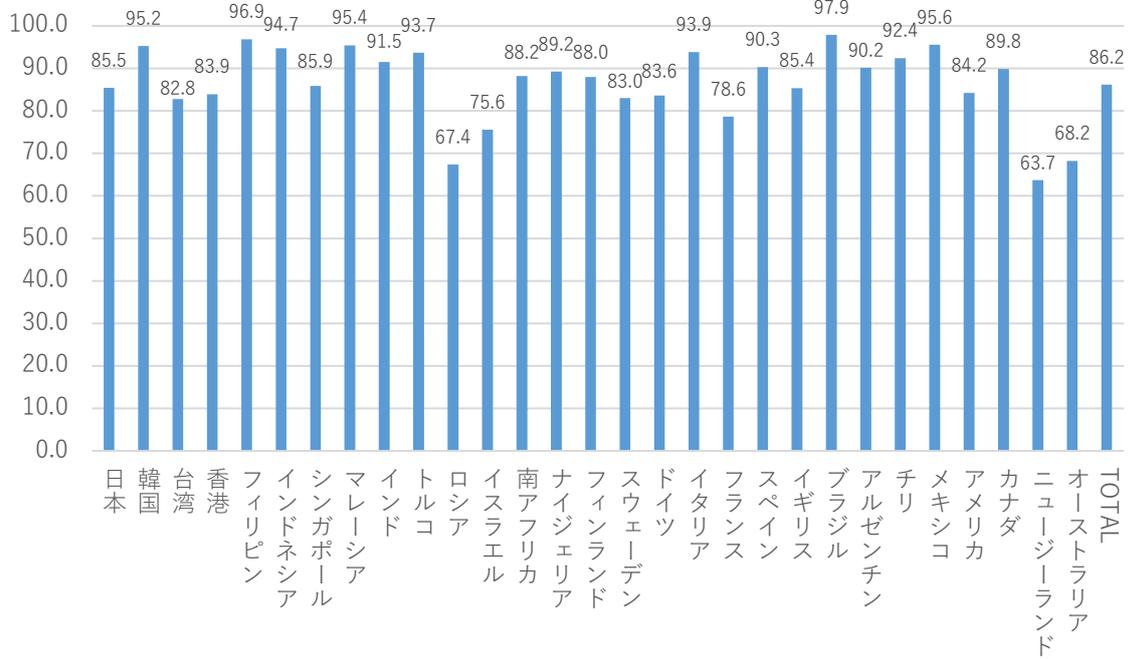
Q9-2 人と会う時はある程度の距離を空けている (単位: %)



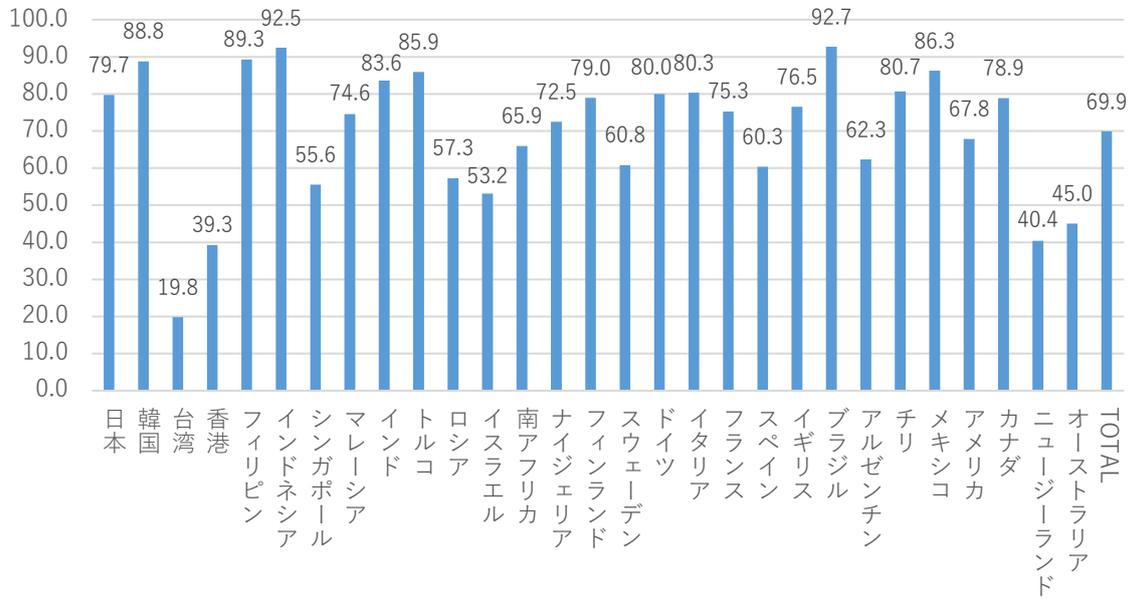
Q9-5 頻繁にアルコール消毒している (単位: %)



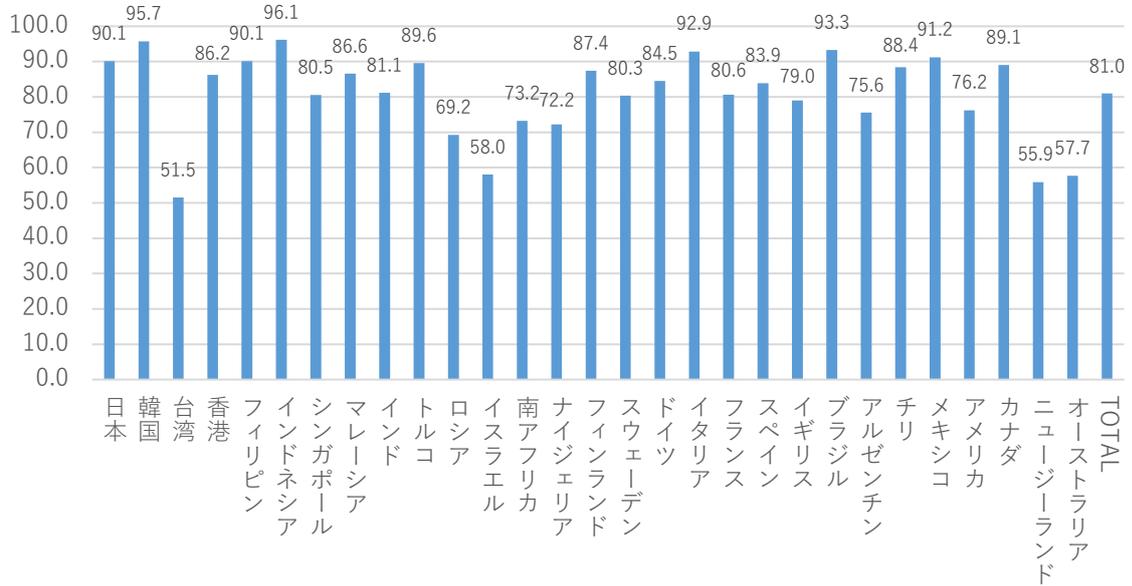
Q9-7 人が集まる場所を避けている (単位: %)



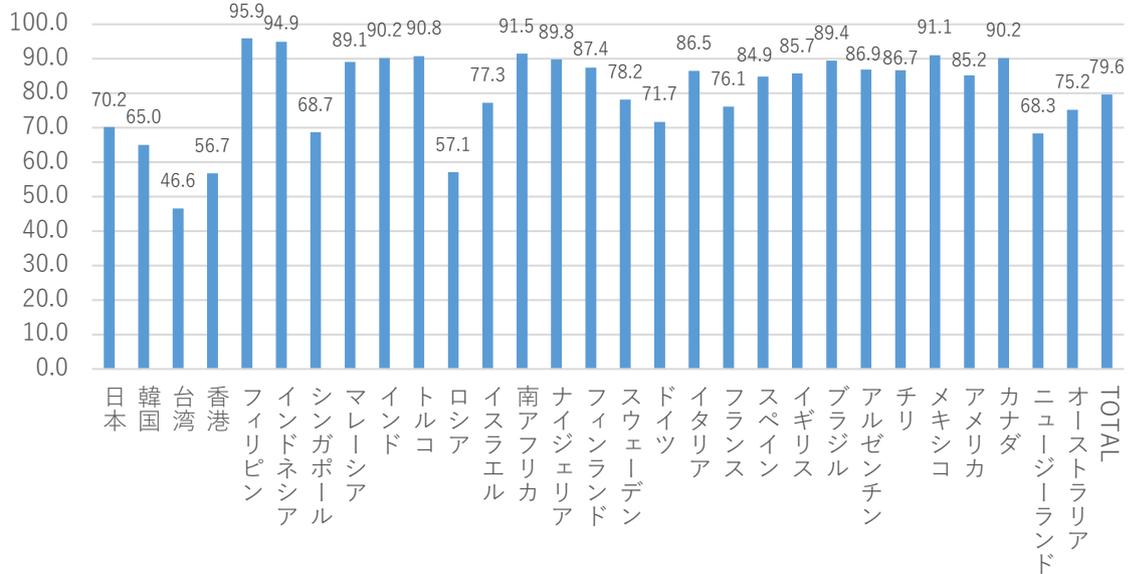
Q9-8 外での飲食を控えている (単位: %)



Q9-9 旅行を控えている (単位: %)

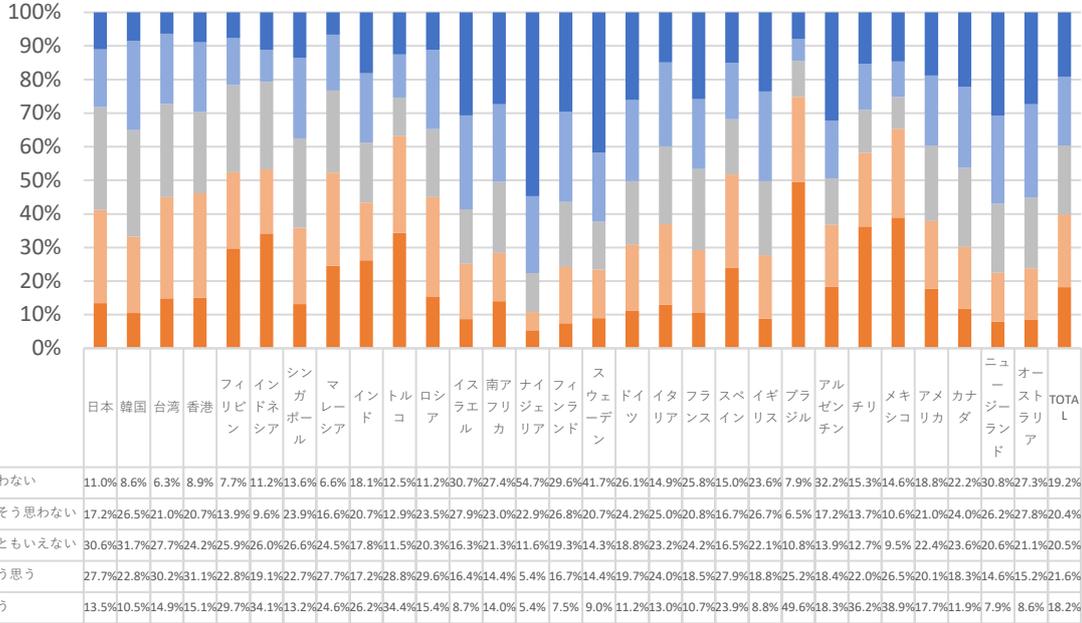


Q9-11 混んでいる電車には乗らないようにしている (単位: %)



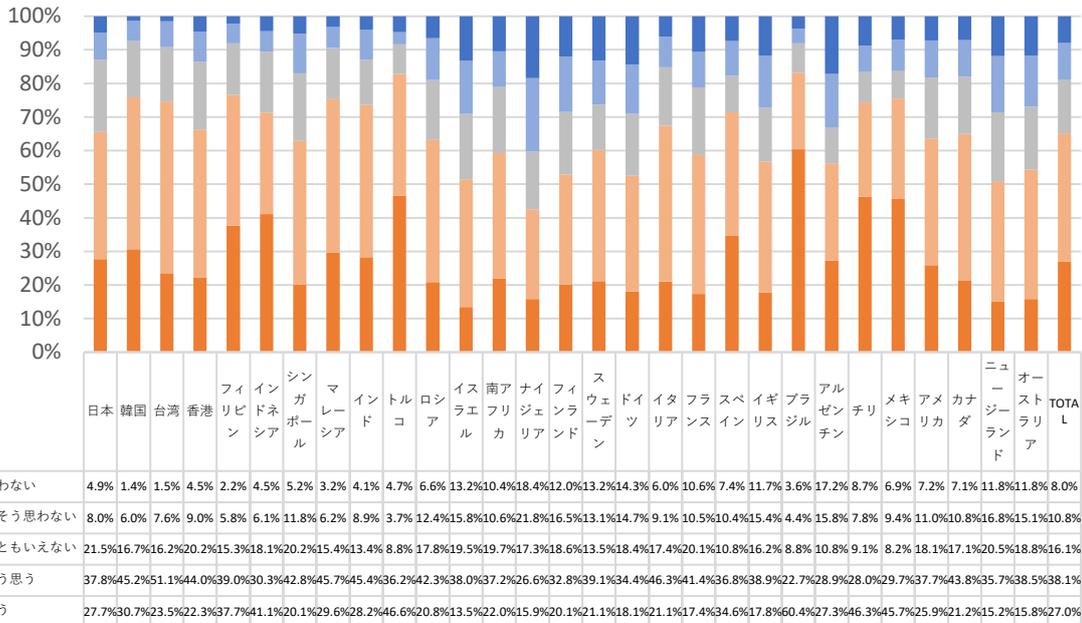
Q10-3 新型コロナウイルスのせいで命を落とすことを恐れている

■ そう思う ■ ややそう思う ■ どちらともいえない ■ あまりそう思わない ■ そう思わない

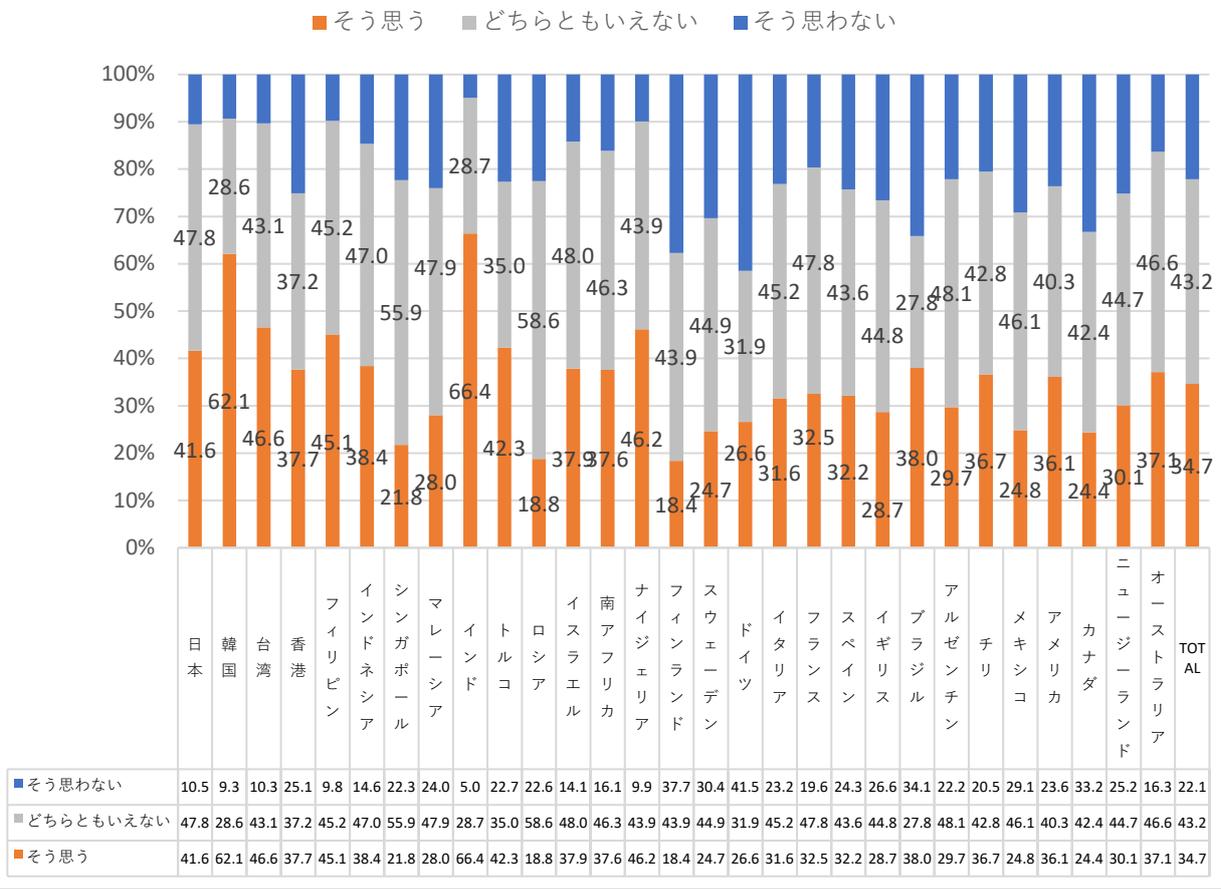


Q10-4 新型コロナウイルスにかかった場合の後遺症が不安だ

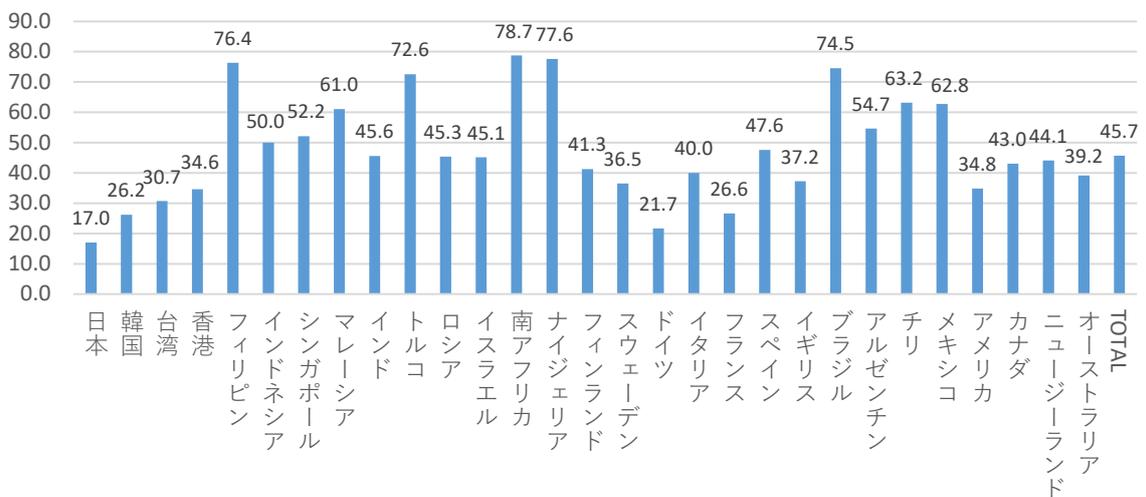
■ そう思う ■ ややそう思う ■ どちらともいえない ■ あまりそう思わない ■ そう思わない



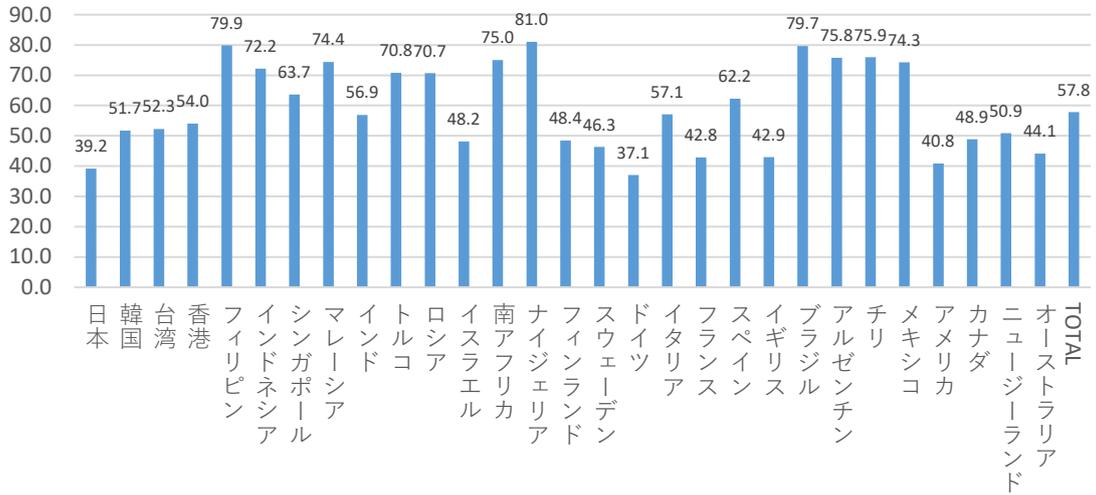
Q13-4 今回の新型コロナウイルスは中国の研究所から漏洩拡散したものだ (単位:%)



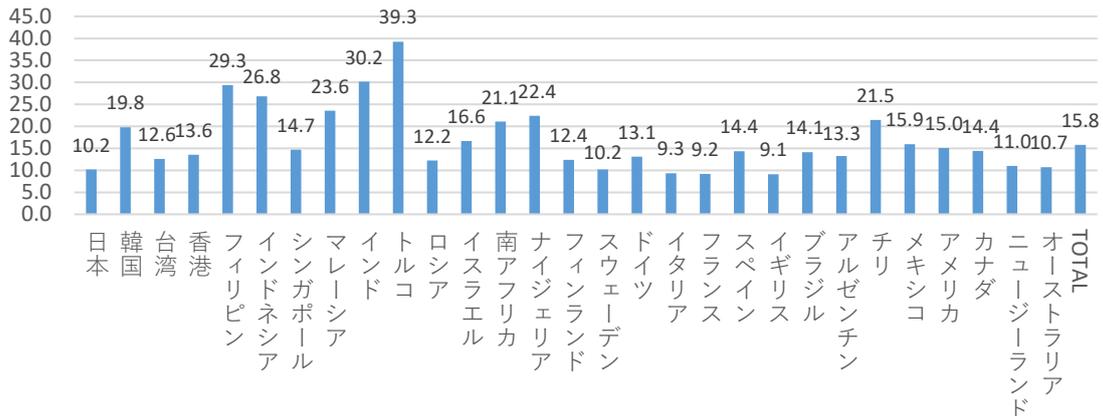
Q15-1 失業 (単位:%)



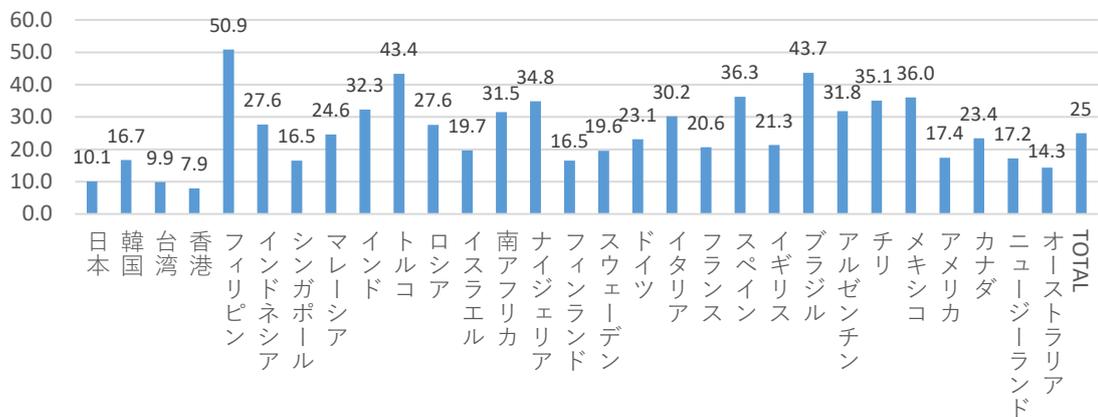
Q15-2 収入の減少 (単位: %)



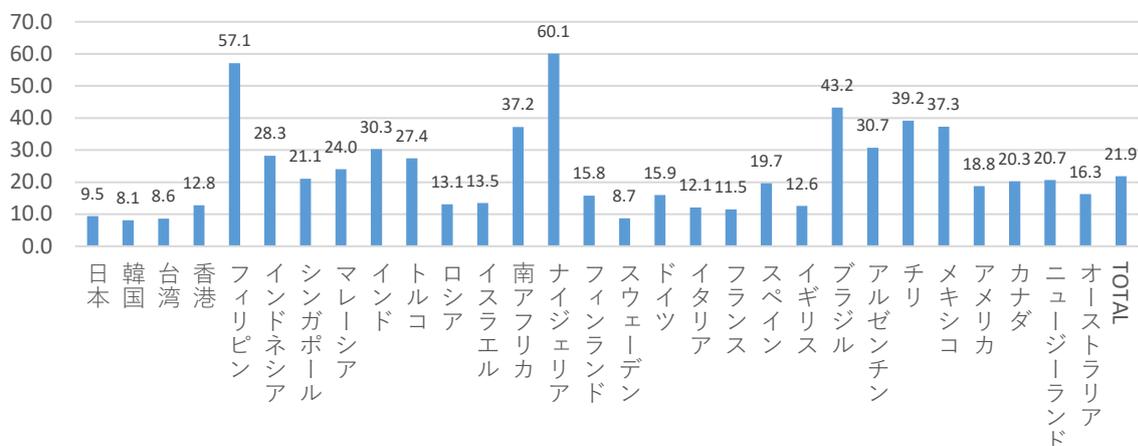
Q15-3 自宅に長くいることによる情報不足 (単位: %)



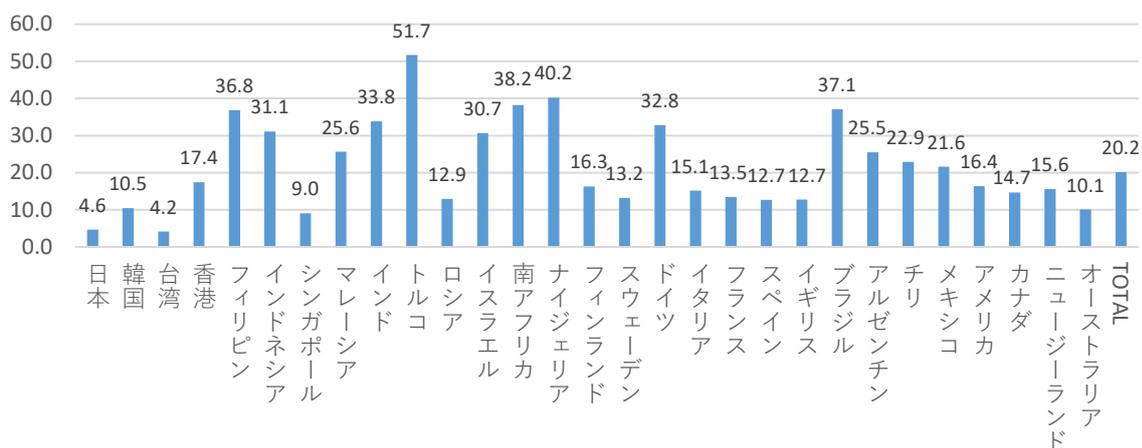
Q15-4 病院に通院できないことによる健康状態の悪化 (単位: %)



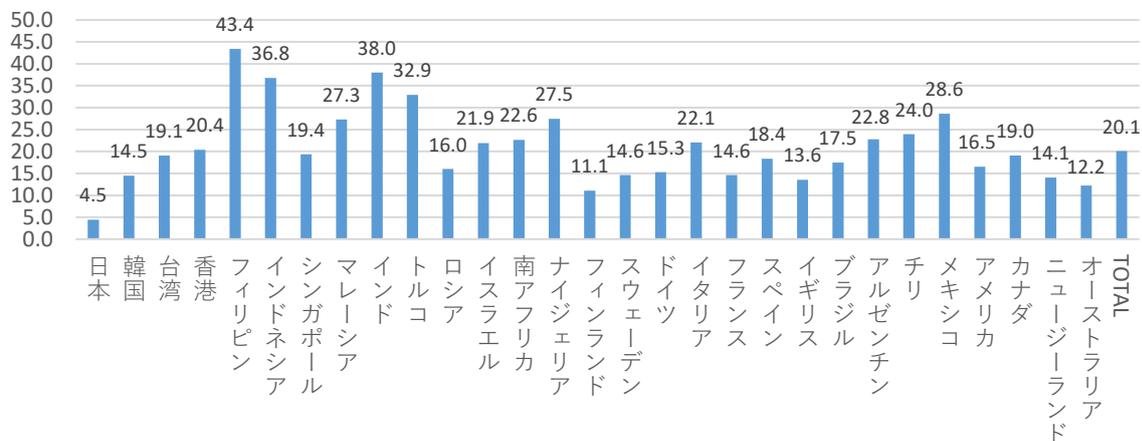
Q15-5 食料、生活必需品の入手 (単位: %)



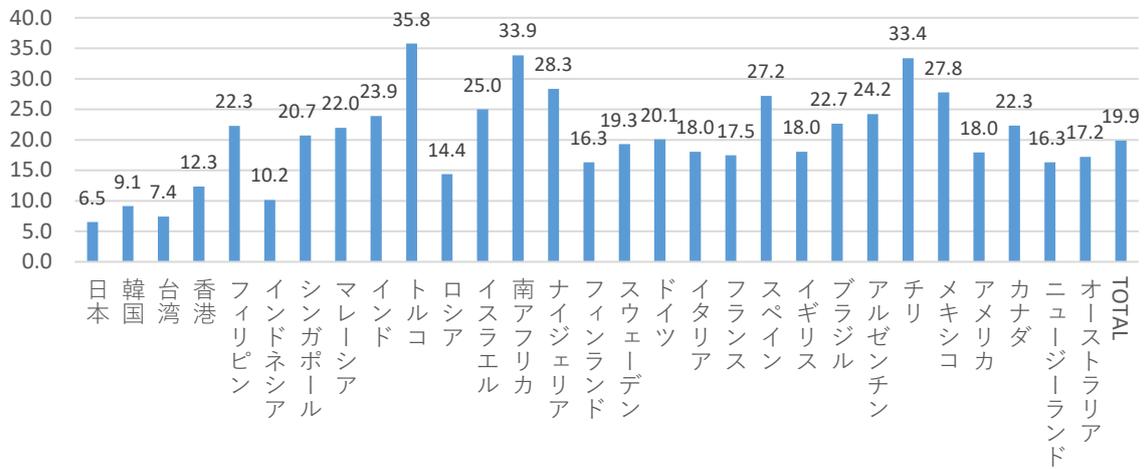
Q15-6 子どもの学習時間の減少 (単位: %)



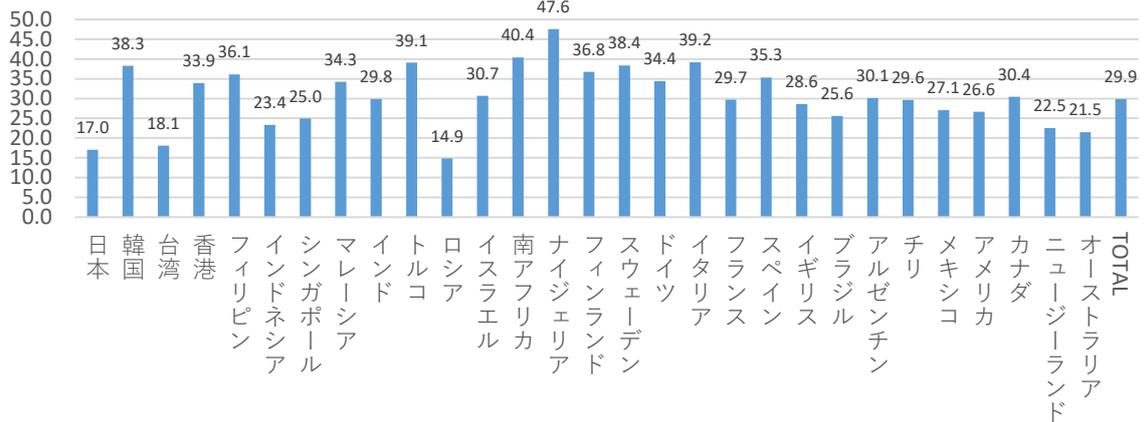
Q15-7 電子機器によるゲームの利用時間増加による健康への悪影響 (単位: %)



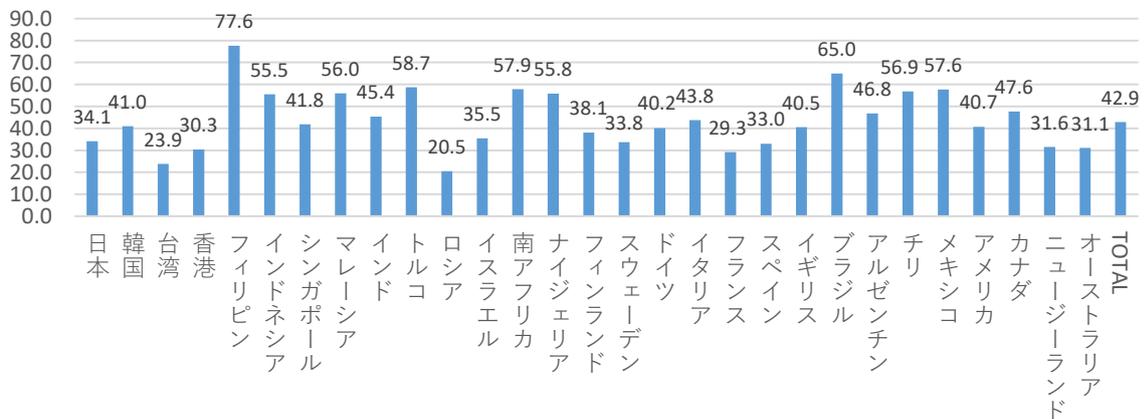
Q15-8 家族関係の悪化（単位：%）



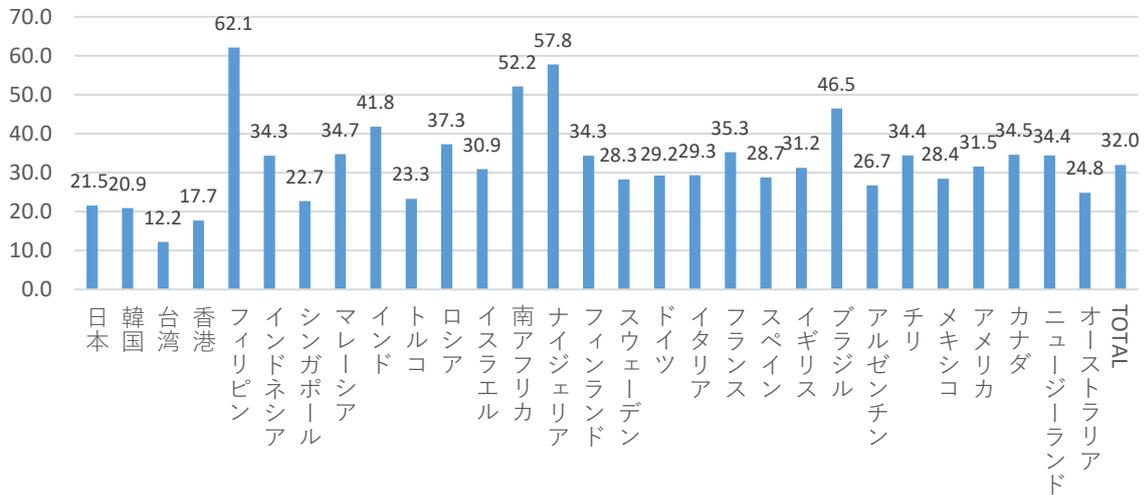
Q15-9 会えないことによる友人・知人・恋人との関係の悪化（単位：%）



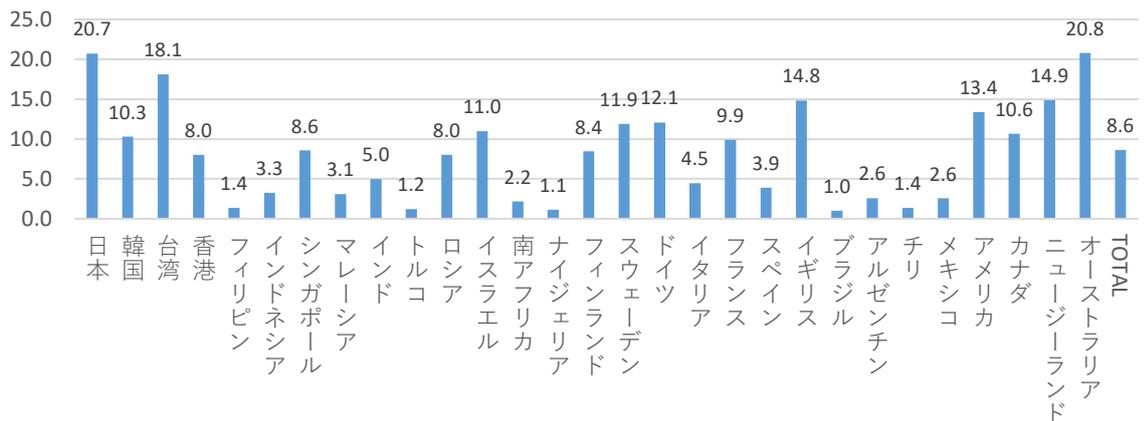
Q15-10 人々の外出が増えていることによる感染の拡大（単位：%）



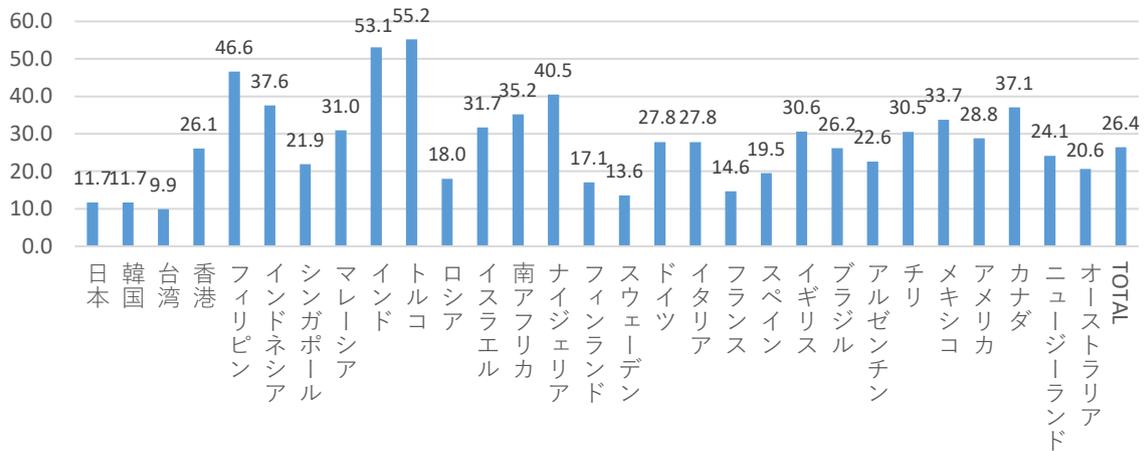
Q15-11 離れて暮らす身内の安否 (単位: %)



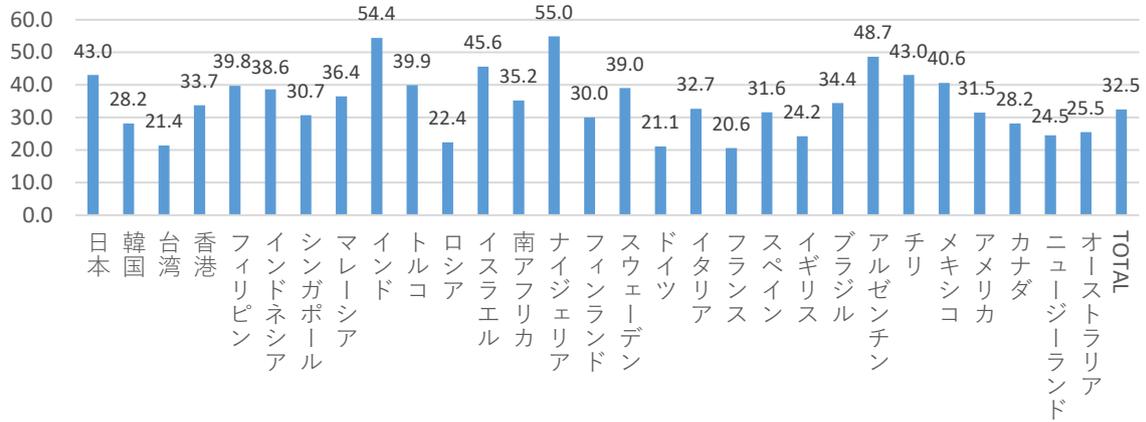
Q15-13 あてはまるものはない (単位: %)



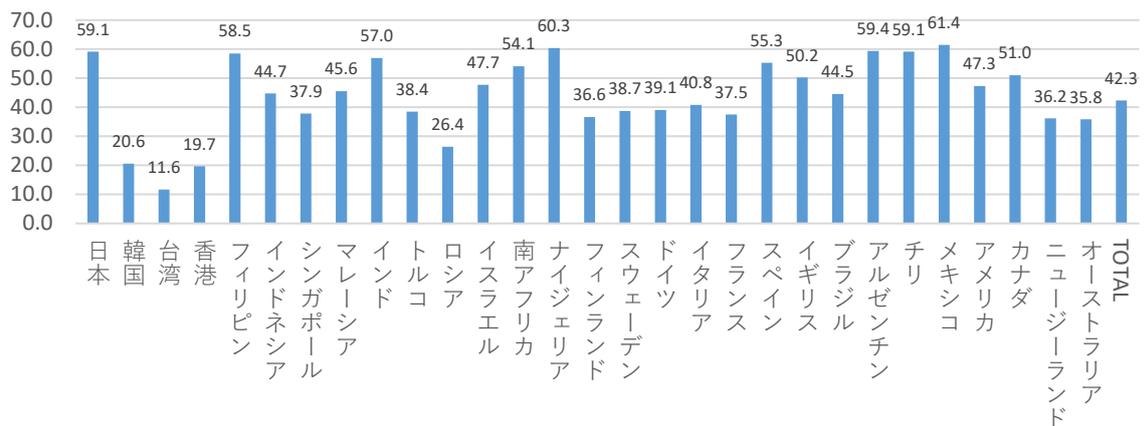
Q16-3 休業した (単位: %)



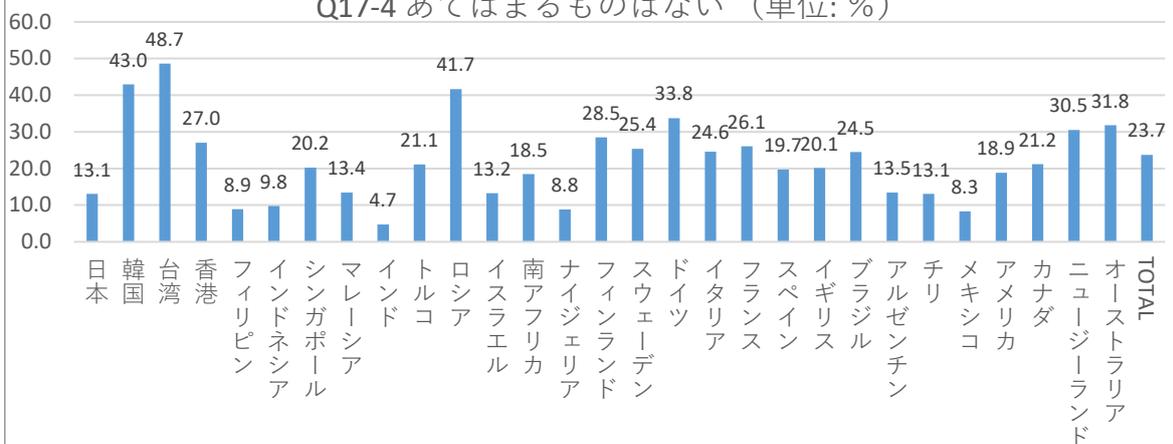
Q17-2 学習で電子会議システム（Zoomなど）を使った（単位：%）



Q17-3 プライベートで電子会議システム（Zoomなど）を使った（単位：%）

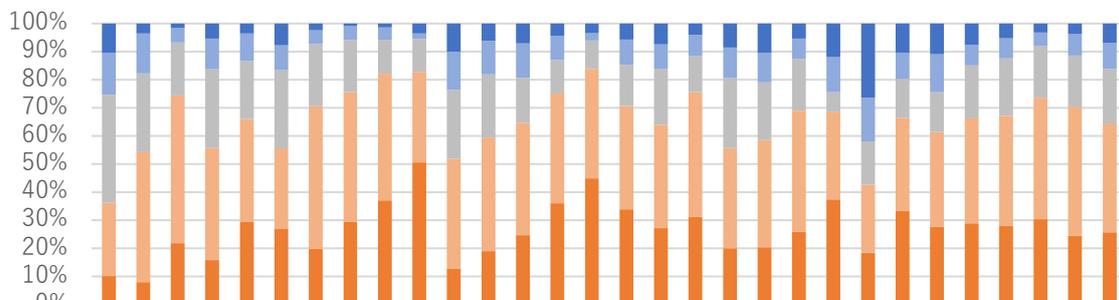


Q17-4 あてはまるものはない（単位：%）



Q19-2 ウイルスの拡散防止に役立つならば、
他人の自由をある程度犠牲にしてもかまわない

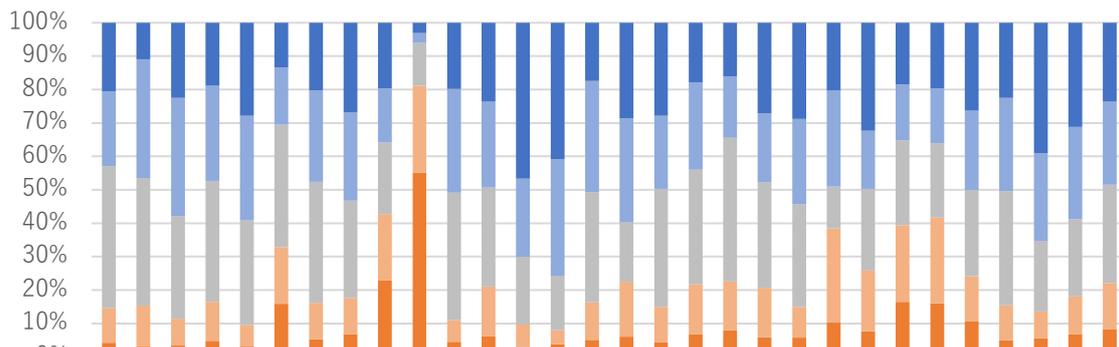
■ そう思う ■ ややそう思う ■ どちらともいえない ■ あまりそう思わない ■ そう思わない



	日本	韓国	台湾	香港	フィリピン	インドネシア	シンガポール	マレーシア	インド	トルコ	ロシア	イスラエル	南アフリカ	ナイジェリア	フィンランド	スウェーデン	ドイツ	イタリア	フランス	スペイン	イギリス	ブラジル	アルゼンチン	チリ	メキシコ	アメリカ	カナダ	ニュージーランド	オーストラリア	TOTAL
■ そう思わない	10.5%	3.5%	1.5%	5.4%	3.5%	7.7%	2.4%	0.9%	1.4%	3.5%	10.0%	6.1%	7.1%	4.5%	3.4%	5.7%	7.4%	4.0%	8.5%	10.4%	5.3%	12.0%	26.4%	10.4%	0.9%	7.6%	5.2%	3.2%	3.8%	6.9%
■ あまりそう思わない	14.9%	4.2%	5.2%	10.9%	9.8%	8.9%	4.9%	4.4%	2.0%	13.7%	2.0%	1.2%	1.9%	2.6%	9.0%	8.6%	7.5%	10.9%	10.5%	7.3%	12.5%	15.5%	9.4%	13.6%	7.3%	7.2%	4.9%	7.6%	9.3%	
■ どちらともいえない	38.4%	28.1%	18.9%	28.0%	20.7%	27.8%	22.1%	18.7%	12.1%	1.7%	24.5%	22.5%	16.1%	11.9%	10.1%	14.6%	20.1%	3.0%	25.0%	20.6%	18.5%	7.1%	15.5%	3.7%	4.2%	18.9%	20.4%	18.3%	18.2%	19.4%
■ ややそう思う	26.1%	46.3%	52.7%	39.9%	36.7%	28.5%	50.8%	46.1%	45.2%	32.3%	39.0%	40.5%	40.0%	39.1%	39.0%	36.9%	36.9%	44.5%	35.7%	38.2%	43.0%	31.1%	24.2%	33.1%	33.6%	37.5%	39.1%	43.3%	46.0%	38.8%
■ そう思う	10.1%	7.9%	21.8%	15.8%	29.2%	27.0%	19.7%	29.4%	37.0%	50.5%	12.8%	18.9%	24.6%	36.0%	44.8%	33.8%	27.1%	31.1%	19.9%	20.3%	25.9%	37.3%	18.3%	33.3%	27.7%	28.8%	28.0%	30.3%	24.4%	25.6%

Q19-7 新型コロナウイルスに感染するのは、感染した人のせいだ

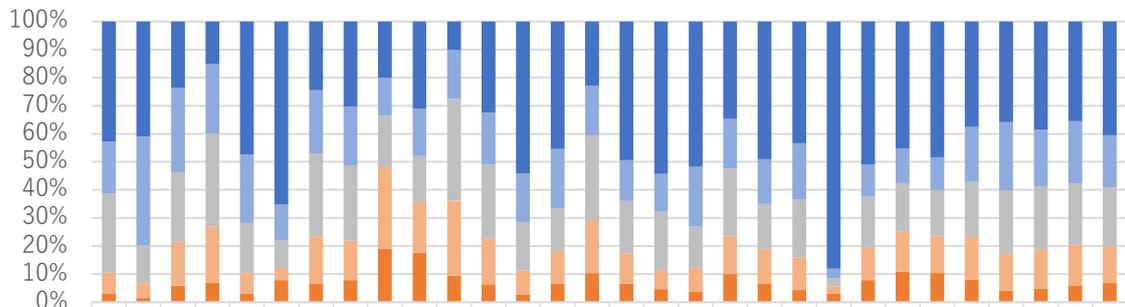
■ そう思う ■ ややそう思う ■ どちらともいえない ■ あまりそう思わない ■ そう思わない



	日本	韓国	台湾	香港	フィリピン	インドネシア	シンガポール	マレーシア	インド	トルコ	ロシア	イスラエル	南アフリカ	ナイジェリア	フィンランド	スウェーデン	ドイツ	イタリア	フランス	スペイン	イギリス	ブラジル	アルゼンチン	チリ	メキシコ	アメリカ	カナダ	ニュージーランド	オーストラリア	TOTAL
■ そう思わない	20.6%	10.9%	22.5%	18.8%	27.8%	3.4%	20.2%	26.9%	19.6%	3.1%	19.8%	23.6%	46.7%	40.8%	17.4%	28.6%	27.8%	7.8%	1.9%	2.2%	28.8%	20.3%	32.3%	18.5%	9.6%	26.3%	22.5%	39.0%	31.2%	23.6%
■ あまりそう思わない	22.3%	35.6%	35.3%	28.5%	31.2%	7.1%	27.5%	26.3%	16.3%	2.9%	31.1%	25.7%	23.4%	34.8%	33.4%	31.1%	21.9%	26.2%	18.3%	20.6%	25.5%	28.8%	17.4%	6.7%	6.4%	23.8%	27.9%	26.3%	27.6%	24.9%
■ どちらともいえない	42.5%	38.2%	30.7%	36.2%	31.4%	36.8%	36.2%	29.2%	21.4%	12.9%	38.2%	29.6%	20.3%	16.4%	32.8%	17.8%	35.4%	34.3%	3.0%	31.5%	30.8%	12.5%	24.5%	25.4%	22.3%	25.8%	34.2%	21.1%	23.1%	29.4%
■ ややそう思う	10.4%	12.1%	8.0%	11.6%	6.5%	16.9%	10.9%	10.8%	19.7%	26.0%	6.5%	14.8%	6.7%	4.2%	11.3%	16.5%	10.6%	4.9%	4.6%	14.8%	9.1%	28.2%	18.1%	22.9%	25.7%	13.4%	10.4%	8.0%	11.4%	3.8%
■ そう思う	4.2%	3.2%	3.4%	4.8%	3.1%	15.9%	5.3%	6.8%	23.0%	55.2%	4.5%	6.2%	3.0%	3.7%	5.1%	6.0%	4.3%	6.8%	8.0%	5.9%	5.8%	10.3%	7.7%	16.5%	16.0%	10.7%	5.0%	5.6%	6.7%	8.3%

Q19-8 新型コロナウイルス感染者は、敬遠されたりいやがらせされたりするのは当然だ

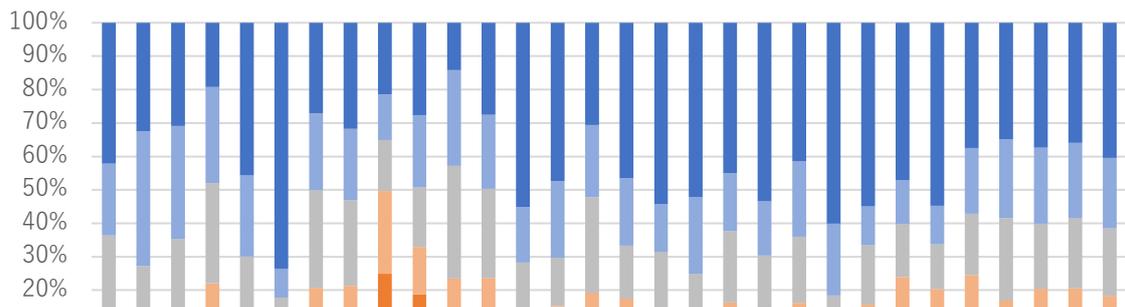
■ そう思う ■ ややそう思う ■ どちらともいえない ■ あまりそう思わない ■ そう思わない



	日本	韓国	台湾	香港	フィリピン	インドネシア	シンガポール	マレーシア	インド	トルコ	ロシア	イスラエル	南アフリカ	ナイジェリア	フィンランド	スウェーデン	ドイツ	イタリア	フランス	スペイン	イギリス	ブラジル	アルゼンチン	チリ	メキシコ	アメリカ	カナダ	ニュージーランド	オーストラリア	TOTAL
■ そう思わない	42.7%	41.0%	23.7%	15.1%	47.3%	65.2%	4.5%	30.3%	20.0%	31.1%	10.1%	32.4%	54.1%	45.3%	22.9%	49.3%	54.2%	51.8%	34.7%	49.1%	43.3%	88.1%	51.0%	45.2%	48.3%	37.6%	35.9%	38.6%	35.5%	40.5%
■ あまりそう思わない	18.5%	38.7%	30.0%	24.8%	24.5%	12.8%	22.5%	21.0%	13.6%	16.8%	17.5%	18.6%	17.3%	21.2%	17.6%	14.6%	13.4%	21.3%	17.6%	15.9%	20.2%	3.4%	11.2%	12.4%	11.8%	19.5%	24.3%	20.2%	22.2%	18.7%
■ どちらともいえない	28.2%	3.6%	24.8%	33.1%	17.7%	9.8%	29.6%	26.8%	18.3%	16.6%	36.3%	26.2%	17.3%	15.6%	30.2%	18.7%	20.9%	4.9%	24.0%	16.1%	20.6%	2.9%	18.5%	17.1%	16.2%	19.7%	23.0%	22.4%	21.8%	20.9%
■ ややそう思う	7.5%	5.2%	15.6%	20.1%	7.5%	4.3%	16.9%	14.1%	29.0%	18.0%	26.7%	16.4%	8.7%	11.3%	18.9%	10.7%	6.7%	8.4%	13.6%	12.5%	11.6%	2.6%	11.4%	4.5%	3.3%	15.2%	12.8%	14.0%	14.5%	13.1%
■ そう思う	3.0%	1.5%	5.9%	6.9%	3.0%	7.9%	6.5%	7.9%	19.1%	17.6%	9.5%	6.4%	2.6%	6.5%	10.3%	6.6%	4.7%	3.7%	10.0%	6.5%	4.3%	3.0%	7.9%	10.8%	10.4%	8.0%	4.1%	4.9%	6.0%	6.8%

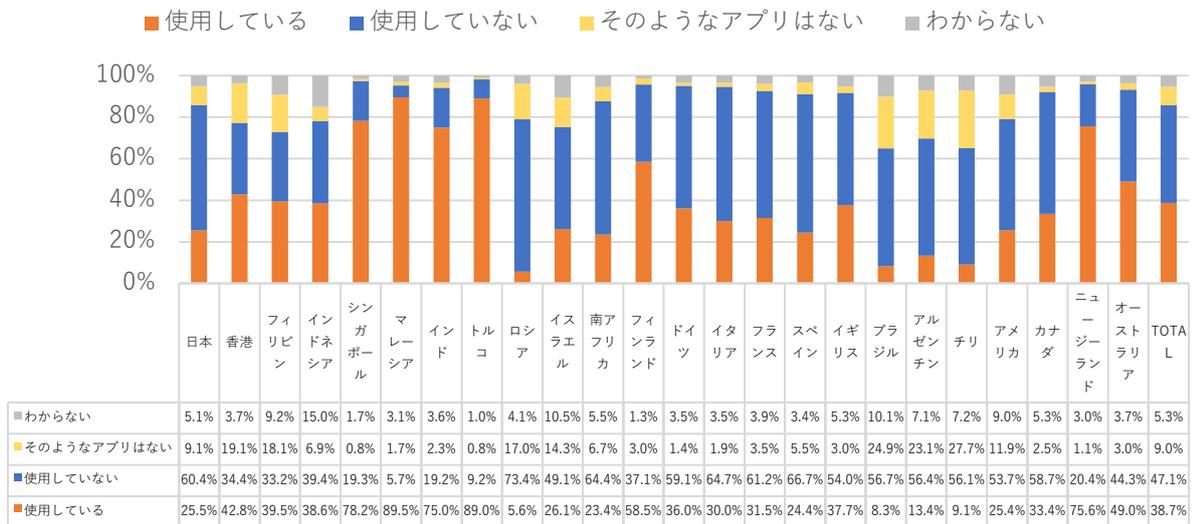
Q19-9 新型コロナウイルスの感染者は批判されて当然だ

■ そう思う ■ ややそう思う ■ どちらともいえない ■ あまりそう思わない ■ そう思わない

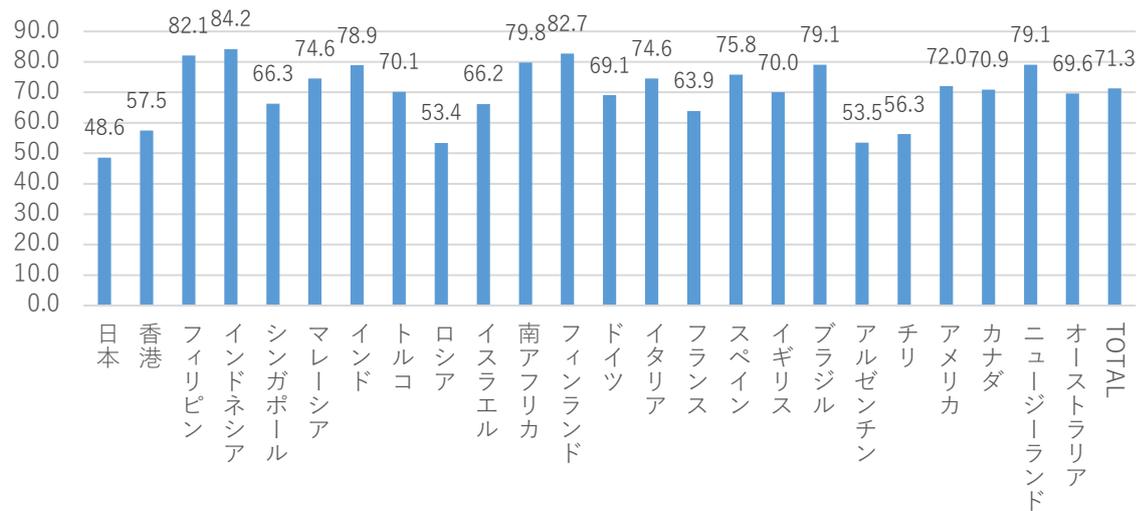


	日本	韓国	台湾	香港	フィリピン	インドネシア	シンガポール	マレーシア	インド	トルコ	ロシア	イスラエル	南アフリカ	ナイジェリア	フィンランド	スウェーデン	ドイツ	イタリア	フランス	スペイン	イギリス	ブラジル	アルゼンチン	チリ	メキシコ	アメリカ	カナダ	ニュージーランド	オーストラリア	TOTAL
■ そう思わない	42.2%	32.5%	30.9%	19.2%	45.7%	37.6%	27.1%	31.7%	21.4%	27.6%	14.2%	27.6%	55.1%	47.3%	30.6%	46.4%	54.2%	52.2%	45.1%	53.4%	41.4%	60.1%	54.9%	47.1%	44.8%	37.5%	34.9%	37.4%	35.9%	40.5%
■ あまりそう思わない	21.5%	40.4%	33.8%	28.8%	24.2%	8.7%	23.0%	21.4%	13.7%	21.7%	28.6%	22.1%	16.7%	22.9%	21.6%	20.2%	14.2%	23.0%	17.3%	16.3%	22.6%	21.5%	11.7%	13.1%	11.5%	19.7%	23.6%	22.7%	22.5%	21.1%
■ どちらともいえない	29.3%	18.7%	23.3%	30.0%	17.2%	11.4%	29.2%	25.6%	15.3%	17.8%	33.7%	26.7%	15.2%	14.4%	28.5%	15.9%	20.7%	3.7%	21.4%	15.7%	19.7%	6.1%	17.8%	15.9%	13.4%	18.4%	24.6%	19.5%	21.1%	20.2%
■ ややそう思う	4.9%	5.9%	8.0%	16.9%	8.7%	2.2%	14.1%	13.0%	24.7%	14.1%	16.7%	16.2%	8.3%	9.3%	12.4%	11.7%	6.2%	7.1%	11.3%	9.4%	10.6%	8.2%	9.3%	13.6%	11.0%	12.6%	11.9%	13.8%	13.4%	11.4%
■ そう思う	2.2%	2.6%	4.0%	5.1%	4.2%	4.1%	6.6%	8.3%	24.9%	18.8%	6.8%	7.5%	4.7%	5.9%	6.9%	5.7%	4.6%	4.1%	5.0%	5.2%	5.6%	4.1%	6.3%	10.3%	9.3%	11.9%	5.0%	6.6%	7.1%	6.9%

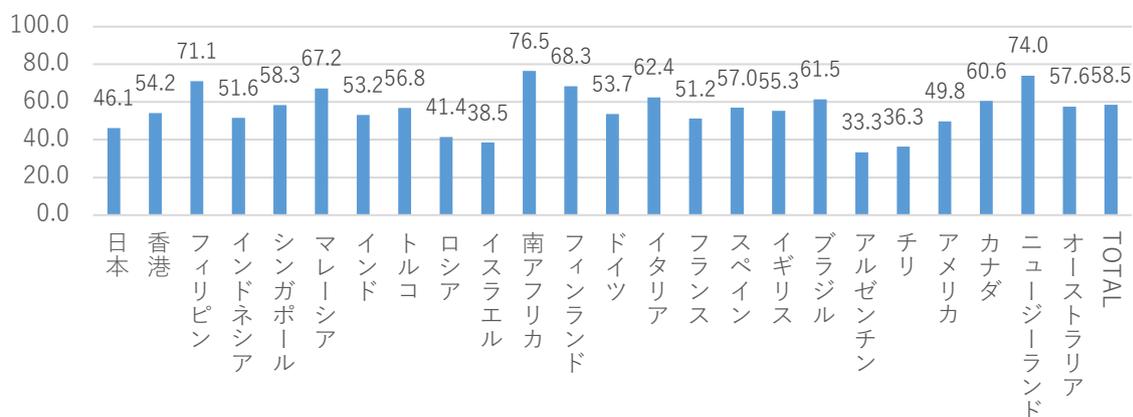
Q20 あなたは現在、国が提供している新型コロナウイルス接触確認アプリを自分のスマートフォンで使用していますか。あてはまるものを答えてください。



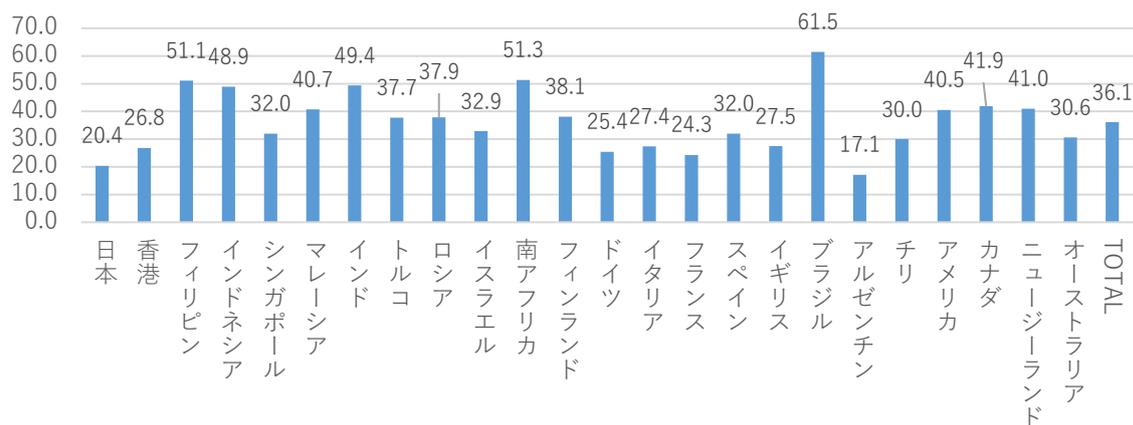
Q21-1 感染拡大防止に寄与できると思うから (単位: %)



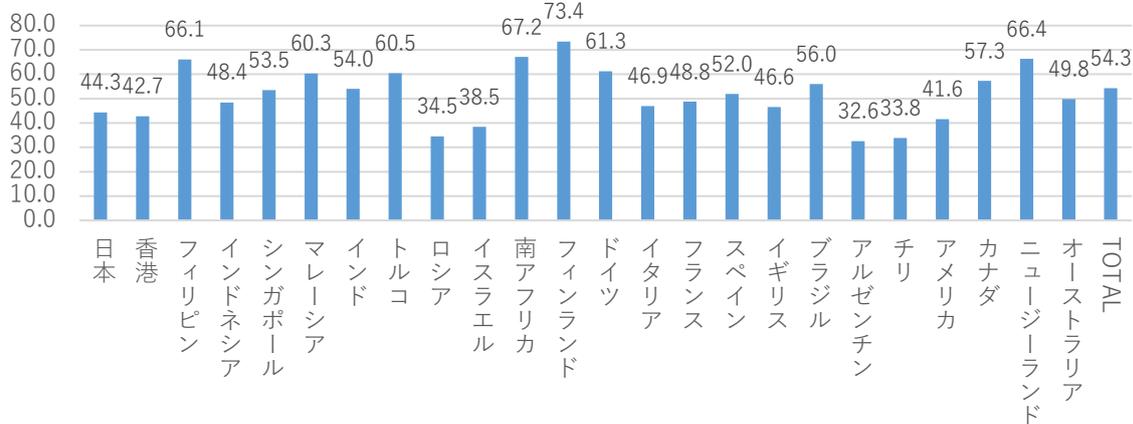
Q21-2 自分が感染したとき、接触した人にすばやく通知を送ることができるから (単位: %)



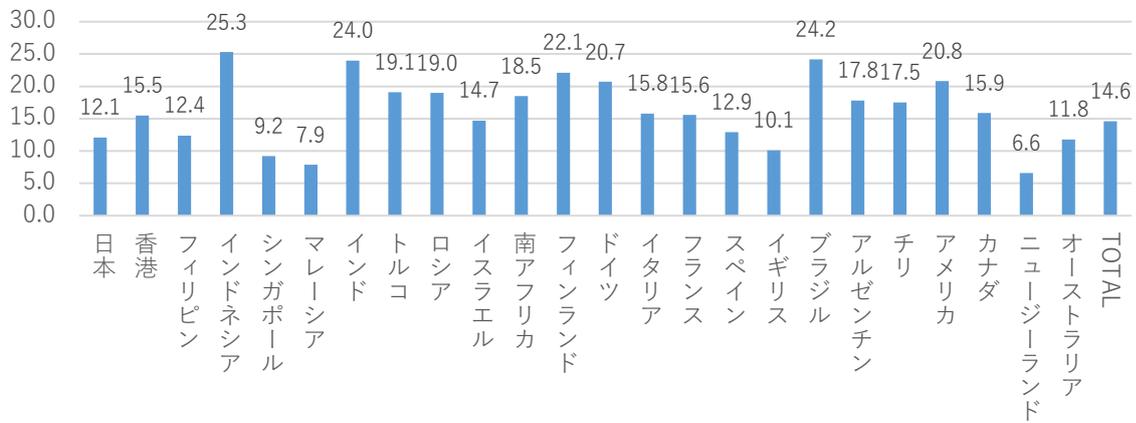
Q21-3 自分の感染を防げそうだから (単位: %)



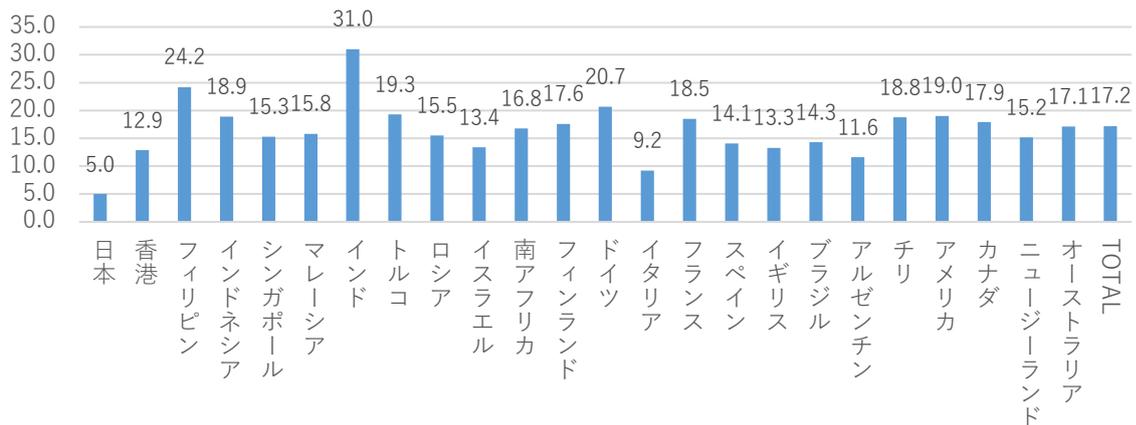
Q21-4 陽性者との接触の可能性があったときは早く知りたいから (単位: %)



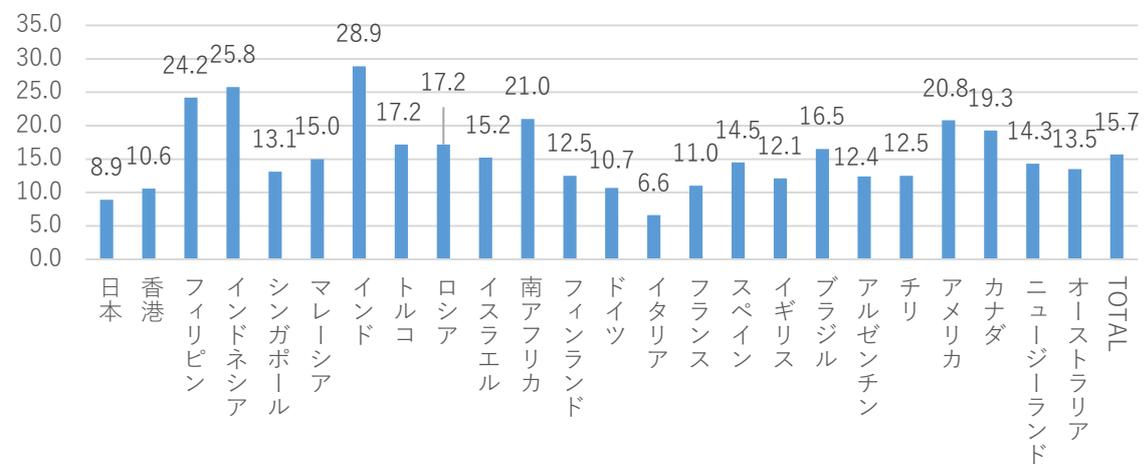
Q21-5 使い勝手を試してみたかったから (単位: %)



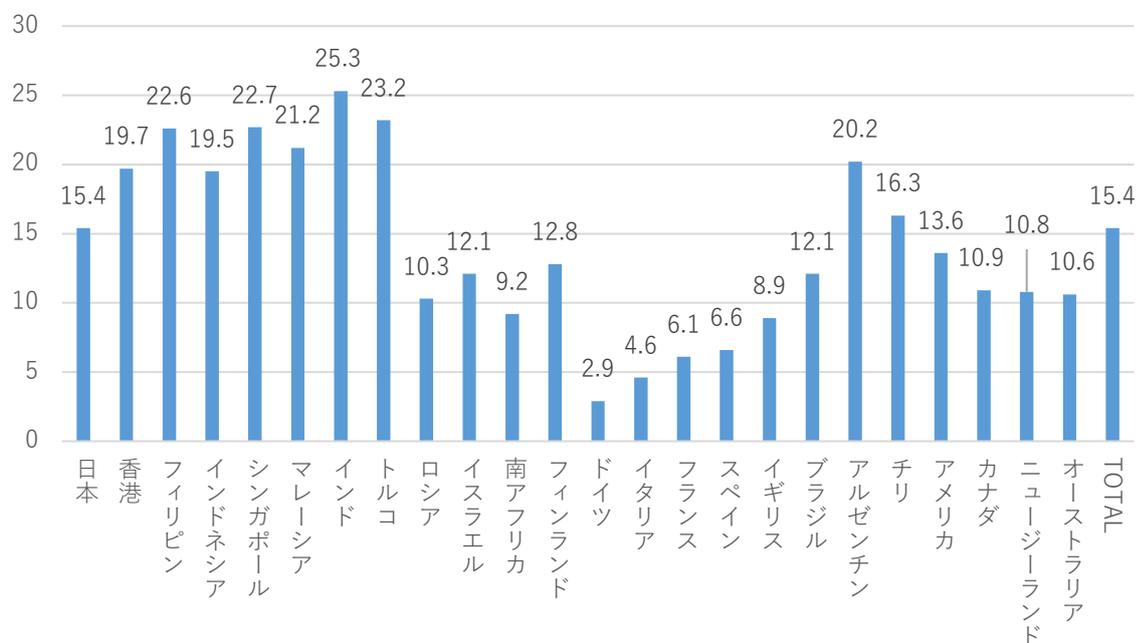
Q21-6 まわりの人・信頼できる人が利用していたから (単位: %)



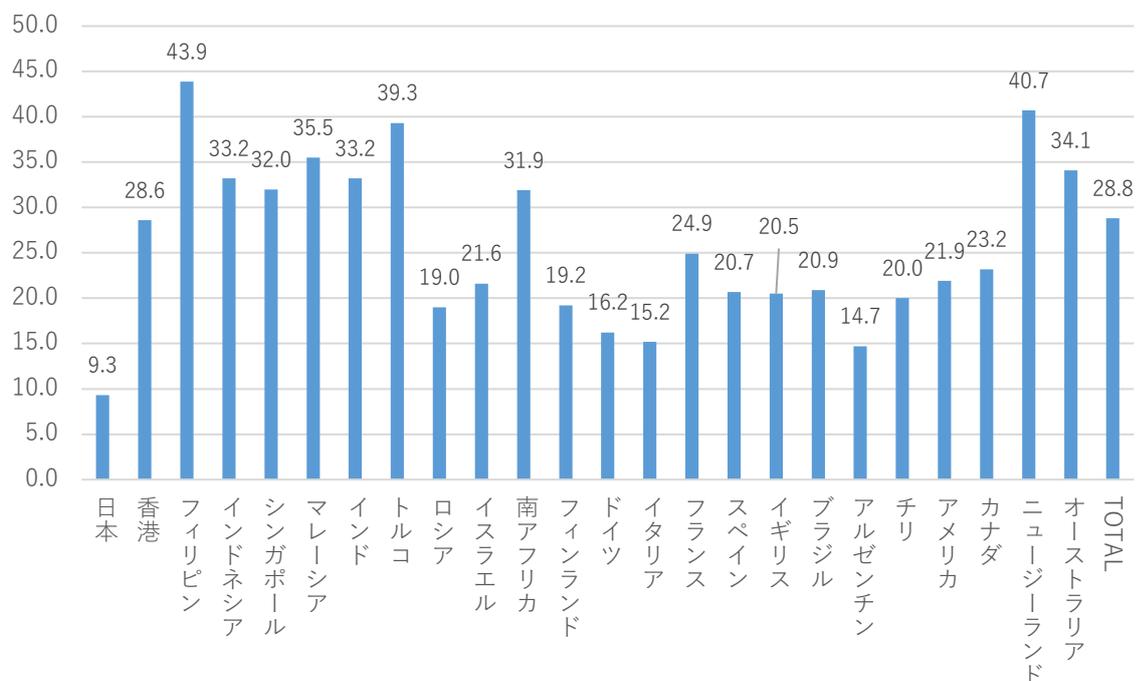
Q21-7 まわりの人に勧められたから (単位: %)



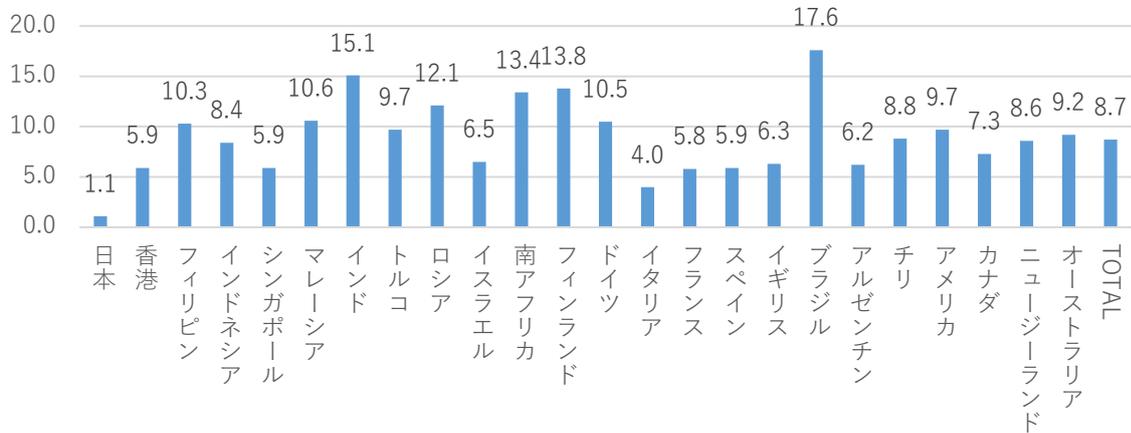
Q21-8 勤め先や学校などで利用するように言われたから (単位: %)



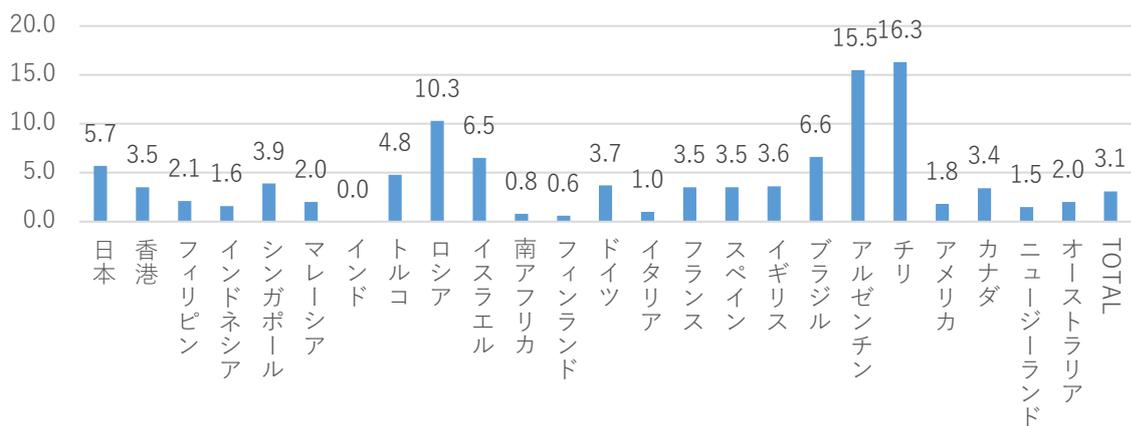
Q21-9 旅行・飲食・出勤などの外出をするにあたって、利用していた方が安心だから (単位: %)



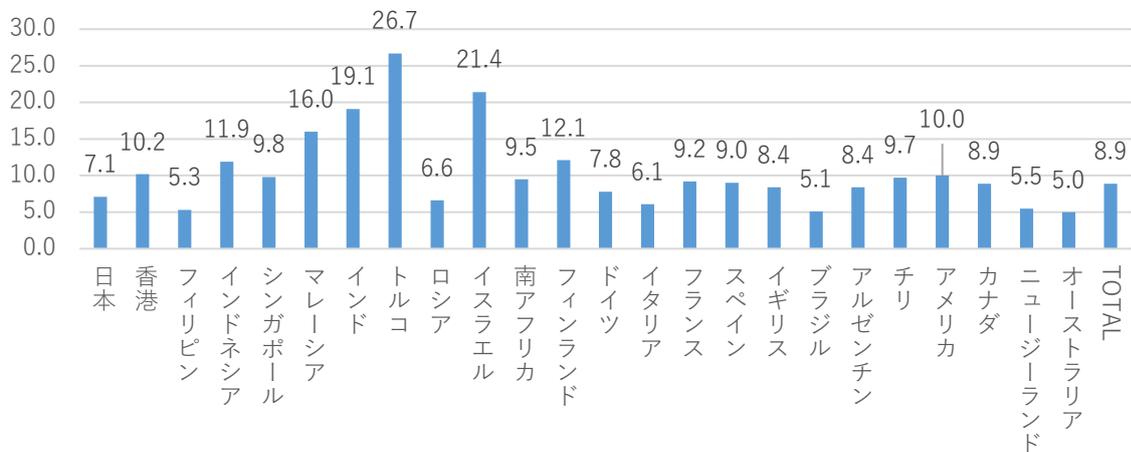
Q21-10 アプリを使うことで時流に乗れているように感じられるから (単位: %)



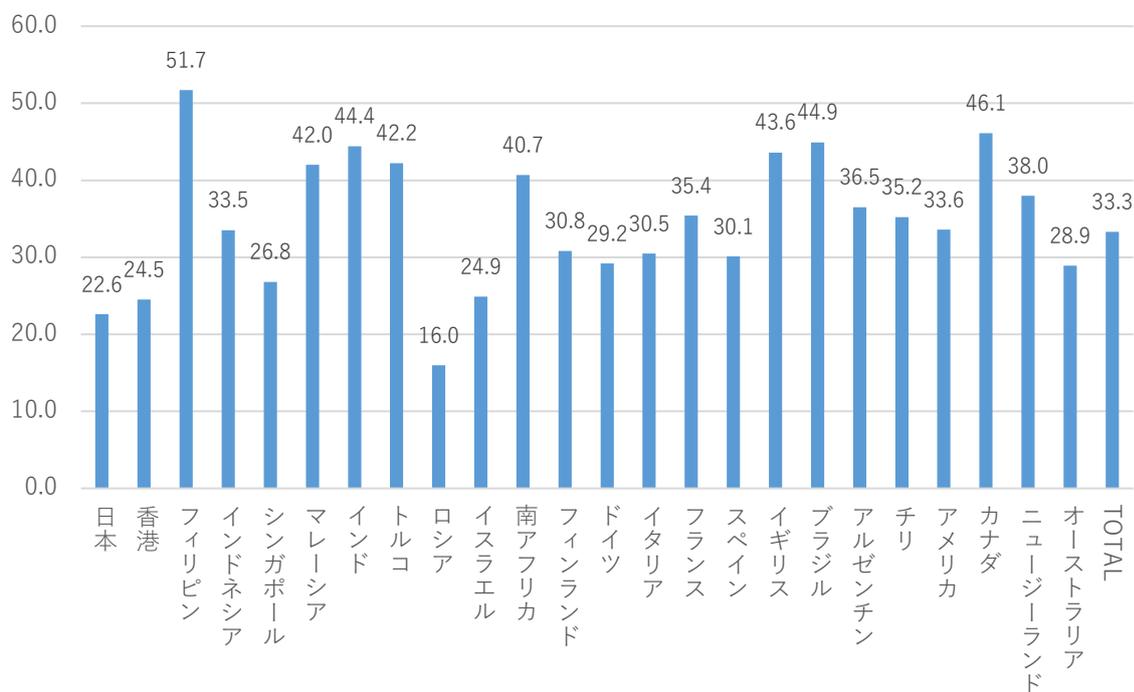
Q21-11 あてはまるものはない (単位: %)



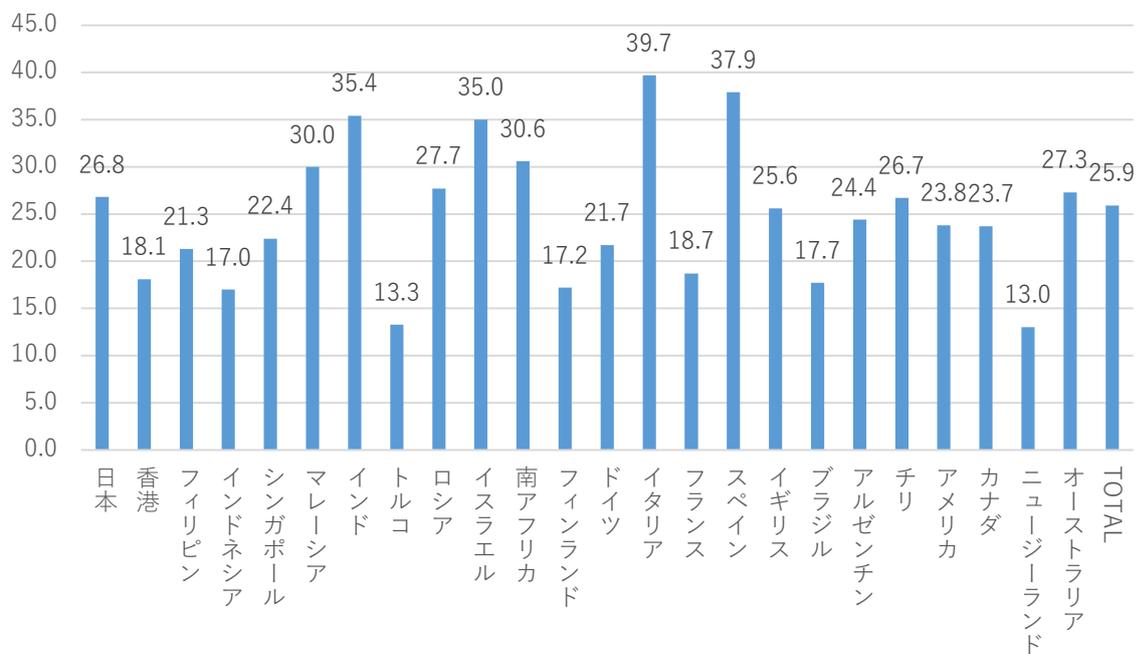
Q22-1 接触可能性を通知してほしいと思わないから (単位: %)



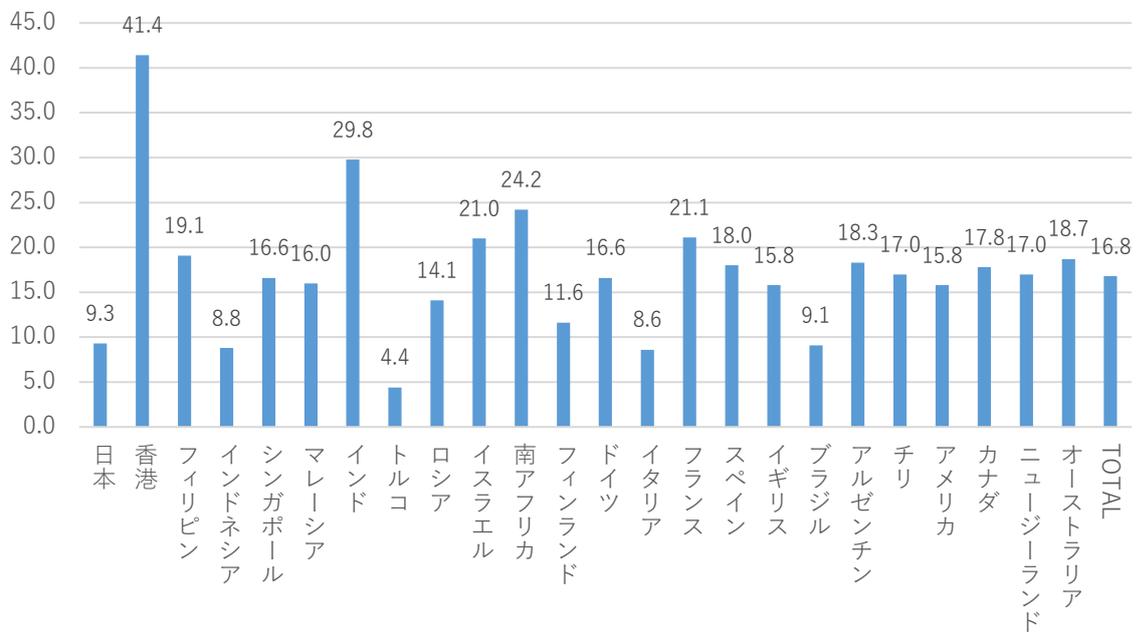
Q22-2 ほとんど外出しないから (単位: %)



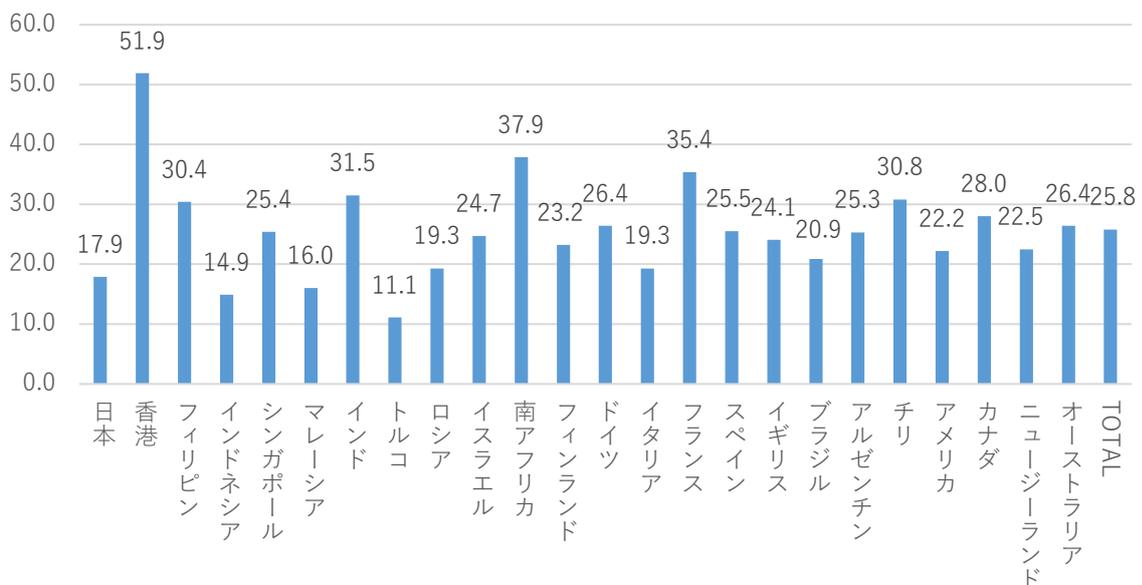
Q22-3 ほとんどの人が使っていないか意味がないと思うから (単位: %)



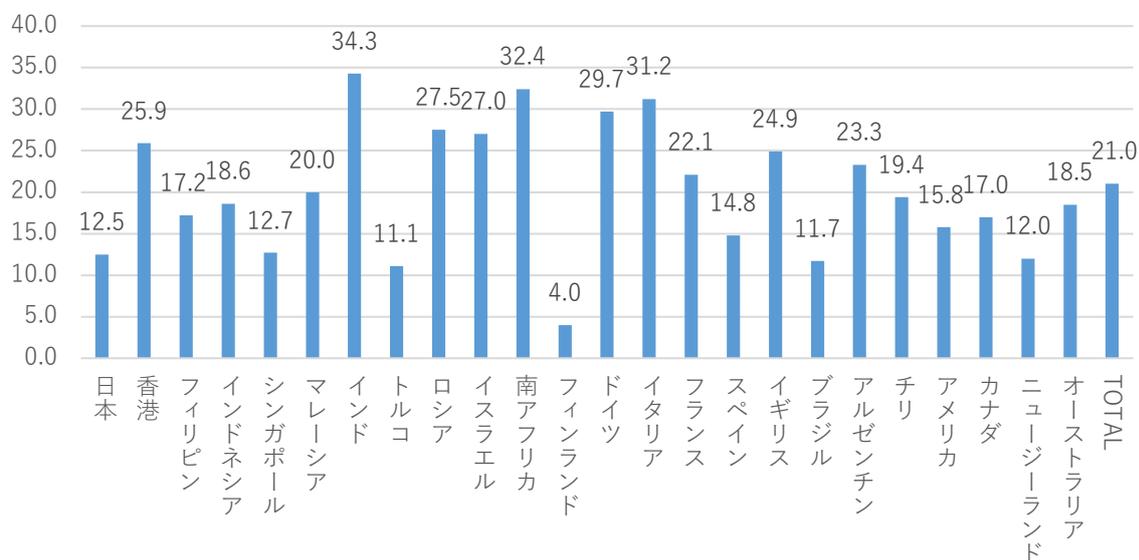
Q22-4 自分のデータがいつか政府に渡ってしまわないか不安に思うから (単位: %)



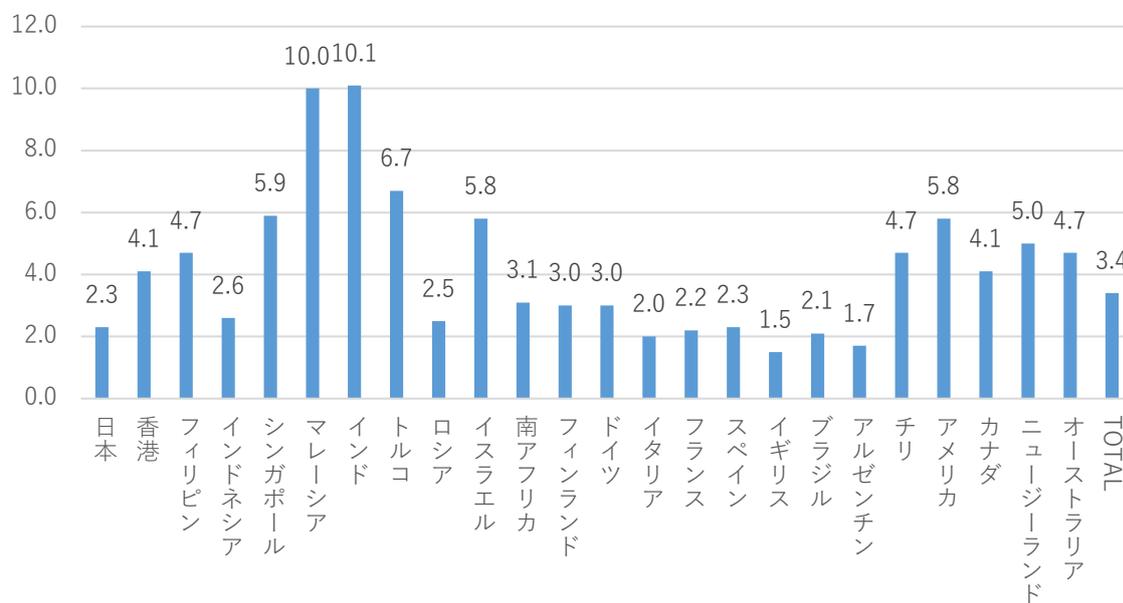
Q22-5 個人情報の扱いやプライバシーの不安があるから (単位: %)



Q22-6 感染拡大防止に意味をなさないと考えているから (単位: %)

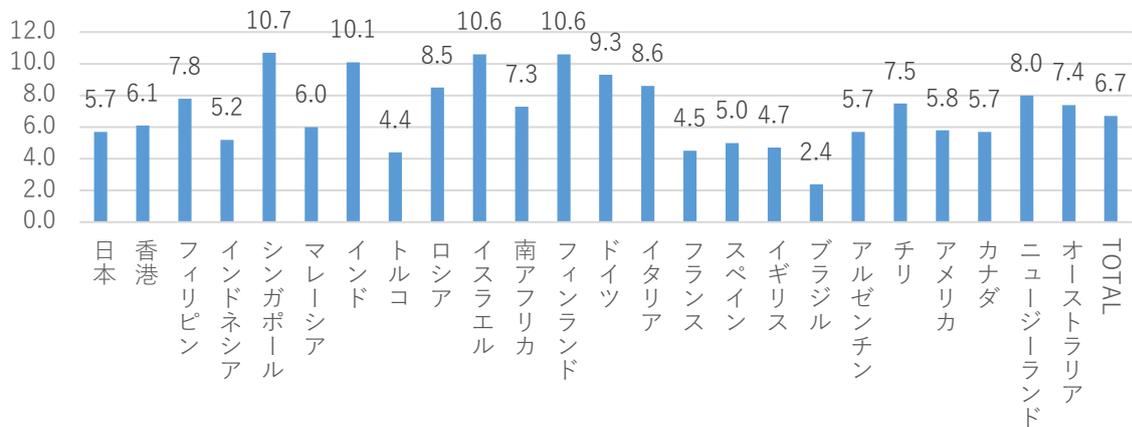


Q22-7 陽性者登録しなければならなくなったとき、知り合いに自分の感染を知られるのが怖いから (単位: %)



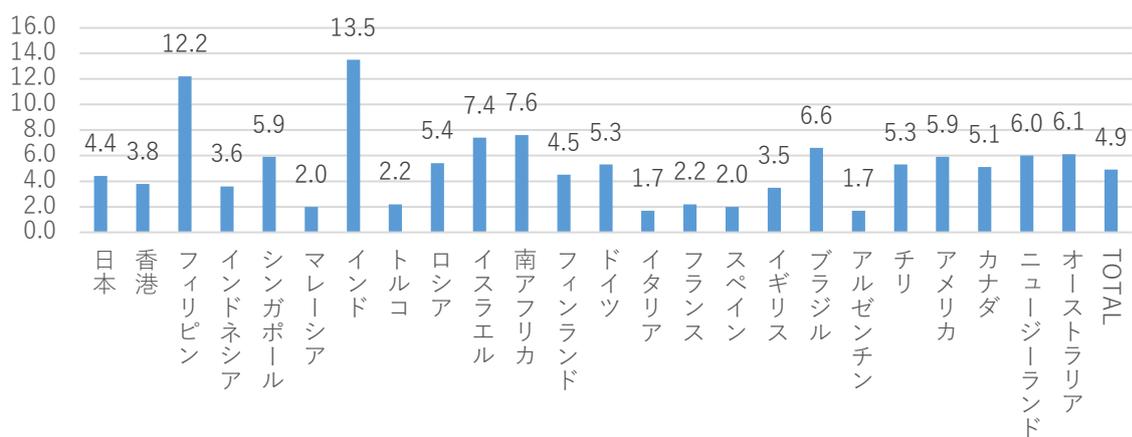
Q22-8 接触可能性の通知をもらったときの対応が面倒そうだから

(単位: %)

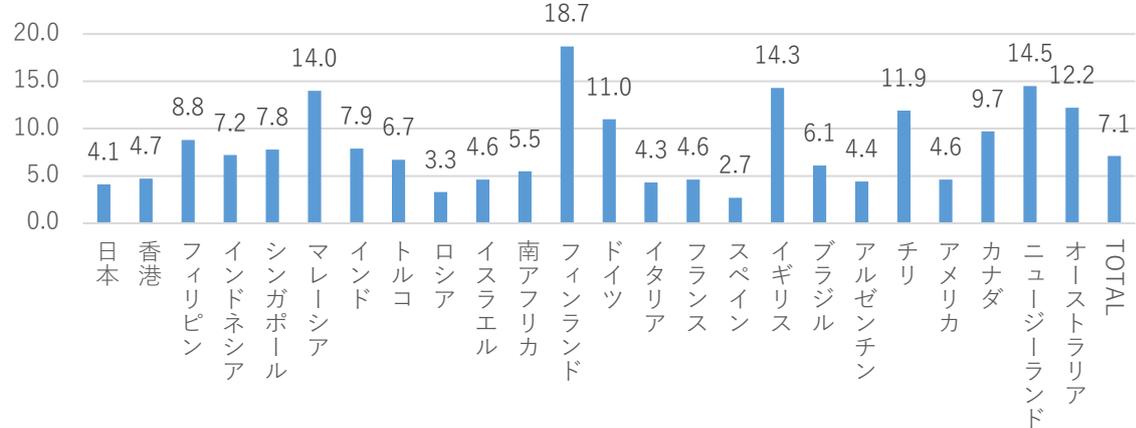


Q22-9 接触可能性の通知をもらったときの風評被害が不安だから

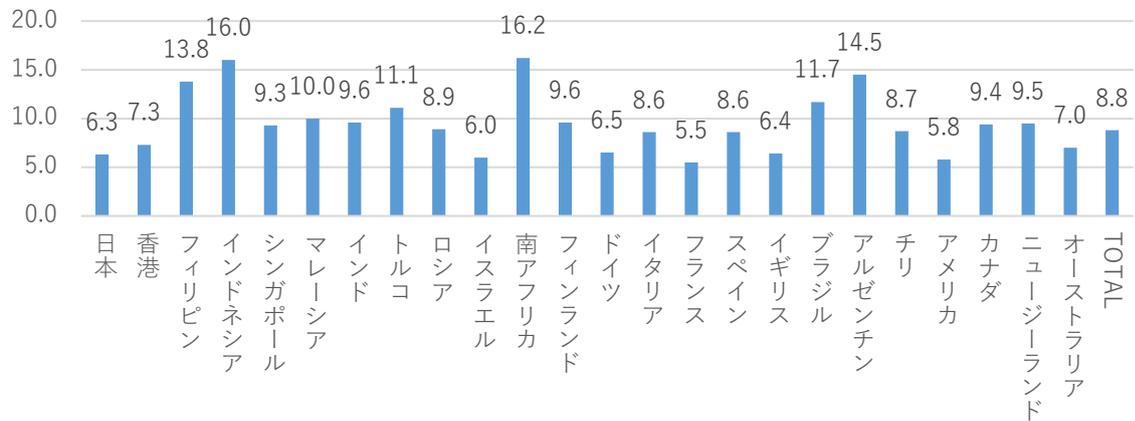
(単位: %)



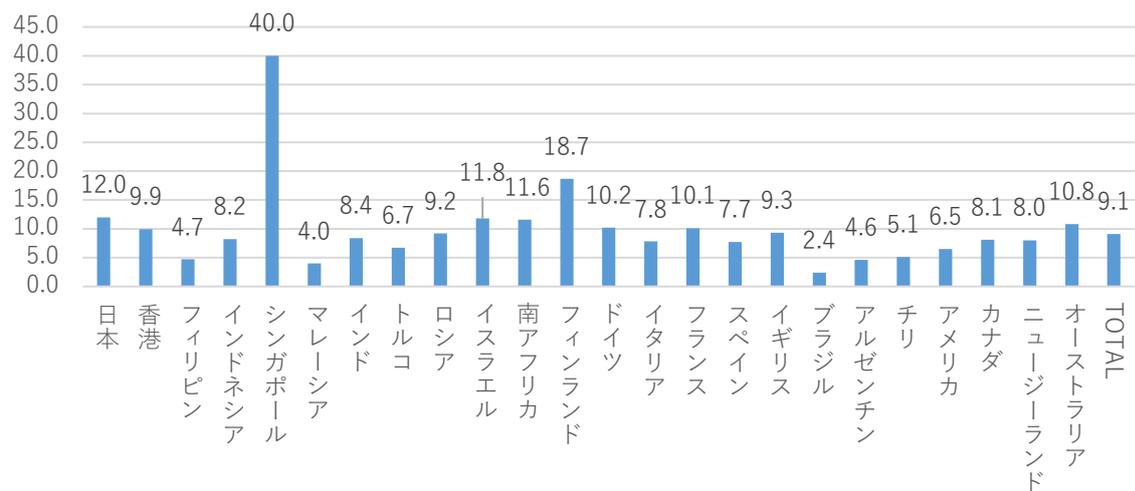
Q22-10 端末・OSが対応していないから (単位: %)



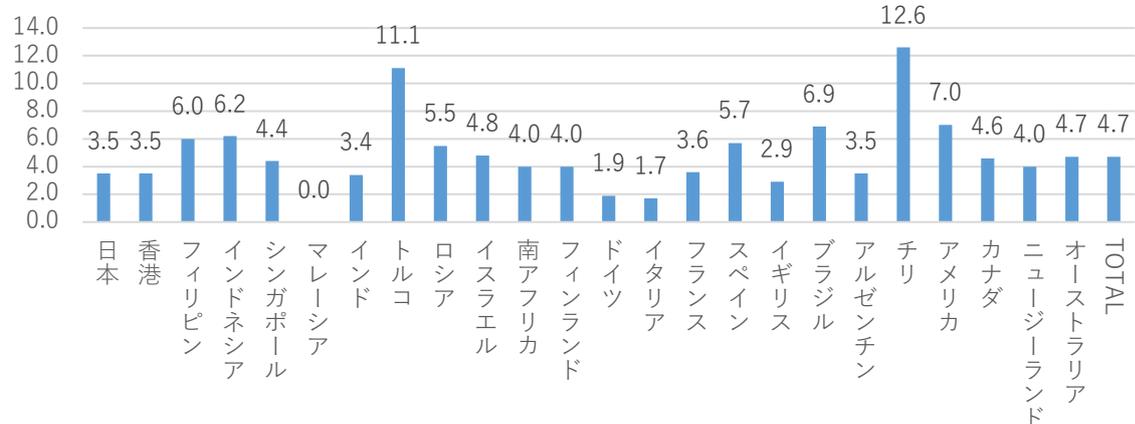
Q22-11 アプリをインストールするための容量が足りないから
(単位: %)



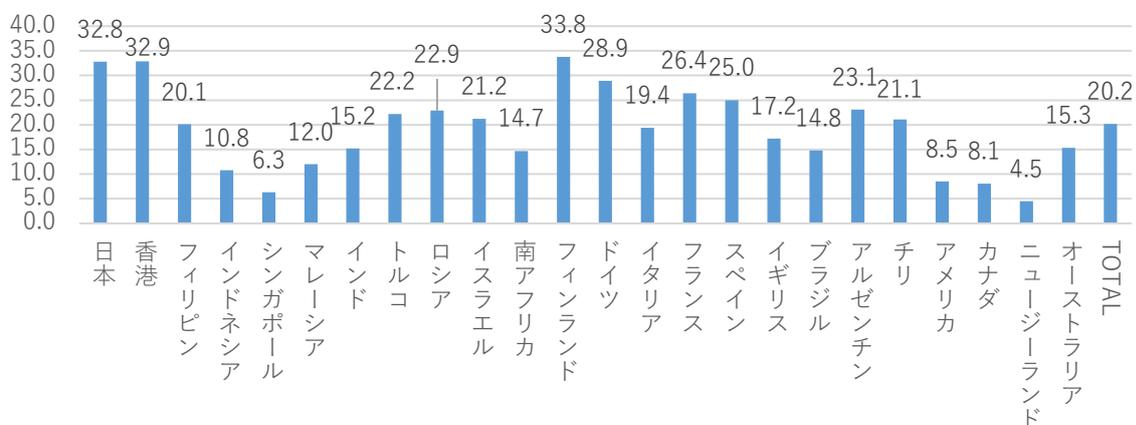
Q22-12 電池を消耗するのが嫌だから (単位: %)



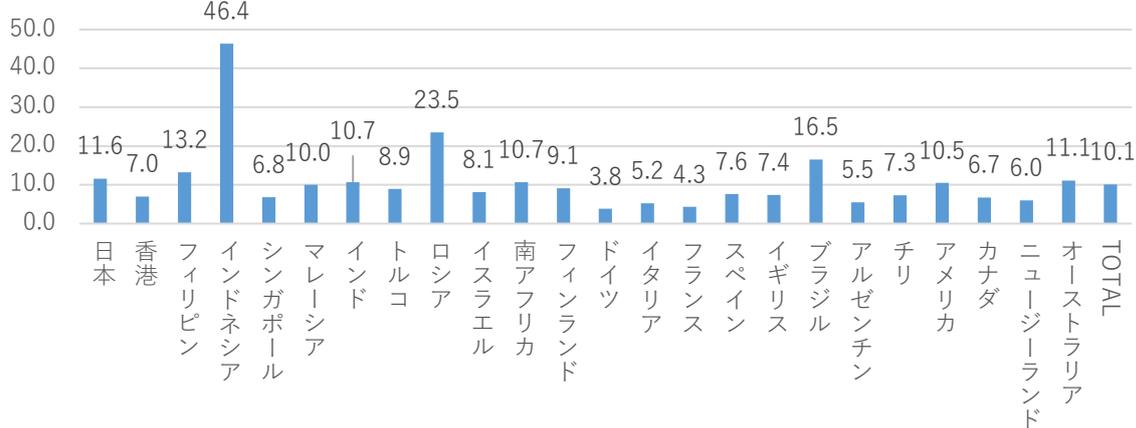
Q22-13 インストールのやり方がわからないから (単位: %)



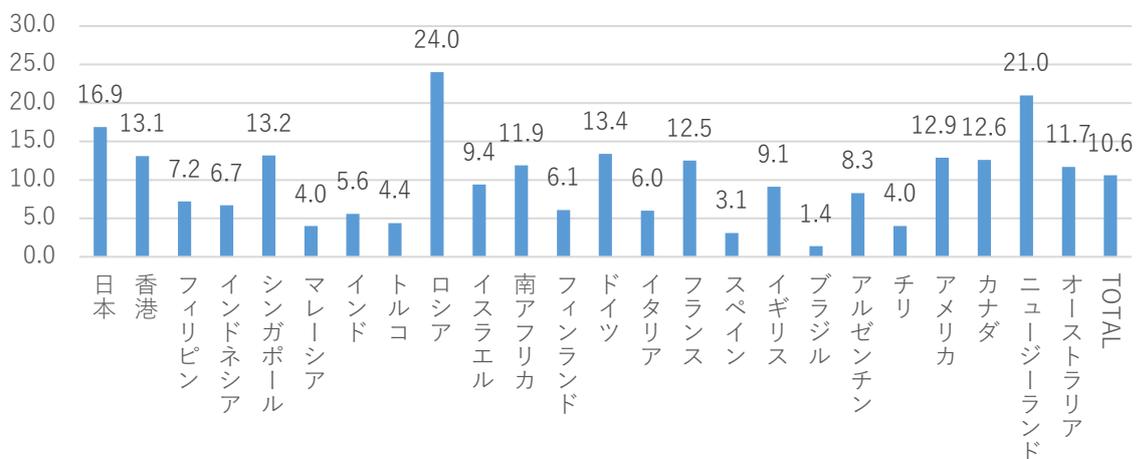
Q22-14 アプリが十分信頼できないから (単位: %)



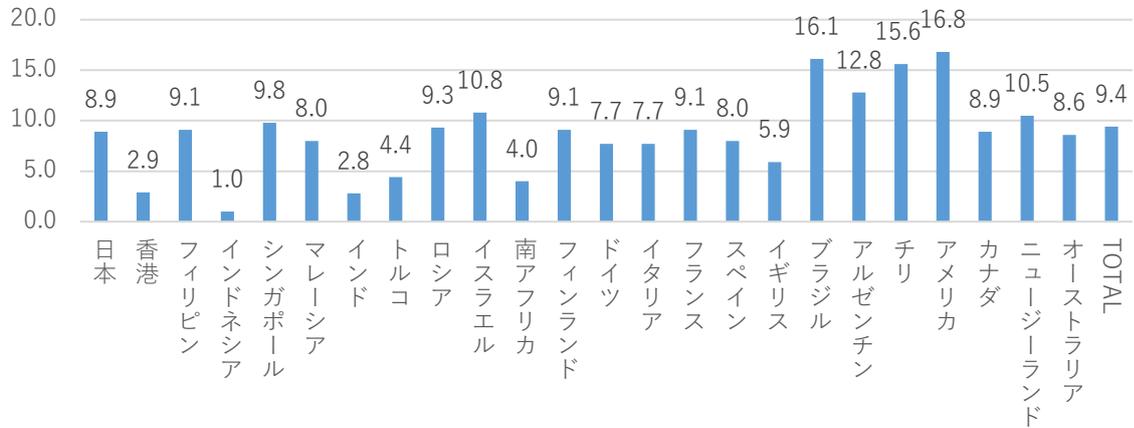
Q22-15 よくわからないから (単位: %)



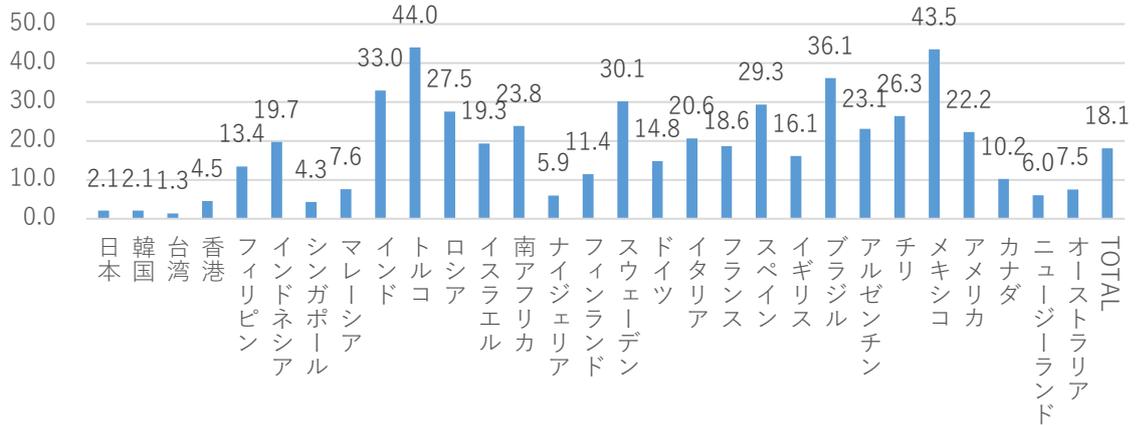
Q22-16 面倒くさいから (単位: %)



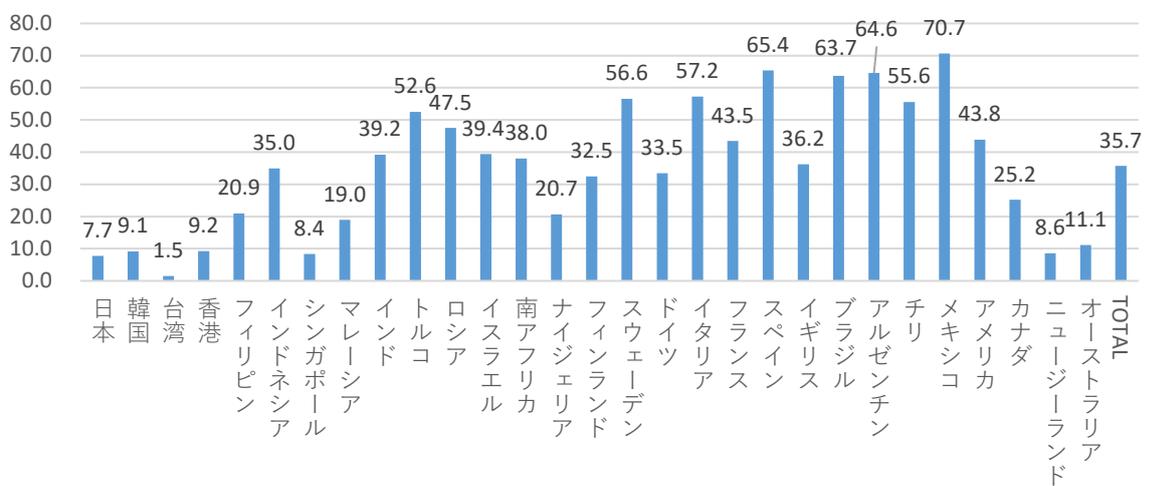
Q22-17 あてはまるものはない (単位: %)

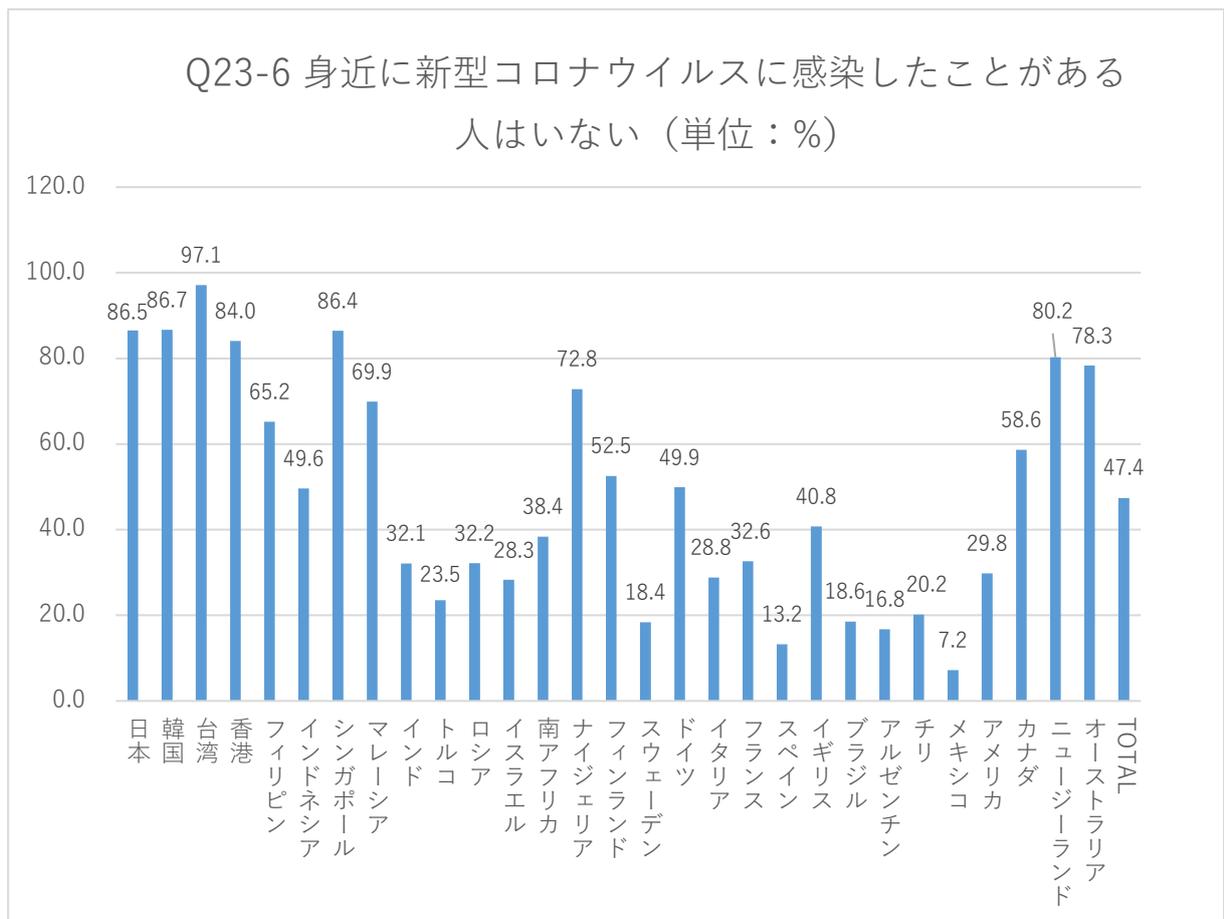
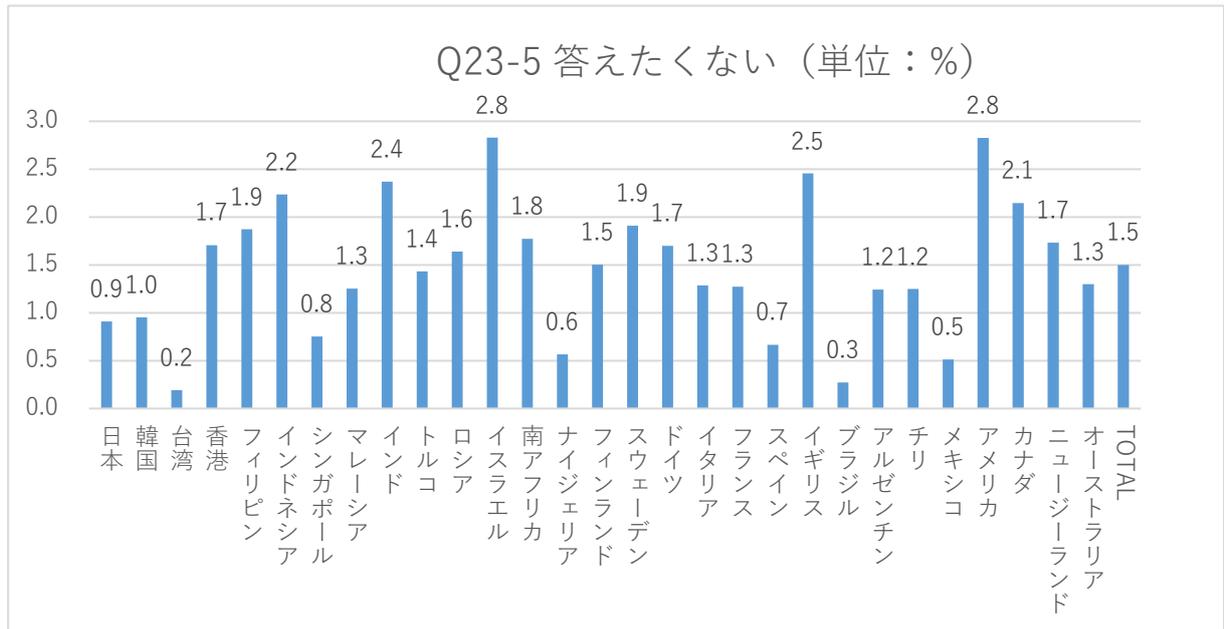


Q23-2 親族 (単位: %)



Q23-3 友人・知人 (単位: %)





資料3. 調査票（日本語版）

F1

あなたの性別をお知らせください。

- 1 男性
- 2 女性
- 3 その他・答えたくない

F2

あなたの年齢をお知らせください。

歳

F2_B_1

お住まいの地域をお選びください。

- 1 東京都
- 2 大阪市
- 3 札幌市
- 4 盛岡市
- 5 さいたま市
- 6 千葉市
- 7 横浜市
- 8 静岡市
- 9 名古屋市
- 10 松江市
- 11 福岡市
- 12 那覇市
- 13 その他の地域

F3

あなたが最後に(教育を受けるために)在籍した学校は、次のどれですか。
あてはまるものを1つだけお選びください。

- 1 小学校・中学校
- 2 高校
- 3 短大・高専、専門学校
- 4 大学・大学院
- 5 あてはまるものはない

F4

あなたの現在のお仕事についておうかがいします。
あなたはふだんどのような仕事をなさっていますか。
次のうち、もっともあてはまるものをお選びください。
※専業主婦(夫)にあてはまる方で、あわせてパートやアルバイトなどのお仕事もなさっている方は「パートタイム・アルバイト」をお選びください。
※学生・生徒の方は、アルバイトをしても「学生・生徒」をお選びください。

- 1 フルタイムで働いている
- 2 パートタイム、アルバイト
- 3 専業主婦(夫)
- 4 学生・生徒
- 5 無職(退職後の生活を含む)

F5_1

お宅の世帯年収(税込み・年金込み)は、次のうちどれにあたりますか。
次のうち、あてはまるものを1つお選びください。

- 1 200万円未満
- 2 200万円以上～400万円未満
- 3 400万円以上～600万円未満
- 4 600万円以上～800万円未満
- 5 800万円以上
- 6 わからない、答えたくない

Q1

あなたは、最近の平日(仕事や学校がある日)1日に、プライベートで、下記それぞれのことを、どのくらいしていますか。
 おおよその時間をお答えください。
 利用していない場合は、0時間0分とお選びください。

		→		時間	分
		<input type="text"/> 時間	<input type="text"/> 分		
1	テレビ視聴時間	<input type="text"/>	<input type="text"/>	時間	分
2	新聞を読む時間(紙媒体の新聞)	<input type="text"/>	<input type="text"/>	時間	分
3	パソコンやタブレット端末(iPadなど)でのインターネット利用時間	<input type="text"/>	<input type="text"/>	時間	分
4	スマートフォン(iPhone、アンドロイド端末など)や携帯電話でのインターネット利用時間	<input type="text"/>	<input type="text"/>	時間	分
5	電子機器でのゲーム利用時間	<input type="text"/>	<input type="text"/>	時間	分
6	テレビでニュースを見る時間	<input type="text"/>	<input type="text"/>	時間	分

Q2

あなたはネットで最近、次のようなことがどの程度ありますか。(それぞれひとつずつ)

		→				
		よくある	たまにある	どちらともいえない	あまりない	まったくない
1	SNS(Twitter、LINE、Facebook、Instagramなど)で新型コロナウイルス関連の投稿を読む	<input type="radio"/>				
2	ブログで新型コロナウイルス関連の記事を読む	<input type="radio"/>				
3	ネットのニュースで新型コロナウイルス関連の記事を読む	<input type="radio"/>				

Q3

あなたが新型コロナウイルス感染症に関する情報を入手する際、もっとも役立っているメディアについて、次のうちからひとつお選びください。

- 1 ○ テレビ
- 2 ○ 新聞
- 3 ○ ネット記事
- 4 ○ SNS(Twitter、LINE、Facebookなど)
- 5 ○ ブログ
- 6 ○ ネット動画(YouTubeなど)
- 7 ○ この中には役に立っているものはない

Q4

新型コロナウイルス感染症に関連して、次のようなことを思いますか。それぞれについて、あてはまるものを一つずつお選びください。(それぞれひとつずつ)

		→				
		そう思う	ややそう思う	どちらともいえない	あまりそう思わない	そう思わない
1	新型コロナウイルスに対して〇〇〇(COUNTRY回答テキスト再掲)のメディアは大きさに騒ぎすぎている	1○	2○	3○	4○	5○
2	〇〇〇(COUNTRY回答テキスト再掲)の政府はこのコロナ禍にうまく対処していると思う	1○	2○	3○	4○	5○
3	この新型コロナウイルス蔓延状況では、経済の復興より、まず感染対策を重要視すべきだ	1○	2○	3○	4○	5○
4	新型コロナウイルス陽性者は陰性化するまで、病院や自宅から外に出ないようにすべきだ	1○	2○	3○	4○	5○
5	新型コロナウイルス感染者の多い地域の人、自分の住んでいる都市の外への移動は避けるべきだ	1○	2○	3○	4○	5○
6	新型コロナウイルスに関する行政手続きのしくみは複雑でわからない	1○	2○	3○	4○	5○
7	新型コロナウイルスに関する行政手続きは、ネットを使わなくてもできるようにしてほしい	1○	2○	3○	4○	5○
8	政府は私たちの日常生活にあまりにも多くの干渉をしている	1○	2○	3○	4○	5○
9	新型コロナ感染症に効果的に対処するために、自国の政治家は十分信頼に足る	1○	2○	3○	4○	5○
10	新型コロナ感染症に効果的に対処するために、自国の科学者は十分信頼に足る	1○	2○	3○	4○	5○
11	新型コロナワクチンの接種はできれば行いたくない	1○	2○	3○	4○	5○
12	新型コロナワクチンには副反応があるため、接種しない方がよい	1○	2○	3○	4○	5○

Q5

新型コロナウイルス感染症に関連して、次のようなことを思いますか。
それぞれについて、あてはまるものを一つずつお選びください。(それぞれひとつずつ)

						
		そう 思う	やや そう 思う	ど ち ら と も い え な い	あ ま り そ う 思 わ な い	そ う 思 わ な い
1	ウイルスの拡散防止に役立つならば、自分の自由をある程度犠牲にしてもかまわない	1○	2○	3○	4○	5○
2	ウイルスの拡散防止に役立つならば、自分のプライバシーの保護をある程度犠牲にしてもかまわない	1○	2○	3○	4○	5○
3	自分が新型コロナウイルスにかかったら、感染の事実は周りの人に知られたくない	1○	2○	3○	4○	5○
4	自分が新型コロナウイルスに感染しても、移動履歴は公開したくない	1○	2○	3○	4○	5○
5	自分が新型コロナウイルスに感染しても、利用した店舗や病院等の施設は公開したくない	1○	2○	3○	4○	5○
6	自分が新型コロナウイルスに感染しても、移動履歴は政府・公的機関には提供したくない	1○	2○	3○	4○	5○
7	自分が新型コロナウイルスに感染したとしても自分のせいではない	1○	2○	3○	4○	5○
8	自分が新型コロナウイルスに感染したら、周りの人に敬遠されたりいやがらせされたりすると思う	1○	2○	3○	4○	5○
9	自分が新型コロナウイルスに感染した場合、他人から批判されたら、がまんならない	1○	2○	3○	4○	5○

Q6

この先の1ヶ月であなたまたはあなたの家族が新型コロナウイルスに感染する確率は何%程度だと思えますか。
0から100までの数値でお答えください。

約 %程度

Q7

新型コロナウイルスの感染拡大後、仕事に関して以下のような変化はありましたか。
(それぞれひとつずつ)

		そう思う	そう思わない	もともとそうだった	あてはまらない
1	オフィスでの勤務よりも遠隔勤務(テレワーク、リモートワーク)の方がよいと思うようになった	1○	2○	3○	4○
2	以前より遠隔勤務が増えた	1○	2○	3○	4○
3	時差通勤を積極的に取り入れるようになった	1○	2○	3○	4○
4	WEB会議システムを使用した働き方に抵抗がなくなった	1○	2○	3○	4○
5	対面での会議は必要ないと思うようになった	1○	2○	3○	4○
6	ワークライフバランスを重視する傾向になった	1○	2○	3○	4○
7	仕事への意欲が高くなった	1○	2○	3○	4○
8	仕事の満足度が高くなった	1○	2○	3○	4○
9	より給料のよい仕事に就きたいと思うようになった	1○	2○	3○	4○
10	より人の役に立つ仕事がしたいと考えるようになった	1○	2○	3○	4○
11	情報処理スキルを高めたいと思うようになった	1○	2○	3○	4○
12	情報セキュリティ対策能力を高めたいと思うようになった	1○	2○	3○	4○

Q8

新型コロナウイルスの感染拡大後、生活に関して以下のような気持ち・価値観の変化はありましたか。(それぞれひとつずつ)

					
		そう思う	そう思わない	もともとそうだった	あてはまらない
1	家族と過ごす時間が大切だと思うようになった	1○	2○	3○	4○
2	家で過ごす時間の楽しさがわかった	1○	2○	3○	4○
3	家事に積極的に取り組むようになった	1○	2○	3○	4○
4	育児に積極的に取り組むようになった	1○	2○	3○	4○
5	会社から遠くなっても、郊外や地方に転居したくなった	1○	2○	3○	4○
6	対面でのコミュニケーションの大切さがわかった	1○	2○	3○	4○
7	人間関係を良好にしたいと思うようになった	1○	2○	3○	4○
8	社会貢献したいと思うようになった	1○	2○	3○	4○

Q9

最近のあなたの行動や考え方について、「はい」「いいえ」のどちらかをお答えください。
(それぞれひとつずつ)

		はい	いいえ
1	新型コロナウイルス感染拡大前と変わらず、友人・知人と顔を合わせて飲食している	1○	2○
2	人と会う時はある程度の距離を空けている	1○	2○
3	人とほとんど会っていない	1○	2○
4	外に出る際にはマスクを着用している	1○	2○
5	頻繁にアルコール消毒している	1○	2○
6	帰宅時に必ず、手洗いやうがいをしている	1○	2○
7	人が集まる場所を避けている	1○	2○
8	外での飲食を控えている	1○	2○
9	旅行を控えている	1○	2○
10	仕事でもプライベートでも、まったく外出していない	1○	2○
11	混んでいる電車には乗らないようにしている	1○	2○
12	マスクを着用するのは他人の批判をさけるためだ	1○	2○
13	マスクをしても感染予防には役立っていないと思う	1○	2○

Q10

以下に挙げる項目について、もっともあてはまるものをお選びください。(それぞれひとつずつ)

		そう思う	ややそう思う	どちらともいえない	あまりそう思わない	そう思わない
		1	2	3	4	5
1	私が今もっとも恐れているのは新型コロナウイルスだ	1	2	3	4	5
2	新型コロナウイルスのことを考えると不安になる	1	2	3	4	5
3	新型コロナウイルスのせいで命を落とすことを恐れている	1	2	3	4	5
4	新型コロナウイルスにかかった場合の後遺症が不安だ	1	2	3	4	5
5	新型コロナワクチンを接種した場合の副反応が不安だ	1	2	3	4	5

Q11

政府がこれまで行ってきた次のような新型コロナウイルス感染症対策について、あなたはどうか評価しますか。それぞれあてはまるものを1つずつお選びください。(それぞれひとつずつ)

		評価する	どちらともいえない	評価しない
		1	2	3
1	新型コロナウイルス感染の検査体制	1	2	3
2	感染源・感染経路の特定	1	2	3
3	経済活動の規制(業界への自粛要請など)	1	2	3
4	国民活動の規制(外出・移動の制限など)	1	2	3
5	国外からの入国規制	1	2	3
6	規制対象となった人々・業界への経済的補償	1	2	3
7	新型コロナウイルス接触確認アプリの導入推進	1	2	3
8	医療体制の整備	1	2	3
9	新型コロナワクチンの導入体制の整備	1	2	3

Q12

次の報道、記事、情報について、全面的に信頼している場合は100点、まったく信頼していない場合は0点、普通の場合は50点として、0点から100点までの点数をご記入ください。分からない場合はイメージでお答えください。

- テレビのニュース 点
 新聞記事 点
 ネットのニュース記事 点
 SNSに投稿された情報 点
 新型コロナウイルスに関連する政府の発表情報 点

Q13

次のようなことについてあなたはどのように思いますか。
 それぞれあてはまるものを1つずつお選びください。(それぞれひとつずつ)

		そう思う	どちらともいえない	そう思わない
1	〇〇(COUNTRY回答テキスト再掲)は海外に比べ、実際に感染拡大の抑え込みに成功している方だ	1○	2○	3○
2	自国の政府や自治体は、新型コロナウイルスへの十分な対策をとらなかった	1○	2○	3○
3	今回の新型コロナウイルス感染症を、インフルエンザ以上に深刻に考える必要はない	1○	2○	3○
4	今回の新型コロナウイルスは中国の研究所から漏洩拡散したものだ	1○	2○	3○
5	今回の新型コロナウイルスは海外からもたらされたものだ	1○	2○	3○
6	PCRの全員検査は意味がない	1○	2○	3○
7	新型コロナウイルス感染症の状況を考えると2021年の東京オリンピックは中止すべきだ	1○	2○	3○

Q14

新型コロナウイルスの感染拡大以前と比較し、あなたの次の時間はどのように変化しましたか。

もともとしておらず、現在もしていない項目は「あてはまらない」を選択してください。

(それぞれひとつずつ)

					
		増えた	変わらない	減った	あてはまらない
1	ネット・アプリで書き込みをする時間	1○	2○	3○	4○
2	ネット・アプリでメッセージの交換をする時間	1○	2○	3○	4○
3	テレビでニュース番組を見る時間	1○	2○	3○	4○
4	ネット・アプリでニュース記事を見る時間	1○	2○	3○	4○
5	電子機器によりゲームで遊ぶ時間	1○	2○	3○	4○
6	外出している時間	1○	2○	3○	4○
7	録画しておいた放送や映像ソフト(DVDなど)を見る時間	1○	2○	3○	4○
8	Netflix、Amazonプライムビデオなどのオンデマンド型の動画配信サービスを見る時間	1○	2○	3○	4○
9	YouTubeなどのネット動画を見る時間	1○	2○	3○	4○
10	本を読む時間	1○	2○	3○	4○
11	ゆっくり休息し、リラックスできる時間	1○	2○	3○	4○
12	自分を見つめ直したり、気持ちの整理をしたりする時間	1○	2○	3○	4○
13	自分の将来を考える時間	1○	2○	3○	4○

Q15

次の中で、あなたが不安に感じていることはありますか。
いくつでも選択してください。(いくつでも)

- 1 失業
- 2 収入の減少
- 3 自宅に長くいることによる情報不足
- 4 病院に通院できないことによる健康状態の悪化
- 5 食料、生活必需品の入手
- 6 子どもの学習時間の減少
- 7 電子機器によるゲームの利用時間増加による健康への悪影響
- 8 家族関係の悪化
- 9 会えないことによる友人・知人・恋人との関係の悪化
- 10 人々の外出が増えていることによる感染の拡大
- 11 離れて暮らす身内の安否
- 12 医療体制の崩壊
- 13 あてはまるものはない

Q16

新型コロナウイルスの感染拡大以前と比較し、あなたの経済状況はどのように変化しましたか。(それぞれひとつずつ)

		→	
		あてはまる	あてはまらない
1	収入・資産が減った	1 <input type="radio"/>	2 <input type="radio"/>
2	生活に支障が生じた	1 <input type="radio"/>	2 <input type="radio"/>
3	休業した	1 <input type="radio"/>	2 <input type="radio"/>
4	失業した	1 <input type="radio"/>	2 <input type="radio"/>

Q17

今回の新型コロナウイルス感染症に関連して、あなたの仕事・学習やプライベートでのビデオ会議システムの使用について、あてはまるものはありますか。
いくつでも選択してください。(いくつでも)

- 1 仕事で電子会議システム(Zoomなど)を使った
- 2 学習で電子会議システム(Zoomなど)を使った
- 3 プライベートで電子会議システム(Zoomなど)を使った
- 4 あてはまるものはない

Q18

新型コロナウイルス感染症に関連して、次のようなことがありましたか。
あてはまるものをいくつでも選んでください。(いくつでも)

- 1 仕事以外の時間や活動が大事だと強く思うようになった
- 2 家族との関係が良くなった
- 3 家族との関係が悪くなった
- 4 家庭内でDV(ドメスティックバイオレンス)が増えた
- 5 あてはまるものはない

Q19

新型コロナウイルス感染症に関連して、次のようなことを思いますか。
それぞれについて、あてはまるものを一つずつお選びください。(それぞれひとつずつ)

		→				
		そう思う	ややそう思う	どちらともいえない	あまりそう思わない	そう思わない
1	ウイルスの拡散防止に役立つならば、他人のプライバシーをある程度犠牲にしてもかまわない	1○	2○	3○	4○	5○
2	ウイルスの拡散防止に役立つならば、他人の自由をある程度犠牲にしてもかまわない	1○	2○	3○	4○	5○
3	新型コロナウイルス感染者は、感染の事実を周りの人に知らせるべきだと思う	1○	2○	3○	4○	5○
4	新型コロナウイルス感染者の移動履歴は公開されるべきだ	1○	2○	3○	4○	5○
5	新型コロナウイルス感染者の利用した店舗や病院等の施設は公開されるべきだ	1○	2○	3○	4○	5○
6	新型コロナウイルス感染者の移動履歴は政府・公的機関に提供されるべきだ	1○	2○	3○	4○	5○
7	新型コロナウイルスに感染するのは、感染した人のせいだ	1○	2○	3○	4○	5○
8	新型コロナウイルス感染者は、敬遠されたりいやがらせされたりするのは当然だ	1○	2○	3○	4○	5○
9	新型コロナウイルスの感染者は批判されて当然だ	1○	2○	3○	4○	5○

Q20

あなたは現在、国が提供している新型コロナウイルス接触確認アプリを自分のスマートフォンで使用していますか。
あてはまるものを答えてください。

- 1 使用している
- 2 使用していない
- 3 そのようなアプリはない
- 4 わからない

Q21

新型コロナウイルス接触確認アプリについて「使用している」と答えた方に質問です。
使用している理由はなんですか。
あてはまるものをすべてお選びください。(いくつでも)

- 1 感染拡大防止に寄与できると思うから
- 2 自分が感染したとき、接触した人にすばやく通知を送ることができるから
- 3 自分の感染を防げそうだから
- 4 陽性者との接触の可能性があったときは早く知りたいから
- 5 使い勝手を試してみたかったから
- 6 まわりの人・信頼できる人が利用していたから
- 7 まわりの人に勧められたから
- 8 勤め先や学校などで利用するように言われたから
- 9 旅行・飲食・出勤などの外出をするにあたって、利用していた方が安心だから
- 10 アプリを使うことで時流に乗れているように感じられるから
- 11 あてはまるものはない

Q22

新型コロナウイルス接触確認アプリについて「使用していない」と答えた方に質問です。
使用していない理由はなんですか。
あてはまるものをすべてお選びください。(いくつでも)

- 1 接触可能性を通知してほしいと思わないから
- 2 ほとんど外出しないから
- 3 ほとんどの人が使っていない意味がないと思うから
- 4 自分のデータがいつか政府に渡ってしまわないか不安に思うから
- 5 個人情報の扱いやプライバシーの不安があるから
- 6 感染拡大防止に意味をなさないと考えているから
- 7 陽性者登録しなければならなくなったとき、知り合いに自分の感染を知られるのが怖いから
- 8 接触可能性の通知をもらったときの対応が面倒そうだから
- 9 接触可能性の通知をもらったときの風評被害が不安だから
- 10 端末・OSが対応していないから
- 11 アプリをインストールするための容量が足りないから
- 12 電池を消耗するのが嫌だから
- 13 インストールのやり方がわからないから
- 14 アプリが十分信頼できないから
- 15 よくわからないから
- 16 面倒くさいから
- 17 あてはまるものはない

Q23

あなたの身近な人のうち、新型コロナウイルスに感染したことがある人はいますか。
あてはまるものをすべて教えてください。(いくつでも)

- 1 家族
- 2 親族
- 3 友人・知人
- 4 あなたご自身
- 5 答えたくない
- 6 身近に新型コロナウイルスに感染したことがある人はいない

Q24

あなたは、新型コロナワクチンを接種したことがありますか。

- 1 はい
- 2 いいえ
- 3 答えたくない

2023年3月発行（非売品）

東京大学社会科学研究所研究シリーズ No.71

コロナ禍における人々の意識と行動
—世界29カ国比較調査

橋元良明, 篠田詩織, 大野志郎, 天野美穂子, 堀川裕介

発行 〒113-0033 東京都文京区本郷7-3-1
TEL 03-5841-4908 FAX 03-5841-4905
東京大学社会科学研究所

ISS Research Series No.71

INSTITUTE OF SOCIAL SCIENCE, THE UNIVERSITY OF TOKYO